一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書３

のの子谷横穴墓群
京田遺跡３区

2017年12月

島根県教育委員会

のの子谷横穴墓群　上空から神西湖を望む（南東から）

のの子谷横穴墓群　全景（南東から）

口絵2

のの子谷横穴墓群　1号・4号横穴墓出土遺物

のの子谷横穴墓群　2号・3号横穴墓出土遺物

京田遺跡3区　全景（南から）

京田遺跡3区　調査区北壁土層（南東から）

口絵4

京田遺跡3区　SK05検出状況

京田遺跡3区　出土石器

序

現在、一般国道９号の出雲市知井宮町から湖陵町三部間は、現道では通過交通と、生活交通が混在し、幹線道路として支障をきたしているうえに、一般国道の代替路線がなく、交通事故等の発生により、日常生活はもとより、地域の経済活動に多大な支障をきたしています。そのため、中国地方整備局松江国道事務所では、緊急時の代替路線の確保、地域経済の振興、救急医療の向上及び生活圏域の連携を促進することを目的として、出雲・湖陵道路を平成20年度から事業化し、整備を進めています。

道路整備にあたり、埋蔵文化財の保護に十分留意しつつ関係機関と協議を行っていますが、回避することのできない埋蔵文化財については、道路事業者の負担により必要な調査を実施し、記録保存を行っています。本事業においても、道路建設地内にある遺跡について島根県教育委員会の協力のもとに発掘調査を実施しました。

本報告書は、平成27・28年度に実施した出雲市湖陵町地内に所在するのの子谷横穴墓群及び京田遺跡３区の調査成果をとりまとめたものです。今回の調査では、古墳時代後期後葉に造られた６基の横穴墓や縄文時代後期中葉の集落跡の一端が見つかり、当時の人々の生活を考える上で貴重な成果となりました。

本報告書がふるさと島根の歴史を伝える貴重な資料として、学術並びに歴史教育のために広く活用されることを期待します。

最後に、当所の道路整備事業にご理解、ご支援をいただき、本埋蔵文化財発掘調査及び調査報告書の編纂にご協力いただきました地元の方々や関係諸機関の皆様に対し、深く感謝いたします。

平成29年12月

国土交通省中国地方整備局
松江国道事務所長　　鈴木　祥弘

序

本書は島根県教育委員会が国土交通省中国地方整備局松江国道事務所から委託を受けて、平成27（2015）・28（2016）年度に実施した一般国道9号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものです。

本報告書で報告するのの子谷横穴墓群では古墳時代後期後葉の横穴墓6基が発見され、古墳時代後期から中世にかけての遺物が出土しました。また、京田遺跡3区では縄文時代後期中葉の土坑が発見され、縄文時代後期前葉から後葉にかけての遺物が出土しました。

当時の出雲平野西部には『出雲国風土記』に記載される「神門水海（かんどのみずうみ）」が広がっており、両遺跡の立地する出雲平野南岸部には、縄文時代後期から中世にかけての重要な遺跡が多数発見されています。当時の集落の様子を知る上で重要な資料であるとともに、「神門水海」南岸部の歴史を考える上で貴重な発見となりました。

本報告書が、この地域の歴史を解明していくための基礎資料として広く活用されることを願っております。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の作成にあたりご協力いただきました国土交通省中国地方整備局松江国道事務所をはじめ、出雲市、常楽寺地区の方々並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年12月

島根県教育委員会

教育長　　鴨　木　　朗

例 言

1．本書は国土交通省中国地方整備局松江国道事務所の委託を受けて、島根県教育委員会が平成27（2015）年度及び平成28（2016）年度に実施した一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の成果をとりまとめたものである。

2．本報告書の発掘調査対象遺跡及び事業年度は下記のとおりである。

平成27（2015）年度　　のの子谷（こだに）横穴墓群（出雲市湖陵町字常楽寺961外）、整理等作業

平成28（2016）年度　　京田（きょうでん）遺跡（3区）（出雲市湖陵町字常楽寺464）、整理等作業

平成29（2017）年度　　整理等作業・報告書作成

3．調査組織

調査主体　　島根県教育委員会

平成27（2015）年度事務局　　廣江耕史（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）、池淵俊一（管理課長）

調査担当者　　今岡一三（調査第三課長）、勝部智明（調査第一係長）、人見麻生（同課主事）、高木優子（同課臨時職員）、米田美江子（同）

平成28（2016）年度事務局　　萩　雅人（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、渡部宏之（総務課長）、池淵俊一（管理課長）、柳浦俊一（高速道路調査推進スタッフ企画幹）

調査担当者　　守岡正司（調査第二課長）、人見麻生（同課主任主事）、阿部智子（同課臨時職員）、糸賀伸文（同）、片寄雪美（同）、高木優子（同）

平成29（2017）年度事務局　　萩　雅人（島根県教育庁埋蔵文化財調査センター所長）、石橋　聡（総務課長）、池淵俊一（管理課長）

調査担当者　　守岡正司（調査第二課長）、阿部智子（同課臨時職員）、糸賀伸文（同）、片寄雪美（同）、高木優子（同）、岩橋康子（同）、大田晴美（同）

4．発掘調査作業（安全管理、発掘作業員の雇用、掘削、測量等）については、島根県教育委員会が株式会社トーワエンジニアリングへ委託した。

5．現地調査及び整理作業において、以下の方々から御指導いただいた。（肩書きは当時）
石丸恵利子（広島大学総合博物館研究員）、大谷晃二（島根県立松江北高等学校教諭）、岡田憲一（奈良県立橿原考古学研究所）、千葉　豊（京都大学文化財総合研究センター准教授）、西尾克己（大田市教育委員会教育部石見銀山課）、中村唯史（島根県立三瓶自然館課長代理）、幡中光輔（出雲市文化財課主事）、髙野紗奈江（京都大学大学院）、濱田竜彦（鳥取県埋蔵文化財センター係長）

6．挿図の中の北は、測量法による第Ⅲ平面直角座標系Ｘ軸方向を指し、座標系のＸＹ座標は世界測地系による。レベルは海抜高を示す。

7．本書で使用した第１図・第２図・第４図は、国土地理院発行の１/25,000電子地形図を使用して作成したものである。

8．本調査に伴って実施した自然科学分析のうち、動物遺存体の同定については石丸恵利子氏に依

頼した。赤色顔料分析は上山晶子（埋蔵文化財調査センター）が行い、花粉分析及び種実同定は、文化財調査コンサルタント株式会社に委託した。その成果は第５章に掲載した。

９．本書に掲載した遺構・遺物の写真は守岡、人見が撮影した。また、掲載した遺構図・遺物実測図の作成・浄書は、各調査員・臨時職員・整理作業員のほか、埋蔵文化財調査センター職員の協力を得て行った。

10. 本書の執筆は第１章～第３章は人見が、第４章と第６章は守岡が行い、第５章は各節に執筆者を明記している。

11. 発掘調査に伴って出土した鉄製品の保存処理を公益財団法人大阪市博物館協会に委託した。

12. 本書の編集は守岡が行った。

13. 註は各章ごとに連番を振り当該項下に配置し、参考文献は各章末にまとめて示したが、第３章・第４章・第６章は第６章末にまとめて掲げた。写真、挿図及び表の番号は第５章を除いて全体の通し番号により表示した。

14. 本書に掲載した遺物及び実測図・写真等の資料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センター（島根県松江市打出町33番地）にて保管している。

凡 例

本書で用いた土器の分類及び編年観は下記の論文・報告書に依拠している。

1．弥生土器、土師器

松山智弘1991「出雲における古墳時代前半期の土器様相－大東式の再検討」『島根考古学会誌』第８集　島根考古学会

松本岩雄1992「出雲・隠岐地域」『弥生土器の様式と編年』山陽・山陰編　木耳社

鹿島町教育委員会1992『講武地区県営圃場整備事業発掘調査報告書５南講武草田遺跡』

松山智弘2000「小谷式再検討－出雲平野における新資料から－」『島根考古学会誌』第17集　島根考古学会

島根県教育委員会2008『九景川遺跡一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』

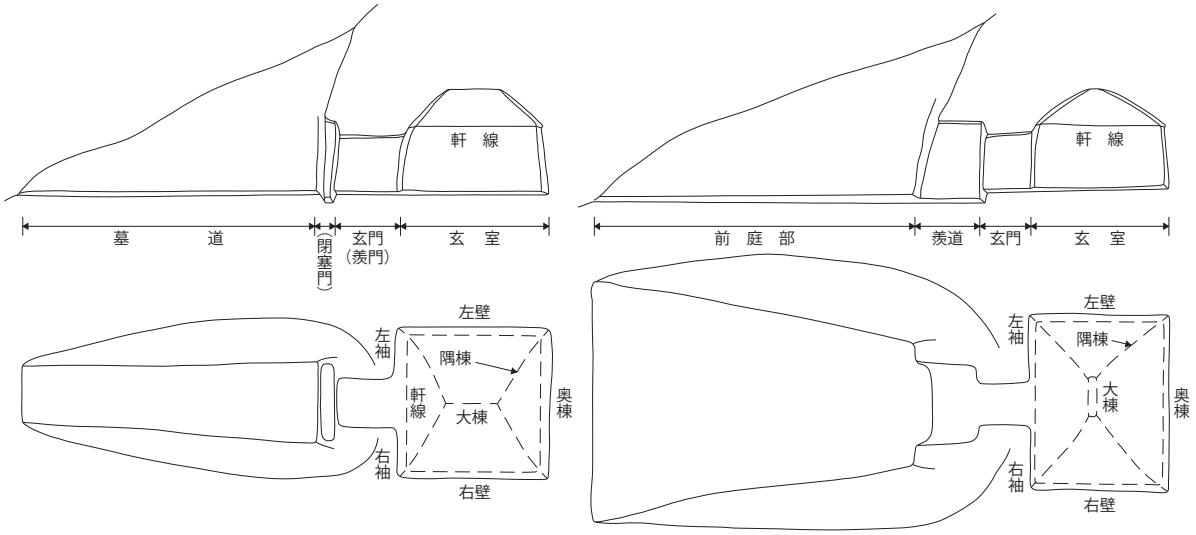
2．須恵器

大谷晃二1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

大谷晃二1997「出雲地方の須恵器編年表」『第７回山陰横穴墓調査検討会出雲の横穴墓－その型式・変遷・地域性－』山陰横穴墓研究会

岡田裕之・土器検討グループ2010「出雲における古代須恵器の編年」『出雲国の形成と国府成立の研究』島根県古代文化センター

島根県教育委員会2013『史跡出雲国府跡－９総括編－風土記の丘地内遺跡発掘調査報告書22』



※原田ほか1997、大谷・松山1999を参考に作成

横穴墓模式図と各部名称

本文目次

第１章　調査の経過
第１節　調査に至る経緯
１．事業計画の概要……1
２．埋蔵文化財保護部局への照会と調整……1
３．法的手続き……1
第２節　発掘調査の経過
１．のの子谷横穴墓群……4
２．京田遺跡３区……5
３．整理作業……5

第２章　遺跡の位置と環境
第１節　地理的環境……6
第２節　歴史的環境……6

第３章　のの子谷横穴墓群の調査成果
第１節　遺跡の概要……11
第２節　横穴墓の調査
１．調査区の概略と基本層序……12
２．トレンチ調査……15
３．横穴墓とその遺物……15
４．遺構外出土遺物……37
５．調査区外の横穴墓……38
第３節　小結……38

第４章　京田遺跡３区の調査成果
第１節　京田遺跡の概要
発掘調査区の設定……43
第２節　京田遺跡３区の調査
１．調査方法……45
２．基本層序……45
３．検出遺構とその遺物……47
４．遺構外出土遺物……52
第３節　小結……70

第５章　自然科学分析
第１節　京田遺跡３区から出土した動物遺存体　石丸恵利子：広島大学総合博物館 ･･････83
第２節　京田遺跡３区 から出土した赤色顔料付着遺物　上山晶子：埋蔵文化財調査ｾﾝﾀｰ・・90
第３節　京田遺跡発掘調査に係る花粉分析及び種実同定
渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）･････････････95

第６章　総括
第１節　のの子谷横穴墓群･･･99
第２節　京田遺跡･･･ 102

挿図目次

第１図　事業地内遺跡位置図（S=1:25,000）……2
第２図　掲載遺跡位置図（S=1:15,000）……3
第３図　遺跡の位置……6
第４図　周辺の遺跡（S=1:100,000）……7
第５図　のの子谷横穴墓群　平成26年度試掘確認調査区及び平成27年度本調査区（S=1:2,000）…… 11
第６図　のの子谷横穴墓群　採集遺物（S=1:4）『湖陵町遺跡地図』より転載…… 12
第７図　のの子谷横穴墓群　遺構配置図（S=1:200）…… 13
第８図　のの子谷横穴墓群　羨門立面図（S=1:200）…… 13
第９図　のの子谷横穴墓群　調査区土層断面図（S=1:100）…… 14
第10図　のの子谷横穴墓群　１号・４号横穴墓平面図及び前庭部土層断面図（S=1:60）…… 16
第11図　のの子谷横穴墓群　１号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）…… 17
第12図　のの子谷横穴墓群　１号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）…… 18
第13図　のの子谷横穴墓群　１号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3,1:6）…… 19
第14図　のの子谷横穴墓群　４号横穴墓平面図（S=1:40）…… 21
第15図　のの子谷横穴墓群　４号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）…… 22
第16図　のの子谷横穴墓群　４号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）…… 23
第17図　のの子谷横穴墓群　２号・３号横穴墓平面図及び前庭部土層断面図（S=1:60）…… 24
第18図　のの子谷横穴墓群　２号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）…… 25
第19図　のの子谷横穴墓群　２号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）…… 26
第20図　のの子谷横穴墓群　２号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）…… 27
第21図　のの子谷横穴墓群　３号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）…… 28
第22図　のの子谷横穴墓群　３号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）…… 29
第23図　のの子谷横穴墓群　３号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）…… 30
第24図　のの子谷横穴墓群　５号・６号横穴墓平面図（S=1:60）…… 31
第25図　のの子谷横穴墓群　５号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）…… 32
第26図　のの子谷横穴墓群　５号横穴墓土層断面図（S=1:40）…… 33
第27図　のの子谷横穴墓群　５号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）…… 34
第28図　のの子谷横穴墓群　６号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）…… 35
第29図　のの子谷横穴墓群　６号横穴墓平面図及び土層断面図（S=1:40）…… 36
第30図　のの子谷横穴墓群　６号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3,2:3,1:6）…… 37
第31図　のの子谷横穴墓群　採集遺物実測図（S=1:3）…… 37
第32図　のの子谷横穴墓群　７号～９号横穴墓実測図（S=1:80）…… 38
第33図　のの子谷横穴墓群　遺構平面図（S=1:100）…… 39
第34図　京田遺跡３区　調査区配置と周辺地形（S=1:3,000）…… 43
第35図　京田遺跡３区　試掘確認調査土層図・出土遺物実測図（土層図S=1:80,遺物実測図S=1:3）…… 44
第36図　京田遺跡３区　遺構配置図、南西壁土層図（S=1:80）…… 46
第37図　京田遺跡３区　遺構実測図（S=1:20）…… 48
第38図　京田遺跡３区　SK05,SK06遺物出土状況（遺構S=1:10,遺物S=1:6）…… 49
第39図　京田遺跡３区　SK05,SK06出土遺物実測図（S=1:3,2:3）…… 51
第40図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（1）（S=1:3）…… 53
第41図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（2）（S=1:3）…… 55
第42図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（3）（S=1:3）…… 56
第43図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（4）（S=1:3）…… 57

第44図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（5）（S=1:3）…… 58
第45図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（6）（S=1:3）…… 59
第46図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（7）（S=1:3）…… 61
第47図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（8）（S=1:3）…… 62
第48図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（9）（S=1:3）…… 63
第49図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（10）（S=1:3）…… 64
第50図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（11）（S=1:3,2:3）…… 65
第51図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（12）（S=1:3,2:3）…… 67
第52図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（13）（S=1:3）…… 68
第53図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（14）（S=1:3）…… 69
第54図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（15）（S=1:6）…… 70
第55図　出雲市湖陵町周辺の横穴墓（S＝1：300,000）…… 99
第56図　出雲市湖陵町周辺の横穴墓実測図（S=1:80）…… 100

表目次

第１表　一般国道９号(出雲湖陵道路）改築工事に伴う発掘調査一覧 ……3
第２表　のの子谷横穴墓群一覧表 …… 40
第３表　のの子谷横穴墓群出土土器観察表 …… 41
第４表　のの子谷横穴墓群出土石器観察表 …… 42
第５表　のの子谷横穴墓群出土金属器観察表 …… 42
第６表　京田遺跡３区遺構一覧表…… 50
第７表　京田遺跡３区出土遺物観察表（縄文土器・須恵器）…… 71
第８表　京田遺跡３区出土遺物観察表（土製品・骨角器）…… 78
第９表　京田遺跡３区出土石器観察表…… 79
第10表　京田遺跡３区出土有文土器集計表 …… 82
第11表　京田遺跡３区出土無文土器集計表 …… 82
第12表　京田遺跡３区出土石器集計表 …… 82
第13表　出雲市湖陵町周辺の横穴墓 …… 99

本文写真目次

口絵１　上　のの子谷横穴墓群　上空から神西湖を望む（南東から）
　　下　のの子谷横穴墓群　全景（南東から）
口絵２　上　のの子谷横穴墓群　１号・４号横穴墓出土遺物
　　下　のの子谷横穴墓群　２号・３号横穴墓出土遺物
口絵３　上　京田遺跡３区　全景（南から）
　　下　京田遺跡３区　調査区北壁土層（南東から）
口絵４　上　京田遺跡３区　SK05検出状況
　　下　京田遺跡３区　出土石器

本文写真１　のの子谷横穴墓群　５号・６号横穴墓の調査
本文写真２　のの子谷横穴墓群　調査指導風景
本文写真３　のの子谷横穴墓群　現地説明会
本文写真４　京田遺跡３区　作業風景

写真図版目次　のの子谷横穴墓群

図版１
遠景（北西から）
遠景（北東から）
図版２
遠景（南から）
俯瞰近景（上が北西）
図版３
調査後遺跡遠景（南から）
調査後遺跡近景（南から）
図版４
伐採後（南から）
北壁トレンチ西側（南西から）
図版５
左上：北壁トレンチ西側（南から）
左下：北壁トレンチ西側（南から）
右：北壁トレンチ中央（西から）
左：南北トレンチ西面（南東から）
右上：南北トレンチ西面（南東から）
右下：表土掘削
図版６
左上：表土掘削
右上：T1完掘（南西から）
左下：T2完掘（南東から）
右下：T3完掘（南東から）
４・１号穴調査前（南東から）
図版７
左：４・１号穴調査前（東から）
右上：４・１号穴検出（南東から）
右下：４号穴前庭部SX01（南東から）
４・１号穴前庭部縦断面（南西から）
図版８
４・１号穴前庭部横断面（南東から）
左上：１号穴前庭部縦断面（南から）
右上：４号穴前庭部出土須恵器（南東から）
左下・右下：４号穴前庭部縦断面（南東から）
図版９
４・１号穴前庭部横断面（南東から）
上：１号穴前庭部横断面（南東から）
左下：１号穴羨門部横断面（南から）
右下：１号穴羨門部横断面（南東から）
図版10
１号穴羨門部横断面（南東から）
１号穴羨門から玄室縦横断面（南から）
図版11
左：１号穴玄室横断面（南東から）
右上：１号穴玄室内出土遺物（南から）
右下：１号穴玄室内出土遺物（西から）
左上：１号穴玄室横断面（南東から）
右上：１号穴玄室内奥壁から天井（南東から）
左下：１号穴玄室内左側から天井
右下：１号穴玄室内左側から天井
図版12
４号穴羨門部横断面（南東から）
左上：４・１号穴前庭部（南から）

右：4・1号穴前庭部（南西から）
左下：4号穴前庭部縦横面（南から）

図版13

4号穴羨門部横断半裁（南東から）
左：4号穴羨門（南東から）
右上：4号穴玄室内横断面半裁（南東から）
右下：4号穴玄室内出土遺物（南東から）

図版14

4号穴玄室内左側面から天井（西から）
左上：4号穴玄室横断面（南東から）
右上：4号穴玄室内奥壁から天井（南東から）
左下：4号穴玄室内天井前
右下：4号穴玄室内左袖（北から）

図版15

4・1号穴完掘状況（南東から）
2・3号穴調査前（南東から）

図版16

左上：2・3・7号穴調査前（西から）
右上：2・3号穴検出状況（南東から）
左下：2号穴前庭部縦横断面（南から）
右下：2号穴前庭部縦横断面（南東から）
2号穴前庭部縦断面（南東から）

図版17

2号穴前庭部縦断面（南東から）
2号穴羨門横断面（南東から）

図版18

2号穴羨門部横断面半裁（南東から）
左上：2号穴玄室内横断面（南東から）
左下：2号穴玄室内横断半裁（南から）
右：2号穴羨門（南東から）

図版19

2号穴玄室内（南東から）
左上：2号穴玄室内（北西から）
左下：2号穴玄室内（北から）
右：2号穴玄室内（北西から）

図版20

2号穴羨門（南東から）
左上：3号穴前庭部横断面（南東から）
右上：3号穴前庭部縦断面（北東から）
下：3号穴前庭部横断面（南東から）

図版21

3号穴前庭部縦横断面（南から）
3号穴羨門部横断面（南東から）

図版22

3号穴前庭部ノミ痕（南から）
上：3号穴玄室内横断面（南東から）
左下：3号穴閉塞部（南東から）
右下：3号穴玄室内横断面半裁（南から）

図版23

3号穴玄室内（南東から）
3号穴玄室内（北西から）

図版24

左上：3号穴玄室内（北から）
右上：3号穴玄室内（南から）
左下：3号穴玄室内（南東から）
右下：3号穴玄室内（北西から）
3号穴前庭部から羨門（南東から）

図版25

3号穴から2号穴前庭部（西から）
左：3号穴前庭部から墓道（南から）
右上：3号穴前庭部から墓道（南から）
右下：調査指導

図版26

左：5号穴サブトレ掘削
右上：5・6号穴検出（南東から）
右下：5号穴前庭部出土閉塞石（南東から）
5号穴前庭部縦断面（南から）

図版27

上：5号穴前庭部縦断面（南から）
左下：5号穴前庭部横断面（南東から）
右下：5・6号穴前庭部縦横面（南東から）
5号穴前庭部横断面（南東から）

図版28

左：5号穴羨門部横断面（南東から）
右上：5号穴羨門横断面半裁（南東から）
右下：5号穴玄室内横断面（南東から）
5号穴玄室内部（南東から）

図版29

左上：5号穴玄室右側壁から天井（南東から）
左下：5号穴玄室内左側壁ノミ痕
右：5号穴玄室内（北西から）
5号穴完掘状況（南東から）

図版30

6号穴前庭部出土須恵器（南から）
左上：6号穴前庭部横断面（南東から）
左下：6号穴閉塞部検出状況（南から）
右：6号穴閉塞部半裁（南から）

図版31

6号穴玄門部横断面（南から）
6号穴玄室奥壁（南東から）

図版32

左上：6号穴玄室内右側から天井（南から）

右上：6号穴玄門から羨道（北西から）
左下：6号穴玄室内床面（北東から）
右下：6号穴玄門から羨道（北から）
6号穴前閉塞部（南東から）
図版33
6号穴完掘状況（西から）
7・8・9号穴遠景（南から）
図版34
7号穴近景（南から）
8・9号穴近景（南から）
図版35
のの子谷横穴墓群出土遺物（1）
図版36
のの子谷横穴墓群出土遺物（2）
図版37
のの子谷横穴墓群出土遺物（3）
図版38
のの子谷横穴墓群出土遺物（4）

写真図版目次　京田遺跡３区

図版39
空撮（北東から）
空撮
図版40
完掘状況（北西から）
完掘状況（北東から）
図版41
調査区南東壁土層（北西から）
調査区南西壁土層（北東から）
図版42
Pit01完掘状況（南東から）
Pit02完掘状況（南から）
Pit03完掘状況（北から）
Pit04完掘状況（東から）
SK05検出状況（西から）
SK05土層堆積状況（西から）
SK06土層堆積状況（西から）
SK06遺物検出状況（南から）
図版43
SK05石検出状況（東から）
SK06遺物検出状況（西から）
SK06白色土範囲（南から）
図版44
SK06完掘状況（南から）
遺物（第42図20）出土状況
遺物（第46図5）出土状況
遺物（第49図17）出土状況
京田遺跡３区　出土遺物（１）
図版45
京田遺跡３区　出土遺物（2）
京田遺跡３区　出土遺物（3）
図版46
京田遺跡３区　出土遺物（4）
京田遺跡３区　出土遺物（5）
図版47
京田遺跡３区　出土遺物（6）
京田遺跡３区　出土遺物（7）
図版48
京田遺跡３区　出土遺物（8）
京田遺跡３区　出土遺物（9）
図版49
京田遺跡３区　出土遺物（10）
京田遺跡３区　出土遺物（11）
図版50
京田遺跡３区　出土遺物（12）
京田遺跡３区　出土遺物（13）
図版51
京田遺跡３区　出土遺物（14）
京田遺跡３区　出土遺物（15）
図版52
京田遺跡３区　出土遺物（16）
京田遺跡３区　出土遺物（17）
図版53
京田遺跡３区　出土遺物（18）
京田遺跡３区　出土遺物（19）
図版54
京田遺跡３区　出土遺物（20）
京田遺跡３区　出土遺物（21）
図版55
京田遺跡３区　出土遺物（22）
京田遺跡３区　出土遺物（23）
図版56
京田遺跡３区　出土動物遺存体

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

1.事業計画の概要

一般国道９号は、京都府京都市から山口県下関市に至る総延長距離750㎞の、山陰地方の諸都市を結ぶ幹線道路である。出雲市周辺においては、県中西部方面から出雲市中心部への流入部付近で交通混雑が発生しており、交通事故の多発や地域経済活動への悪影響が懸念されている。

こうした状況のもと、現道の渋滞対策や交通危険個所を解消し、一般国道のバイパスとして高速道路の連続性をできるだけ早く確保するために、国土交通省により出雲湖陵道路の事業化が図られ、平成18年３月に出雲仁摩線として都市計画決定された。一般国道９道（出雲湖陵道路）は、出雲市知井宮町の山陰自動車道出雲インターチェンジを起点として、同市湖陵町三部の湖陵インターチェンジ（仮称）までを結ぶ延長4.4㎞の自動車専用道路として、平成20年度に事業が着手された。

2.埋蔵文化財保護部局への照会と調整

計画策定の段階での重要遺跡の存否照会によって、尼子十旗に数えられる神西城がルート上にあることが判明した。島根県教育委員会と国土交通省は協議を重ね、トンネル工法に変更することで保存することが決まった。事業化に際して、国土交通省から島根県教育委員会に対して事業予定地内における埋蔵文化財の有無について照会が行われた。これを受けて島根県教育委員会では出雲市教育委員会の協力のもと、平成22年３月に分布調査を実施し、周知の遺跡に加えて試掘確認調査を要する要注意箇所を確認し、発掘調査及び試掘確認調査が必要な旨を平成22年５月25日付け島教文財第233号で回答した。その後も工事用道路や調整池整備等の付帯工事に伴う分布調査を数次にわたって行っている。

島根県教育委員会は国土交通省と協議を重ね、分布調査の結果を踏まえた試掘確認調査を平成22年度から国庫補助事業により実施し、以後、予定地内の各埋蔵文化財の調査・取り扱いについて具体的な検討が行われた。のの子谷横穴墓群は平成26年８～10月及び平成28年９月に、京田遺跡は平成27年5、10月及び平成28年６月に試掘確認調査を実施し、本発掘調査が必要な範囲等を定めている。

3.法的手続き

のの子谷横穴墓群は平成27年３月23日付け国中整松工第96号、平成27年８月28日付け国中整松工第39号、平成28年３月４日付け国中整松工第79号で、文化財保護法第94条第１項の規定による通知がそれぞれ国土交通省から島根県教育委員会教育長あて提出された。それに対して島根県教育委員会は、試掘確認調査の結果を踏まえ、平成27年３月23日付け島教文財第35号の113、平成27年８月28日付け島教文財第120号の41、平成28年３月10日付け島教文財第120号の104でそれぞれ記録作成のための発掘調査の実施、立会を勧告している。

京田遺跡は、平成27年９月18日付け国中整松調設第65号で、文化財保護法第94条第１項の規

番号	遺跡名	所在地	種別	本発掘調査
①	浅柄Ⅲ遺跡	出雲市知井宮町	集落跡	平成28年度
②	柳ノ内Ⅱ遺跡	出雲市知井宮町	古墳	（平成24年度試掘確認調査のみ）
③	玉泉寺裏遺跡	出雲市東神西町	集落跡	平成26年度
④	九景川遺跡	出雲市東神西町	集落跡	平成26年度
⑤	中上Ⅱ遺跡	出雲市東神西町	集落跡	
⑥	麓Ⅱ遺跡	出雲市東神西町	集落跡	平成26・27年度
⑦	神西城跡	出雲市東神西町	城跡	（工法変更）
⑧	坂本谷遺跡	出雲市西神西町	集落跡	平成27年度
⑨	のの子谷横穴墓群	出雲市湖陵町	古墳・横穴墓	平成27年度
⑩	板高池遺跡	出雲市湖陵町	集落跡	（平成26年度試掘確認調査のみ）
⑪	常楽寺柿木田古墳群	出雲市湖陵町	古墳	（一部工法変更）平成29年度
⑫	柿木田家下遺跡	出雲市湖陵町	散布地	
⑬	奥ノ谷遺跡	出雲市湖陵町	散布地	（平成29年度試掘確認調査のみ）
⑭	御領田遺跡	出雲市湖陵町	集落跡・貝塚	
⑮	大河原遺跡	出雲市湖陵町	散布地	（平成27年度試掘確認調査のみ）
⑯	京田遺跡	出雲市湖陵町	集落跡	平成27年度～

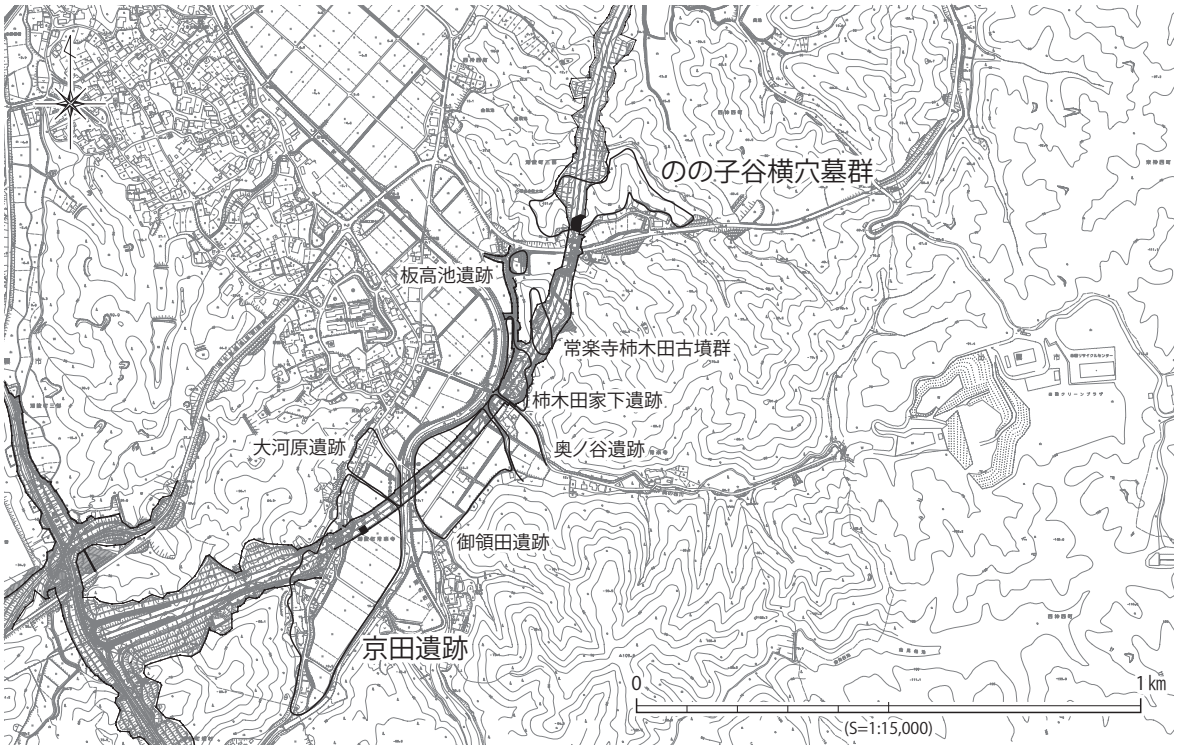
第１図　事業地内遺跡位置図（S=1:25,000）

定による通知が国土交通省から島根県教育委員会教育長あて提出された。それに対して島根県教育委員会は、試掘確認調査の結果を踏まえ、平成27年9月18日付け島教文財第120号の89で記録作成のための発掘調査の実施を勧告している。各遺跡は国土交通省から委託を受け、埋蔵文化財調査センターが発掘調査を実施した。文化財保護法第99条第1項の規定による通知は、のの子谷横穴墓群が平成27年10月9日付け島教埋第289号、京田遺跡が平成28年4月18日付け島教理第27号で埋蔵文化財調査センター所長から島根県教育委員会教育長あてに提出した。

第１表　一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う発掘調査一覧

調査年度	遺跡名	調査主体	シリーズ番号	報告書刊行年	遺跡の概要	主な出土遺物
平成26年度（2014）	麓Ⅱ遺跡(1~4区)	島根県教育委員会	1	2017	縄文時代後期の土坑、古代から中世の溝	縄文土器、弥生土器、須恵器、石器、木器
平成26年度（2014）	坂本谷遺跡	島根県教育委員会	1	2017	古代末から中世の集落跡、柵列状のピット群	土師器、陶磁器、金属器、銭貨
平成26年度（2014）	玉泉寺裏遺跡（Ⅵ区・Ⅶ区）	島根県教育委員会	2	2017	弥生時代後期後葉の建物跡のほか、弥生時代後期から古墳時代中期の遺物が出土	弥生土器、土師器、須恵器、石器
平成26年度（2014）	九景川遺跡（Ⅴ区）	島根県教育委員会	2	2017	古墳時代後期から終末期の加工段	弥生土器、土師器、須恵器、石器、玉類
平成27年度（2015）	麓Ⅱ遺跡(5区)	島根県教育委員会	1	2017	縄文時代後期の土坑、古代から中世の溝	縄文土器、弥生土器、須恵器、石器、木器
平成27年度（2015）	京田遺跡（1区）	島根県教育委員会	1	2017	弥生時代から古代の集落跡	土師器、須恵器、陶磁器
平成27年度（2015）	のの子谷横穴墓群	島根県教育委員会	3	2017	古墳時代後期後葉に造られた横穴墓6基	須恵器、土師器、金属器
平成28年度（2016）	京田遺跡（3区）	島根県教育委員会	3	2017	縄文時代後期の土坑、ピット等	縄文土器、石器、骨角器
平成28年度（2016）	浅柄Ⅲ遺跡	島根県教育委員会	4	2017	古墳時代後期後葉を中心とした集落跡、加工段、造り付け竈	須恵器、土師器、陶磁器、金属器
平成28年度（2016）	京田遺跡（4区）	出雲市教育委員会			縄文時代後期の土坑、ピット等	縄文土器、石器
平成29年度（2017）	常楽寺柿木田古墳群	島根県教育委員会			弥生時代後期の竪穴建物跡2棟	弥生土器、石皿、土師器、須恵器

シリーズ番号：『一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』



第２図　掲載遺跡位置図（S=1:15,000）

現地調査終了後、遺跡の取り扱いは記録保存とすることになり、のの子谷横穴墓群が平成28年2月8日付け島教文財第873号、京田遺跡3区が平成28年7月5日付け島教文財第368号で松江国道事務所長あて終了報告を提出した。

第2節　発掘調査の経過

1. のの子谷横穴墓群

発掘作業は平成27（2015）年10月20日～12月25日にかけて実施した。調査区は急峻な斜面に位置しているため、掘削作業は全て人力で行った。調査区北側の斜面上方から下方に向かって、シダ類等10㎝～20㎝の腐葉土を除去した後、北壁沿いのサブトレンチで黄褐色系の流土、明黄褐色から黄橙色の地山を検出した。調査区西側と東側の一部については、それぞれトレンチ調査を実施したが、斜面上方では遺構や遺物が検出されなかった。

腐葉土を除去した段階で、開口部以外にも横穴墓の存在が予想され、11月5日から斜面上半部の表土掘削と並行して、開口していた1号横穴墓の調査に取りかかった。中軸を設定し4分割して面的に掘り下げたところ、地山岩盤に掘り込む2条の排水溝を検出し、西側は4号横穴墓とした。また、11月6日には、1号横穴墓の東側流土中で閉塞石とみられる切石を検出したため、中軸を設定して土層を観察しながら掘り下げた。わずかに排水溝が残る前庭部を検出したため5号横穴墓とした。さらに、東側で閉塞石を伴う6号横穴墓を検出した。6号横穴墓の前庭部では古墳時代終末期から奈良時代の輪状つまみを持つ須恵器蓋が数点出土し、墓前祭祀を行った可能性が考えられる。

のの子谷横穴墓群　5号・6号横穴墓の調査

のの子谷横穴墓群　調査指導風景

11月27日から、1号・4号横穴墓玄室の掘削と併行して開口していた2号・3号横穴墓の掘削を開始した。1号横穴墓玄室からは古墳時代終末の須恵器、12～13世紀の土師質土器坏、鉄刀が、4号横穴墓玄室からは刀子が出土した。

12月2日には5号・6号横穴墓の玄室内の掘削を開始した。5号横穴墓は3号同様前庭部・玄室に工具痕がよく残っていた。6号横穴墓玄室の堆積土中からは刀子、耳環が出土した。2号・3号横穴墓玄室内からは遺物は出土していない。

のの子谷横穴墓群　現地説明会

12月9日に西尾克己氏に閉塞施設や玄室形態、出土遺物について調査指導を受けた。12月19日には、

大谷晃二氏に周辺遺跡との関連性について調査指導を受けている。12月23日、地元向け現地説明会を開催し32名の参加を得た。12月27日には全ての調査が終了した。

2. 京田遺跡３区

調査対象地は、暫定２車線で工事が行われる橋台・橋脚部で、常楽寺川左岸の丘陵東斜面から谷底平野に位置し、西側から１～３区とした。残り２車線分については今回の発掘調査の対象から除外されたが、将来的に施工される際には発掘調査が必要となる。

３区の発掘作業は、平成28（2016）年５月16日～７月５日にかけて実施した。調査区は水田に位置し、周囲は耕作中であった。試掘確認調査の結果から表土層等（1～3層）を重機により除去した後、５月30日より人力掘削を開始した。周囲が水田耕作により水を張っていること、調査区中央に暗渠排水（発掘調査時には迂回済み）があったことから湧水が著しかった。調査区周囲に排水溝を掘り、中央部を掘り下げる作業を交互に繰り返しながら調査した。包含層である４層からは縄文時代後期の土器や石器が多く出土した。また、白色の骨片も包含層に混じっていた。包含層を除去した後、土坑や柱穴状遺構を確認し、半裁、写真撮影、実測を行った。すべての遺構を完掘、測量等の記録作業を行ったのち、完了協議で指摘された下層確認調査を実施した。

６月21日には空中写真撮影を行い、埋め戻しを開始した。７月５日にはすべての作業を終了し、国土交通省へ引き渡しを行った。現場作業と併行し、出土遺物の水洗、注記を行った。

調査中、６月14日に中村唯史氏により、土層堆積状況、遺跡の形成過程や出土石器の一部についての石材同定の調査指導を受けた。９月７日～８日に縄文土器について千葉豊氏から、９月30日に動物遺存体について石丸恵利子氏から調査指導を受けた。平成29年度には報告書作成を行い、５月15日に幡中光輔氏から遺跡の時期・性格について、６月５日に中村唯史氏から出土石器の石材同定の調査指導を受けた。８月９日には縄文土器について千葉豊氏、髙野紗奈江氏から、９月20日に動物遺存体について石丸恵利子氏から、12月15日に縄文土器について岡田憲一氏から調査指導を受けた。

京田遺跡３区　作業風景

3. 整理作業

遺物の水洗・注記・接合作業は各年度の現地調査に並行して実施し、冬期は埋蔵文化財調査センターにて前述した作業を継続し、続いて復元･実測等の整理作業を行った。平成28年度にのの子谷横穴墓群の、平成29年度に京田遺跡３区の出土品を通覧して非掲載品についても分類し、遺跡の全体像が把握できるよう計量を行った。現地調査終了後に整理した図面･写真等の記録類についても、出土品と併せて総合的な整理検討を行い、遺構･遺物のトレース、写真撮影、割付、原稿執筆を行った。画像処理・図版作成・編集等にはAdobe社のソフトを使用した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

本報告書に掲載している、のの子谷横穴墓群、京田遺跡は、出雲市湖陵町に所在する。遺跡は出雲平野南西部の丘陵上あるいは丘陵に挟まれた谷間に位置し、のの子谷横穴墓群のある標高30m付近からは、常楽寺川が開析した谷水田を眼下に納めることができる。

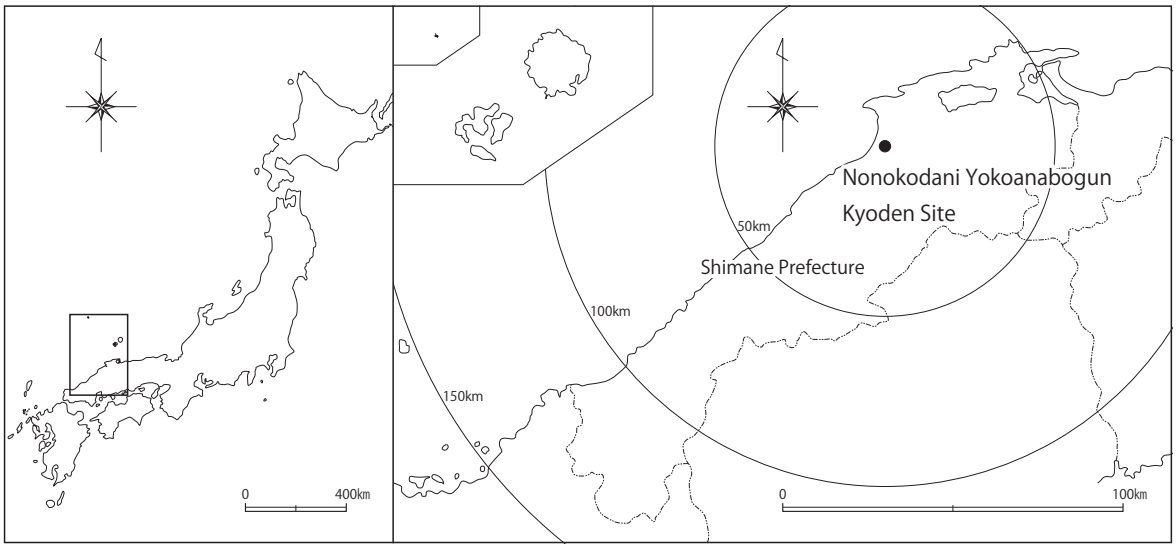
出雲平野は、中国山地と北山山麓に南北を挟まれ、斐伊川と神戸川の沖積作用によって形成された県下最大の平野であり、その規模は日本海から宍道湖西岸まで東西約20㎞にわたる。『出雲国風土記』によると、現在の出雲平野南西部から神西湖一帯は「神門水海」として水域が広がっていた。約6000年前の縄文海進時には島根半島と中国山地の間は完全に海域化していたが、やがて海退期になると、沖積低地や三角州が成長し、出雲平野の原形をつくりあげた。当時西流していた斐伊川の最下流域に、汽水域として神門水海が形成されていたのである。現在の神西湖はその南岸に当たる。神門水海は斐伊川と神戸川による砂礫運搬によって次第に埋められていった。ついで、常楽寺川や十間川、九景川等による上流河川の流入の堆積作用もその要因になろう。

中世以降も河川堆積による水域の陸地化は進んでいたが、江戸時代前期の大洪水によって斐伊川は向きを変え現在のように東流するようになった。この変化以降、下流域の宍道湖西岸に近世たたら製鉄に伴う鉄穴流しの廃砂による土砂堆積が進む。これにより出雲平野は更に拡大し、現在の地形となった。

第２節　歴史的環境

縄文時代

出雲平野における遺跡の初見は、縄文時代早期末の菱根遺跡（3）や上長浜貝塚（4）である。菱根遺跡は北山南麓に位置し、上長浜貝塚は大社湾沿いの古砂丘上に立地する。後者は中世の大規模な貝塚が形成され、その下層から菱根式に近い繊維土器が出土する。また、両遺跡では隠岐産黒曜石製の石鏃が確認され、海を渡った交流があったと推測される。

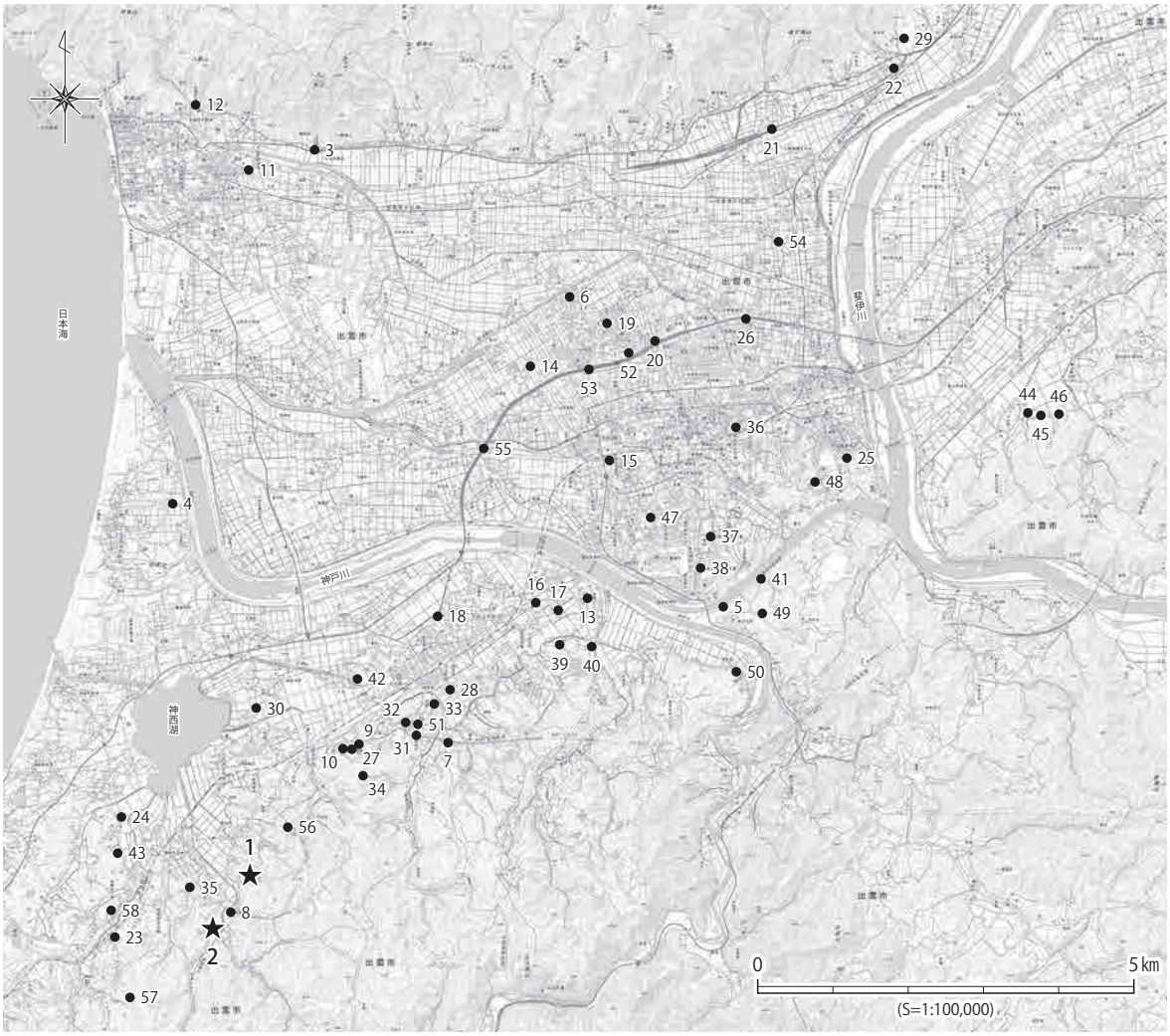


第３図　遺跡の位置

後期から晩期になると、斐伊川・神戸川流域に遺跡の増加が認められる。神戸川の自然堤防上に立地する三田谷Ⅰ遺跡（5）では、後期の丸木舟や晩期のドングリ貯蔵穴が検出された。矢野遺跡（6）では突帯文土器が出土する。当遺跡周辺に目を向けると、保知石遺跡（7）では晩期後半の突帯文土器や扁平打製石斧が確認され、神西湖南岸の御領田遺跡（8）では、出雲平野部では例のない後期の竪穴建物跡が検出された。御崎谷遺跡（9）や九景川遺跡（10）でも遺構は確認されていないが土器等が出土しており、周辺一帯で集落が形成されていたことが窺える。

弥生時代

弥生時代になると、出雲平野全域に集落が形成される。前期は、特に平野西部の神戸川下流域や大社湾沿いの砂丘上から平野周辺の丘陵裾部に多くの遺跡が確認され、縄文時代から続く原山遺跡（11）、出雲大社境内遺跡（12）、矢野遺跡があげられる。原山遺跡からは北部九州に多くみられる配石墓とともに朝鮮半島系土器が出土し、当地の弥生墓制成立を考える上で注目される。当地周辺で



1.のの子谷横穴墓群　2.京田遺跡　3.菱根遺跡　4.上長浜貝塚　5.三田谷Ⅰ遺跡　6.矢野遺跡　7.保知石遺跡　8.御領田遺跡　9.御崎谷遺跡　10.九景川遺跡　11.原山遺跡　12.出雲大社境内遺跡　13.古志本郷遺跡　14.白枝荒神遺跡　15.天神遺跡　16.下古志遺跡　17.田畑遺跡　18.知井宮多聞院遺跡　19.小山遺跡　20.姫原西遺跡　21.山持遺跡　22.青木遺跡　23.高畦遺跡　24.西安原遺跡　25.西谷墳墓群　26.中野美保遺跡　27.玉泉寺裏遺跡　28.浅柄遺跡　29.大寺１号墳　30.山地古墳　31.浅柄Ⅱ古墳　32.間谷東古墳　33.浅柄北古墳　34.北光寺古墳　35.雲部３号墳　36.今市大念寺古墳　37.上塩冶築山古墳　38.上塩冶地蔵山古墳　39.妙蓮寺山古墳　40.放れ山古墳　41.上塩冶横穴墓群　42.神門横穴墓群　43.八幡宮横穴墓群　44.後谷Ⅴ遺跡　45.稲城遺跡　46.小野遺跡　47.神門寺境内廃寺　48.長者原廃寺　49.光明寺３号墓　50.小坂古墳　51.浅柄Ⅲ遺跡　52.蔵小路西遺跡　53.渡橋沖遺跡　54.荻杼古墓　55.余小路遺跡　56.神西城跡　57.要害山城跡　58.姉谷城跡

第４図　周辺の遺跡（S=1:100,000）

は、保知石遺跡や九景川遺跡では前期土器が散見されるものの、明確な集落としては把握できない。中期になると遺跡は急増する。神戸川の西岸や平野中央部には古志本郷遺跡（13）、白枝荒神遺跡（14）、天神遺跡（15）、下古志遺跡（16）、田畑遺跡（17）、知井宮多聞院遺跡（18）、小山遺跡（19）等が知られ、古志本郷遺跡や矢野遺跡等の大規模集落が出現し始める。後期には、平野中央部・北部の姫原西遺跡（20）、山持遺跡（21）、青木遺跡（22）等新たな遺跡が加わる。神門水海南岸の地域では、高畦遺跡（23）で竪穴建物跡を、西安原遺跡（24）で木道跡を検出する等遺構はわずかな検出にとどまるものの、複数の遺跡から同時期の遺物がまとまって出土しており、平野中央部・北部の開発と同時期に多くの集落が形成された。

墳墓では、平野南側の丘陵上に最大級の四隅突出型墳丘墓である西谷３号墓をはじめとする西谷墳墓群（25）が出現し、平野低地部の中野美保遺跡（26）や青木遺跡でも中小規模の四隅突出型墳丘墓や方形貼石墓が築造される。神門水海南岸では、玉泉寺裏遺跡（27）で弥生時代終末から古墳時代初頭の土壙墓が検出されているが、平野中央部・北部のような四隅突出型墳丘墓は今のところ確認されていない。

古墳時代

弥生時代から古墳時代を通して、多少の変動はありつつも集落は営まれ続ける。前期後半から中期中葉になると、浅柄遺跡（28）で建物跡が検出され、御崎谷遺跡からは中期を中心とする多量の遺物が出土した。九景川遺跡の集落と合わせ、当時のこの地域では、ある程度の規模の集落が営まれていたと考えられる。

墳墓は、前期末から中期初頭には、大寺１号墳（29）、山地古墳（30）、浅柄Ⅱ古墳（31）、間谷東古墳（32）、浅柄北古墳（33）等、平野周辺部の丘陵上に古墳が出現する。北山山麓に造られた大寺１号墳は竪穴式石室を持ち、割竹形木棺が置かれていたと推定される。

一方、入海となっている神門水海東岸では礫敷の主体部を有する古墳が出現する。山地古墳は、礫床敷きの箱形木棺に、筒形銅器・鏡等の副葬品を有し、浅柄Ⅱ古墳は粘土槨と礫槨を持つ。間谷東古墳は奥才型木棺と称される棺内礫敷組合式木棺の埋葬施設を備える。この奥才型木棺は北部九州から北近畿に分布することからも、当地域の地理的特性を生かした海上交易を中心とした広域的な地域間交流が想像される。

古墳時代中期中葉には北光寺古墳（34）が築造される。御崎谷遺跡のすぐ南丘陵上に築かれ、この時期では出雲部最大規模の前方後円墳である。また、入海南岸地域では雲部３号墳（35）が知られている。

古墳時代後期になると、神戸川下流域に集中して大型古墳が築造される。今市大念寺古墳（36）や上塩冶築山古墳（37）、上塩冶地蔵山古墳（38）といった有力首長層の巨大古墳が現れる。神戸川左岸地域には、妙蓮寺山古墳（39）や放れ山古墳（40）等が存在し、出雲平野の最高首長層に次ぐ位置付けとして評価される。これらの古墳の存在は、神戸川下流域を中心とした、出雲西部一帯における支配秩序の形成を意味している。そして、後期後葉頃から平野南部の低丘陵には横穴墓が造られ始める。上塩冶横穴墓群（41）、神門横穴墓群（42）は突出した規模を誇り、副葬品から被葬者層は地域の豪族・有力農民層と理解されている。また神門横穴墓群と時期を同じくして浅柄北古墳のある丘陵斜面にも横穴墓が造られ、前期古墳である１号墳を後背墳丘として造墓された可能性が

指摘される。入海南岸地域では、のの子谷横穴墓群（1)、八幡宮横穴墓群（43)、安子神社横穴墓群等が知られている。

古　代

奈良時代の律令制下では、出雲平野は出雲郡と神門郡からなり、当地域は神門郡滑狭郷に属する。官衙関連遺跡としては、後谷Ｖ遺跡（44）周辺は出雲郡家に比定されている。後谷Ｖ遺跡からは焼失した倉庫跡が検出され、その東に位置する呪符木簡が出土した稲城遺跡（45）や、瓦、鴟尾や木簡の出土した小野遺跡（46）が一連の郡家遺跡と考えられる。神門郡家は、古志本郷遺跡に比定され、二時期の郡庁跡が確認されている。神門郡内には他にも、大型総柱建物や墨書土器、緑釉陶器等が検出された天神遺跡、官衙関連遺物が多数出土した三田谷Ｉ遺跡等があり、郡家の出先機関と推定されている。寺院跡等については、朝山郷新造院に推定される神門寺境内廃寺（47）や、礎石等を検出した長者原廃寺（48）が存在する。神門寺境内廃寺は、瓦類の編年から７世紀後半に遡り、同じ瓦当文を持つ遺跡が出雲郡にまで及んでいる。また、備後北部を中心として分布するいわゆる水切瓦が出土することから、出雲国への仏教伝播ルートを考える上で重要な要素となっている。

この時代の墳墓としては、出雲西部に火葬墓が集中して分布する。光明寺３号墓（49）は初期の火葬墓と考えられ、配石を伴う方形マウンドに火葬骨の入った石櫃が納められる。横穴式石室を再利用したと考えられる小坂古墳（50）では、石櫃と西日本では希有な蕨手刀が出土している。

集落遺跡は、奈良時代から平安時代初期の建物跡や遺物が多数確認された九景川遺跡、多数の掘立柱建物跡が検出された浅柄遺跡があげられる。また、浅柄Ⅲ遺跡（51）では加工段が複数確認され、加工段の１つには造り付け竈がある。出雲平野南縁部には古代山陰道の存在が想定されており、交通の要衝地として発展していったことを物語っている。

中　世

中世の集落遺跡としては、蔵小路西遺跡（52)、渡橋沖遺跡（53）があげられる。蔵小路西遺跡は、大溝で区画された建物群や12 ～ 15世紀の陶磁器類が出土し、古代有力豪族勝部氏の系譜を引くといわれる朝山氏か、出雲国守護職にあった佐々木氏（塩冶氏）の居館跡と推定されている。渡橋沖遺跡からは総柱建物跡やミニチュア五輪塔が確認されている。墳墓としては、青磁を副葬する荻杼古墓（54）や、木棺墓が検出された姫原西遺跡、余小路遺跡（55)、蔵小路西遺跡等、多数確認されている。神門水海周辺では、その地域特性を生かした貝塚が形成されていて、上長浜貝塚、九景川遺跡、御領田遺跡等で確認されている。中世の貝塚は全国的に少なく、その中では上長浜貝塚の規模は全国屈指である。土師器や瓦質土器と供にヤマトシジミの貝殻や魚骨、漁撈具のほか、鹿角加工品やイノシシ等の獣骨も出土しており、漁撈だけでなく狩猟にも従事していた可能性が指摘されている。

室町時代から戦国時代になり、出雲平野に多数の山城･居館が築かれ始める。神門水海周辺では、神西城跡（56)、要害山城跡（57)、姉谷城跡（58）等が挙げられる。

引用・参考文献

出雲市教育委員会1997『遺跡が語る古代の出雲 - 出雲平野の遺跡を中心として - 』

湖陵町誌編纂委員会2000『湖陵町誌』

湖陵町教育委員会2000『湖陵町遺跡地図』

島根県教育委員会2005『畑ノ前遺跡・菅原Ⅰ遺跡・クボ山遺跡・菅原Ⅱ遺跡・菅原Ⅲ遺跡・廻田Ⅴ遺跡・保知石遺跡・浅柄Ⅱ遺跡・柳ノ内Ⅰ遺跡　山陰自動車道鳥取益田線（宍道～出雲間）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書2』

島根県教育委員会2008『九景川遺跡　一般県道出雲インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ』

島根県教育委員会2008『玉泉寺裏遺跡　浜井場4号墳　間谷東古墳　一般県道出雲インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』

島根県教育委員会2009『御崎谷遺跡　間谷東遺跡　浅柄北古墳　間谷西Ⅱ遺跡　間谷西古墳群　一般県道出雲インター線建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』

島根県古代文化センター 2012『出雲国風土記の研究Ⅳ　神門水海南辺の研究（資料編）　島根県古代文化センター調査研究報告書46』

島根県古代文化センター 2014『解説出雲国風土記』

島根県古代文化センター 2015『日本海沿岸の潟湖における景観と生業の変遷の研究　島根県古代文化センター研究論集第15集』

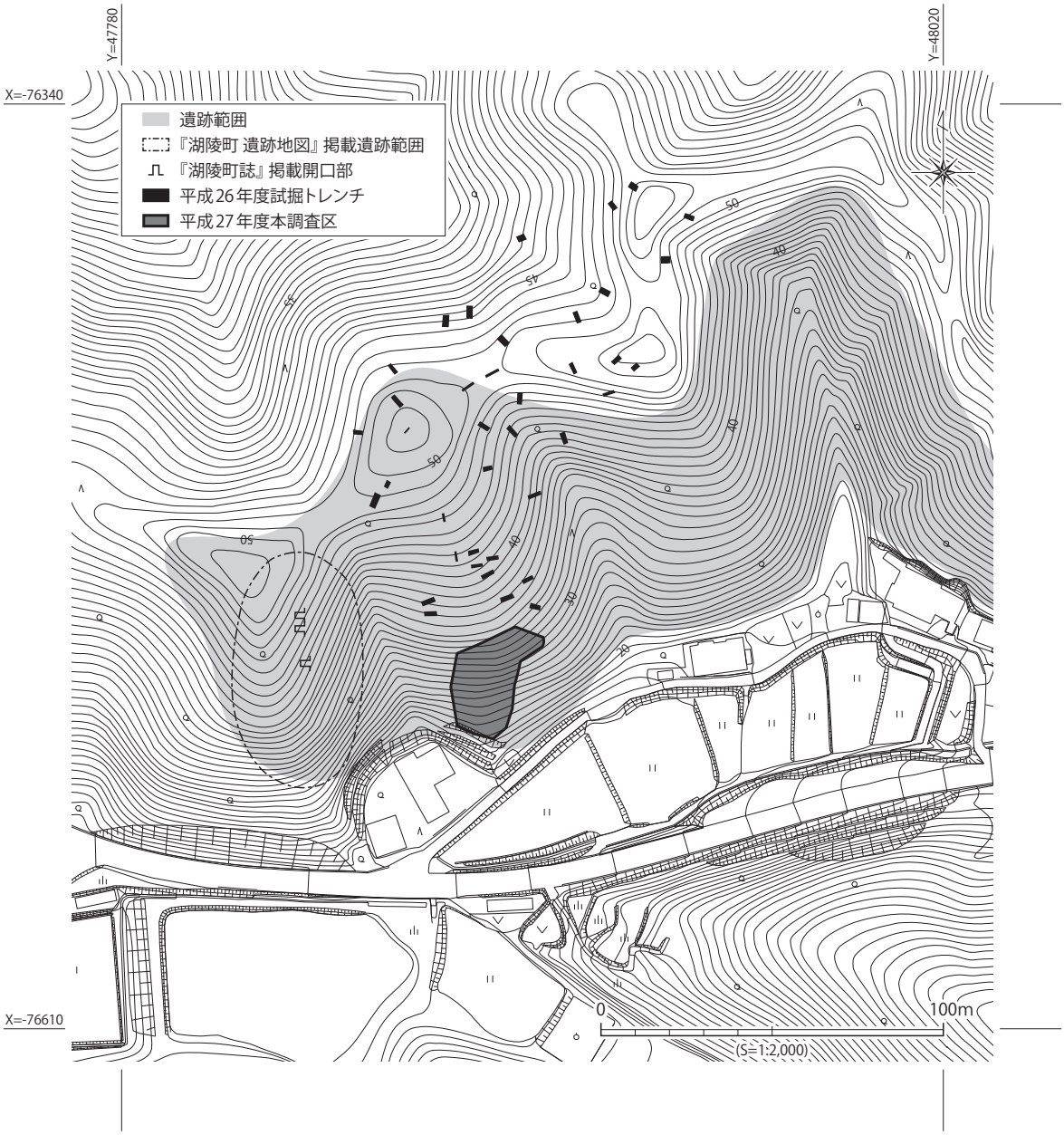
第３章　のの子谷横穴墓群の調査成果

第１節　遺跡の概要

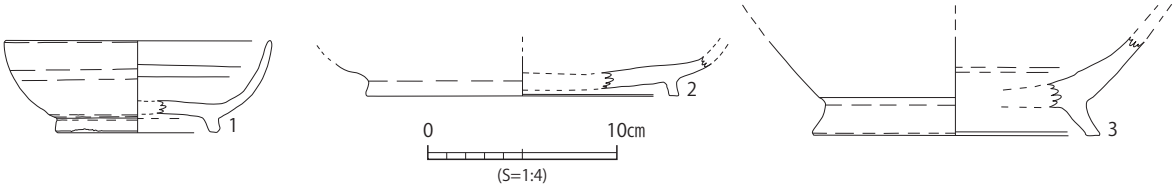
のの子谷横穴墓群は、出雲市湖陵町字常楽寺東下地区に位置する。北流して神西湖に注ぐ常楽寺川流域を眺望する標高53mの低丘陵に立地し、狭小な谷部に面した斜面に横穴墓が展開している。

のの子谷横穴墓群のある神西湖南岸の平野部を望む低丘陵一帯には、常楽寺地区から大池地区にかけてこれまで６遺跡43穴の横穴墓が確認されていた（湖陵町誌編纂委員会2000）。のの子谷横穴墓群は旧『湖陵町誌』で「常楽寺板高古墳」として須恵器甕片が採集され（米山1970）、『湖陵町遺跡地図』では「のの子谷（布子谷）横穴墓群」として開口部３穴と須恵器３点が掲載される（湖陵町2000）（第６図）。

平成26（2014）年度試掘確認調査では、開口部を含めた周辺丘陵一帯を踏査し39か所のトレン



第５図　のの子谷横穴墓群　平成26年度試掘確認調査区及び平成27年度本調査区（S=1:2,000）



第６図　のの子谷横穴墓群　採集遺物（S=1:4）『湖陵町遺跡地図』より転載

チ調査を実施したが、遺構や遺物は検出されなかった。このため、平成27（2015）年度の本調査区は開口部のある丘陵の南側斜面に設定した。標高34m ～ 21mと高低差があり、急斜面である。調査区の現況は雑木林で、表土は厚いシダ類で覆われていた。3か所の開口部があり崩落の危険があることや急斜面であるため、重機は使用できず人力で表土掘削を行った。横穴墓の検出後、前庭部包含層を掘り下げながら精査・記録を行った。斜面上方では表土下に黄褐色系の流土が堆積し、それより下層は地山となる。表土掘削後はスコップ・鍬によって人力で掘り下げた。遺構検出は草削り・鋤簾によって精査し、サブトレンチによって断面を確認した上で遺構掘削を行った。

横穴墓の掘削は、土層観察用のベルトを設定して掘削し、写真撮影後、必要に応じて土層断面図を作成した。横穴墓内から出土した遺物については出土状況を記録し、その他は出土地点を記録して取り上げた。

遺構の平面図は、コンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「SITE」を用いて測量し、出力後補正を行った。また、報告書掲載が見込まれる遺物等は遺跡調査システムで出土位置を記録した後に取り上げを行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7判フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。

自然科学分析は、文化財調査コンサルタント株式会社に委託してAMS（放射性炭素14C）年代測定を行った。試料は、発掘調査中に位置を記録して取り上げ、調査終了後に選択した。

平成28（2016）年9月には、調査区南西側に横穴墓が続く可能性が考えられたため、試掘確認調査を行ったが遺構や遺物は検出されなかった。

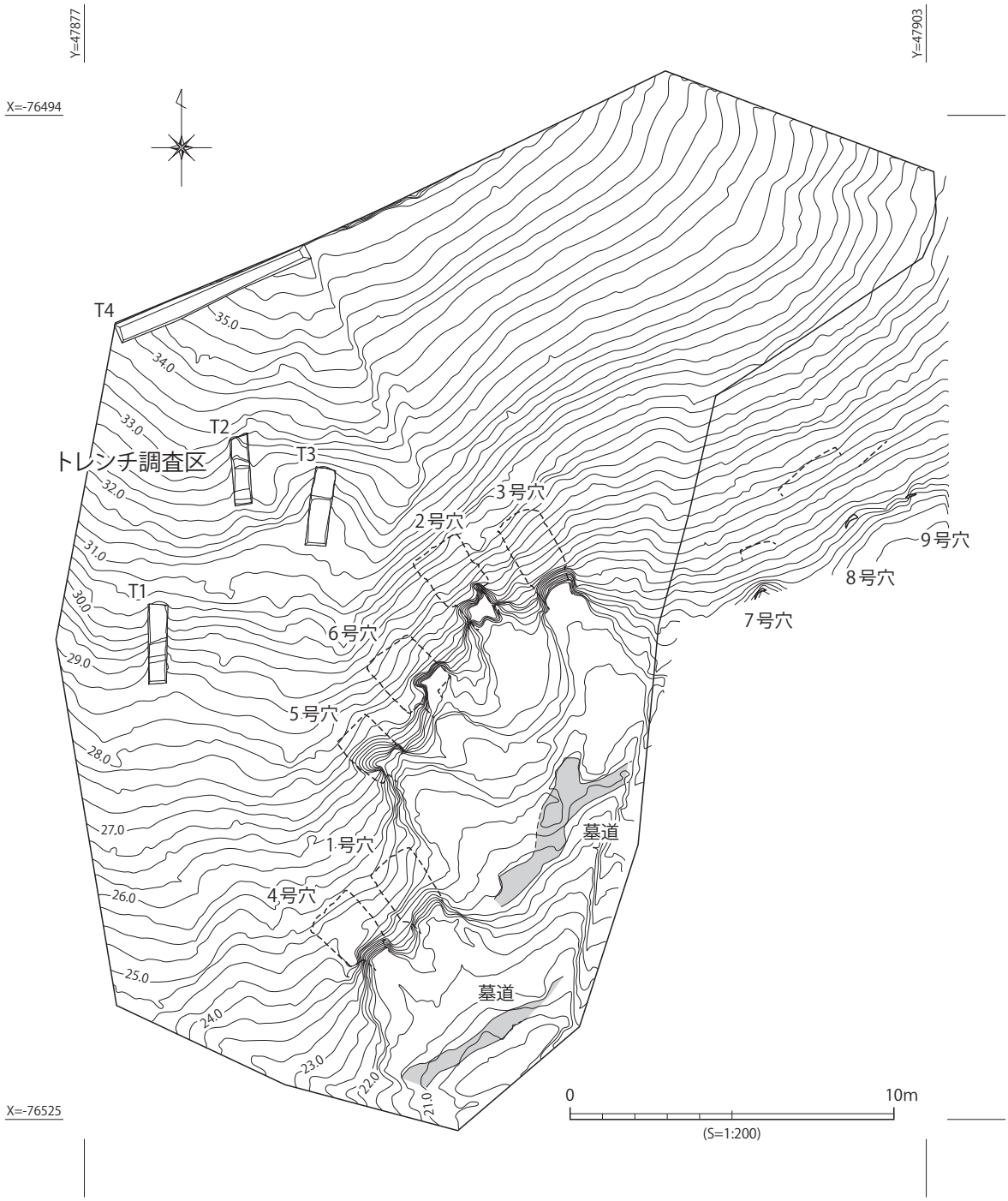
第2節　横穴墓の調査

1．調査区の概略と基本層序

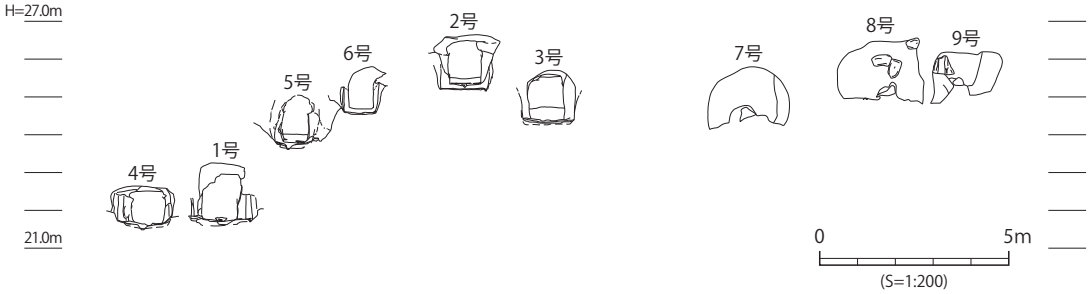
発掘作業と検出遺構（第7図）

調査区は、雑木伐採後表土を人力で除去した後、前庭部を包含層掘削、横穴墓内を遺構掘削として行った。調査面積は540㎡である。1号～ 6号横穴墓（以下1号～ 6号穴と呼称）と、古墳時代後期から中世の遺物を確認した。横穴墓は、開口していたものを西から順に番号を振っているため、隣り合う横穴墓の名称が続き番号になっていないものもある。3号穴の東側には、調査区外に3穴開口部が認められ、7号～ 9号横穴墓（以下7号～ 9号穴と呼称）として現況を記録した。

調査の結果、開口していた1号～ 3号横穴墓に加えて4号～ 6号横穴墓の6基を検出した。すべて南東向きに開口する。後世の盗掘等二次的な掘削を受けているが、玄室形態や、前庭部より出土した須恵器から、おおむね7世紀前半から築造が始まり中頃まで追葬や墓前祭祀が行われたと考え



第７図　のの子谷横穴墓群　遺構配置図（S=1:200）

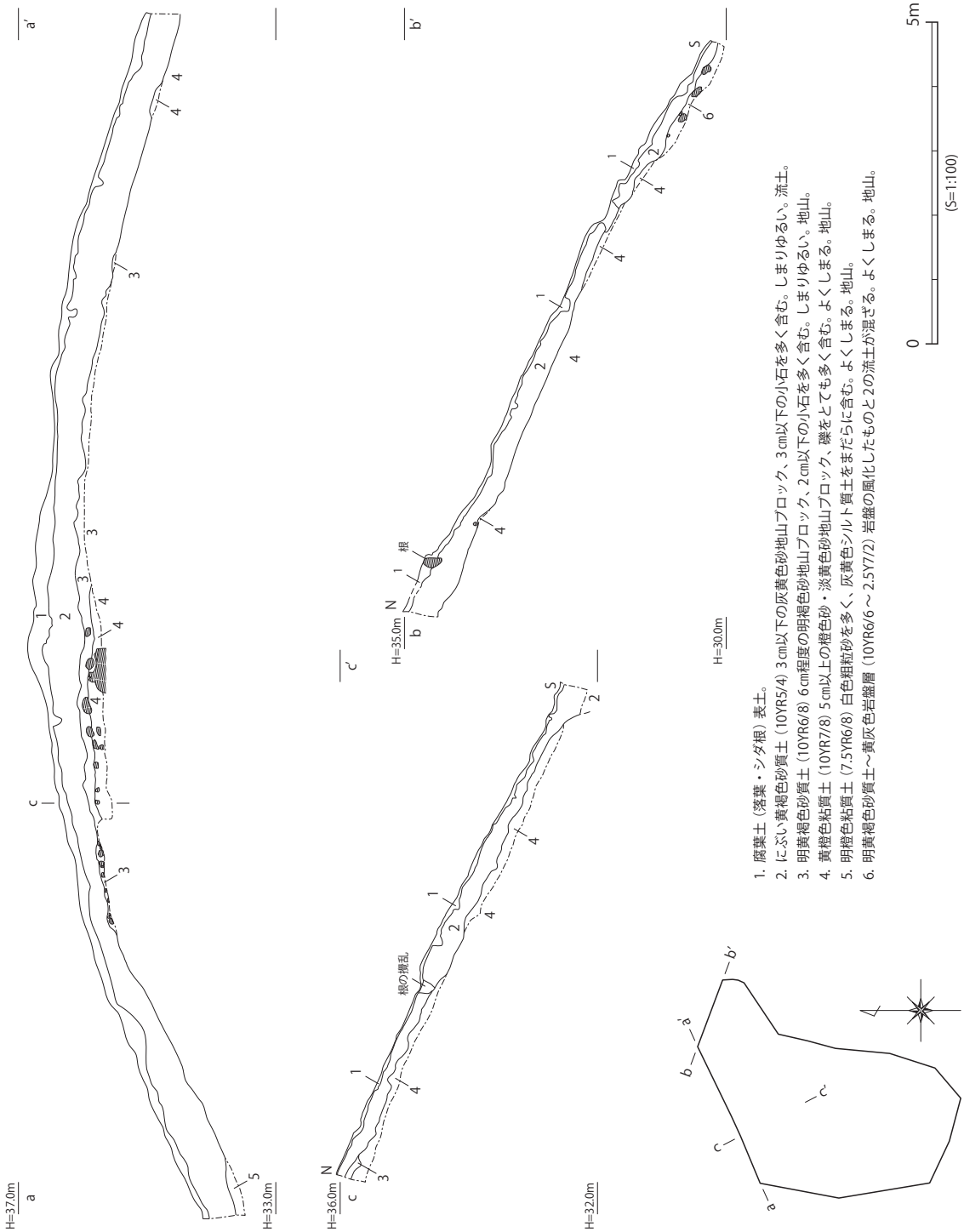


第８図　のの子谷横穴墓群　羨門立面図（S=1:200）

られる。玄室形態は、6号穴以外は縦長長方形で、アーチ系家形である。6号穴は奥の狭い正方形で平天井を呈している。

基本層序（第9図）

調査区の基本層序は、調査区北壁、東壁で確認した。調査区北半の緩い斜面には地表から厚いシダ類を主体とする腐葉土が10～20㎝、その下層には40～60㎝の黄褐色系の流土が堆積する。後述するが、調査区の西半と東側の一部については、表土の除去後トレンチ調査を実施し、遺構・遺物がないことを確認している。



第9図　のの子谷横穴墓群　調査区土層断面図（S=1:100）

横穴墓は標高28m以下の凝灰岩質砂岩に掘られている。横穴墓内の基本層序は、表土下に土器を含む黒から暗褐色系の砂質土、黄褐色系の流土、黄灰色から明黄褐色系の岩盤層となる。開口していた1号～3号穴付近は既に包含層が露出していることが予想されたため、表面のみ掃除を行い、推定される主軸に沿って掘削を実施した。5号･6号穴はサブトレンチを入れて確認をしながら掘削を行ったが、包含層を明確に検出できなかった。

2. トレンチ調査

調査区の北緩斜面は表土掘削時に地山まで掘削したが、西側斜面と東側の急斜面についてはトレンチを設定して遺構の有無を確認した。西側斜面のやや窪んだ箇所にT1～T3を設定した(第7図)。トレンチの規模は南北2.0～2.5m、東西0.5～0.7mで、深さ30㎝程度で地山岩盤層となる。遺構･遺物は検出していない。東側については東壁サブトレンチで土層を確認した。表土下20㎝程度で地山岩盤層となり、遺構・遺物は検出されなかった。このトレンチ調査の結果により、横穴墓は調査南東側斜面にのみ分布していることが判明した。

3. 横穴墓とその遺物

1号横穴墓（第10図～第13図）

立地　南東側斜面の調査区西端で検出した。当初から開口している状況であった。西側には4号穴が、東側の約2m上方には5号穴が隣接する。床面標高は約21.6mで、主軸はS－33°－Eで南東に開く。

前庭部　4号穴とは前庭部を共有するように検出しているが、横断面の土層観察から1号穴前庭部の堆積土を切って4号穴が掘り込まれていると考えられる。縦断土層では1層～5層、8層～12層が堆積し、地山岩盤となる。床面の平面形は玄門側から前方に向かって台形に広がる形態を呈し、玄門側で幅1.52m、前端部の幅は現状2.2m、奥行き1.4mを測る。長さは南北に2.5mで、奥壁の高さは現状で1.0mになる。床面は、前端部へ向かって緩やかに傾斜し、前端部より先はやや急になり調査区外へ続く。

前端部からおよそ0.9mほどの奥の床面にはわずかながら段が設けられている。玄門から続く溝は長さ約1.4m、幅約30㎝、深さ約12㎝を測り、閉塞施設を据え付ける溝と接続する。側壁は残存している奥側は垂直に近い角度で掘り込まれている。

玄門部　奥幅約1.0m、手前幅約1.0m、奥行き約0.7mを測り、床平面は中程が窪む鼓状である。天井部崩落のため高さ、断面形態は不明。床面中央には長さ約0.9m、幅約30㎝、深さ約3㎝の溝があり、閉塞部と前庭部の溝に接続する。

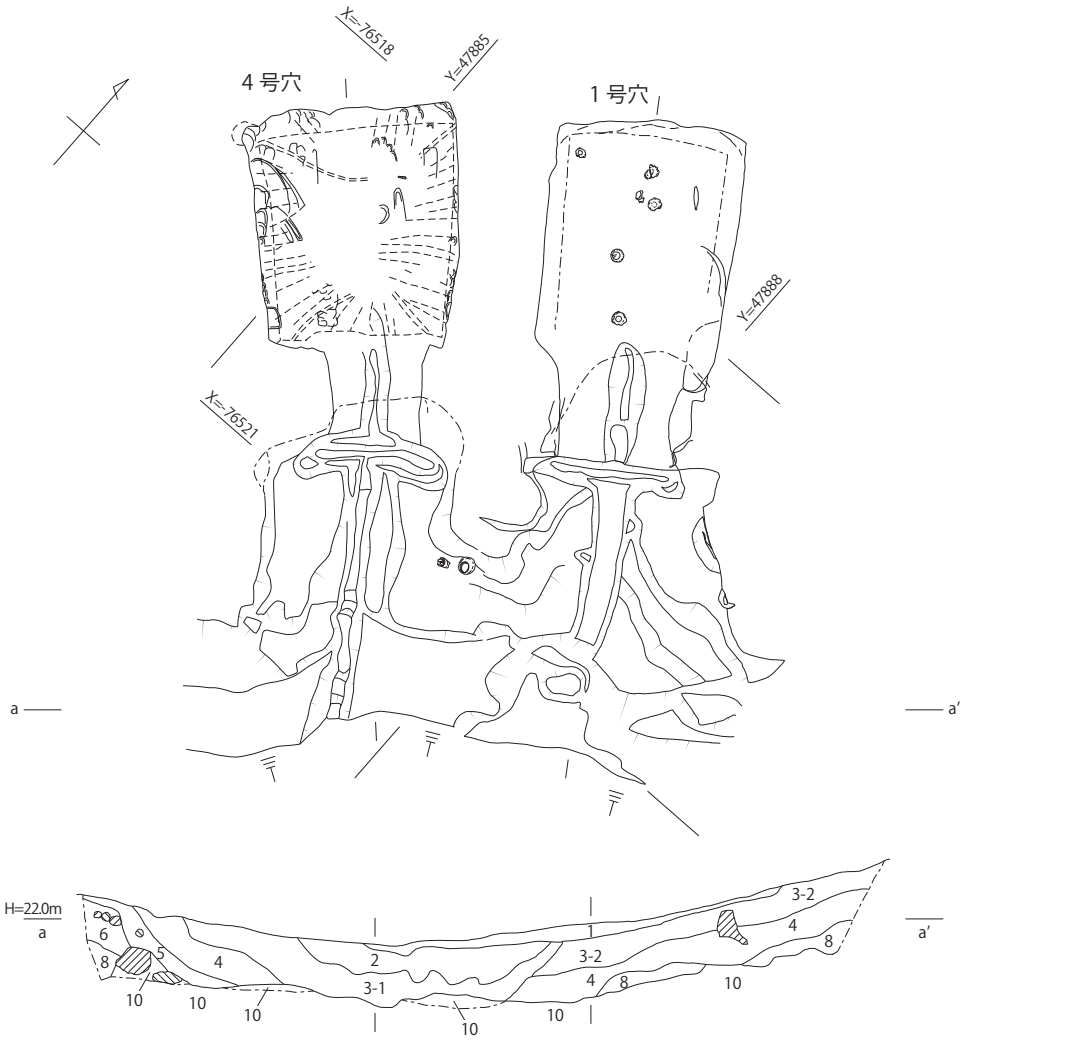
床面が前庭部よりも10㎝一段高く段差を設けており、長さが0.8m前後、幅が玄室寄りで1.0m、前庭寄りの最も狭い部分で1mを測る。高さは天井部がかなり崩落しているため不明瞭だが、左側壁の上部に天井部との界線がわずかながら残存している。この界線の存在から、天井部はほぼ平らであった可能性が高く、立面観は長方形を呈していたものと考えられる。

閉塞部　床面に長さ1.2m、幅20㎝、深さ4㎝の、閉塞施設を受ける溝が設けられる。溝の長辺両端が柱穴状に屈曲しており、柱を据えて板状の閉塞施設を支えていた可能性もある。

玄室　規模は幅が奥壁側で約1.5m、前壁側約1.44m、奥行き約2.1mを測り、床平面は縦長長方

形プランを呈する。袖は明瞭でなく、左右とも袖は約20㎝。床面の掘削痕跡や全体的に隅の仕上げが丸いことから、当初徳利型で造り始め、後に袖の角を指向して掘削したと考えられる。高さは床面から天井までで約1.0mを測る。全体的に崩落が激しく、右壁の奥側には獣の爪痕と思われる傷が確認できるが、ノミ痕は残っていない。四壁は全体的に崩落や風化等により痛みが激しく、詳細は不明瞭である。わずかに内傾するもののほぼ垂直に立ち上がる。壁と天井の界線（軒線）の有無については明らかな部分が少ないが、奥壁にわずかながらその痕跡を認めることができる。天井は妻入りの寄棟家形である。棟線の長さは80㎝と短く、床面からの高さは1.2mを測る。

土層堆積状況　前庭部の土砂は表土（腐葉土）、暗褐色系、流土の黄褐色系が観察される。横断土層図から4号横穴墓が1号横穴墓を切って掘削されている。玄門から玄室の土砂は流れ込んだ黄褐色系があり、その下層に炭化物を多く含み中世の土師器坏、鉄刀が出土した暗黒褐色土（12層）、そ



1. 褐灰色土（腐葉土）（7.5YR3/1）表土。
2. 暗褐色～黒褐色砂質土（7.5YR4/3 ～ 3/1）1㎝以下の黄灰色地山粒を少し、2㎜以下の小石を少し含む。炭化物をとても多く含む。上面で須恵器出土。しまりゆるい。かき出し土か。（7C後半～ 8C前半）

3-1. 明黄褐色砂質土（10YR6/8）1㎝以下の黄灰色地山ブロックを少し、炭化物を少し含む。しまりゆるい。須恵器を含む。流土。（7C後半～ 8C前半）

3-2. 明褐色砂質土（7.5YR5/6）5㎜以下の砂礫・炭化物を多く含む。流土。

4. 明黄褐色砂質土（10YR6/8）1㎝以下の黄橙色地山ブロックを少し、2㎜以下の礫を少し含む。しまりゆるい。炭化物を少し含む。流土。

5. 黄橙色砂質土（10YR7/8）3㎝程度の地山ブロックを全体に含み、褐灰色土（10YR4/1）が混じる。しまりゆるい。炭化物を少し含む。流土。

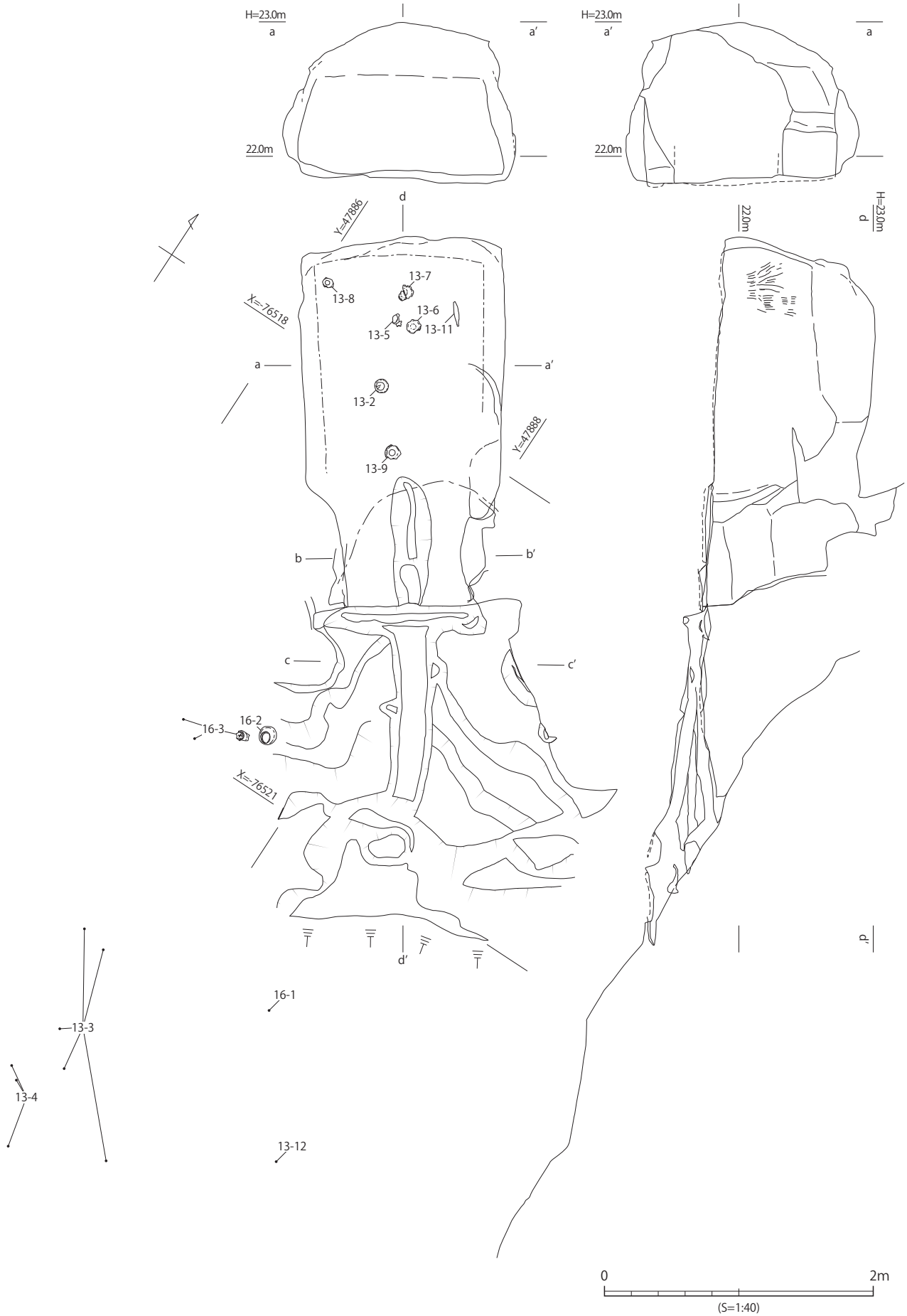
6. 明褐色砂質土（7.5YR5/6）黄橙色地山ブロックを含み、炭化物を少し含む。流土。

8. 黄橙色砂質土（10YR7/8）橙色地山ブロックを含む。しまりゆるい。流土。

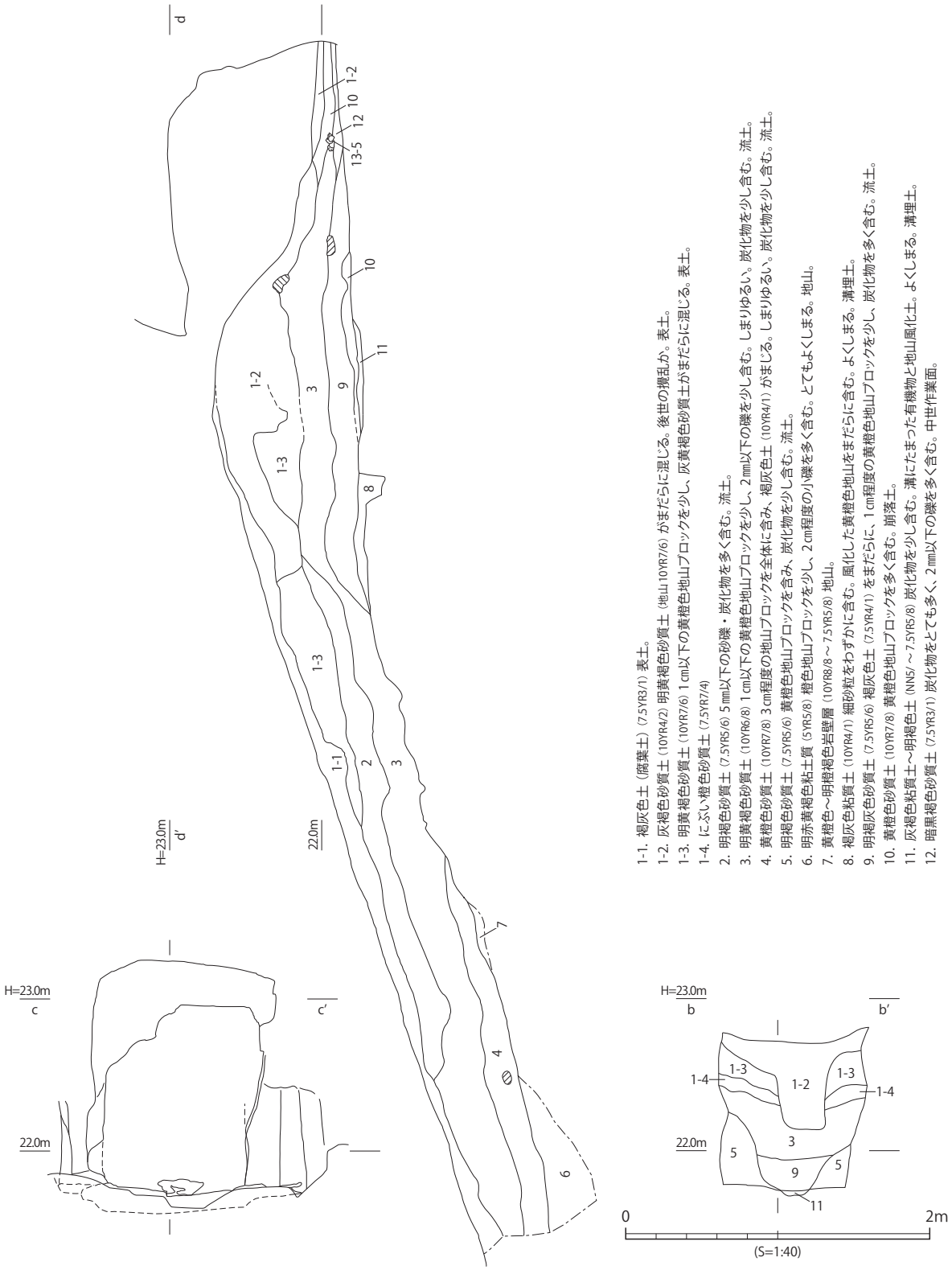
10. 黄橙色～暗橙褐色岩盤層（10YR8/8 ～ 7.5Y5/8）地山。

0　2m
(S=1:60)

第10図　のの子谷横穴墓群　1号・4号横穴墓平面図及び前庭部土層断面図（S=1:60）



第11図　のの子谷横穴墓群　１号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）

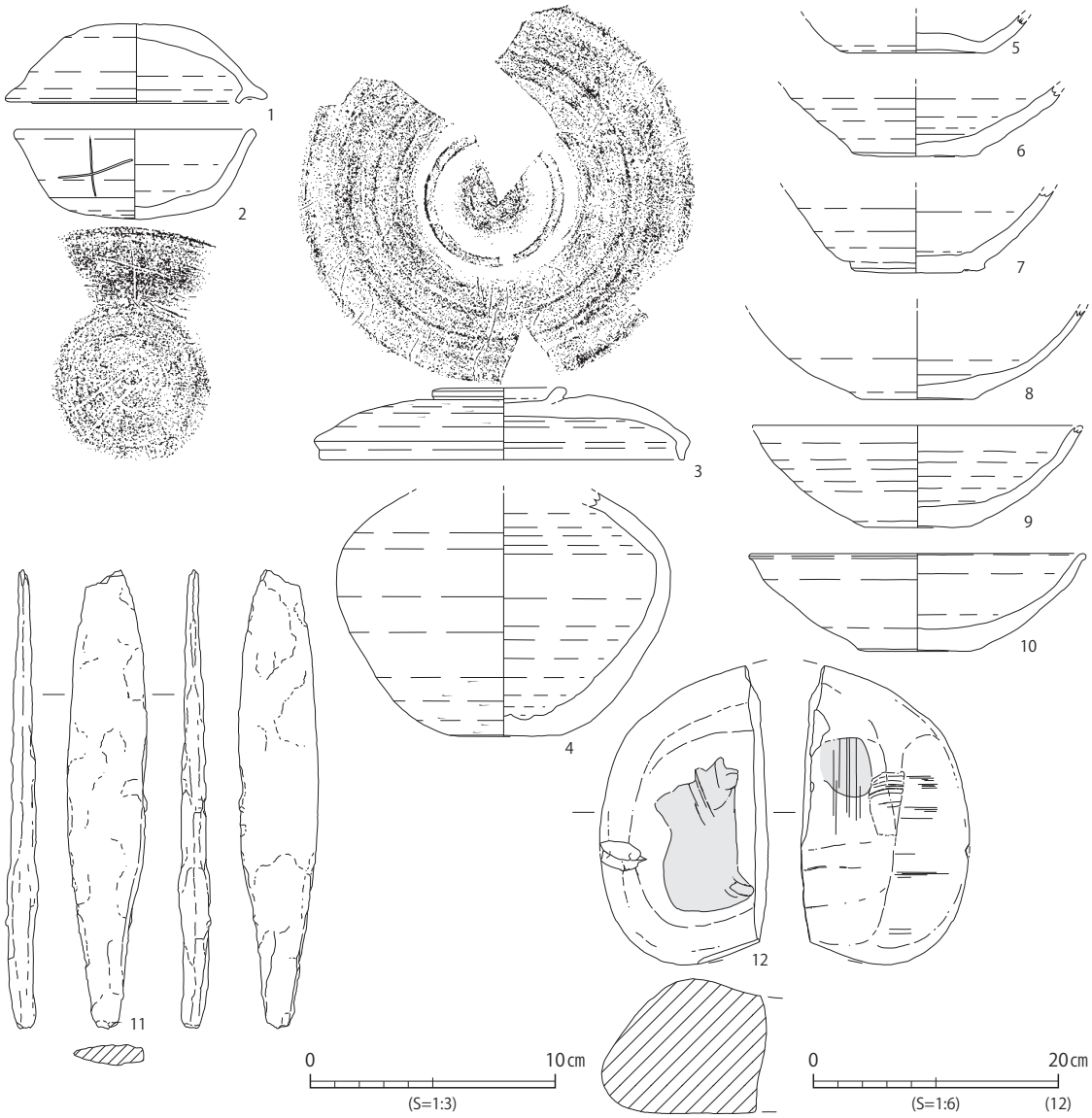


第12図　のの子谷横穴墓群　1号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）

の下層には天井や壁の崩落土が堆積していた。この炭化物層は中世の旧表土であり、中世時期に横穴内部は全て一度掻き出し、新たに副葬品を入れて墓として再利用した可能性がある。

遺物出土状況　前庭部表土では、砥石（第13図12）が露出していた。輪状つまみ付蓋（第13図3）、長頸壺（第13図4）は、隣接する4号穴前庭部の3層から破片が3～6点出土し、1号穴玄室出土破片と接合したため、1号穴玄室から掻き出されたものと考えられる。玄室内3層からは、出雲6期の須恵器蓋坏が2点、2～3層から土師器坏が6点、鉄刀が出土している。土師器坏と鉄刀を納める中世墓は大寺1号墳（島根県古代文化センター 2005）や西石橋遺跡（川原・桑原1987）が類例としてあげられ、横穴墓は中世に再利用された可能性が考えられる。

出土遺物（第13図）　第13図1～4は須恵器である。1・2は蓋坏で、ほぼ完形で出土した。2の体部にはヘラ記号「×」が観察される。1は天井部にヘラおこし痕がみられ、いずれも大谷6期に分類される小型のものである。3は輪状つまみ付き蓋で、天井部内面は摩滅している。口縁端部は垂下し平坦面をつくる。出雲Ⅲ期に属する。4は小型の長頸壺の体部から底部で、胴部上半と下半は別々に回転ナデが施される。出雲6期か。5～10は土師器坏である。10以外は口縁端部を欠い



第13図　のの子谷横穴墓群　1号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3,1:6）

ており、摩滅が激しい。おおよそ12～13世紀とみられる。11は残存長18.7㎝の鉄刀である。片刃のナデ関式で、切先は欠損している。平安時代末から中世頃のものと考えられる。

4号横穴墓（第10図、第14図、第15図）

立地　調査区の西端で検出、東側に1号穴が隣接している。南東向きに開口する。床面標高は約21.4m～約21.8mで、主軸はS－44°－Eである。

前庭部　奥幅約1.3m、前端幅約1.1m、奥行き約2.2mを測り、平面形は前端に向かって拡がる。床面は平坦だが、前端に向かって緩やかに傾斜する。玄門から続く溝は長さ2.2m、幅20㎝、深さ約15㎝で、主軸は先端でやや南に傾き、閉塞施設を据え付ける溝と接続する。

玄門部　奥幅約0.8m、手前幅約0.7m、奥行き約0.7mを測り、平面的にはほぼ変化しない。天井部崩落のため高さ、断面形態は不明。中央に長さ1.1m、幅20㎝、深さ約5㎝の溝があり、閉塞施設の溝と接続して前庭部の溝につながる。

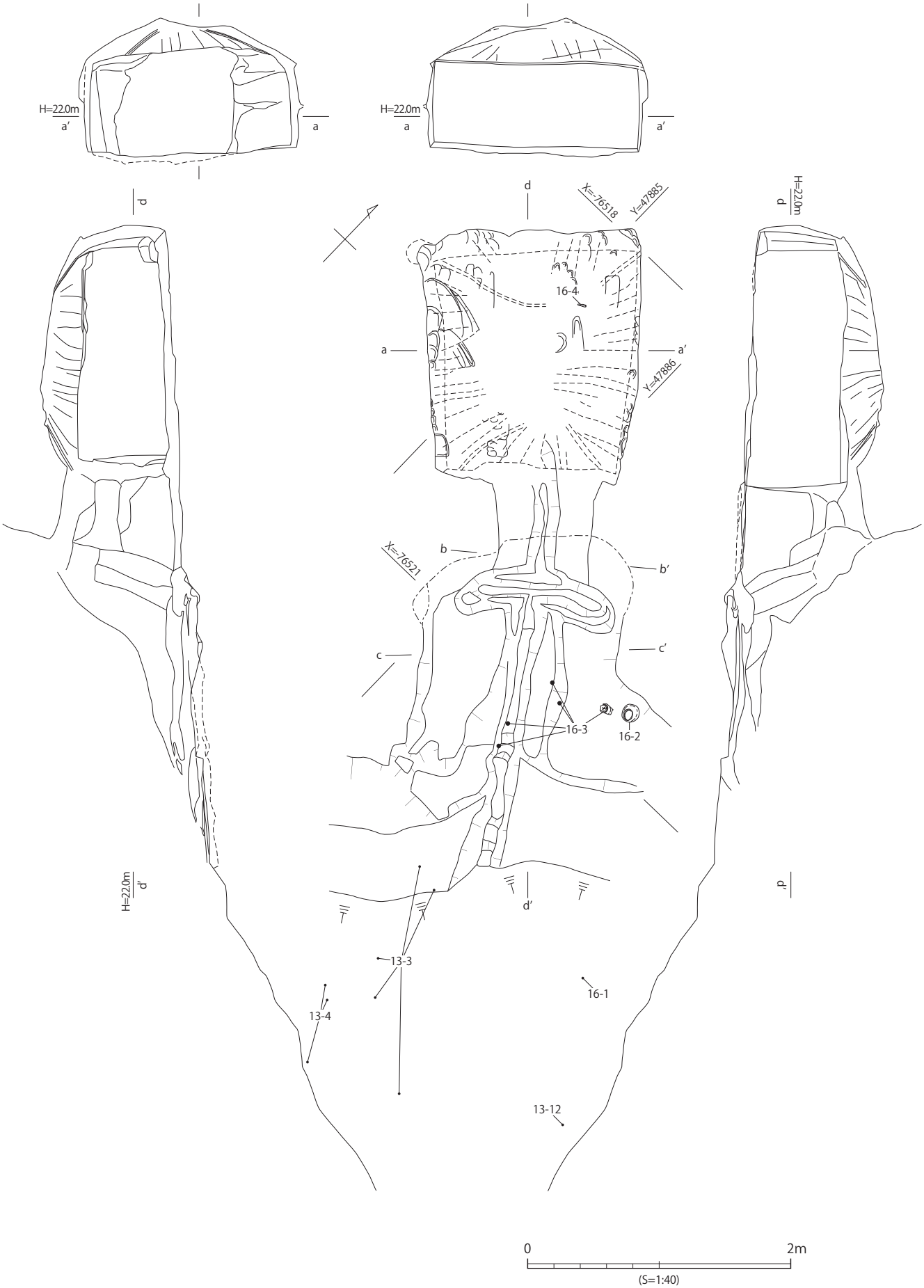
閉塞部　床面には長さ1.2m、幅20㎝、深さ約10㎝を測る閉塞施設を受ける為の溝が設けられる。溝の幅が狭いことから、閉塞は板状の形態を呈し、石材が確認できないことから木製の可能性がある。溝の長辺の両端は柱穴状に丸くなり、玄門正面の左右壁面が窪んでいることから、柱を立てて閉塞の板壁を固定していた可能性もある。

玄室　主軸は前庭部とずれる。規模は幅が奥壁側で約1.7m、前壁側約1.4m、奥行き約1.9mを測り、縦長長方形プランを呈する。左袖約0.4m、右袖約0.1mで、右袖が極端に狭くなっている。これは隣接する1号穴に影響を受けていると考えられる。高さは中央付近で約1.0m。四隅の床面は角がつくられ、天井と側壁の境に軒線が段状にあり、天井にかけて幅細い溝状の隅棟線が入る。天井から前壁側に向けて肋骨状加工痕がみられ、アーチ形に作り溝状の軒線をいれることで家形に仕上げている。天井頂部は崩落しており大棟があったかは不明である。

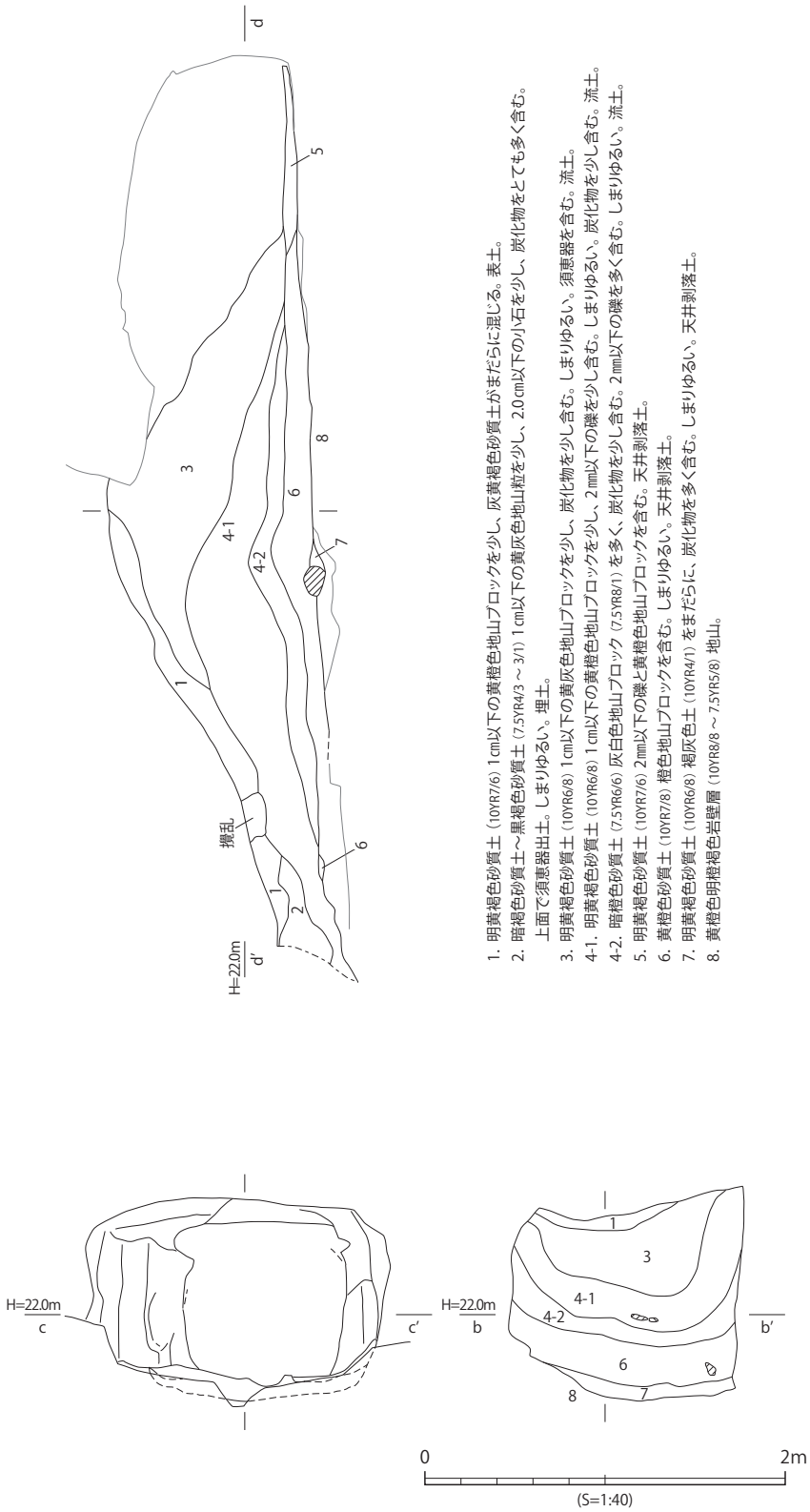
埋土堆積状況　前庭部の土砂は表土（1層）、炭化物を包含し上面で須恵器を検出した暗褐色系（2層）、流土と考えられ須恵器を包含する黄褐色系の堆積土（3・4層）が観察された。暗褐色土は前庭祭祀の痕跡とも考えられるが、その下に須恵器を包含する流入土があることを考えると、掻き出された土や遺物が後世の攪乱を受けていると考えられる。

遺物出土状況　前庭部2層上面では炭化物の集中している地点周辺から須恵器蓋片が出土しており、追葬時に前庭部祭祀が行われた可能性が考えられる。3層からも同時期の蓋と、大谷5期頃の高台を持たない長頸壺片が出土している。この蓋（第13図3）と長頸壺（第13図4）は1号穴玄室内からも同一個体が出土しており、1号穴から掻き出されたものと判断した。4号穴と1号穴の間の床面直上から出雲6期の高台付坏がいずれも伏せた状態で出土しているが、原位置を保っていたかは不明である。玄室内1層からは刀子片が出土した。

出土遺物（第16図）　第16図1～3は須恵器である。1は輪状つまみ付蓋で、天井部内面が摩滅している。出雲Ⅲ期とみられる。2・3は高台付坏で、2の底部外面はヘラ切り後未調整、内面は摩滅している。3は底部外面切り離し後ナデ調整し、ヘラ記号「×」が観察される。2は大谷6期前半、3は大谷6d期に分類される。4は刀子である。茎部・切先は欠損し刃部のみが残存する。

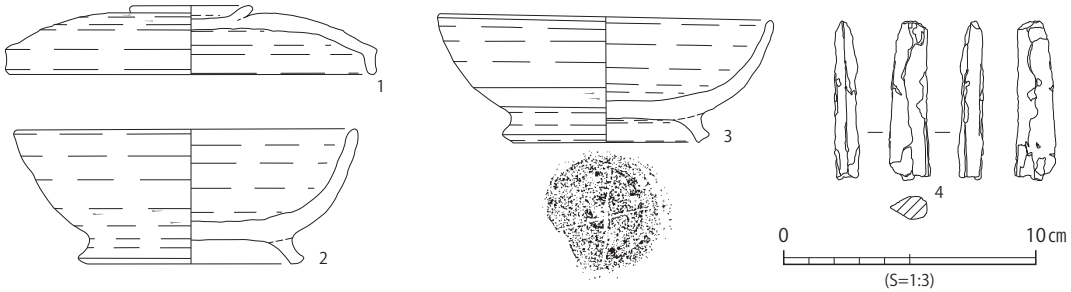


第14図　のの子谷横穴墓群　４号横穴墓平面図（S=1:40）



1. 明黄褐色砂質土（10YR7/6）1cm以下の黄橙色地山ブロックを少し、灰黄褐色砂質土がまだらに混じる。表土。
2. 暗褐色砂質土～黒褐色砂質土（7.5YR4/3～3/1）1cm以下の黄灰色地山粒を少し、2.0cm以下の小石を少し、炭化物をとても多く含む。上面で須恵器出土。しまりゆるい。埋土。
3. 明黄褐色砂質土（10YR6/8）1cm以下の黄灰色地山ブロックを少し、炭化物を少し含む。しまりゆるい。須恵器を含む。流土。
4-1. 明黄褐色砂質土（10YR6/8）1cm以下の黄橙色地山ブロックを少し、2mm以下の礫を少し含む。しまりゆるい。炭化物を少し含む。流土。
4-2. 暗橙色砂質土（7.5YR6/6）灰白色地山ブロック（7.5YR8/1）を多く、炭化物を少し含む。2mm以下の礫を多く含む。しまりゆるい。流土。
5. 明黄褐色砂質土（10YR7/6）2mm以下の礫と黄橙色地山ブロックを含む。天井剥落土。
6. 黄橙色砂質土（10YR7/8）橙色地山ブロックを含む。しまりゆるい。天井剥落土。
7. 明黄褐色砂質土（10YR6/8）褐灰色土（10YR4/1）をまだらに、炭化物を多く含む。しまりゆるい。天井剥落土。
8. 黄橙色明橙褐色岩壁層（10YR8/8～7.5YR5/8）地山。

第15図　のの子谷横穴墓群　4号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）



第16図　のの子谷横穴墓群　４号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）

２号横穴墓（第17図～第19図）

立地　東側に３号穴が隣接しているが、前庭の標高は２号穴が1m高い。南東向きに開口する。前庭部から玄室の床面標高は約24.8m～約25.5mで、主軸はS－35°－Eである。

前庭部　奥幅1.28m、前端幅1.82m、奥行き約3.1mを測り、平面形は前端に向け少し拡がり緩やかに傾斜する。床面に幅6㎝と10㎝のノミ痕が残る。ピット状の孔もみられるが、後世の造作によるものであろう。

玄門部　奥幅約0.9m、手前幅約0.77m、奥行き約1.9mを測り、今回調査した中では最も長い。平面形は縦長長方形で幅はほぼ変化しない。天井部は崩落しており断面形態は不明。床面の側壁近くには、対になるようなピット状のくぼみがあるが、後世のものであろう。中央に長さ1.5m、幅0.12m、深さ約4㎝の溝があり、玄室内まで延び、閉塞部の溝と接続する。

閉塞部　床面に長さ1.22m、幅0.16m、深さ約5㎝を測る閉塞施設を受ける為の溝が設けられる。幅が狭いため板状の閉塞施設が想定される。

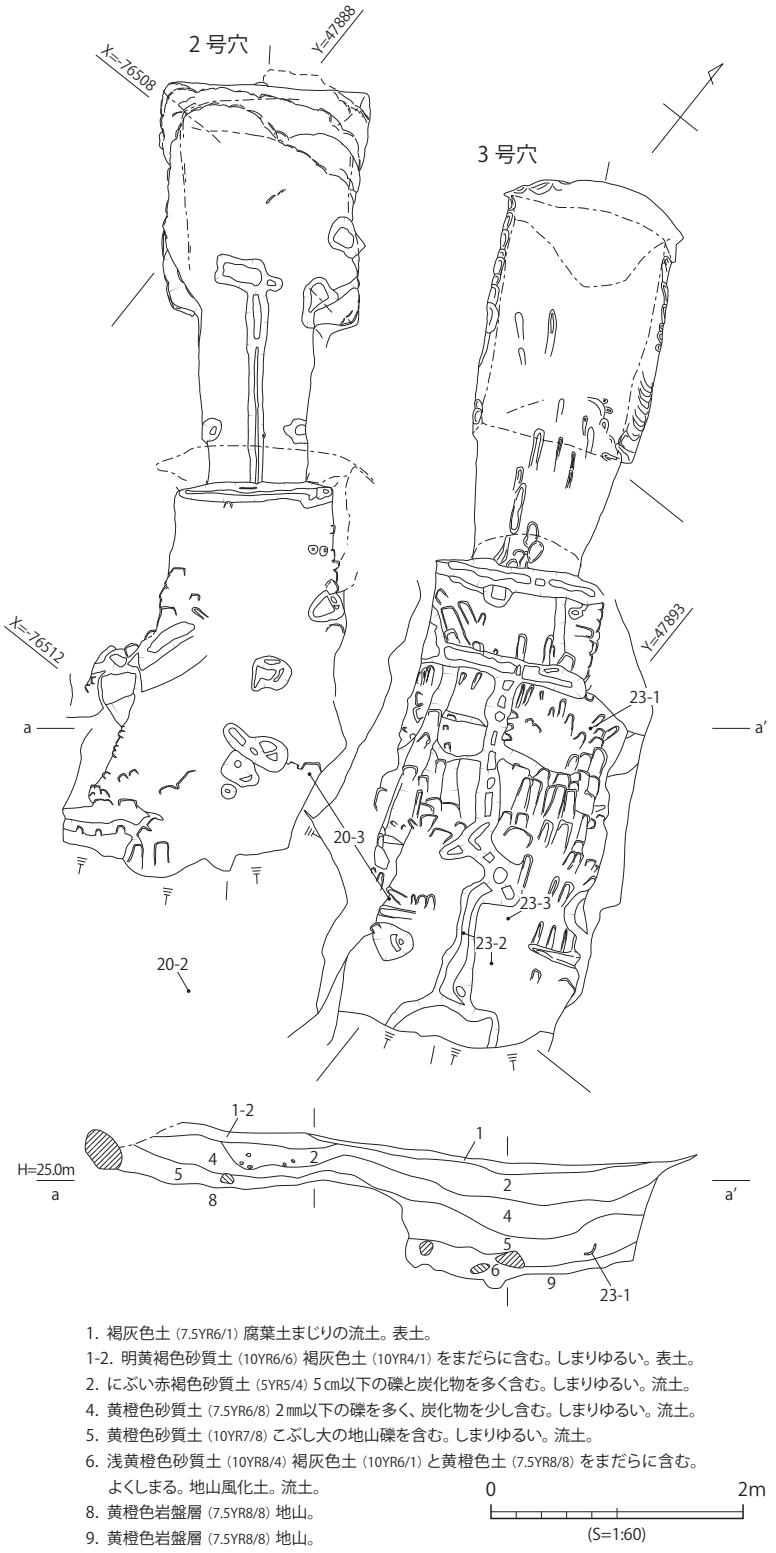
玄室　主軸は前庭部とほぼそろっている。規模は幅が奥壁側で約1.6m、前壁側約1.48m、奥行き約1.9mを測り、縦長長方形プランを呈する。今回調査の中で最も規模が大きい。袖は左袖0.22m、右袖0.35m、床面の掘削痕跡から徳利型で造り、拡張して袖を造り直して角をつけていることが観察される。全面的に崩落が激しいが、立面形は中央部分で高さ1.42mを測る。天井と側壁の境に軒線が段状にあり、天井にかけて幅約2㎝の溝状の隅棟が一部残存する。奥壁の立ち上がりはわずかに丸く、崩落により大棟は残っていないが玄室形態はアーチ系切妻家形であろう。

埋土堆積状況　隣接する３号穴の前庭部は表土下で炭化物と円礫を多く含む赤褐色土が堆積している。その下層は黄橙色土の流土で、須恵器を含む。玄室壁面は地山岩盤層中の鉄分が表面に浮き出て全体的に赤褐色を呈しており、赤褐色土は玄室からの掻き出し土と考えられる。３号穴の掘削時に２号玄室内の堆積土を一旦掻き出し、再利用した可能性もある。玄門から玄室にも赤褐色土が堆積しており、玄門ではその下層で黄橙色土の流土が溝を埋めている。玄室内は天井や側壁の崩落土を含む土砂が20㎝程度堆積していた。

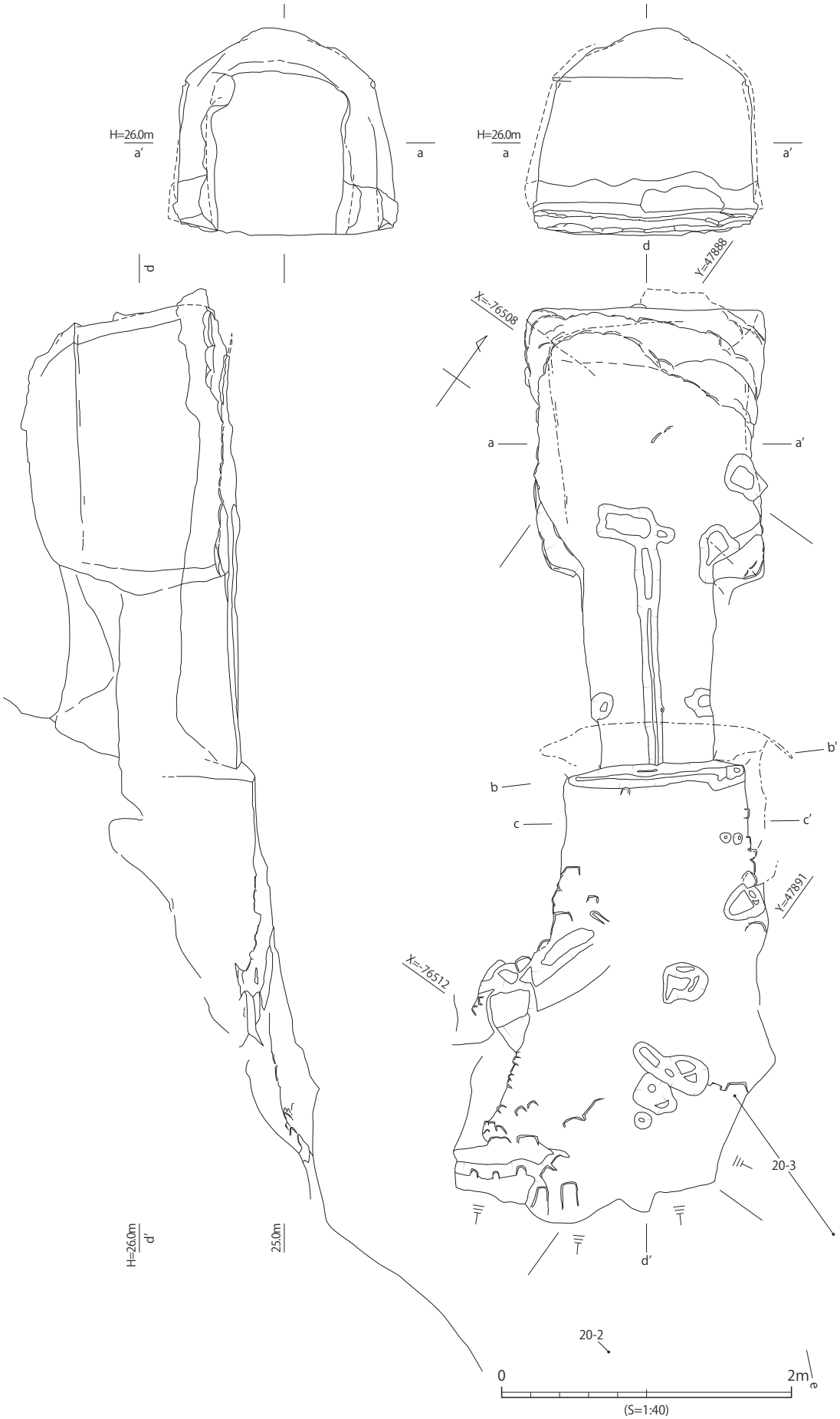
遺物出土状況　前庭部より30㎝下方の３層で須恵器蓋（第20図1）が出土した。３号穴から続く墓道にあたり、２号穴からの掻き出しと判断した。その下層の５層では須恵器坏身（第13図2）も検出している。前庭部２層からは肩部に羽状文状の紋様をめぐらす壺（第20図3）が出土した。３号穴前庭部でも同一個体が検出されたが、前庭部の高低差が1mあることから２号穴に伴う遺物と考えられる。

出土遺物（第20図）　第20図１～３は須恵器である。１の口縁端部はかえりを持つ蓋で、つまみ

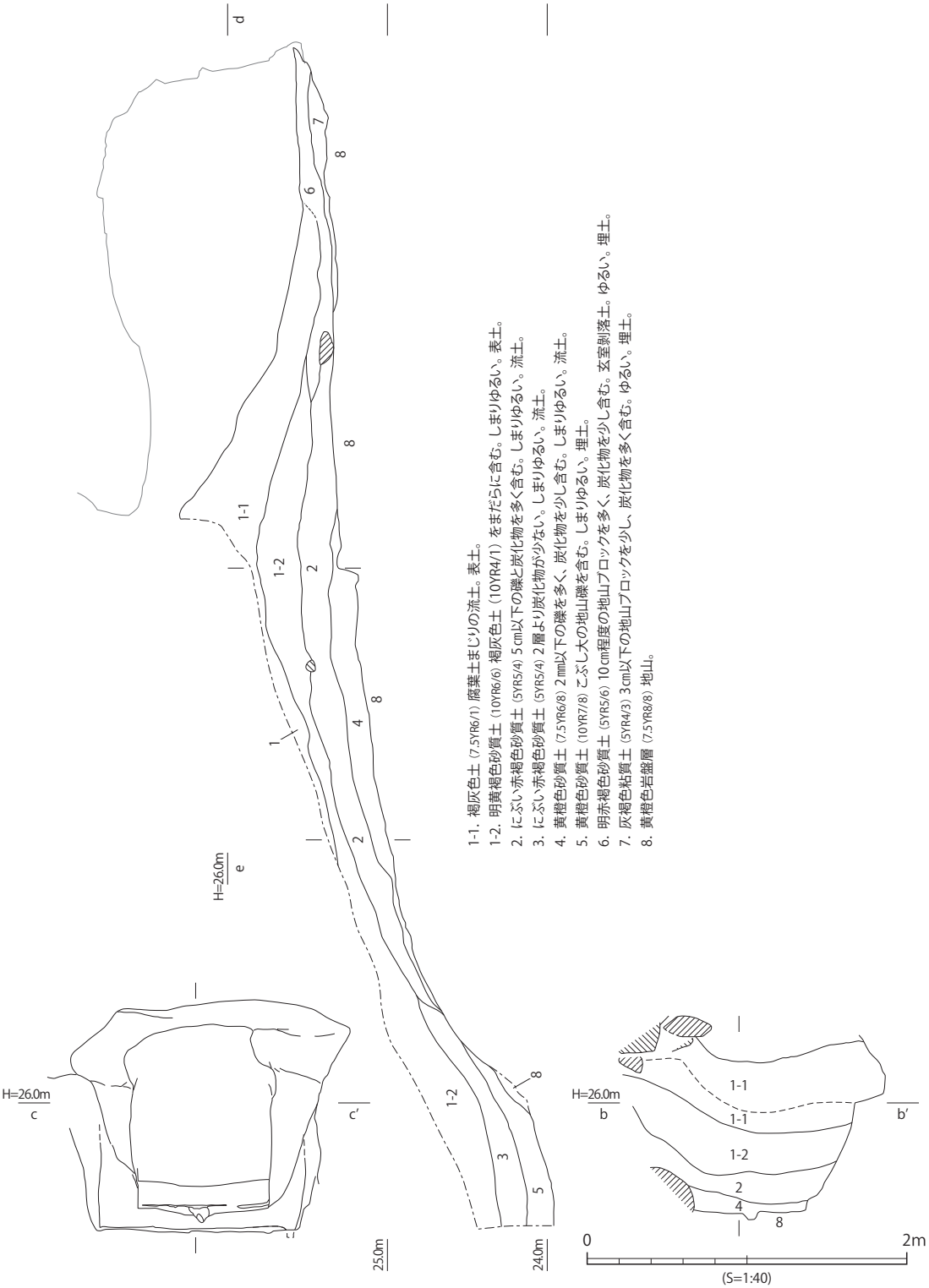
部は欠損しているが擬宝珠状つまみがつくものと考えられる。大谷6C期に分類される。2は坏身で、底部外面はヘラおこし痕が観察され、大谷6期とみられる。3は壺の肩部から胴部である。肩部には羽状文状の紋様がヘラ状工具で焼成前に施されている。



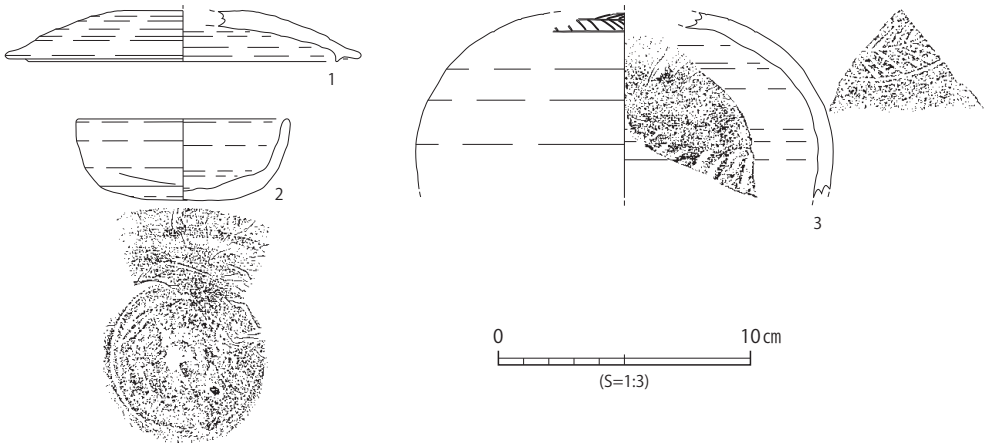
第17図　のの子谷横穴墓群　2号・3号横穴墓平面図及び前庭部土層断面図（S=1:60）



第18図　のの子谷横穴墓群　２号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）



第19図　のの子谷横穴墓群　2号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）



第20図　のの子谷横穴墓群　2号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）

3号横穴墓（第17図、第21図、第22図）

立地　西側に2号穴が隣接しているが、前庭部の標高は3号穴が約1m低い。南東向きに開口する。床面標高は約23.8m～約25.7mを測り、今調査区の中で最も高低差がある。主軸はS－27°－Eである。

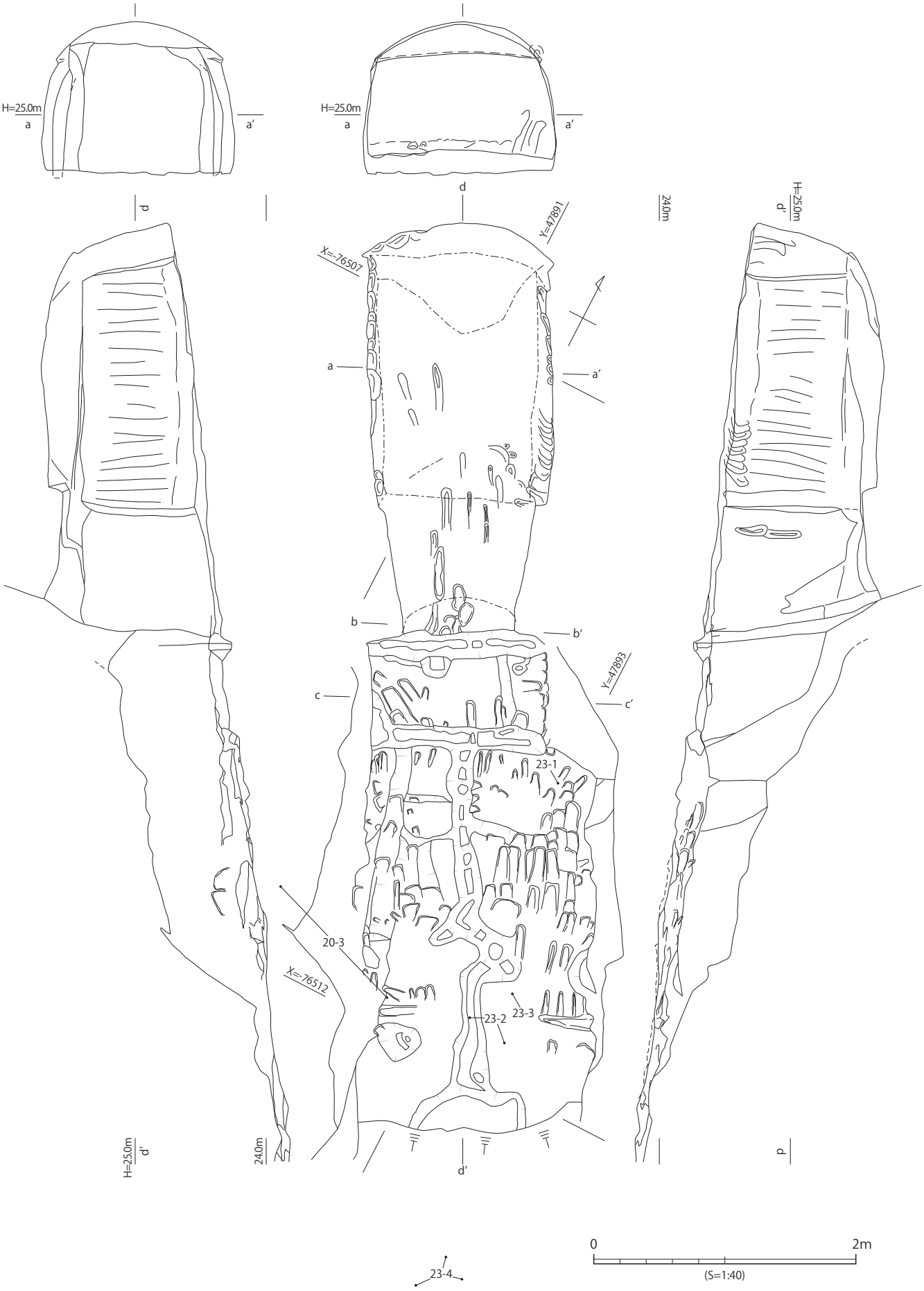
前庭部　奥幅約1.34m、前端幅約1.7m、奥行き3.78mを測り、平面形は東側が約40㎝程度肩をつけて拡張される。床面は玄室奥壁から前端に向かって傾斜する。床面にはノミ痕が多く残り、単位はおおむね幅10㎝、6㎝、4㎝に分けられる。両側壁の立ち上がり付近にも多く残る。中央を縦断する溝は長さ約2.66m、幅0.2m、深さ約3㎝で、閉塞施設を据え付ける溝と接続する。玄門側にもう1条溝があり、この溝は独立している。

玄門部　奥幅約1.14m、手前幅約0.85m、奥行き約0.9mを測り、平面的には玄室に向けて広くなっている。天井部崩落のため高さ、断面形態は不明。床面には溝状のノミ痕が数条残る。

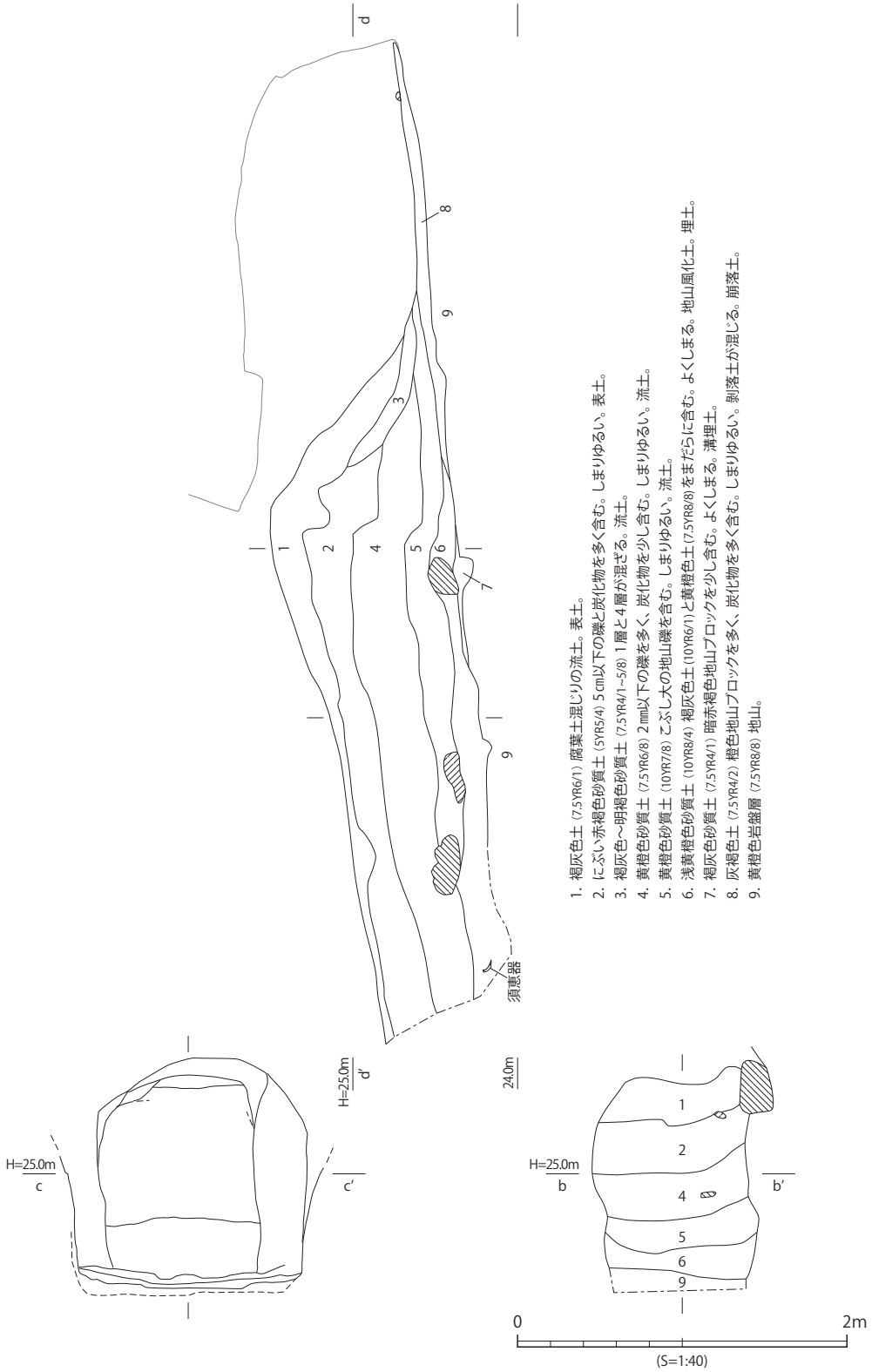
閉塞部　大きな特徴は閉塞の溝が2条あることである。玄門入口に1条あり、玄室側へ52㎝のところにもう1条ある。前庭部側の溝は長さ1.34m、幅0.2m、深さ6㎝を測る。幅が狭いため板状の閉塞施設であろう。玄室側の溝の規模は長さ1.16m、幅0.16m、深さ4㎝である。前庭部のプランは手前の溝から右側に拡張されており、当初は意宇型と想定した。しかし、ノミ痕が多く残っていることや右側だけ拡張していること、意宇型でも二重閉塞はほとんど例がないため、玄門側の溝は追葬時に造り直した閉塞施設の可能性が指摘される。初葬時は、前庭部側の溝が閉塞施設の溝であり、追葬時には玄門が現在の位置まで崩壊していたため、拡張し溝も掘り直した可能性が考えられる。

玄室　主軸は前庭部とそろう。規模は幅が奥壁側で約1.4m、前壁側約1.28m、奥行き約2.2mを測り、縦長長方形プランを呈する。袖はわずかながら造られており、左袖約4㎝、右袖約8㎝。袖が狭く入口が広いのは出雲西部の特徴の一つである。床面と壁の立ち上がりは小さな単位のノミ痕がはっきりと残り、前壁側は入口に向かって削っているのが確認できる。奥壁はふくらんだ造りになっており、四隅は角がある。側壁は丸みをもちながら立ち上がる。崩落が激しいが天井と側壁の境に軒線が段状に入った痕跡が一部残り、天井にかけて隅棟が追える。両側壁には約8㎝単位の肋骨状加工痕がよく残っているが、床面20㎝から下は細かなノミで加工したままである。

埋土堆積状況　前庭部の埋土は2号と共有している。溝の埋土はよくしまった浅黄橙色土で、地



第21図　のの子谷横穴墓群　3号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）

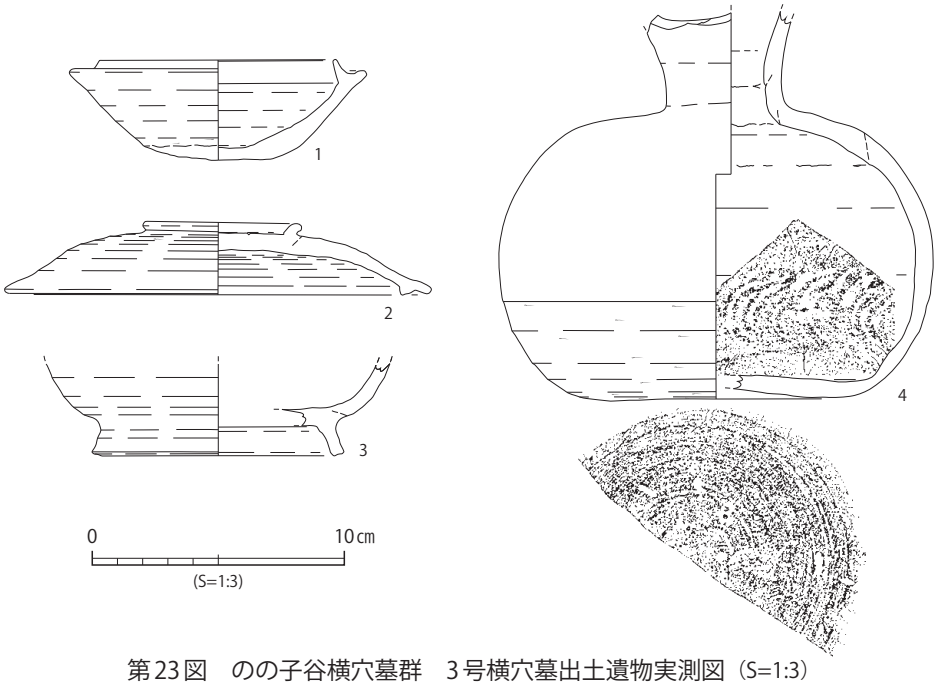


第22図　のの子谷横穴墓群　3号横穴墓立面図及び土層断面図（S=1:40）

山の風化土である。玄室内は10㎝程度の流入土が堆積していた。

遺物出土状況　前庭部５層から出雲6a期の須恵器坏身が出土しており、今回調査で最も時期の古いものである。その他には、前庭部下方の墓道にあたる３層で平瓶、前庭部３～５層で輪状つまみ付蓋や高台付坏が出土している。玄室内では土器は出土していないが、人頭大の礫を十数個埋土上面に乗った状態で検出している。閉塞施設が板壁であるなら、板を据え付けるために使用していた可能性もある。

出土遺物（第23図）　第23図１～４は須恵器である。１は坏身で、ほぼ完形で残存し底部外面はヘラ切り後ナデ調整する。２は輪状つまみ付蓋で、天井部内面は一部摩滅している。大谷6d期。３は高台付坏である。底部が欠損しており切り離しは不明である。４は平瓶で、口縁部以外の頸部から底部が残存する。胎土に長石を含み非出雲産である可能性が高い。



第23図　のの子谷横穴墓群　３号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）

５号横穴墓（第24図～第26図）

立地　東側に６号穴が隣接しているが、前庭部の標高は５号穴が約1m低い。南東向きに開口する。床面標高は約23.4m～24.0m。主軸はS－48°－E。

前庭部　奥幅約0.8m、前端幅約1.7m、奥行き約2.8mを測り、平面形は前端に向けて拡がる。床面は前端部に向かって緩やかに傾斜する。閉塞部から続く溝はわずかに痕跡が残っており、長さ2.5m、幅0.2m、深さ約3㎝で、閉塞施設を据え付ける溝と接続する。主軸は溝全体が西に寄っている。

玄門部　奥幅約0.6m、手前幅約0.6m、奥行き約0.8mを測り、平面的にはほぼ変化しない。天井部は摂理状に崩落しているため高さ、断面形態は不明。床面に幅1㎝のノミ痕が筋状に残る。

閉塞部　床面に長さ約1.1m、幅約0.3m、深さ約9㎝を測る閉塞施設を受ける為の溝が設けられる。溝を受ける立ち上がりがあるように観察され、構造物を据え付けた可能性もある。

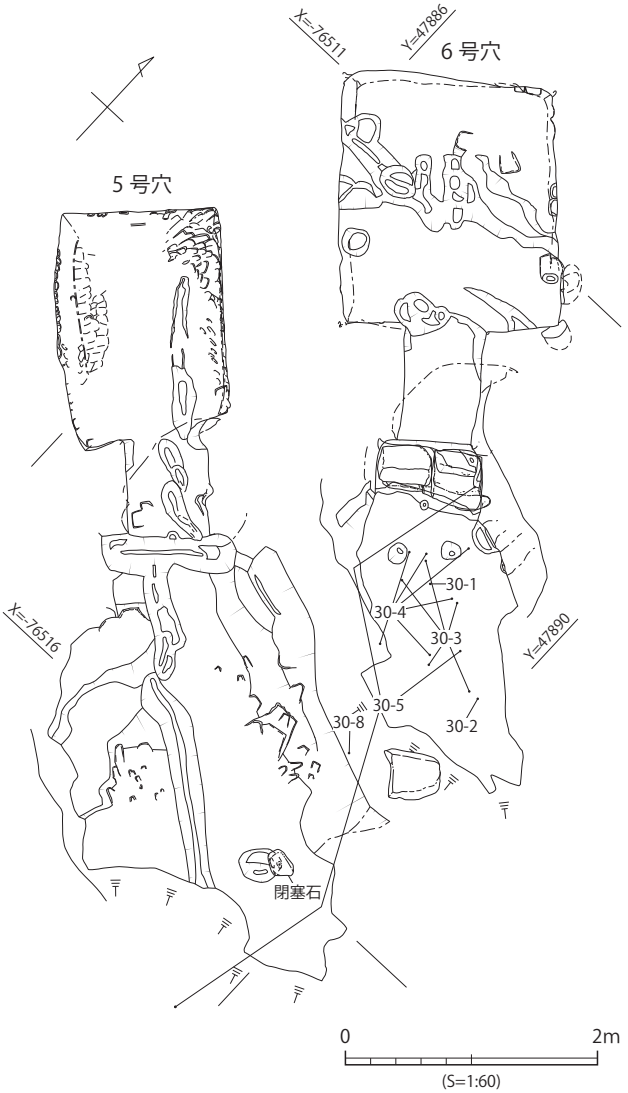
玄室　規模は、幅が奥壁側で約1.24m、前壁側約1.22m、奥行き約1.8mを測り、縦長長方形プ

ランを呈する。左袖0.3m、右袖0.24mを測る。床面や崩落していない側壁・天井部にはノミ痕がよく残っており、ランダムに加工した幅8㎝単位のノミ痕と、整形のための肋骨状加工痕がみられる。ただ、床上15㎝は床面に向かって下ろした小単位のノミ痕がそのまま残り、整形していない。四隅は角があり、奥壁は緩く丸く立ち上がる。わずかに段状の軒線が残るアーチ系家形である。天井の大部分は激しく崩落しているため大棟があったかは不明である。現況で高さは1.05mを測る。

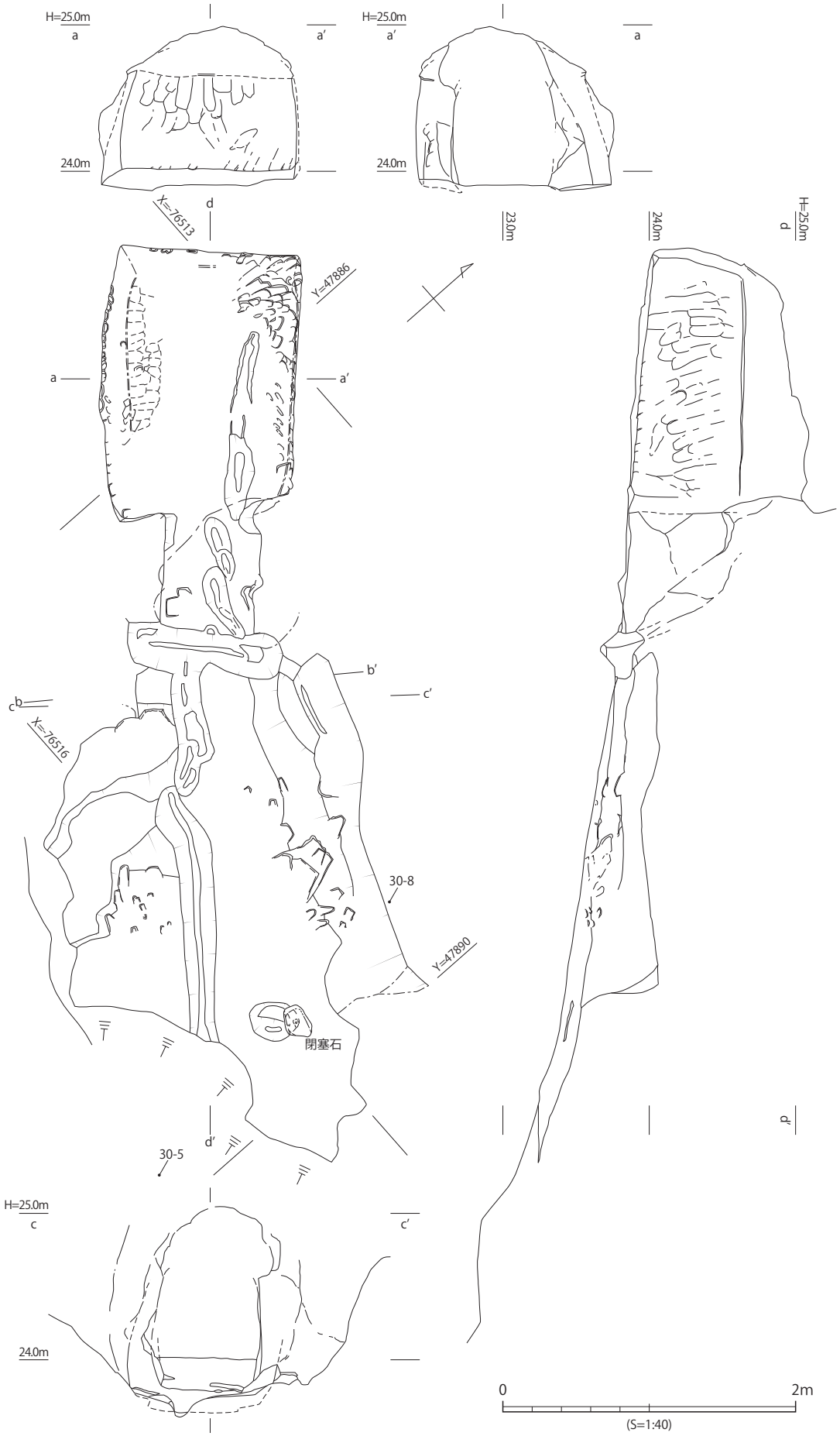
埋土堆積状況　前庭部は表土下で炭化物を多く含む砂質の暗灰褐色土が30㎝以上堆積し、その下層は明褐色系の流土となる。玄室内も同様で、玄門が大きく崩壊しているため二次的に土砂が流れ込んだと思われる。

遺物出土状況　遺物は前庭部表土中から須恵器蓋坏（第27図1）と坏身（第27図2）が出土している。前庭部下方の墓道にあたる２～３層では高台付坏片（第30図5）を検出したが、6号穴前庭部でその大部分が出土したため6号穴に伴うと判断した。

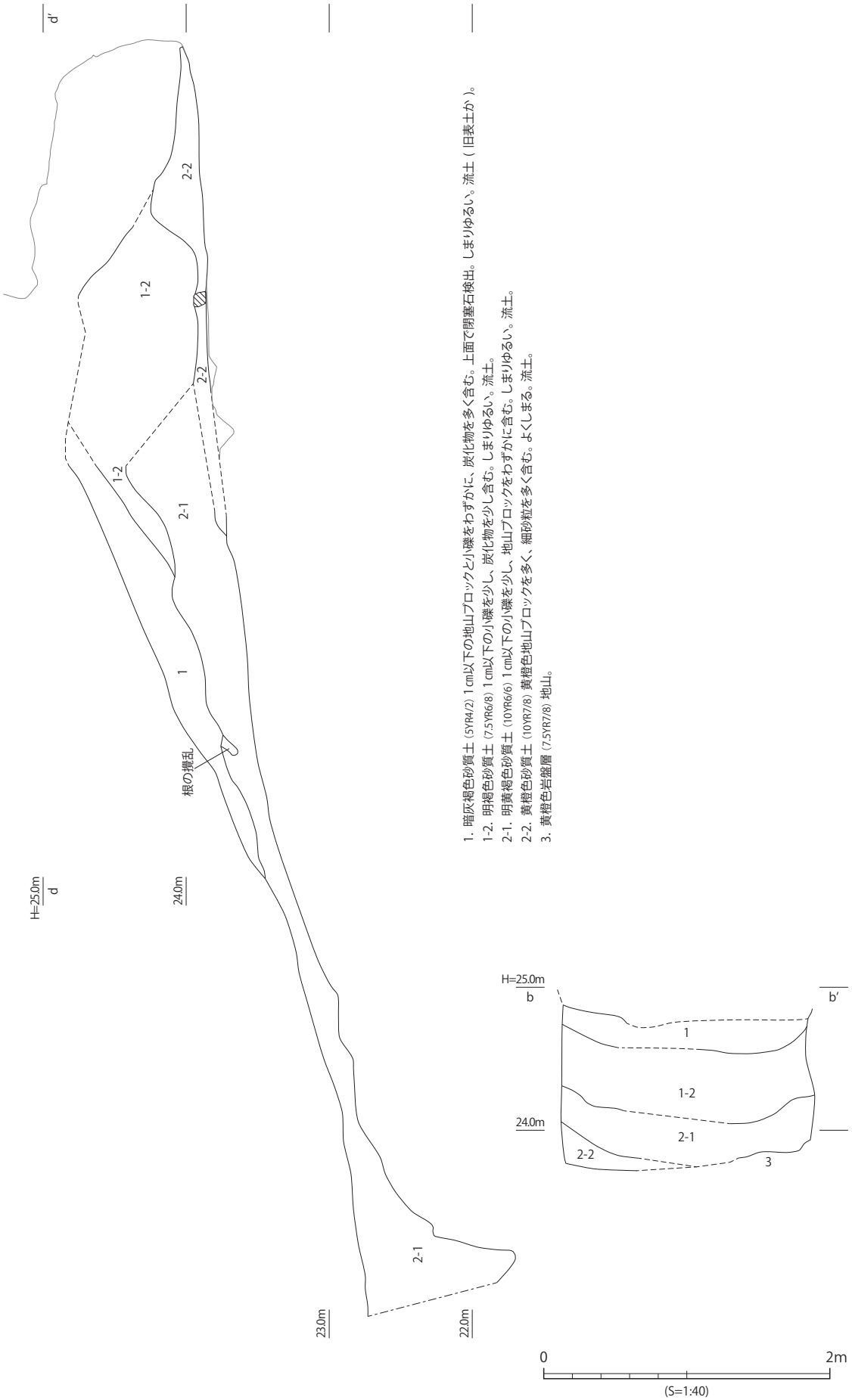
出土遺物（第27図）　第27図1・2は須恵器である。1は蓋坏の蓋で、器形は不正形で焼き歪む。底部外面はヘラ切後ナデ調整する。2は坏身で、丁寧なケズリで造られ最小化して蓋と身が入れ替わる時期のものと考えられる。短頸壺の蓋の可能性もあるが、壺の出土がないため坏身とした。大谷6c期か。



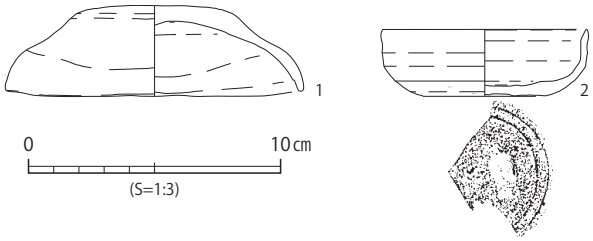
第24図　のの子谷横穴墓群　5号・6号横穴墓平面図（S=1:60）



第25図　のの子谷横穴墓群　5号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）



第26図　のの子谷横穴墓群　５号横穴墓土層断面図（S=1:40）



第27図　のの子谷横穴墓群　5号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3）

6号横穴墓（第24図、第28図、第29図）

立地　西側に5号穴が隣接しているが、前庭部の標高は6号穴が約1m高い。南東向きに開口する。床面標高は24.3m～24.9m。主軸はS－41°－E。

前庭部　奥幅約0.8m、前端幅約0.9m、奥行き約2.4mを測り、平面形は右側に拡がりがある。床面は前端に向かって緩やかに傾斜する。主軸をはさんでピット状の窪みがあるが、後世のものである可能性が高い。溝はなく、高さ2㎝の段が確認できる。

玄門部　奥幅0.65m、手前幅0.58m、奥行き0.88mを測り、平面的にはほぼ変化しない。天井部は手前3分の2が崩落している。

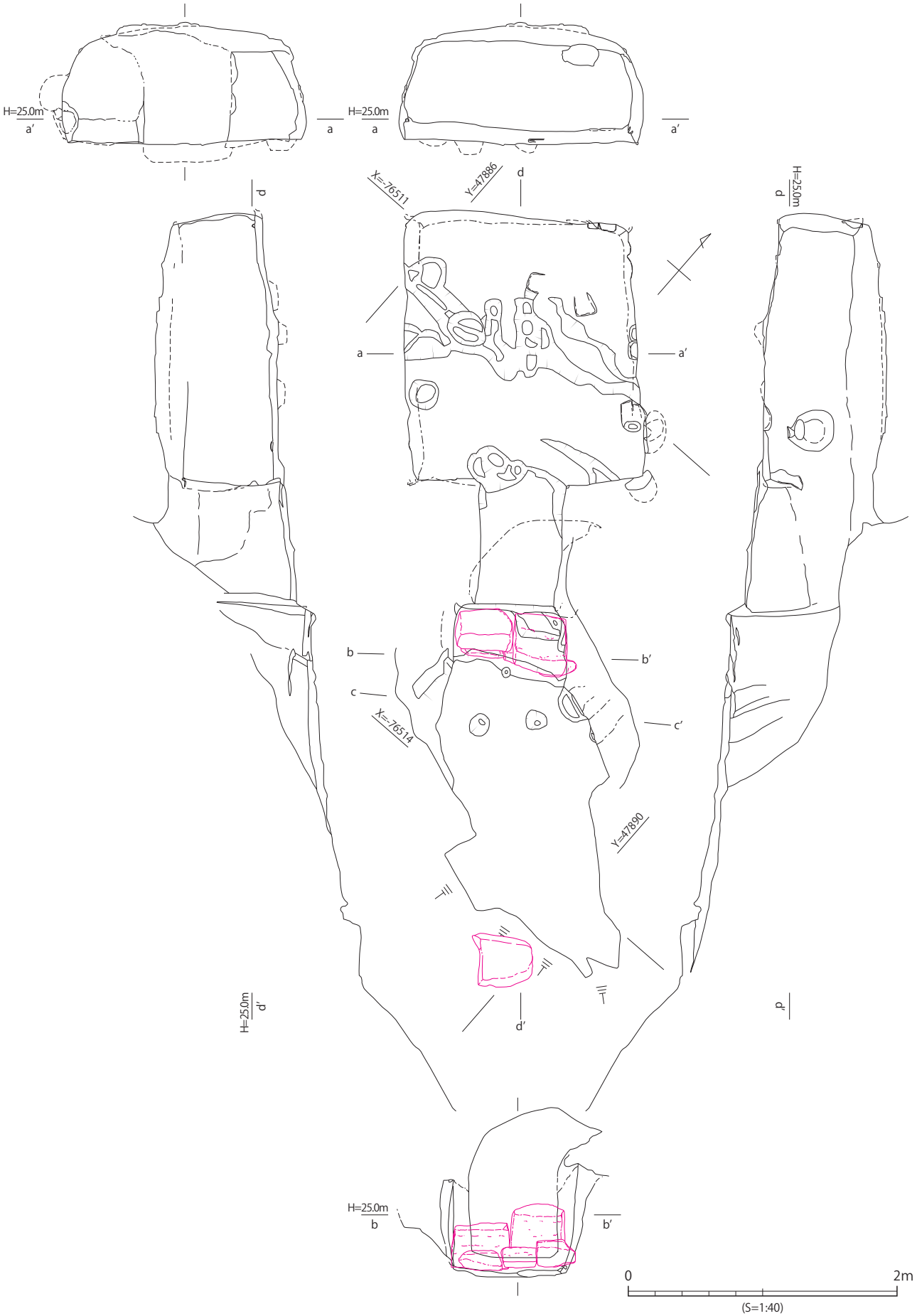
閉塞部　前庭部床面から高さ10㎝の段があり閉塞石が残っていた。凝灰岩質の切石2枚を小型の長方形の切石とラグビーボール状の礫で支え、前庭部側に傾いた状態で検出した。なお、前庭部から閉塞の一部とみられる同様の石材の切石1枚と破片が出土している。閉塞石の残存規模は、左側が長さ28㎝、幅43㎝、厚さ12㎝、右側が長さ38㎝、幅37㎝、厚さ10㎝を測る。

玄室　規模は幅が奥壁側で約1.66m、前壁側約1.7m、奥行き約2.0mを測り、ほぼ正方形に近いプランを呈するが、奥壁側がやや狭い。左袖約0.64m、右袖約0.56mで、両袖部分は後から拡張したように不自然に拡がっている。高さは約0.9mで、四隅は角がついているが、奥壁は丸く立ち上がり、天井と側壁の軒線はわずかに境が確認できる。天井は頂部が崩落しているが、棟はなく平天井である。床面と右側壁にみられるピット状の孔や溝状の窪みは後世の造作である可能性が高い。

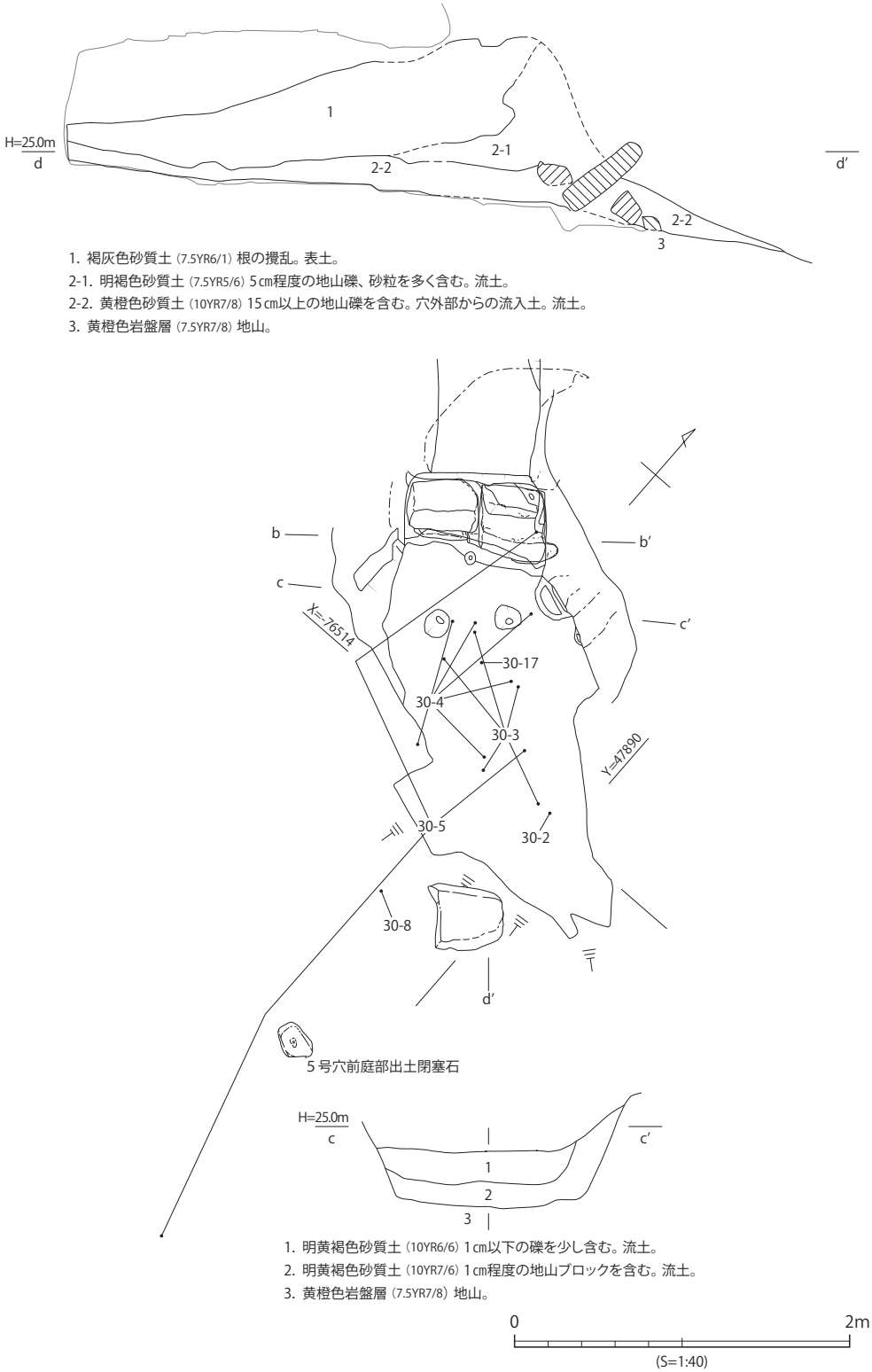
埋土堆積状況　6号穴は5号穴検出中に発見したため、前庭部の埋土は床面近くになってから認識している。基本的に5号穴と同じ土色がみられるが、前庭部の流土中からは大谷B1期の須恵器蓋が多く出土している。閉塞石が残存していたが、玄門部は天井まで土砂で完全に埋まっていた。流入土は玄室内で30㎝程度堆積していた。

遺物出土状況　前庭部床面付近から出雲6期の須恵器蓋が出土している。破片が多く、一部は傾いた閉塞石の下側の流土中から出土している。二次的に閉塞を開けた時に玄室内の副葬品を掻き出したものなのか、閉塞時の墓前祭祀に関わるものかは判断できない。玄室内からは刀子片と耳環片が出土しているがいずれも小片である。

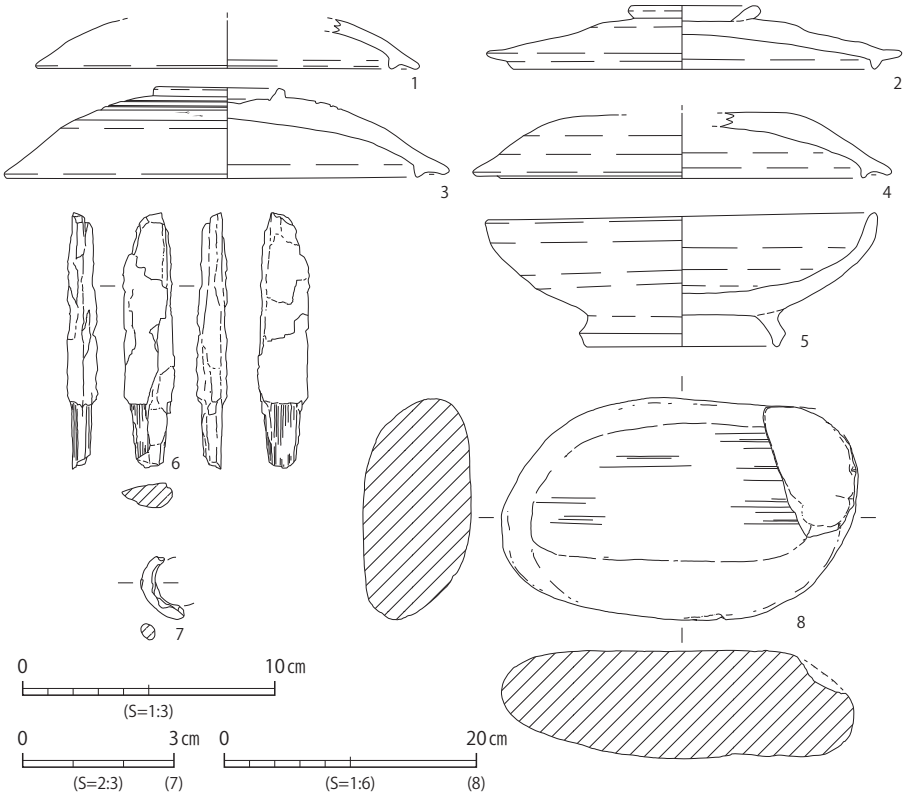
出土遺物（第30図）　第30図1～5は須恵器である。1～4は蓋で、2・3は輪状つまみのつくものである。3の天井部内面は摩滅している。いずれも大谷6d期に属する。5は高台付坏で、5号穴前庭部、6号穴前庭部・閉塞部から破片が出土した。体部から口縁部にかけて内湾する器形で、大谷6d期とみられる。6･7は玄室内の堆積土中から出土した。6は両関式の刀子で茎部には木質が遺存する。7は小型の耳環とみられ、5分の1程度が残存しているが、錆細りしており本来の形態は不明である。内径の一部に鍍金が残る。8は台石か。凝灰岩製で、2面に使用痕が観察される。



第28図　のの子谷横穴墓群　６号横穴墓平面図及び立面図（S=1:40）



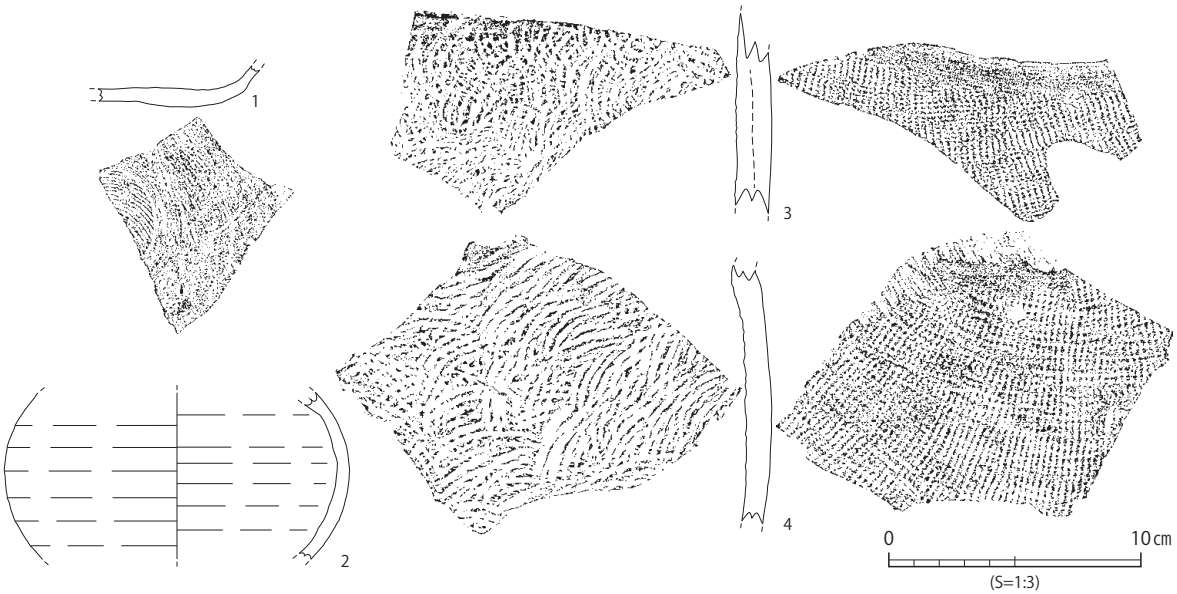
第29図　のの子谷横穴墓群　6号横穴墓平面図及び土層断面図（S=1:40）



第30図　のの子谷横穴墓群　6号横穴墓出土遺物実測図（S=1:3,2:3,1:6）

4. 遺構外出土遺物

第31図は表採品である。1は坏の底部で、静止糸切りが観察される。2は壺の胴部とみられ、下半は回転ヘラケズリ後回転ナデが施される。3・4は甕片で、内面同心円タタキ、外面に格子タタキが観察される[(1)]。

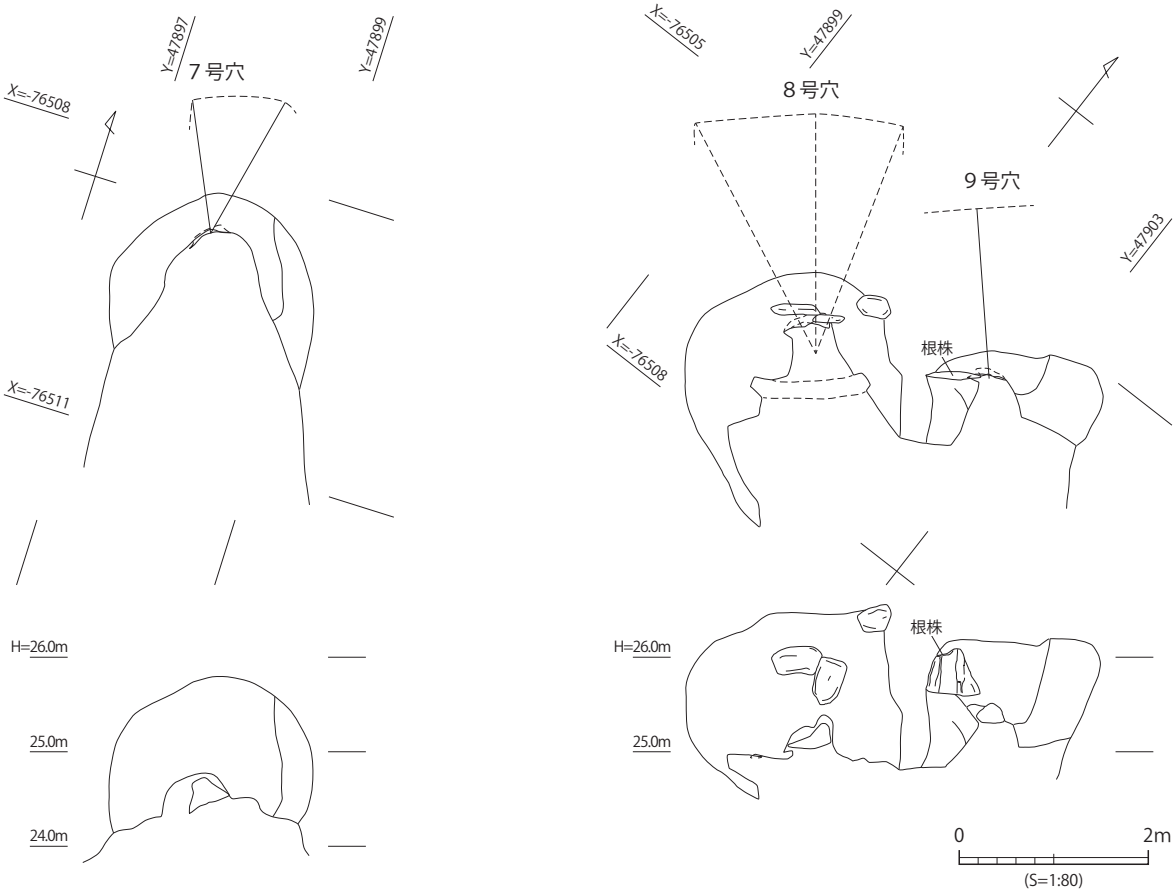


第31図　のの子谷横穴墓群　採集遺物実測図（S=1:3）

（1）第31図4は、元地権者である今若氏により、開口していた横穴墓周辺で採集された。

5. 調査区外の横穴墓

第32図は調査区外にある横穴墓の測量図を掲載した。3号穴東側に3基の横穴墓が確認されている。実測方法は、開口部からスタッフを差し込み玄室奥壁隅を確認し、おおよその玄室長を計測した。8号穴・9号穴の開口部直上には地山岩盤が露出し地盤が緩んでいる状態であった。

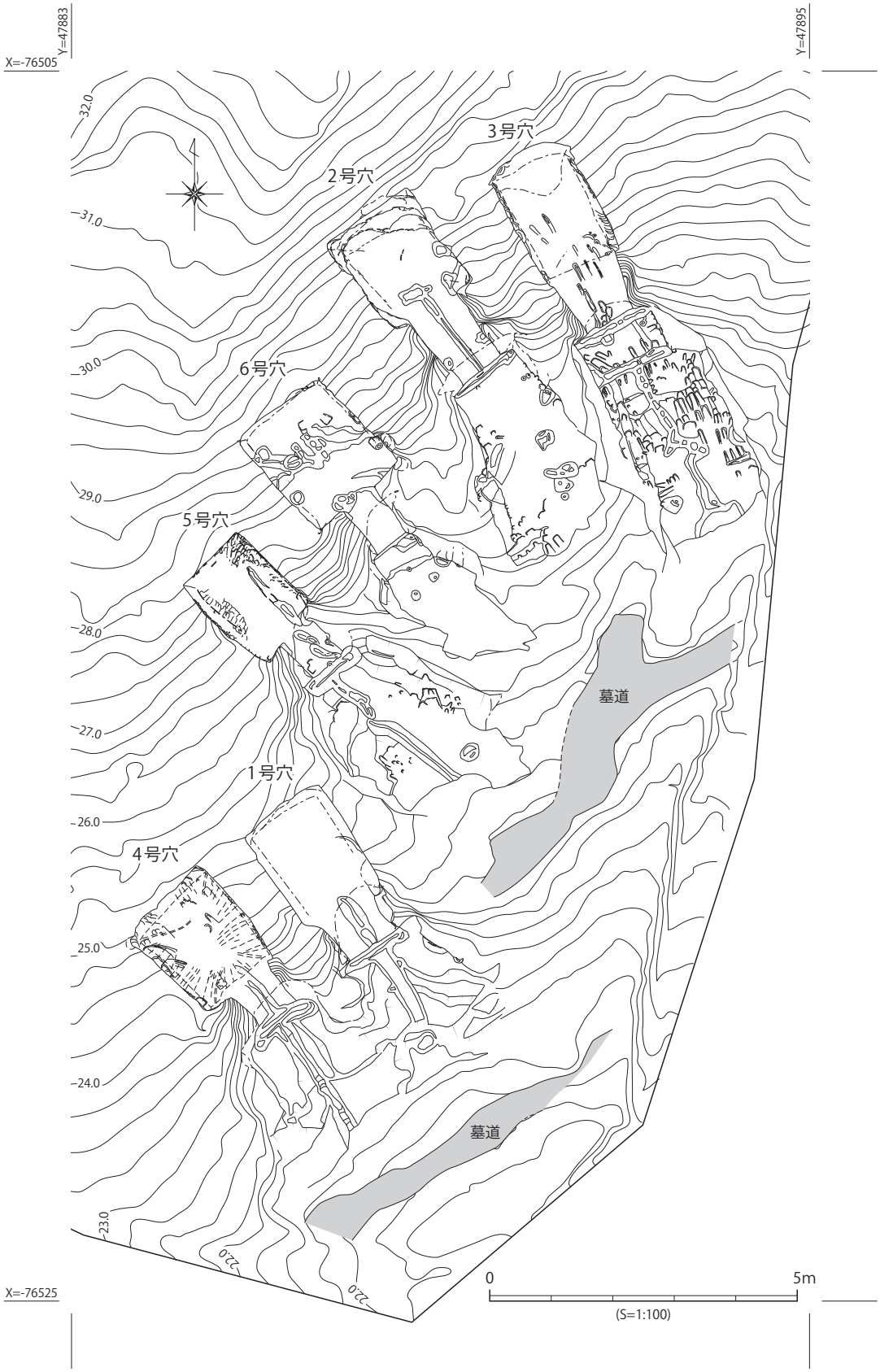


第32図　のの子谷横穴墓群　7号～9号横穴墓実測図（S=1:80）

第3節　小結

今回の調査では、古墳時代終末期に造墓された6基の横穴墓を確認した。また、調査区外には、3号穴の東側に3基、西側の狭小な谷の東向き斜面に3基の横穴墓を確認しており、のの子谷横穴墓群は、少なくとも2支群12基で構成される。

1号穴～5号穴は、前庭部平面形が台形で前端部に向け広がる形態で、6号穴のみ長方形を呈する。この違いは、閉塞石の有無や玄室形態にも現れており、1号穴～5号穴は切妻家形で、壁面を丁寧に調整している。6号穴は唯一閉塞石を伴い、アーチ形の平天井を呈し、玄室の床面積に比して天井が低い。このように6号穴は他の5基と異なる特徴を持ち、その被葬者の出自等に影響を受けている可能性もある。玄室形態や前庭部の土層、横穴墓同士の位置関係等から、築造順序は少なくとも、1号穴→5号穴→4号穴、5号穴→6号穴、2号穴→3号穴と考えられる。出土遺物は少ないが、須恵器に7世紀前半に収まるものがあるため、おおむねこの頃造墓が開始されたと推測さ



第33図　のの子谷横穴墓群　遺構平面図（S=1:100）

れる。

出雲西部の中心地域であった平野部では古墳時代中期以降に集落遺跡や古墳が発展し、横穴墓の築造は6世紀後半から始まる。最盛期である7世紀前半には神西湖周辺でも多くの横穴墓が造られ、当遺跡はその墓域の一つと考えられる。

第2表　のの子谷横穴墓群一覧表

遺構名	軸	検出規模（m）																玄室形態			切り合い →切る ←切られる
		前庭部			閉塞施設溝		羨道部			玄室部											
		残存長	先端幅	奥幅	長さ	幅	長さ	前幅	奥幅	長さ	前幅	中央幅	奥幅	中央高さ	右袖	左袖	床面標高（m）	平面	天井	特徴	
1号横穴墓	S−33°−E	1.44	2.17	1.52	0.22	1.20	0.66	0.96	1.00	2.07	1.44	1.50	1.50	1.16	0.17	0.22	21.6	徳利形	崩落家形か	当初徳利形→袖の角を指向して掘削、全体的に隅の仕上げが丸い	←4号横穴墓
2号横穴墓	S−35°−E	3.14	1.82	1.28	0.16	1.22	1.25	0.77	0.90	1.90	1.48	1.45	1.60	1.42	0.35	0.22	24.8〜25.5	縦長長方形	切妻家形	当初徳利形→両袖を拡張、段状の軒線、幅約1〜2㎝幅の溝状棟線	←3号横穴墓
3号横穴墓	S−27°−E	3.78	1.70	1.72	0.16	1.16	1次：0.88 2次：0.90	1次：1.16 2次：0.85	1次：1.34 2次：1.14	2.20	0.18	1.42	1.40	1.15	0.08	0.04	23.8〜25.7	縦長長方形	切妻家形	奥壁が膨らみ四隅に角があり丸く立ち上がる、段状の軒線、天井にかけて四隅から棟線、両側壁に8㎝単位の肋骨状加工痕	→2号横穴墓
4号横穴墓	S−44°−E	2.20	1.12	1.30	0.24	1.20	0.76	0.72	0.83	1.93	1.40	1.60	1.67	0.97	0.10	0.42	21.4〜21.8	縦長長方形	切妻家形	段状の軒線、四隅から約1〜2㎝幅の溝状棟線、天井部肋骨状加工痕	→1号横穴墓
5号横穴墓	S−48°−E	2.80	1.74	0.75	0.30	1.07	0.74	0.64	0.60	1.80	1.22	1.32	1.24	1.05	0.24	0.30	23.4〜24.0	縦長長方形	切妻家形	床面ノミ痕、わずかに段状の軒線、天井から側壁幅8㎝単位でランダムに加工、肋骨状技法	不明
6号横穴墓	S−41°−E	2.15	0.95	0.78	0.78	0.15	0.88	0.58	0.65	2.00	22.00	15.00	1.66	0.90	0.56	0.46	24.3〜24.9	ほぼ正方形奥が広い	平天井	前庭部に柱穴2基、玄室内には柱穴4基、右側壁に孔（灯り取りか）があり中世の再利用か	不明

第３表　のの子谷横穴墓群出土土器観察表

挿図番号	図版番号	出土地点	種別	器種	口径（㎝）	底径（㎝）	器高（㎝）	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
13-1	35	１号穴玄室３層	須恵器	蓋坏（蓋）	8.5		3.3	ナデ、回転ナデ、ケズリ後ナデ、ヘラオコシ痕	0.5㎜以下の砂粒を若干含む	良好	内：灰色N5/0 外：灰黄色2.5Y5/1	
13-2	35	１号穴玄室３層	須恵器	蓋坏（身）	9.6	6.0	3.6	ナデ、回転ナデ、ケズリ、ヘラ記号	1㎜以下の砂粒を若干含む	良好	内：灰色5Y6/1 外：灰色7.5Y6/1	外面ヘラ記号「×」字
13-3	35	１号穴玄室、４号穴前庭部３層	須恵器	蓋	14.6		3.0	ナデ、回転ナデ、回転糸切り後ナデ、回転ヘラケズリ	1㎜以下の砂粒子（長石等）含む	良好	内：灰色7.5Y5/1 外：灰色7.5Y6/1～灰色10Y4/1	輪状つまみ（径5.4㎝）、垂下口縁、内面天井部摩滅
13-4	35	１号穴玄室、４号穴前庭部３層	須恵器	長頸壺		4.5		回転ナデ、回転ヘラケズリ、同心円のヘラケズリ	1㎜以下の砂粒子（石英、長石）やや多く含む	良好	内：灰色N6/0 外：灰色N6/0～N4/0	外面肩部灰被り、内面下半分壁面に一部付着物ヵ
13-5	35	１号穴玄室２層	土師器	坏		5.7		ナデヵ	1㎜以下の砂粒含む	良好	浅黄橙色10YR8/3	
13-6	35	１号穴玄室２層	土師器	坏		4.8～5.2		ナデ	１㎜以下の砂粒を多く含む	良好	橙色7.5YR7/6	外面煤付着、ロクロ作り
13-7	35	１号穴玄室２層	土師器	坏		5.1		ナデ、糸切り	0.5㎜以下の砂粒を多く含む	やや不良	浅黄橙色10YR8/3	ロクロ作り
13-8	35	１号穴玄室２層	土師器	坏		4.6		回転ナデ	1㎜以下の砂粒含む	良好	橙色7.5YR7/6	
13-9	35	１号穴玄室３層	土師器	坏	（13.4）		（4.2）	ヨコナデ、回転糸切りヵ	1㎜以下の砂粒子（石英、長石等）含む	やや良好	にぶい黄橙色10YR7/4 橙色7.5YR7/6	口縁端部欠損、全面ロクロ作り
13-10	35	１号穴玄室	土師器	坏	13.6	5.0	（4.0）	ナデヵ	1㎜以下の砂粒子（石英等）を含む	良好	露胎：浅黄橙色10YR8/3 丹：橙色5YR6/6	
16-1	35	１号穴前庭部２層・3-1層、４号穴前庭部３層	須恵器	蓋	（14.4）		2.8	回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ	1㎜前後の白砂粒を若干含む	良好	内：灰色10Y6/1 外：灰色10Y6/1～4/1	灰被り、輪状つまみ（径4.8㎝）、天井内面摩滅
16-2	36	４号穴前庭部３層	須恵器	高台付坏	13.4	8.9	5.4	回転ナデ、同心円ナデ、回転ヘラケズリ、高台貼り付け後回転ナデ、設置面不明、高台貼り付け後回転ナデ、ヘラ切りっぱなし	1.5㎜以下の砂粒子（長石、石英等）やや多く含む	良好	内：灰色N5/0 外：灰色N4/0	見込みの同心円ナデ部分使い込んだ様に磨滅
16-3	36	４号穴前庭部３層・3-1層	須恵器	高台付坏	13.1	7.2	5.1	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ、高台貼り付け後ナデ、切り離し後ナデ調整	2㎜以下の白砂粒を若干含む	良好	内：灰色7.5Y6/1 外：灰色10Y7/1～6/1	底部外面にヘラ記号「×」
20-1	36	2~3号穴前庭部下部３層	須恵器	蓋	（12.8）			ナデ、回転ナデ、ケズリ後ナデ	0.5㎜以下の砂粒を若干含む	良好	灰色N4/0 断面：暗赤灰色5R3/	宝珠状つまみのつくものヵ
20-2	36	2~3号穴前庭部５層	須恵器	坏身	8.2	6.5	3.2	ナデ、回転ナデ、ケズリ後ナデ、ヘラオコシ痕	0.5㎜以下の白砂粒を若干含む	良好	内：灰白色N6/0 外：灰白色7.5Y7/1	外面天井付近にヘラ記号ヵ「一」状
20-3	36	２号穴２層、３号穴前庭部５層、2~3号穴前庭部	須恵器	壺				回転ナデ、同心円当て具痕後回転ナデ、綾杉文	1㎜程度の砂粒を若干含む	良好	内：灰色5Y6/1 外：灰色5Y4/1～灰オリーブ色6/2	肩部綾杉文
23-1	36	３号穴前庭部５層	須恵器	蓋坏（身）	9.4	5.0	4.0	ナデ、回転ナデ、ケズリ痕、ヘラ切り後ナデ、灰被り	微差粒子（石英、長石等）含む	良好	内：灰色N6/0 外：灰色5Y5/1	灰被り
23-2	36	３号穴前庭部５層、３号穴前庭下部３層	須恵器	蓋	（14.6）		2.9	ナデ、回転ナデ、回転糸切り後ナデ、回転ヘラケズリ	2㎜以下の白砂粒を若干含む	良好	内：灰色7.5Y6/1 外：灰色7.5Y6/1～5/1	輪状つまみ（径6.3㎝）、内面天井部一部摩滅
23-3	36	３号穴前庭部５層	須恵器	高台付坏		（9.2）		ナデ、回転ナデ	1.5㎜以下の砂粒を若干含む	良好	内：灰色7.5Y6/1 外：灰白色7.5Y7/1	
23-4	37	３号穴前庭部下部３層	須恵器	平瓶		（11.8）		ナデ、回転ナデ、タタキ目後回転ナデ、回転ヘラケズリ	1㎜以下の砂粒子（長石等）少量含む	良好	内：灰色N6/0 外：灰色N6/0～N4/0 自然釉：暗オリーブ色7.5Y4/3	自然釉
27-1	36	５号穴縦断サブトレ２層	須恵器	蓋坏（蓋）	（11.6）		（3.6）	ナデ、回転ナデ、ヘラ切り後ナデ調整ヵ、回転ナデ後ナデ	0.5㎜以下の砂粒を若干含む	良好	内：灰色7.5Y6/1 外：灰白色7.5Y7/1	
27-2	36	５号穴縦断サブトレ２層	須恵器	坏身	（4.0）	（6.0）	2.6	ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ	1㎜以下の砂粒を若干含む	良好	内：灰色5Y5/1 外：灰色7.5Y4/1	灰被り、短頸壺の蓋の可能性あるも、器高が高く口縁部外反により坏身と判断
30-1	37	６号穴前庭部２層	須恵器	蓋	（13.0）			回転ナデ	密、0.5㎜以下の白色砂粒を含む	良好	内：灰白色5Y7/1 外：灰白色5Y7/2	灰被り、輪状つまみのつくもの

挿図番号	図版番号	出土地点	種別	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	形態・手法の特徴	胎土	焼成	色調	備考
30-2	36	6号穴前庭部1層、5号穴前庭部3層、5~6号穴前庭部1層	須恵器	蓋	（14.3）		2.5	ナデ、回転ナデ、ケズリ後ナデ	密、3㎜以下の黒色砂を多く含む	良好	灰白色7.5Y7/1	つまみ径5.3cm
30-3	37	6号穴前庭部1層・2層	須恵器	蓋	15.0		3.7	ナデ、回転ナデ、ケズリ後ナデ	密	良好	灰色10Y6/1	天井部磨滅、つまみ径5.2cm
30-4	37	5~6号穴前庭部、6号穴前庭部1層、6号穴前庭部2層、6号穴玄室	須恵器	蓋	14.3			ナデ、回転ナデ、ケズリ後ナデ	密、1㎜以下の砂粒を含む	良好	灰白色7.5Y7/2	輪状つまみのつくもの
30-5	37	6号穴前庭部1層、6号穴閉塞部1層・2層、5号穴前庭部2層・3層、5号穴縦断サブトレ2層	須恵器	高台付坏	15.4	7.5	5.3	ナデ、回転ナデ	密	良好	オリーブ灰色2.5GY6/1	
31-1	37	表採（4号穴西側谷）	須恵器	坏底部				ナデ、回転ナデ、切り離し後ナデ調整、静止糸切り	密、0.5㎜以下の砂粒を若干含む	やや不良	灰黄色2.5Y6/2	
31-2	37	表土	須恵器	壺				回転ナデ、回転ヘラケズリ後回転ナデ、灰被り	0.5㎜以下の砂粒を若干含む	良好	内：灰色7.5Y6/1 外：灰色7.5Y5/1～オリーブ黒色3/1	灰被り
31-3	37	表採	須恵器	甕				同心円タタキ、横方向ナデ、格子タタキ、ヨコ方向ナデ	密	良好	内：灰色7.5Y6/1 外：灰色7.5Y5/1	粘土の接合痕、肩部と体部のつなぎ
31-4	37	採集品	須恵器	甕				ヨコ方向のナデ、同心円タタキ、格子タタキ	密	良好	灰色5Y6/1	

第4表　のの子谷横穴墓群出土石器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
13-12	35	1号穴前庭部（表採）	凝灰岩	砥石	現存長（24.4）	現存幅（13.7）	現存厚（11.0）	5060	全体的に使用痕あり、摩滅あり
30-8	37	6号穴前庭部4層	凝灰岩	台石ヵ	28.3	17.6	8.6	6050	2面に使用痕あり

第5表　のの子谷横穴墓群出土金属器観察表

挿図番号	写真図版	出土地点	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	備考
13-11	38	1号穴玄室2層	金属製品	鉄刀	残存長18.7	3.2	1.0	ナデ関式、片刃
16-4	38	4号穴玄室1層	金属製品	刀子	残存長6.3	現存刃幅1.5	刃厚1.0	刃部のみの破片、茎部・切先欠損
30-6	38	6号穴	金属製品	刀子	残存長10.1	現存刃幅1.9	刃厚1.0	両関式、木質残存、床上5cmの土中から出土
30-7	38	6号穴	金属製品	耳環	環径（1.6）	胴部断面0.3×0.35	残存長1.35	メッキの上に錆付着、径約1.6cmの環状に弧を描く、胴部断面0.3×0.35の楕円から隅丸方形に近いが錆ぼそりのため元の形状不明、内外部分的に鍍金が残るが細っていて全形は細い

第４章　京田遺跡３区の調査結果

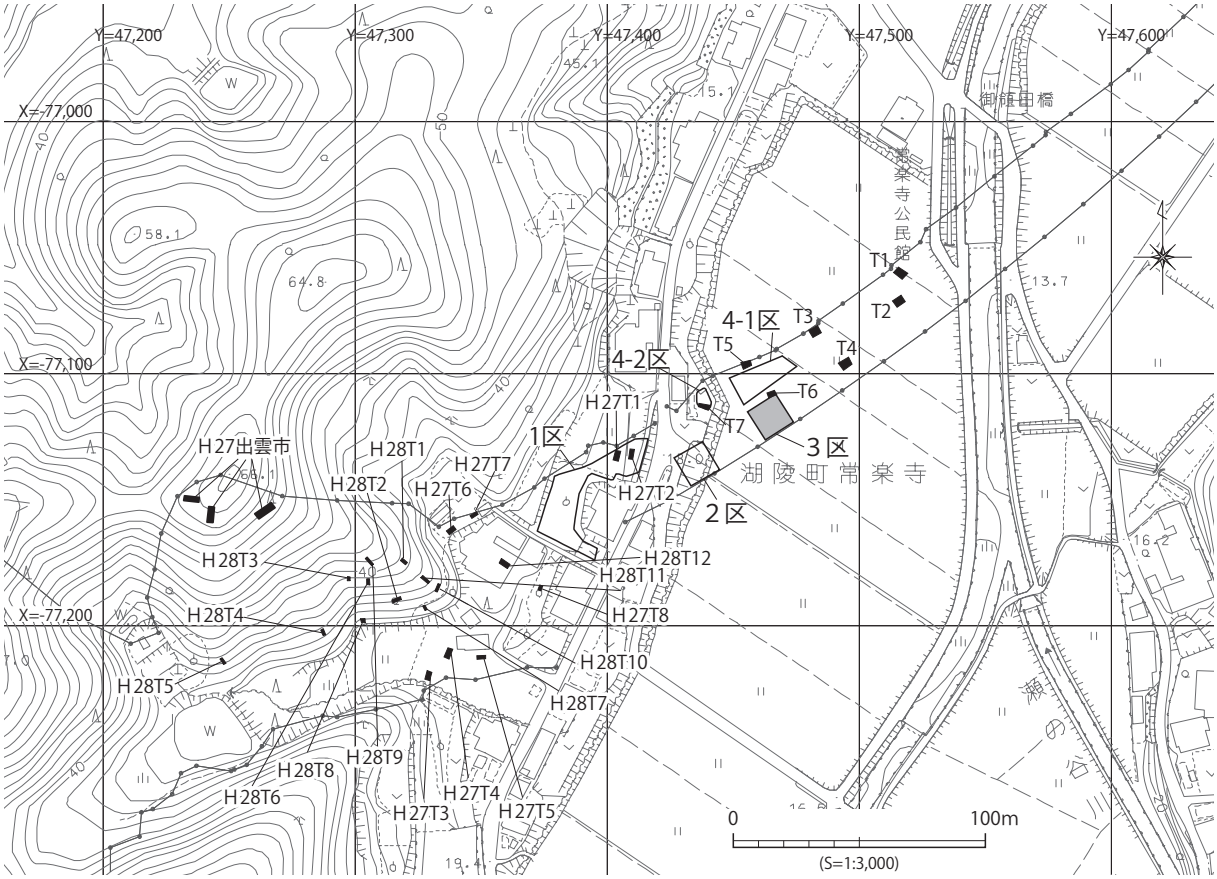
第１節　京田遺跡の概要

発掘調査区の設定

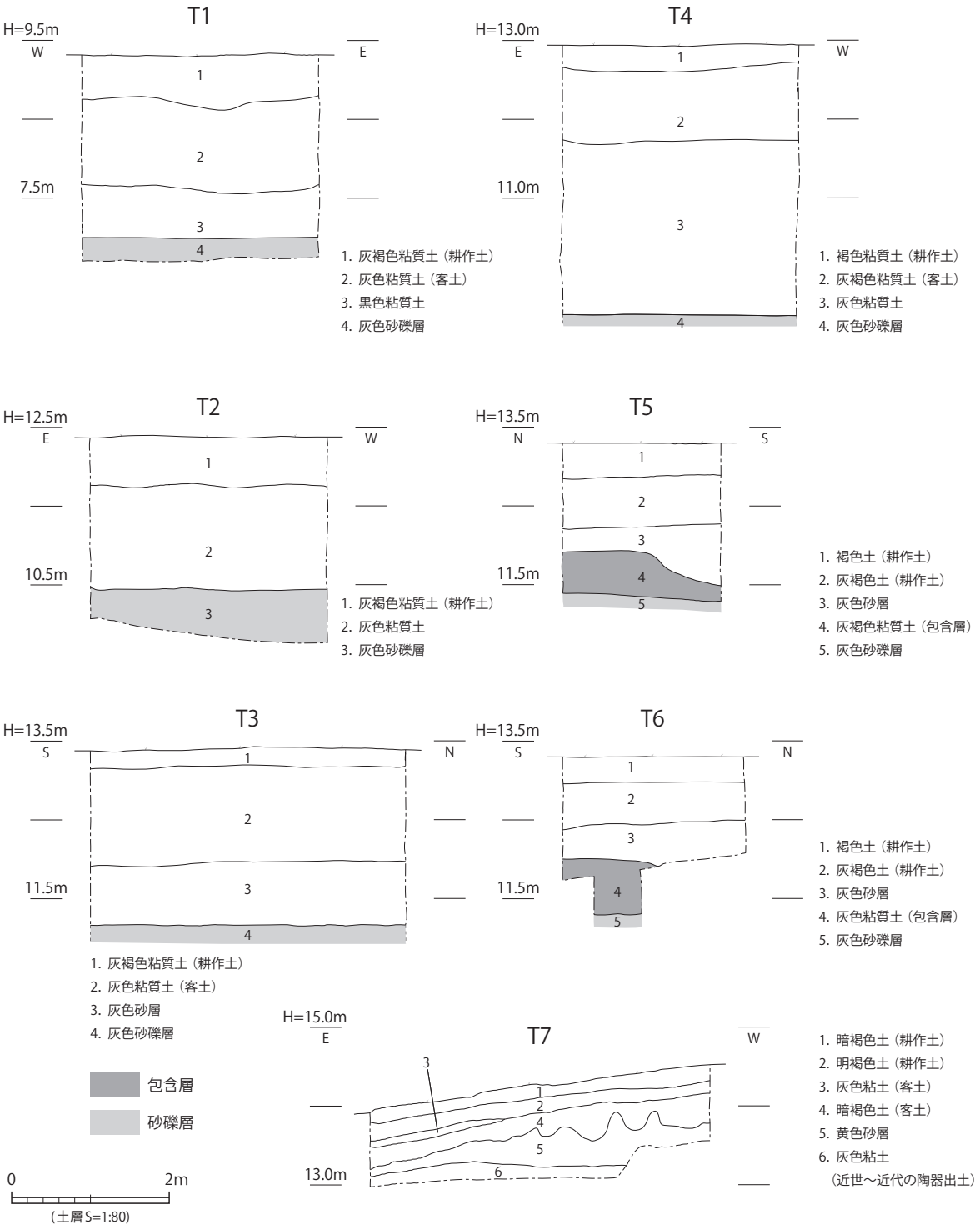
京田遺跡は、出雲市湖陵町常楽寺西上に位置する。神西湖に注ぐ常楽寺川が開析した小さい谷あいに所在する。３区は平成27年度に調査した１区の東側に隣接する常楽寺川左岸の水田部に立地し、調査前の標高は約13ｍである。

平成27（2015）年度の試掘確認調査は５月に丘陵に８カ所のトレンチを設定し、T1とT2から遺構遺物が出土した。10～11月には水田部にトレンチを７カ所設定し、調査を行った。当初は、試掘確認調査範囲が水田として使用されていることや常楽寺川が隣接していることから旧河川や氾濫原の可能性が考えられ、遺跡の有無や内容が不明確であった。

調査の結果、常楽寺川に近いT1～T4では、0.2～1.0ｍの耕作土の下は、0.5～１ｍの厚い客土や耕作土であった。その下層は黒色粘質土や灰色粘質土、灰色砂層となり、最後は灰色砂礫層となり、遺構遺物は出土しなかった。T5とT6では、耕作土・旧耕作土の下に均質な灰色砂層（3層）が検出された。４層の灰色粘質土から約30点の土器が出土し、その下層は灰色砂礫層となっていた。第35図１はT5から、2、3はT6から出土した縄文土器である。１は凹底の底部片である。２は無文



第34図　京田遺跡３区　調査区配置と周辺地形（S=1:3,000）



第35図　京田遺跡３区　試掘確認調査土層図・出土遺物実測図（土層図S=1:80,遺物実測図S=1:3）

深鉢の口縁部で端部に向け先細りする。３は成立期縁帯文土器の突起部で、径1㎝程度の孔が開く。孔の周囲に縄文と沈線文がある。頸部外面には方形の区画文が沈線により表現されている。T7は畑地に設定し、約1.4ｍ掘り下げたが、近世から近代以降の客土で、遺物包含層まで到達できなかった。5月と10月の試掘確認調査から本調査範囲を確定した。平成28（2016）年度の試掘確認調査は、6月に丘陵部に12カ所のトレンチを設定して実施したが、どのトレンチからも遺構遺物の出土はなかった。

試掘確認調査の結果を受け、本調査が必要な範囲について、用地買収や工事の進捗状況により、1区を平成27年5月に、3区を平成28年5～6月に島根県教育委員会が調査主体となり本調査を実施した。3区に隣接する4区は、市道移管予定の側道のため、出雲市教育委員会により、平成29年1～3月に本調査が実施された。なお､2区については平成30年度以降に本調査を実施する予定である。

1区は、標高20～23ｍの丘陵から竪穴建物跡1棟、掘立柱建物跡6棟のほかピット多数を検出した（島根県2017）。掘立柱建物跡の2棟は7世紀末～8世紀と考えられ、時期の異なる建物跡が複数確認され、連綿と集落が営まれていることが判明した。なお、調査面積は、1区640㎡、3区126㎡、4区255㎡である。4区は出雲市教育委員会により平成28年度に調査された。

第２節　京田遺跡３区の調査

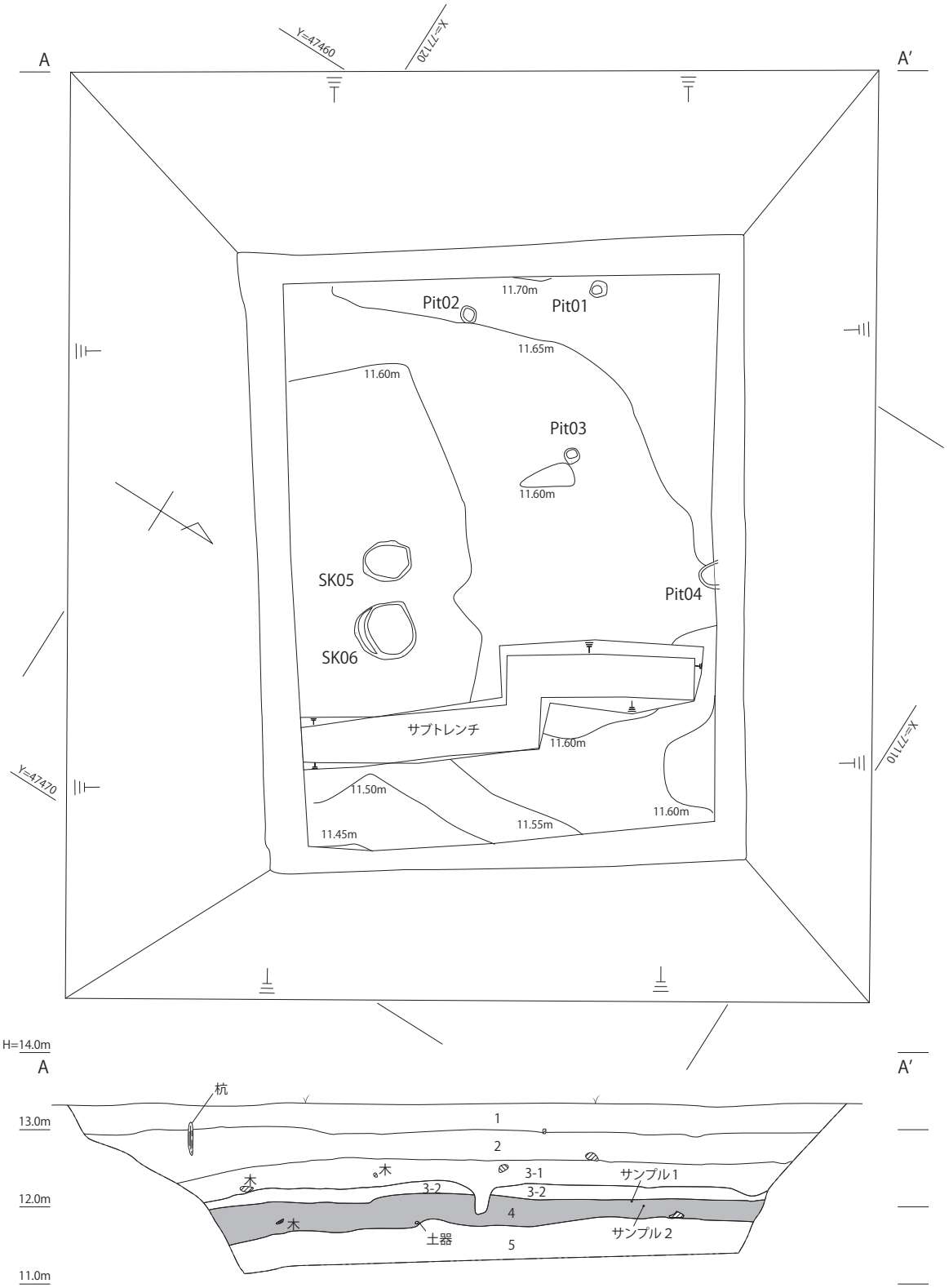
1．調査方法

試掘確認調査の結果から、表土及び客土・耕作土等を重機で掘削した。重機掘削はバケットに平爪を装着して、包含層（4層）まで、余裕を持たせたところで停止した。その後はスコップやジョレンを用いた人力により、灰色砂層（3層）及び包含層（4層）を掘削した。湧水が激しいことからまず調査区周囲に溝を掘り、排水しながら中央を掘り下げる工程を随時行った。包含層出土遺物は調査区が狭いため、座標に合わせたグリッド設定は行わず、任意の小区を設けて取り上げを行った。遺構掘削は、移植ゴテ、草削りを使用して行った。基本的に土層観察用のベルトを設定するか、半裁して埋土を掘削し、写真撮影後、必要に応じて土層断面図を作成した。また、報告書記載が見込まれる遺物等は遺跡調査システムで出土位置を記録した後取り上げた。遺構の平面図等はコンピュータ・システム株式会社の遺跡調査システム「SITE」を用いて測量し、出力後補正を行った。遺構等の写真は、原則として報告書に掲載が見込まれるものは6×7版フィルム（モノクロネガ・カラーポジフィルム）による撮影を行い、それ以外はデジタルカメラで撮影した。

自然科学分析は、文化財調査コンサルタント株式会社に委託し、花粉分析等を行った。試料は発掘調査中に位置を記録して取り上げた。また、動物遺存体は、広島大学石丸恵利子氏に、石材は島根県立三瓶自然館中村唯史氏に鑑定いただいた。

2．基本層序

地表（標高13ｍ）の下に、1・2層：水田、造成土、3層：灰色砂層、4層：暗灰色粘質土（遺物包含層）、5層：灰色砂礫層が堆積する。4層の標高は12ｍで、縄文土器、石器、骨片等が出土した。土層の観察から、3層の灰色砂層は、粒径がよく揃い、洪水等により後背低地に広がった氾濫水によって堆積した砂層と考えられる。約4,000年前の三瓶山の噴火によって神戸川下流の堆積が進行



1. にぶい黄褐色粘質土（耕作土。しまりよい。粘性あり。）
2. 黒褐色粘質土（しまりあり。粘性あり。）
3-1. 灰色砂質土（しまり弱い。粘性弱い。）
3-2. 灰色砂質土（しまり弱い。粘性弱い。3-1層より明るい。）
4. 暗灰色粘質土（遺物、炭化物、骨片を含む。しまりよい。粘性強い。）
5. 灰色砂礫土（5 ～ 20㎝の円礫を含む。しまり弱い。粘性弱い。4層より砂質。粗い。）

0　5m
(S=1:80)

第36図　京田遺跡３区　遺構配置図、南西壁土層図（S=1:80）

し、神門水海が閉塞した時期以降、一時的な排水不良により一帯が冠水した時に堆積したと考えられる。この堆積物は、以前湖陵町教育委員会が奥ノ谷遺跡で確認したものと同一と考えられ（湖陵町1995）、出雲平野西部に特徴的である三瓶山由来ではなく、常楽寺の周辺のものである[1]。

3. 検出遺構とその遺物

遺構は、ピット４基、土坑２基を確認した。湧水が激しく、遺構検出が困難であり、本来はもう少し高いレベルから遺構が掘削されていた可能性がある。また、確認できた遺構以外にも、掘削深度が浅い遺構が存在した可能性はある。

ピット

検出されたピットは土坑より標高が高い西側や南側から検出された。Pit01は円形で、直径19㎝、深さ15㎝である。Pit01からは10×11㎝、厚さ7㎝の石が１つ出土した。Pit02は円形で、直径20㎝、深さ5㎝である。Pit03は円形で、直径20㎝、深さ6㎝である。Pit04は排水溝により半分が欠損している。ほぼ円形で、直径34㎝、深さ6㎝である。Pit01～03がほぼ同じ規模である。各ピット間の距離はPit01とPit02が1.7ｍ、Pit01とPit03が2.15ｍ、Pit02とPit03が2.25ｍ、Pit03とPit04が2.4ｍである。ピットからの出土遺物はない。

SK05

SK05とSK06は0.9ｍと近接して検出した。SK05は配石遺構で、約15㎝の石が上面で６個検出され、下部には径62㎝、深さ22㎝の円形の土坑を伴う。石材は安山岩である。石は北側と南側にあり、その間は石がなかった。上面のやや大きい石の周囲からは少し小さい石が検出された。石2、石3、石６～石９の表面には、煤が付着している。石と一緒にやや大きめの土器片が壁際から出土した。SK05とPit02の距離は3.3ｍ、Pit03とは2.7ｍである。埋土内からは大きさ３～6㎝、10～40gほどの小石や縄文土器、骨片が出土した。小石や上部から検出された一部の石は煤けていた。埋土内から無文土器28点、408g、有文土器１点、10g、権現山古段階１点、13g、焼成粘土塊１点、27gの計31点、458gが出土した。

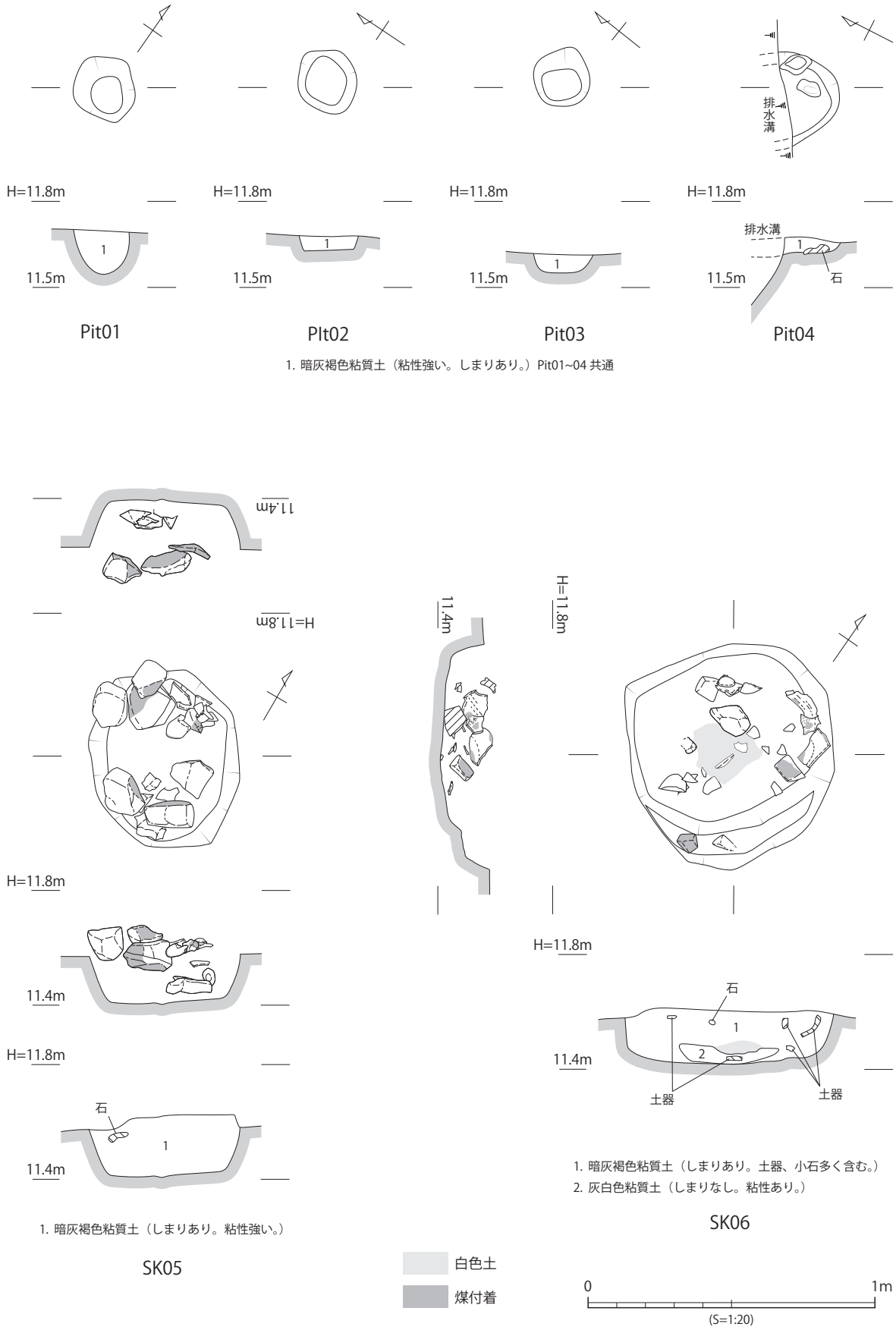
出土遺物（第39図）　１は沈線末端刺突され、沈線間にも刺突がある。権現山古段階。２は「く」の字に屈曲する無文深鉢である。３は無文深鉢の口縁部で、内外面巻貝条痕調整である。４は焼成粘土塊で、表面の大部分が黒色に変色している。

SK05の時期は権現山古段階と考えられる。

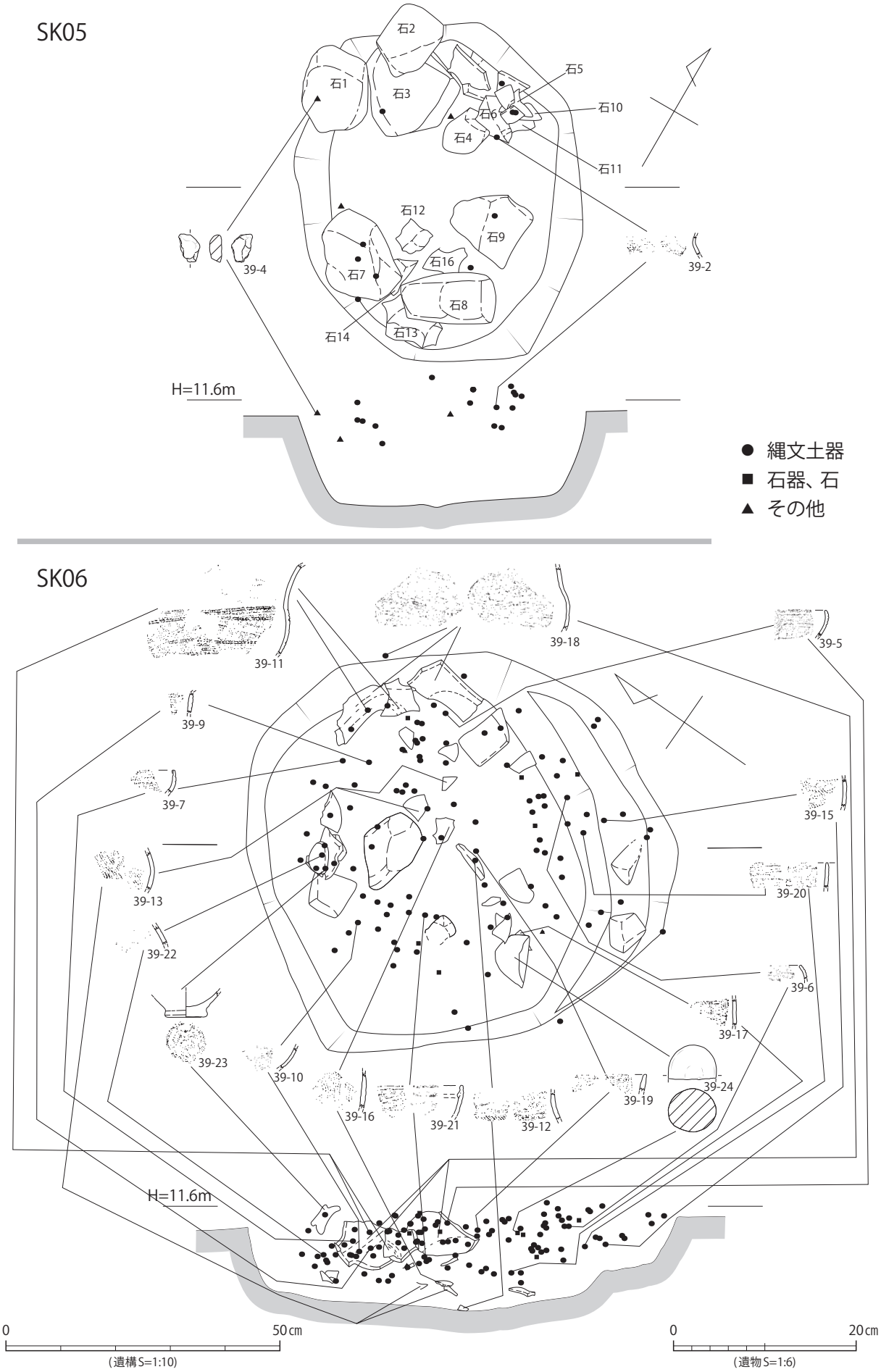
SK06

SK06は径78㎝、深さ9㎝の円形の土坑で、上部からは小片の縄文土器や小円礫が多数出土した。小円礫の石材は安山岩から流紋岩で、４～7㎝ほどの大きさのものが多く、7×15㎝、厚さ6㎝のやや大きいものもある。沖丈段階３点、60g、権現山古段階２点、17g、権現山新段階１点、3g、時期不明の有文土器21点、170g、無文土器440点、2,557g、焼成粘土塊１点、12gの計468点、2,819gが出土した。SK05に比べ、点数・重量が極端に多いのは、土坑埋土を洗浄し、1㎝程度の小片も取り上げた結果である。権現山新段階の土器は小片であり、混入の可能性もある。廃棄土坑の

（1）中村唯史氏の御教示による。



第37図　京田遺跡３区　遺構実測図（S=1:20）



第38図　京田遺跡３区　SK05,SK06遺物出土状況（遺構S=1:10,遺物S=1:6）

可能性がある。土坑内からは骨角製ヤスや骨片（第５章第１節）、オニグルミ（第５章第３節参照）が出土した。

出土遺物（第39図）　５は浅鉢で、口縁部が内湾する。口縁外面に磨消縄文（RL）が施される[(2)]。沈線は細くて浅い。６は波状沈線の間に縄文（LR）が残る。７は内湾する口縁部で、外面には結節縄文（RL）、沈線が施される。沖丈式。８は磨消縄文と６条の沈線が残る。９は両面、ミガキ調整で、５条の沈線と上方に縄文が残る。10は結節縄文と沈線が施される。沈線は縄文を施した後に引かれる。11は胴部から頸部にかけての破片である。頸部はミガキ調整で無文、胴部は弧状のＳ字の結節縄文が施され、その後沈線を引く。沈線内刺突と末端刺突が施される。施文方法等から10と同一個体の可能性がある。12は頸部がミガキ調整で、沈線より下方に付加条縄文が施される。13は胴部の破片で、外面に付加条縄文が施される。縄文が12と同じで、同一個体の可能性がある。14は外開きの頸部で、２条の沈線が確認でき、上方の沈線内には刺突が施される。

15 ～ 17は胴部の破片で、外面に縄文が施される。15と16は０段と１段の合撚で異条斜縄文である。同一個体の可能性がある。17はわずかに縄文が施される。18は無文土器で、胴部から頸部にかかる部位で、胴部最大径より下方は、巻貝条痕やナデ調整で、上方はナデ調整である。

21は無文深鉢で、内面肥厚指頭圧痕土器である（千葉2014）。内外面は雑な巻貝条痕で調整される。肥厚部は指頭圧痕後ナデ調整である。19、20は口縁端部が平坦で、外面は巻貝条痕とナデ調整である。内面はナデ調整である。22は注口土器である。沈線間に条線文を施す。外来系の加曽利Ｂ式。23は平底の底部で、外面は凹凸が顕著である。底面には圧痕が多く残るが、原体は不明。24の円礫は折損している。被熱のためか赤褐色で、一部表面に煤が付着する。25はデイサイト製の抉りをもつ石鏃である。片面に大きな剝離面を残す。26は骨製のヤスである。両端とも折損し、残存長7.2㎝、厚さ３～４㎜である。中実で、表面は白色を呈し、上方は被熱している（第５章第１節参照）。

SK06の時期は沖丈式から権現山古段階を中心とした時期と考えられる。

第6表　京田遺跡3区　遺構一覧表

遺構名	直径(㎝)	深さ(㎝)	面積(㎠)※	出土遺物	時期
Pit01	19	15	324		
Pit02	20	5	282		
Pit03	20	6	247		
Pit04	34	6	443		
SK05	62	22	2503	土器・焼成粘土塊	後期中葉（沖丈式～権現山古段階）
SK06	78	9	4343	土器・石器・骨角器	後期中葉（沖丈式～権現山古段階）

※検出面での面積

(2) 以下土器の分類・観察は、千葉豊氏、髙野紗奈江氏の御指導の下、柳浦俊一氏に全面的に協力を得た。

第39図　京田遺跡３区　SK05,SK06出土遺物実測図（S=1:3,2:3）

4. 遺構外出土遺物

遺物は縄文土器がコンテナ30箱、石器15箱ほど出土している。３層灰色砂層からは縄文時代後期後葉の凹線文土器群が、砂層下の４層からは縄文時代後期初頭の暮地式から縄文時代後期中葉の権現山新段階までが出土し、大部分が沖丈式から権現山古段階である。一部に九州系の小池原上層式や関東系の加曽利Ｂ式系が見られる。

土器（第40～49図）

第40図１は須恵器である。京田遺跡３区から須恵器が１点のみが表採された。甕片で、内外面にタタキ痕が残る。時期は不明である。３層からは縄文土器が14点出土した。２は広口深鉢の胴部で、外面に縄文がある。３は凹線文土器深鉢である。外面に３条の凹線があり、宮滝式併行である。表面はかなり摩滅している。

遺物のほとんどが４層から出土した。４層出土土器を報告するにあたり、文様の有無により、有文土器、無文土器に分け、別に底部を分けた。

有文土器（第40～45図）

今までの研究成果を基に、型式や文様、施文方法、部位により分類した。

縄文時代後期前葉

第40図４は表面が摩滅している。太い沈線による磨消縄文で、Ｊ字文と考えられる。中津式か。

５～18は暮地式と考えられる。２本沈線による磨消縄文で、帯状文の幅は細い。口縁端部はわずかに肥厚し、拡張する。沈線により口縁部の上面が施文される。８は口縁端部外面に刻み目が施される。口縁部は水平口縁である。12は口縁部がやや肥厚し、次の段階（布施式）の可能性がある。14は大きく広がる皿状の器形で、焼成前穿孔が残る。17は内面に稜がある。18は口縁部が内湾する。縄文はRLである。

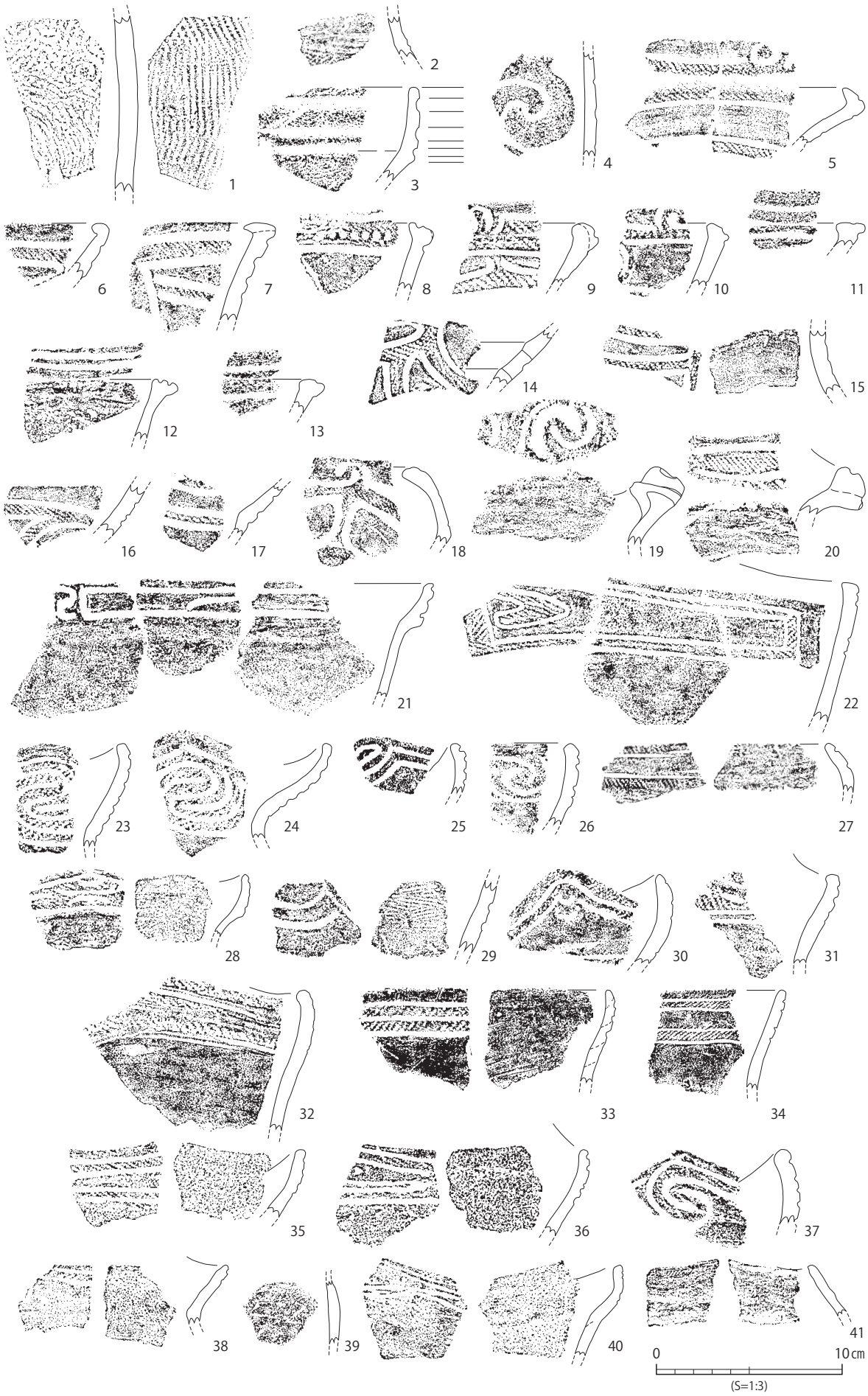
19、20は布勢式と考えられる。口縁部の肥厚・拡張が進んだものである。頸部は無文で、強くくびれる。19は立体的な突起で、沈線文が施される。20の口縁部上面には２条沈線よる磨消縄文があり、端部に刻み目を施す。

21は崎ヶ鼻２式の口縁部と考えられる。口縁縁帯部が平板化し、口縁部と頸部が緩やかにつながる。口縁縁帯部には沈線による区画文等が描かれる。

縄文時代後期中葉

第40図22～31は沖丈式の磨消縄文系口縁部である。内湾する深鉢口縁部である。口縁部は肥厚せず、波状口縁である。口縁部外面には縄文と横走する細い沈線文が施される。22の口縁部は肥厚せず、やや内湾する。口縁部外面には縄文と横走する細い沈線文が施される。波状口縁で、横長のＪ字文の一部が残る。Ｊ字文脇の縦文には途中で縄文の方向が変わる引き直しが行われている。津島岡大４群に類似する。波頂部には23、24にＪ字文、30にＵ字文が配される。31は口縁部上面に縄文を施し、外面の縄文地の中に刺突文がある。

32～41は沖丈式から権現山古段階の磨消縄文系口縁部である。内湾する深鉢口縁部である。口縁部は肥厚せず、波状口縁である。口縁部外面には縄文と横走する細い沈線文が施される。沈線の幅や器形等から35～37は同一個体の可能性がある。波頂部（37）にはＪ字文が配される。38は内



第40図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（1）（S=1:3）

面に稜がある。39は外面にジグザグ文が施される。41は口縁端部外面に縄文が施される。

第41図１～７は権現山古段階の磨消縄文系口縁部である。口縁部は肥厚せず、内湾するがやや屈曲が強くなる深鉢である。口縁部外面には横走する細い沈線文が施される。1、3、6には縄文が、2には沈線内刺突と刻み目が施される。4は口縁部上面に二枚貝による刻み目、波頂部上面にやや大きめの刺突文がある。5は口縁部が肥厚せず、波状口縁で、沈線間に疑似縄文がある。文様モチーフは沖丈式と古いが、権現山新段階の可能性がある。7には斜線文と連弧文がある。

８～16は沖丈式の磨消縄文系胴部である。２～３本沈線による磨消縄文である。9は沈線内刺突がある。10は頸部から胴部にかけての破片で内面は丁寧な調整である。

17～26は沖丈式から権現山古段階の磨消縄文系胴部である。２本沈線による磨消縄文である。17は沈線内刺突がある。18～20の外面にはベンガラが付着する。23、24には円形刺突がある。25の内面は丁寧な調整で、黒色を呈する特徴的な胎土である。

第42図１～４は沖丈式と考えられる結節縄文を持つ内湾する口縁部である。口縁部は肥厚せず、波状口縁である。口縁部外面には結節縄文と横走する細い沈線文が施される。弧状の結節縄文の後に沈線を施す。

５～８は権現山古段階の結節縄文を持つ口縁部である。5、6は内湾する深鉢口縁部である。口縁部は肥厚せず、平口縁である。口縁部外面には結節縄文が施される。7、8は広口深鉢で、7は口縁部外面に、8は内面に結節縄文が施される。

９～11は沖丈式と考えられる結節縄文を持つ胴部である。9は沈線内刺突が、10、11は沈線も施される。

12～20は権現山古段階の結節縄文を持つ胴部である。胴部には結節縄文が施される。12～14には沈線もある。13、14の胴部は屈曲する。13はS字の、19、20はZ字の結節縄文である。

21～28は沖丈式から権現山段階の胴部が屈曲する器形である。21の胴上部には縄文を施す。22の胴上部には沈線および縄文がある。23は縄文、沈線、短沈線が施される。穿孔がある。文様のモチーフは九州の北久根式等西からの影響をうかがうことができる。24は沈線間に刻み目を施す。25は磨消縄文で、外面にベンガラが付着する。26は太い沈線と縄文が施される。27、28は浅い沈線が施される。

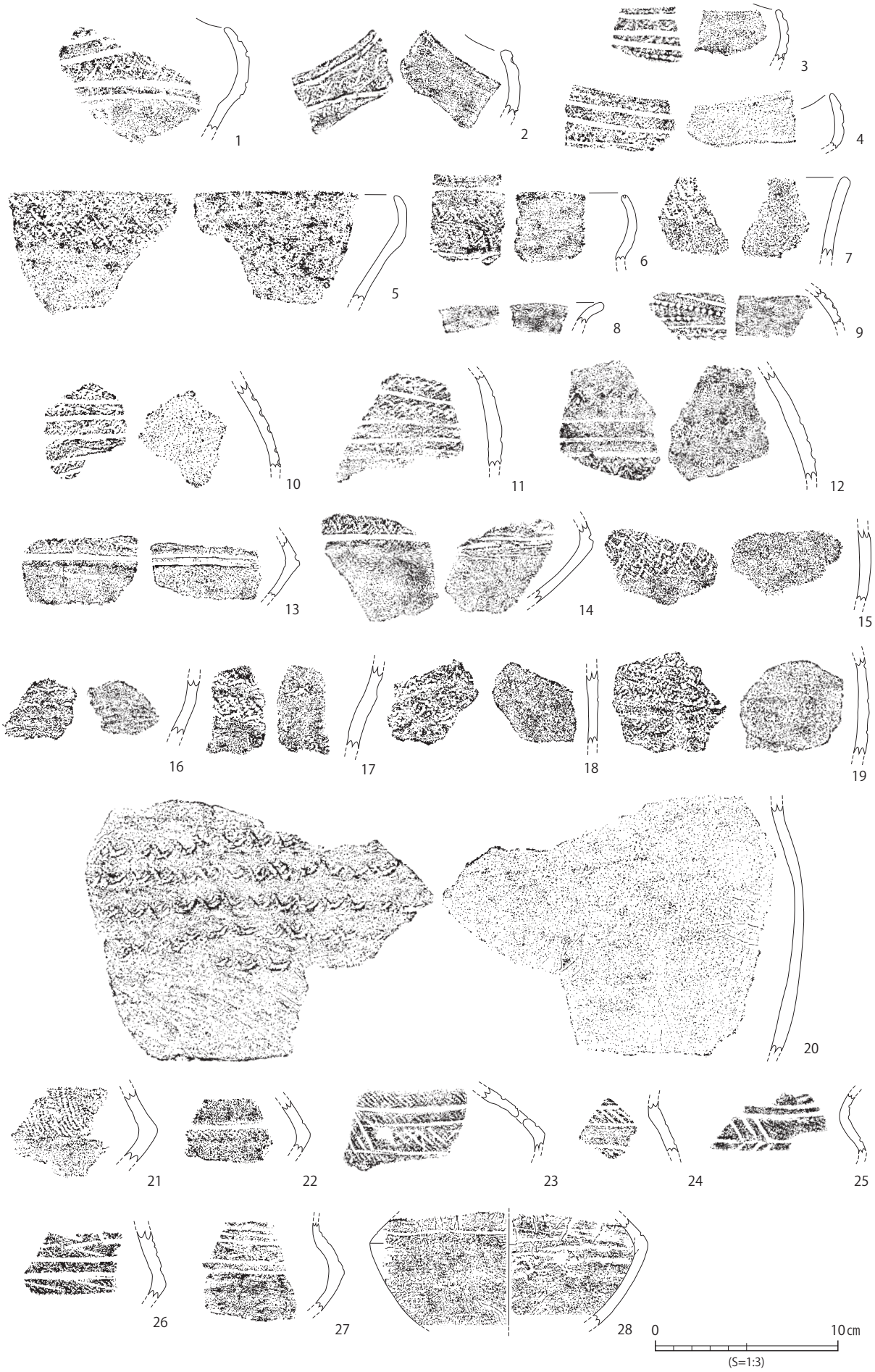
第43図１～３は権現山古段階と考えられる縄文口縁部である。口縁部外面に幅広の縄文帯がある。口縁部はやや内湾する。

４～23は沖丈式から権現山古段階の広口深鉢の口縁部である。口縁部の施文は、4～7、9～13が外面縄文のみ、8が内外面縄文、14は内面に沈線と縄文、外面に縄文のみ、15が内面に縄文と沈線、16は内面のみ沈線内刺突２条、17は内面に２段の刺突、外面に沈線と刺突、18は内面に刻み目と沈線、20は内面のみ沈線内刺突１条である。21は内面に沈線のみ、22は外面に沈線と縄文？を施す。23は沈線内刺突を持つ胴部である。6は外面にベンガラが付着する。

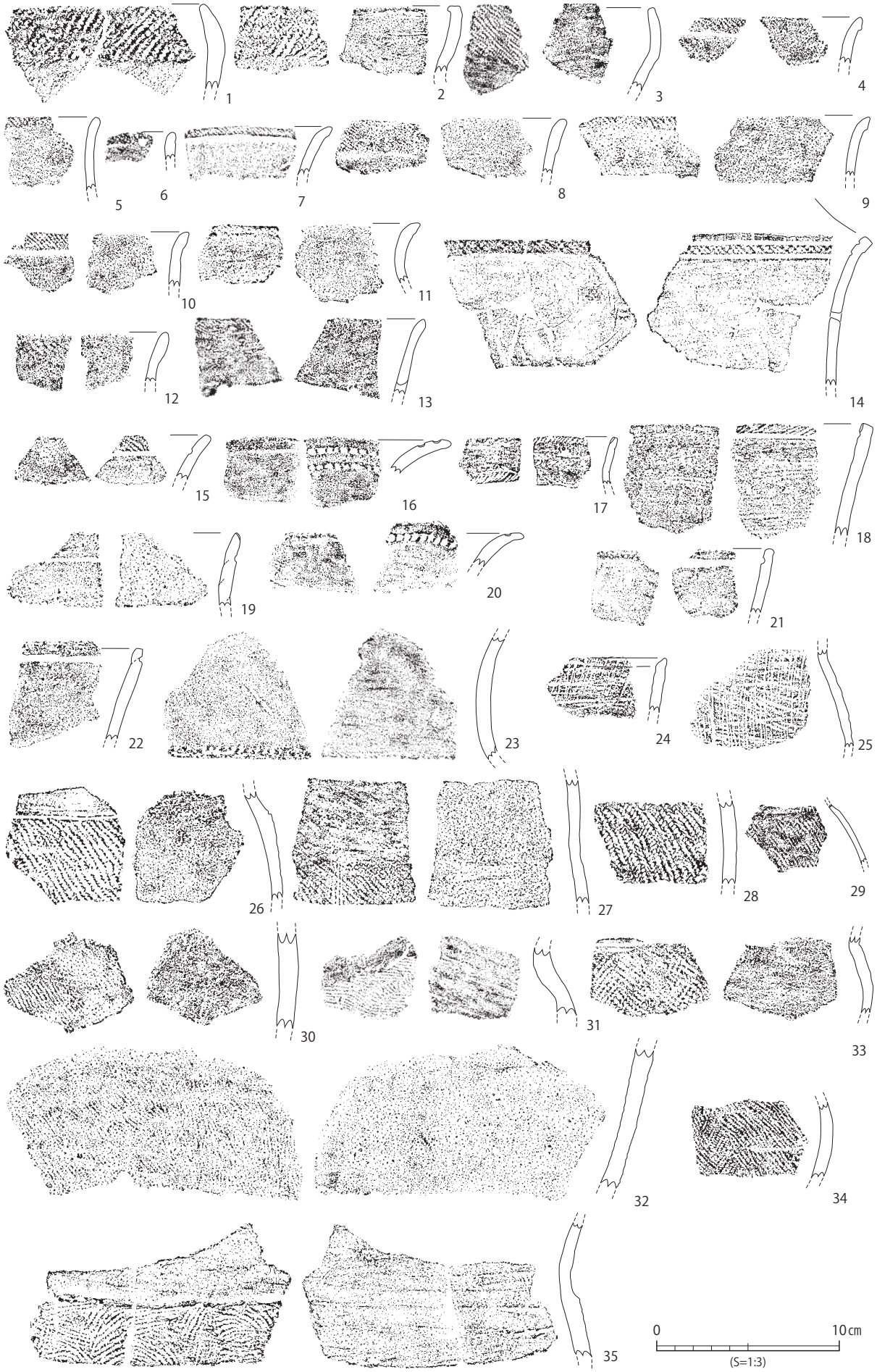
24、25は外面に多条垂下沈線文を施す破片である。24は口縁部である。25は崎ヶ鼻式か。

26～35、第44図１～４は外面に縄文を施す広口深鉢と考えられる胴部である。26は無文の頸部から胴部との境に沈線を施し、胴部には縄文を施す。28は２段RLに１段Rlを付加した原体の３本撚り、29～31は直前段多条と考えられる撚りが細いものである。29は器壁が薄く、内湾していることから鉢の可能性がある。33～第44図４は疑似羽状縄文である。33、34は整然とした疑似羽状

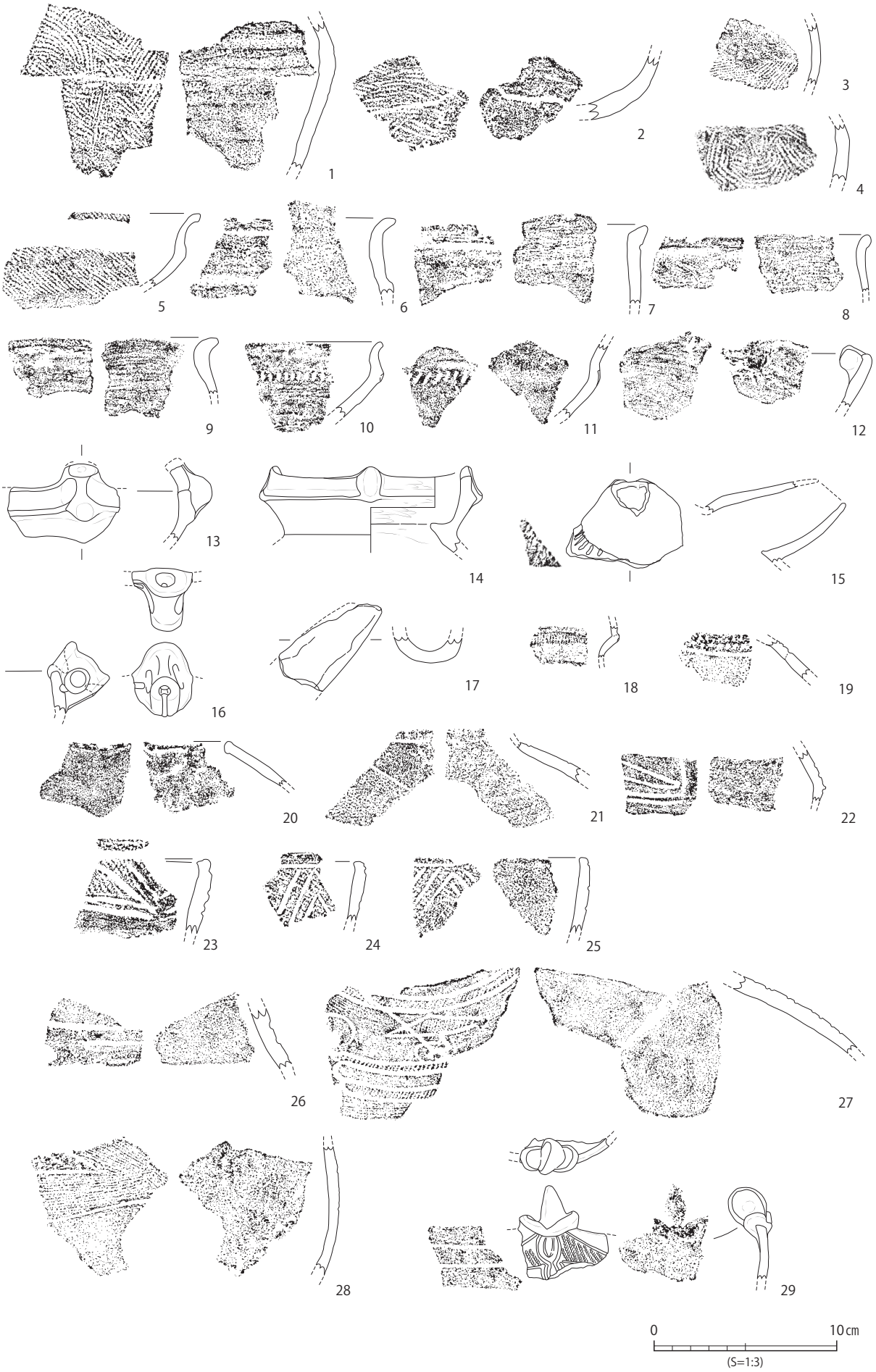
第41図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（2）（S=1:3）



第42図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（3）（S=1:3）



第43図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（4）（S=1:3）



第44図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（5）（S=1:3）

縄文、35、第44図１～４は粗雑な疑似羽状縄文である。34の外面には赤色顔料（水銀朱か）が付着する。

第44図５～11は口縁部が外反する鉢である。５は口縁端部と胴部に縄文を施し、頸部は無文である。10、11は口縁部が外反し、胴部が屈曲の浅鉢である。屈曲部に刺突がある。

12は時期不詳で、口縁部内面に突起が付く浅鉢である。

13～22は沖丈式から権現山段階の注口土器である。14は球状の胴部と考えられる。16は把手である。15、17は注口である。15の注口脇には刻み目がある。17の内面には粘土紐接合痕が明瞭に残る。

23～25は沖丈式から権現山古段階の直口の鉢である。外面にはハの字形の短沈線と縄文が施される。

縄文時代後期後葉

26は宮滝式併行で、外面に２条の凹線がある。

外来系

第44図27～29、第45図１～４は加曽利Ｂ式系と考えられる。27～29は注口土器である。27

第45図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（6）（S=1:3）

は沈線と２枚貝の刺突による斜線文、多重細沈線文で三角文や区切文を描く。28は沈線間に条線文を施す。29は突起をもつ波状口縁部である。沈線と縄文を施す。第45図２は波状口縁の波頂部に近い破片で、沈線、縄文、凹点文がある。内面は指頭圧痕である。３はバケツ形の鉢で、波状口縁をもつ。内外面丁寧なナデ調整である。口縁部外面に沈線と縄文があり、刺突文もある。４は沈線間に条線文を施す。

５～12は九州系の小池原上層式と考えられる。頸部が短く、強く屈曲し、胴部が張る器形である。浅い幅広の沈線による磨消縄文をもつ。5、6、8は外面に赤色顔料が付着し、6、8はベンガラである。

無文土器（第46～48図）

器形により鉢・浅鉢・深鉢と底部に分類し、深鉢は口縁部形態により、細分した。

鉢・浅鉢・深鉢

第46図１～８は、口唇部が薄くならず、口縁部が外反あるいは外傾する。１は波状口縁で、口縁端部に大きくて深い刻み目を入れる。２は山形突起で、口縁端部は面取りされる。外面調整は、上方が巻貝条痕とナデ調整で、下方が巻貝条痕である。３は波状口縁で、口縁端部は丸みを持つ。４の口縁部は山形口縁である。調整は内外面とも二枚貝条痕とナデ調整である。５は、口縁部が外反する。調整は、口縁部が巻貝条痕とナデ調整、胴部内面が二枚貝条痕、外面がナデ調整である。口縁部外面には煤が付着する。６は外傾する口縁部で、外面の調整は二枚貝条痕である。７は口縁端部に刻み目を持つ。８は口縁端部が面取りされる。

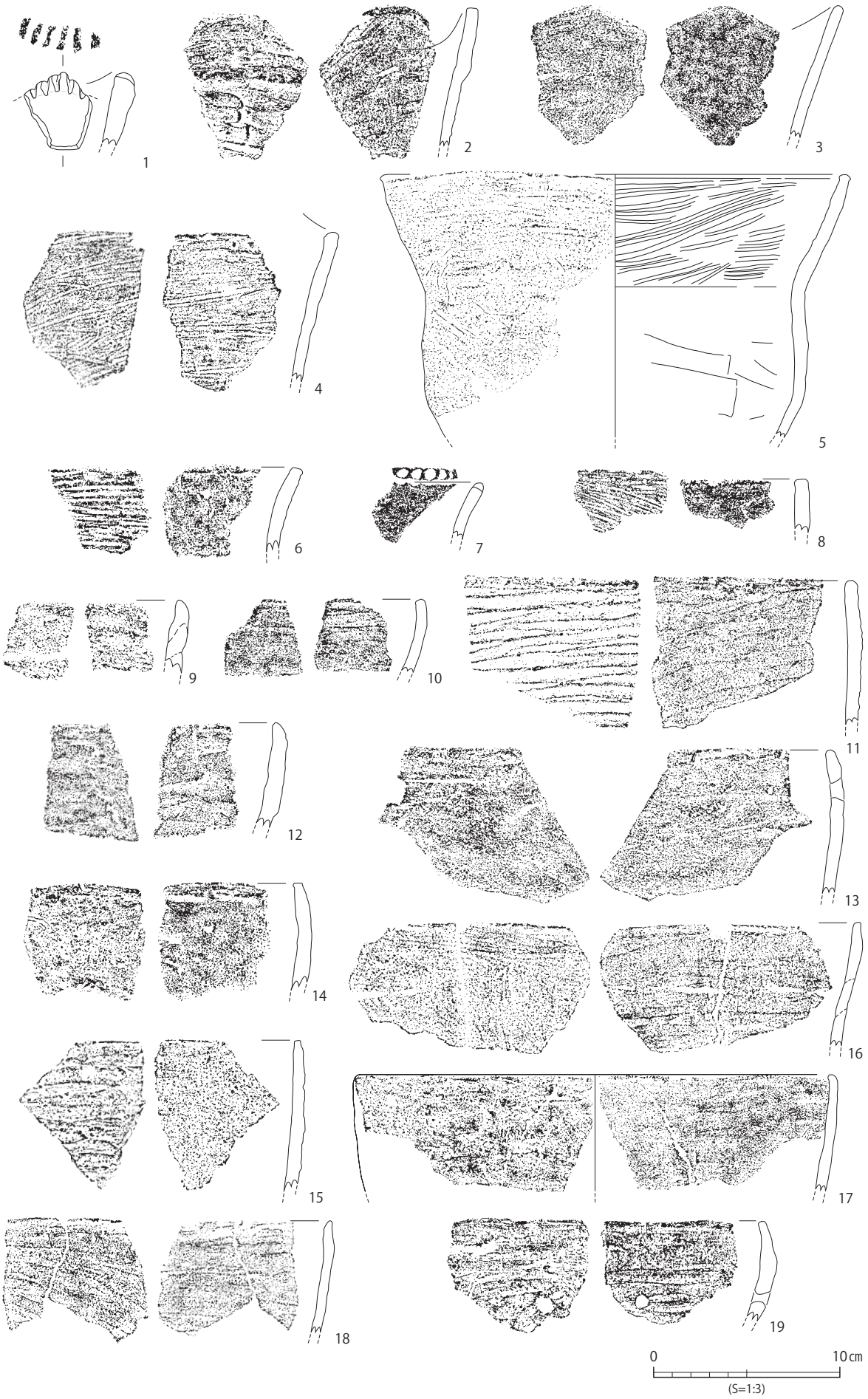
９～14は、口唇部が薄くならず、口縁部が内湾する。10は内湾する口縁部で、内面が部分的に凹む。11は外面が巻貝条痕、内面が強いナデ調整である。14は口縁端部が平坦である。外面の調整は雑なナデ調整である。13は口縁部下に穿孔がある。

15～第47図８は、口縁部先端が先細りになり、口唇部が薄くなる。口縁部が内湾気味になる。15は口縁端部がわずかに先細りになる。外面の調整は二枚貝条痕である。16は内外面とも丁寧なナデ調整で、内面には製作時の接合痕が残る。17は口縁端部をわずかに内側に巻き込む。外面は雑なナデ調整で、煤が付着する。19は口縁部がわずかに内側に屈曲し、上方の調整はナデ調整、下方は巻貝条痕である。口縁端部は面取りされ、口縁部下に径5㎜の穿孔がある。第47図１は口縁端部が内湾する。粘土紐接合痕が明瞭に残る。３は器壁が薄く、口縁端部が大変薄い。調整は外面が巻貝条痕、内面上方は巻貝条痕とナデ調整、下方はナデ調整である。６は口縁部内面に面を持つ。８は口縁端部が面取りされ、内外面の調整は巻貝条痕である。

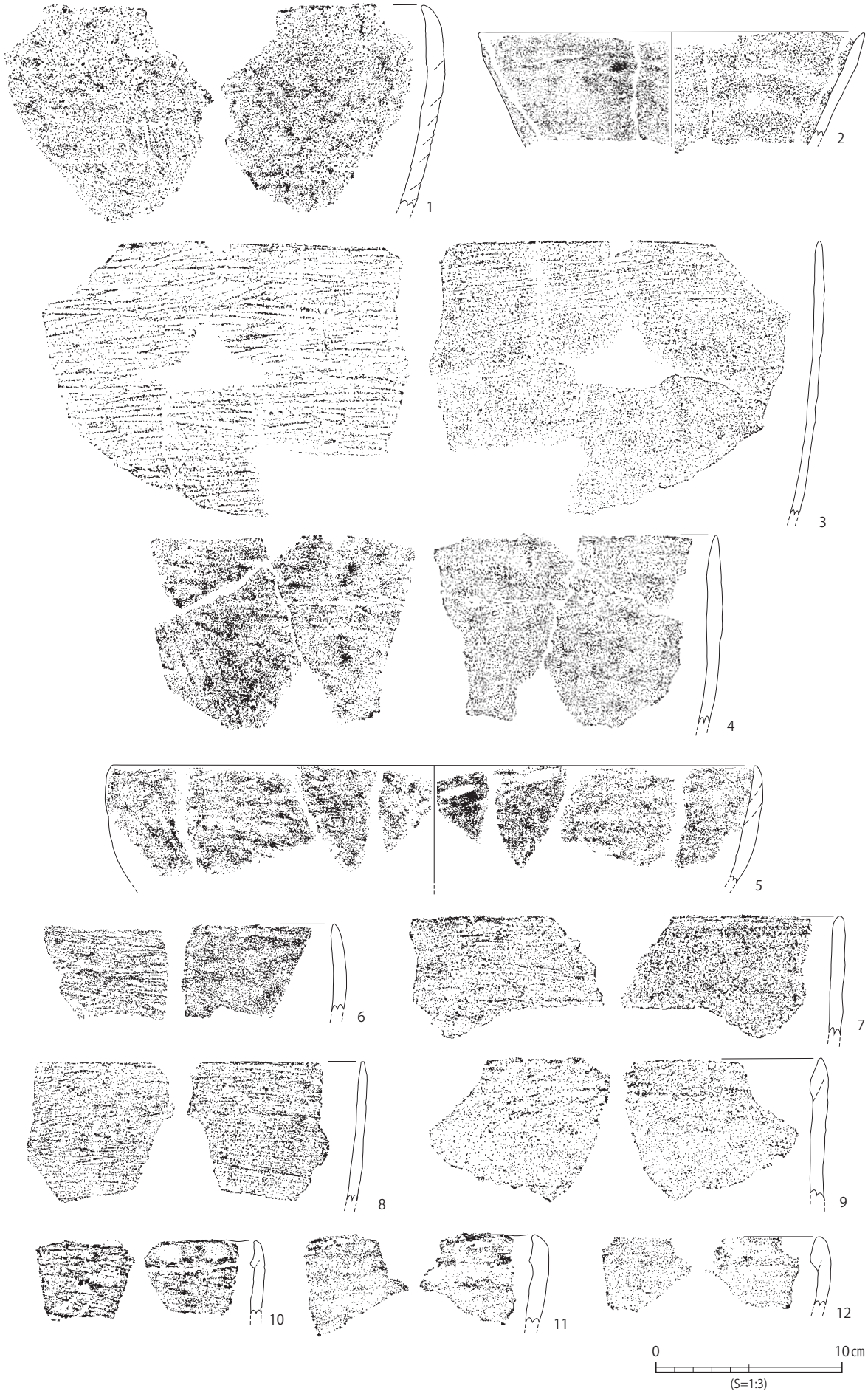
９～第48図３は、内面肥厚指頭圧痕土器[(3)]である。口縁部内側に粘土を貼り付け、貼り付けた粘土に指頭圧痕が残る。多くの破片では、粘土貼り付け、指頭圧の後、丁寧にナデ調整を行い、指頭圧痕が消えている。11は粘土貼付後に丁寧にナデ調整されている。さらに、粘土帯の下も丁寧にナデ調整され、浅い凹みとなる。12は肥厚帯が狭い。第48図１は断面三角形状を呈する。３は別の粘土帯を口縁部内側に貼り付けたのか、最上段の粘土帯を内側にやや肥厚した可能性もある。

第48図４は深鉢胴部で、厚手の器壁で、粘土紐接合痕が明瞭に観察できる。無文深鉢の底部付近の破片と考えられる。５は薄手の口縁部である。６は小片で、内外面の調整は二枚貝条痕である。内

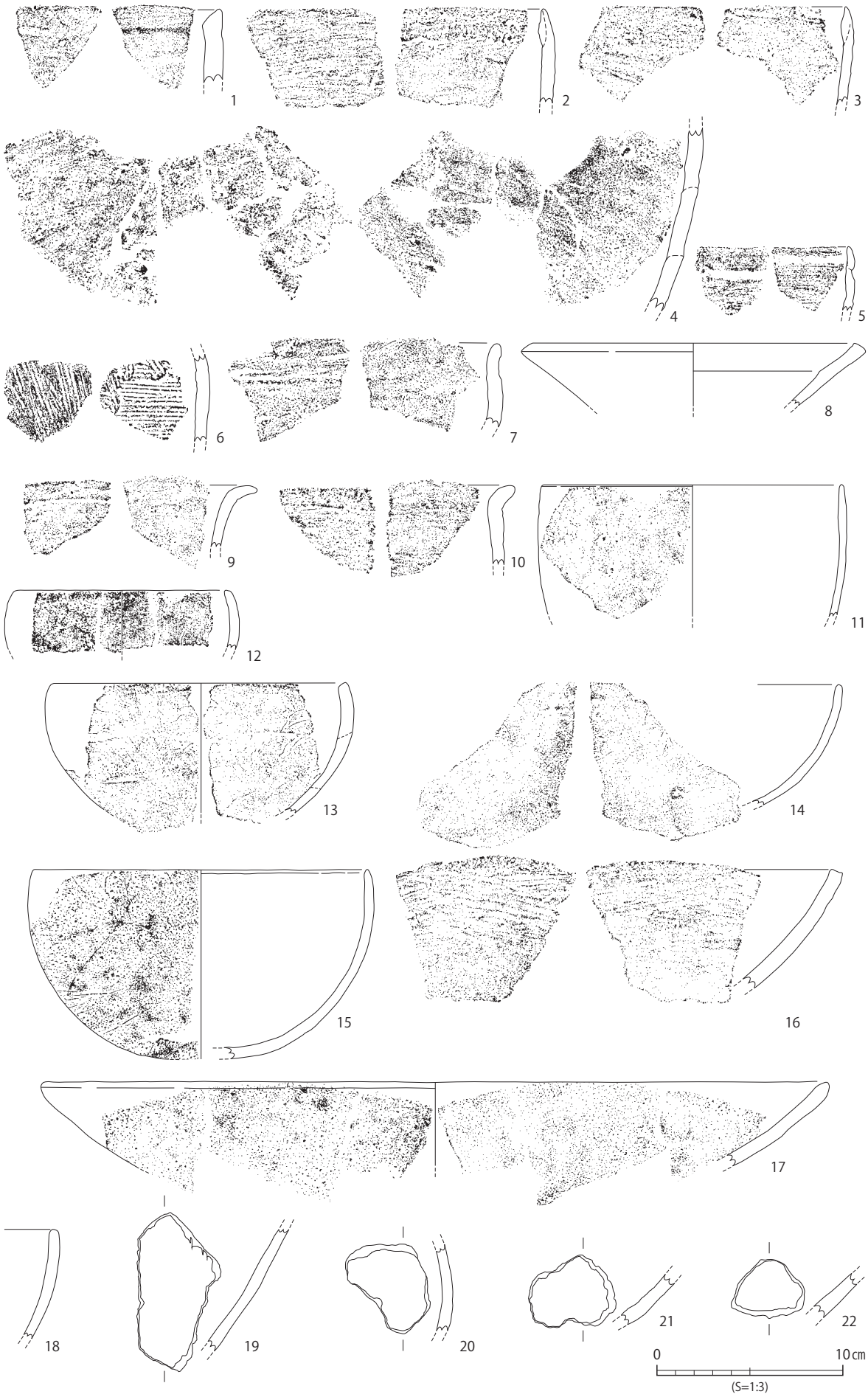
(3) 千葉　豊氏の御教示による。千葉豊2014「縄文後期土器研究の現状と課題―山陰地方の前半期を中心に―」『山陰地方の縄文社会』島根県古代文化センター



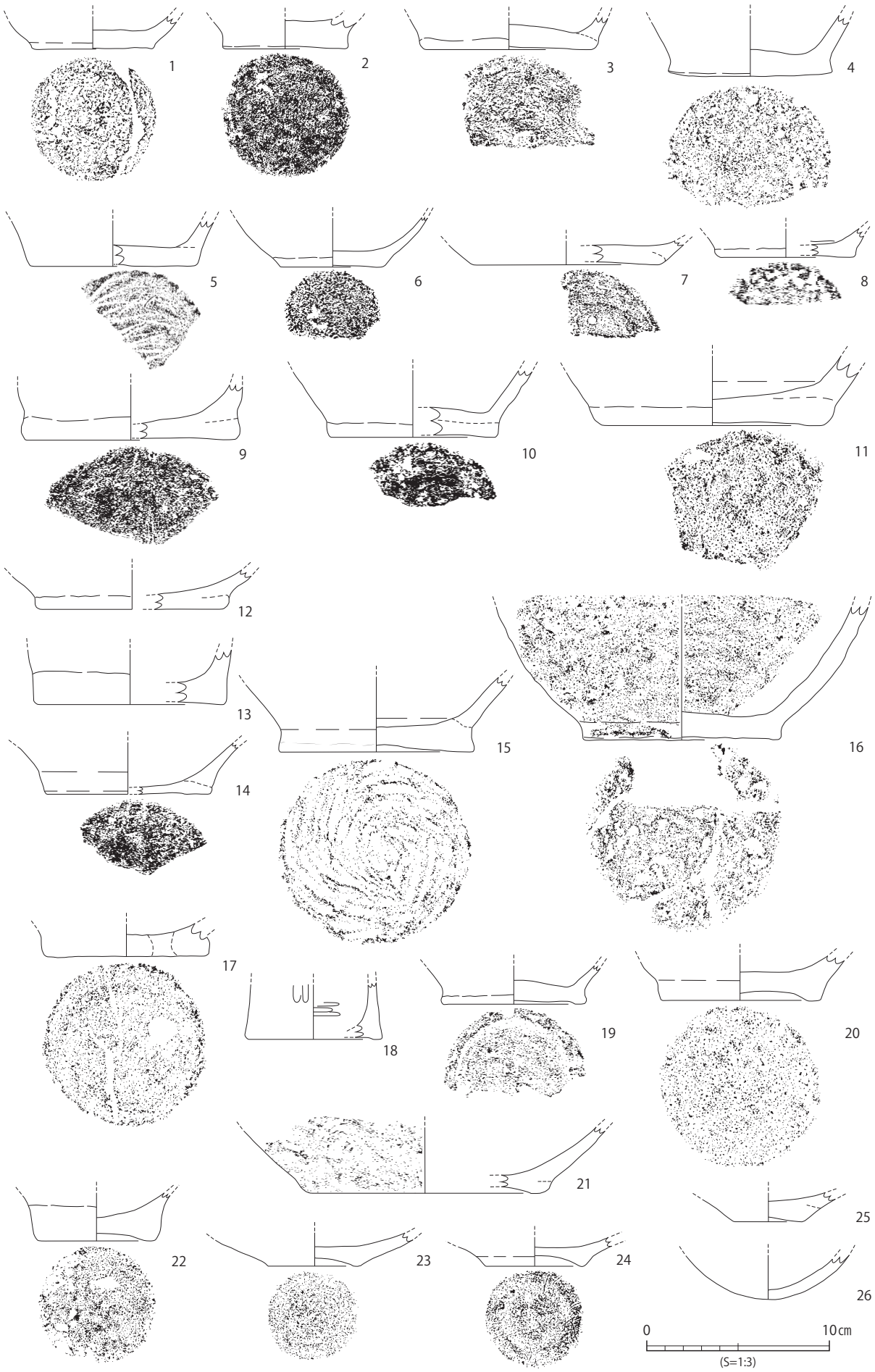
第46図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（7）（S=1:3）



第47図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（8）（S=1:3）



第48図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（9）（S=1:3）



第49図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（10）（S=1:3）

面はハの字状に施す。

第48図７～10は無文鉢・浅鉢の口縁部である。８は口縁部が断面三角形状を呈する浅鉢で、内面に稜がある。９、10は外反する口縁部を持つ。

11は直口の薄手の鉢の口縁部である。12～18は内湾する口縁部を持つ鉢である。17は口縁部がハの字形に大きく広がる。18は内面に水銀朱が付着する。

19～22も浅鉢で、調整は丁寧なナデあるいはミガキである。19、20は内面に水銀朱が付着する。

底部（第49図）

１～17は平底である。３は底部内面が盛り上がる。５、15の底部外面には引っ掻いたような擦痕がある。７は内面が黒色になる。８の底部外面は凹みが多くある。10、11は底部端部に幅1㎝ほどの接地面が有り、底部中央はわずかに凹む。13は底部からの立ち上がりが垂直気味である。14は底部から胴部にかけやや外反する。16は内外面とも雑な調整である。17は径1㎝ほどの穿孔がある。

18は特殊器形の底部である。精製な土器で、胴部が垂直に立ち上がる。内外面とも丁寧な調整である。わずかに高台状の高まりがあり、上げ底になる。

19～21は高台状の底部である。底部端部が高台状になる。21は内面には黒色物が付着する。

22～25は凹底である。22は底径6㎝を測る。23、24は浅鉢の凹底で、内外面は丁寧なナデ調整である。

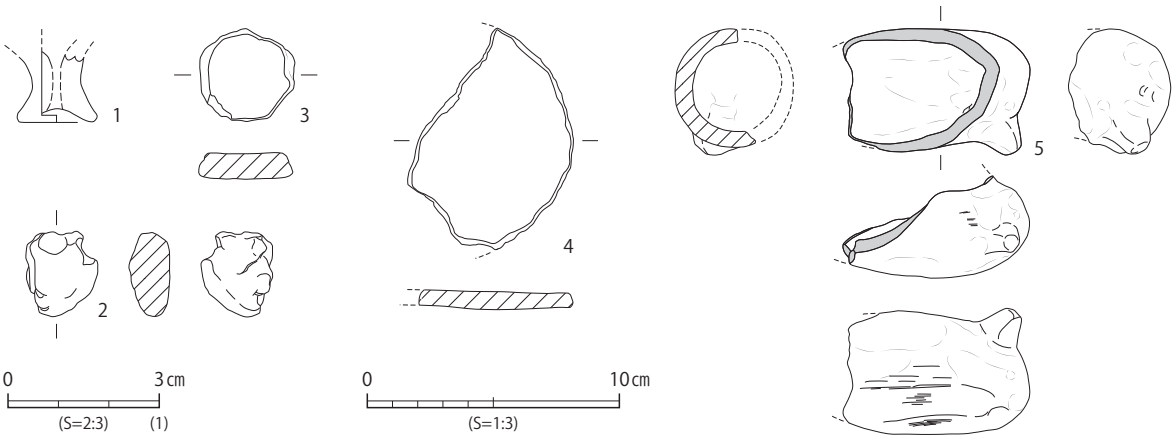
26は浅鉢の丸底で、内面はミガキ調整である。

土製品（第50図）

１は耳栓で、上半分が欠損している。底径は1.6㎝の円形で、中央に2㎜の円孔が開く。中央はくびれ、くびれ部分の径は0.95㎝である。２は焼成粘土塊である。長さ3.3㎝、幅2.8㎝、厚さ1.6㎝、重さ17gで、外面に被熱痕がある。３、４は土製円盤である。土器片の周囲を打ち欠き、円形に整形している。３は重さ12gである。５は用途不明の土製品である。円柱状で、内部が空洞になり、小口は丸みもつ。器壁厚は5㎜程度で、長さ1㎝程度の突起が１カ所残存する。突起が足と考えれば動物形土製品の可能性もある。内面はナデ調整で、外面は丁寧に調整される。

石器（第51～54図）

石器は、石鏃、スクレイパー、抉入石器、楔形石器、二次加工のある剥片（RF）、使用痕のある剥片（UF）、打製石斧、浮子、石錘、敲石、磨石、砥石、石皿、円礫、剥片等が出土した。



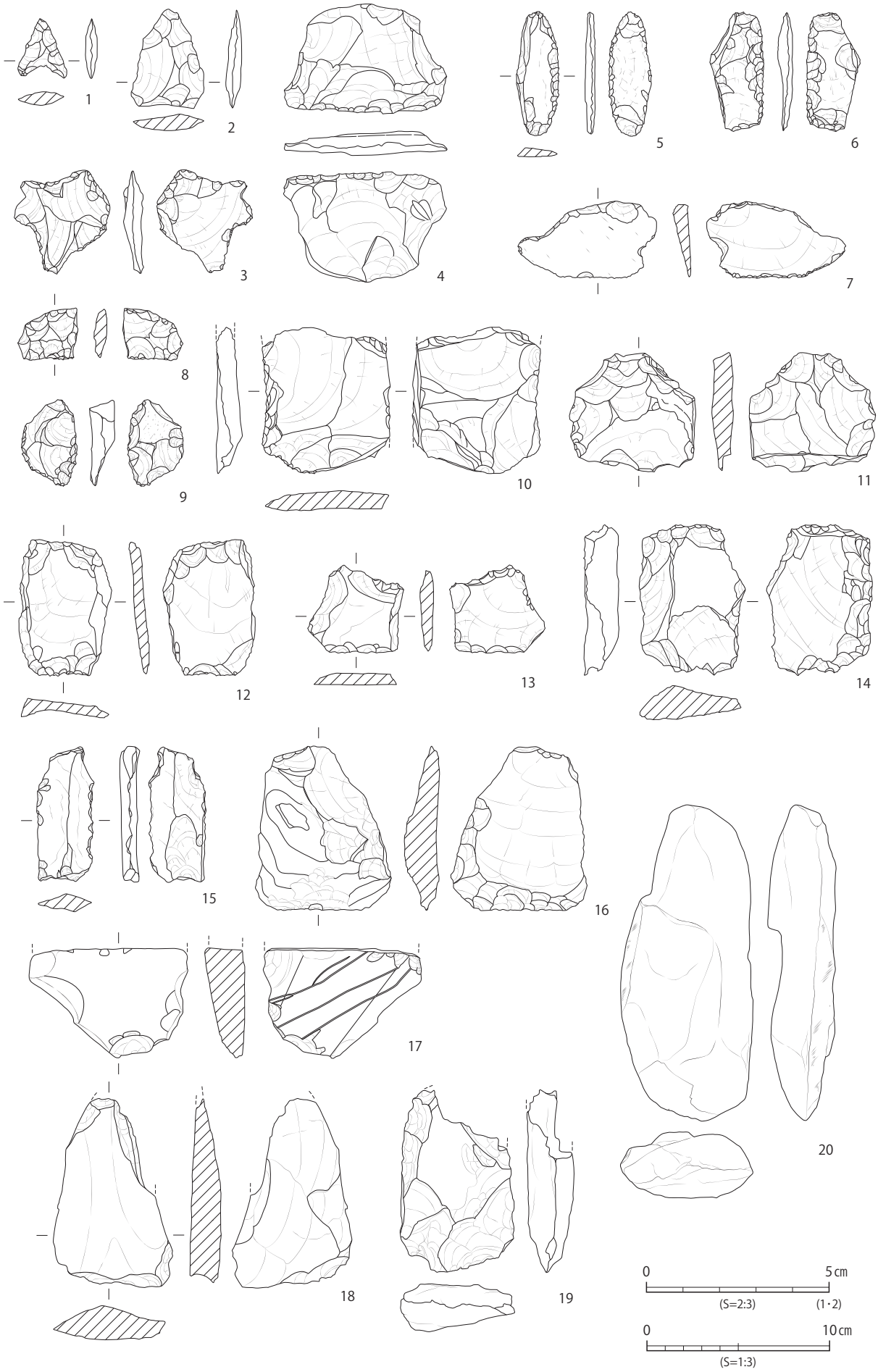
第50図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（11）（S=1:3,2:3）

石器の大部分の石材は流紋岩・デイサイト・安山岩質の火山岩で特にデイサイト・安山岩質が多く、鉱物の結晶が見えるもの（半晶質）とガラス質のものがある。磨石、打製石斧等は半晶質のもの、石鏃やスクレイパー等はガラス質のものが使用されている。玉髄はスクレイパーと敲石に、黒曜石は楔形石器に使用されている。

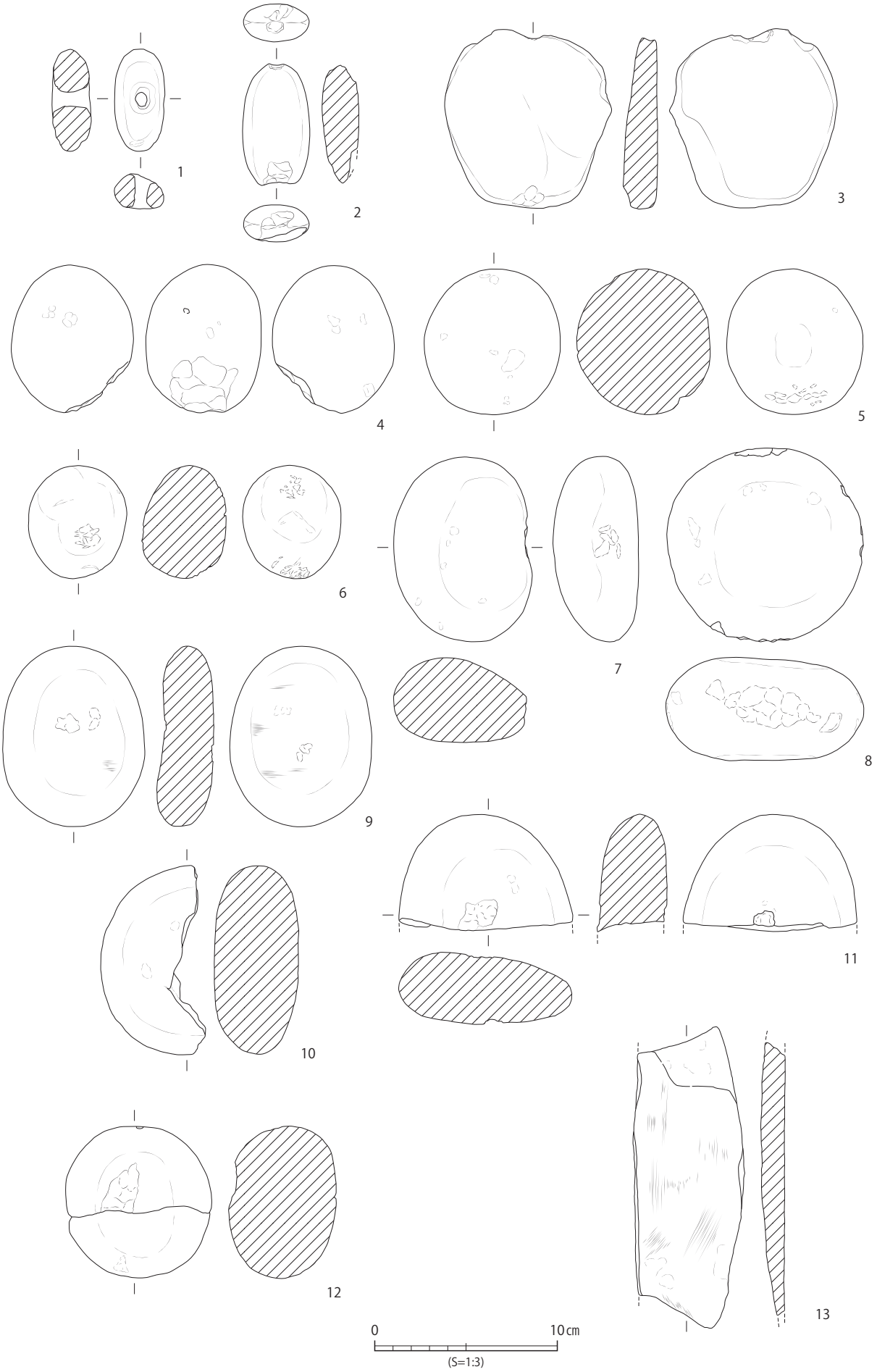
第51図１は玉髄製、２は安山岩製の石鏃である。１は抉りを持ち、表面の一部に自然面を残す。２は平基式で、剥離調整が少ない。３～６はスクレイパーである。３は２方向に剥離調整を施す。玉髄。４は横長剥片を使用し、上部に自然面を残す。刃部側が幅広で、抉入石器の退化したものか。サヌカイトか。５は横長剥片を使用し、表面に自然面を残す。右側が刃部で、左側は刃部として使用した際の微細剥離が残る。上下部の一部に両極打法の可能性がある剥離があり、楔として再利用しているか。６は縦長剥片を使用し、右側が刃部で、左側に自然面を残す。上下部は二次剥離している。楔形石器に転用しているか。７は抉入石器の可能性をもつ剥片石器である。表面は自然面で、下部は片面からの剥離で、微細剥離の可能性がある。上部には細かい敲打を行っている。８、９は楔形石器である。８は表面の一部に自然面を残す。上下部に二次剥離があり、楔形石器として使用していると考えられる。右側は破面。９は黒曜石で、裏面の一部に自然面を残す。左右に二次剥離がある。10～14は二次加工のある剥片（RF）である。10は石鎌をスクレーパーに再利用しているか。11は横長剥片を使用し、上部と右側に自然面を残す。12は下部に二次加工により刃部を作り出しているか。剥片の可能性もある。13は表面に自然面を残す。上下部に両面からの二次加工がある。14は二次加工のある剥片である。表面に自然面を残す。15は使用痕のある剥片（UF）で、右側に微細剥離を持つ。表面は自然面を残す。

16～20は打製石斧である。16は上部と表面に自然面を残す。風化した白色面が残る。サヌカイトで、石核の可能性もある。17は上部が欠損し、両面とも自然面を残す。裏面には節理が３～４条明瞭に見える。縁辺をわずかに剥離し、大部分は自然面を残す。未製品の可能性があり、打製石斧の素材としては規模が小さいか。18は表面に自然面を残し、裏面は欠損する。右下端に使用痕と考えられる摩滅がある。下部は刃部にするために剥離しているが、明確でない。19は上部が欠損する。全体に雑な剥離で、両面に自然面を残す。流紋岩。20は刃部がはっきりせず、やや丸みを持つ。左右両端には擦痕状の跡がある。

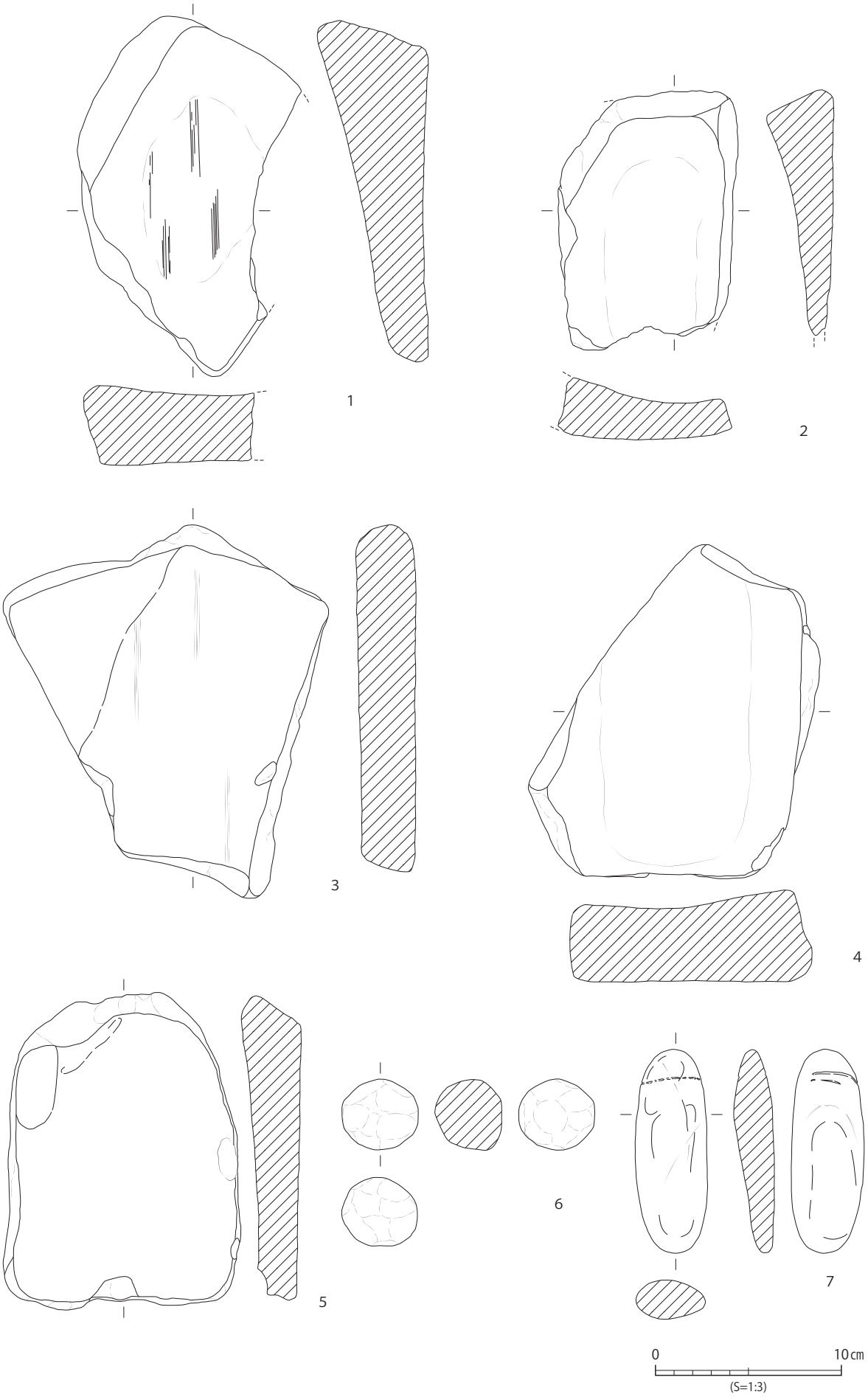
第52図１は軽石製の浮子である。長さ5.6㎝、幅2.7㎝、重さ6gで、楕円形の中央に径7㎜程度の円孔が開く。２、３は二方向打ち欠きの石錘である。扁平な石材を使用している。２は長楕円形の上下部を打ち欠いている。３は上部に、両面からの打ち欠きによる抉部を設け、下部は片面からのみ打ち欠く。４～６は球状を呈する敲石で、完形である。４は４×4.5㎝の範囲に敲打痕が残る。５は径7.5㎝を測り、表面の１カ所に敲打痕が残る。６は玉髄製で、表面の３カ所に敲打痕が残る。７～12は磨石である。７は完形で残り、両面が磨滅している。右側面に敲打痕が残る。裏面は被熱し、煤が付着する。８は扁平で、両面の中央が磨滅し、凹む。側面は最大幅2.5㎝で、全体に敲打痕があり、敲石としても使用している。９は扁平で、完形である。両面の中央部が磨滅し、一部に敲打痕が残る。10、11は下部が半分欠損する。10は両面とも磨滅している。側面の一部に敲打痕がある。11は扁平で、表面全体が磨滅し、両面とも中央１～２㎝の範囲に敲打痕があり、凹む。12は二つに割れた石材が接合し、球状を呈する。表面全体が磨滅し、両面中央の幅2㎝、長さ3㎝の範囲に敲打痕がある。下半分の石の表面は赤色になる。13は砥石と考えられる。厚さが1.3㎝と薄く、



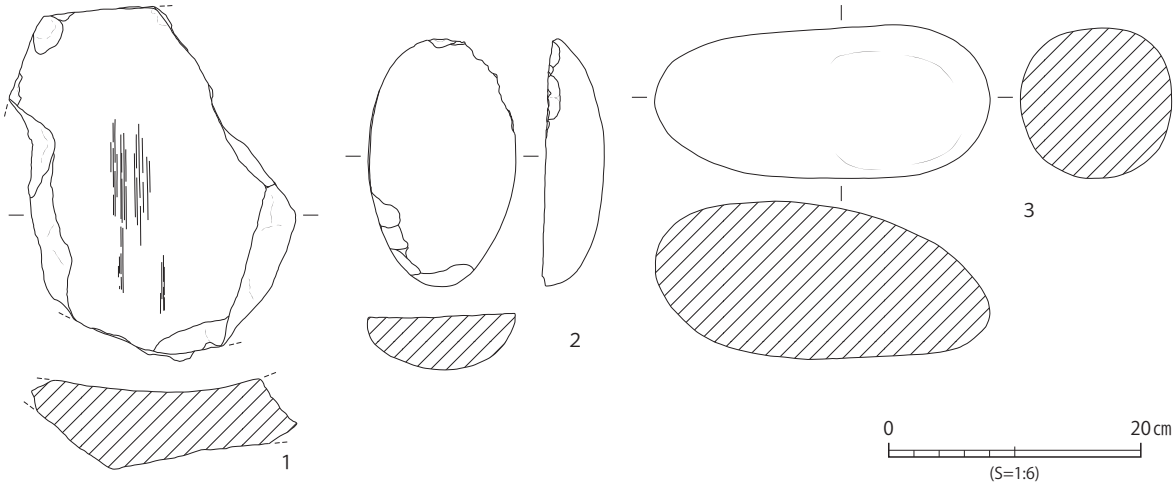
第51図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（12）（S=1:3,2:3）



第52図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（13）（S=1:3）



第53図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（14）（S=1:3）



第54図　京田遺跡３区　出土遺物実測図（15）（S=1:6）

板状を呈し、上下部は欠損する。表面には擦痕が多く残る。裏面は自然面である。

第53図１～５、第54図１は石皿である。第53図１は表面が磨滅し、特に、中央部の磨滅が著しく、凹む。２は左側と下部が欠損している。表面のみ磨滅し、凹む。３は表面が磨滅し、裏面は磨滅せず、片面のみ使用されている。４は両面とも磨滅し、表面は少し凹む。５は両面とも磨滅している。第54図１は長さ28.2㎝、幅21.0㎝と大型であるが、両側は欠損している。表面は磨滅が著しく凹む。裏面は自然面を残す。

第53図６、７と第54図２、３はその他の石器である。第53図６は球状を呈するが、表面に複数の平坦面を持っている。７は扁平な棒状を呈し、表面は滑らかな石材で、光沢を持つ。表面の上方に、細かな刺突を線状に打ち並べ、裏面は表面の続きの場所を線状に刻む。マジカルな性格を持っている可能性がある。第54図２は石核と考えられる大型の石材である。素材を半分に割っているため裏面は破面となる。上部端部に剥離調整を行う。表面は自然面を残す。３は丸みを持つ約5.6㎏の大型の自然石である。周囲にはこれほど丸みのある大きな石材がなく、遺跡に持ち込まれた可能性がある。表面は滑らかである。

第３節　小結

京田遺跡３区からは標高約12ｍで、ピット４基、土坑２基を検出し、縄文時代後期中葉の沖丈式から権現山古段階を中心とした縄文土器、土製品、骨角器、石器が出土した。九州系の小池原上層式や関東系の加曽利Ｂ式系の土器、黒曜石、サヌカイトの可能性がある安山岩が出土し、外部との交流が行われていることが判明した。

土坑は石囲炉や廃棄土坑と考えられ、明確な建物跡は検出できなかったが、周辺に集落等が存在した可能性が高い。出雲平野では縄文時代の遺跡が確認されることは少なく、縄文時代の集落の立地や構造を検討していくうえで貴重な資料となった。

第7表　京田遺跡3区出土遺物観察表（縄文土器・須恵器）

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
35-1	44		5トレンチ 灰色粘土	縄文土器	深鉢	底径 (5.8)	4㎜以下の砂粒を多く含む	灰白色 黄灰色	ナデ ナデ	良好	内面は被熱し黒変する凹底	
35-2	44		6トレンチ 灰色粘土	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい褐色～橙色 にぶい橙色	ナデ ナデ	良好	外面口縁部、内面に煤付着	
35-3	44		6トレンチ 灰色粘土	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙～灰黄褐 にぶい黄橙～灰黄褐	ミガキ沈線文、縄文、穿孔 ミガキ	良好	口縁端部の一部に煤付着	布勢式
39-1	44	SK05		縄文土器	鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰黄色 灰白色	刺突、沈線末端刺突、ミガキ ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	権現山古段階
39-2	44	SK05	1層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	黄灰色 暗灰黄色	ナデ ナデ	やや不良		
39-3	44	SK05		縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	褐灰色 褐灰色	巻貝条痕、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好		
39-5	44	SK06		縄文土器	浅鉢		2㎜以下の砂粒を含む	灰黄色 黄灰色	沈線、縄文（RL）、ナデ ナデ	良好	磨消縄文	沖丈式
39-6	44	SK06	1層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰黄色 灰黄色	波状文沈線、縄文（LR）、ナデ ナデ	良好		沖丈式
39-7	44	SK06		縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	黄褐色 黄褐色	沈線、結節縄文(RL) ナデ	良好	磨消縄文 結節縄文口縁	沖丈式か
39-8	44	SK06		縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄色 灰黄色	沈線、縄文、ミガキ ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
39-9	44	SK06		縄文土器	深鉢		2㎜の砂粒を少し含む	褐灰色 褐灰色	5条沈線、縄文、ミガキ ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
39-10	44	SK06		縄文土器	鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 褐灰色	沈線、結節縄文、ナデ ミガキ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
39-11	52	SK06	4-2層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	黒褐色～橙色 黒褐色～灰黄色	ミガキ、沈線内刺突、結節縄文、沈線、末端刺突 ミガキ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
39-12	44	SK06	1層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄色 灰白色	縄文（RL）、沈線、ミガキ ナデ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
39-13	44	SK06		縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい橙色 灰黄色	3本撚り異節縄文 ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
39-14	44	SK06		縄文土器	深鉢		1㎜以下の色砂粒を多く含む	にぶい黄色 灰黄色	沈線内刺突、ナデ、沈線 ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
39-15	44	SK06	1層	縄文土器	鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰白色 灰黄色	縄文 ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
39-16	44	SK06	1層	縄文土器	深鉢		0.5～1㎜の砂粒を多く含む	灰白色 灰白色	縄文 ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
39-17	44	SK06	1層	縄文土器	深鉢		2㎜以下砂粒を含む	浅黄橙色 色灰白色	ナデ、縄文 ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
39-18	52	SK06	1層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	灰白色～灰黄褐色 灰白色～褐灰色	巻貝条痕、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好		
39-19	44	SK06	1層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	黄灰色～灰色 灰黄色～黄灰色	ナデ、巻貝条痕 ナデ	良好		
39-20	44	SK06	1層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の細砂粒を多く含む	にぶい黄色 灰黄色	巻貝条痕 ナデ	良好		
39-21	44	SK06	1層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	橙色～にぶい黄橙色 橙色～にぶい黄橙色	巻貝条痕 ナデ	良好	口縁内面肥厚 指頭圧痕土器	
39-22	44	SK06	1層	縄文土器	注口土器		2㎜以下の砂粒を含む	灰色 灰色	クシ状工具による細沈線文 ナデ、ケズリ	良好		加曽利B式系
39-23	52	SK06		縄文土器	深鉢	底径 7.0	0.5～2㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色～黒褐色 灰黄褐色～黒褐色	調整不明 調整不明	良好	平底、底面圧痕多い	
40-1	45		表採	須恵器	甕		1㎜以下の砂粒を少し含む	褐灰色	タタキ タタキ	良好		
40-2	45		3層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	褐灰色 褐灰色	縄文、沈線、ナデ ナデ	良好		
40-3	45		3層	縄文土器	深鉢		1㎜程度の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄褐色	調整不明 調整不明	良好	外面3条の凹線文	宮滝式併行
40-4	45		4-2層	縄文土器	深鉢		1～2㎜の砂粒を多く含む	灰褐色 灰褐色	縄文、沈線 不明	良好		中津式
40-5	45		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰白色 黄灰色	縄文（RL） ナデ	良好		暮地式
40-6	45		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	沈線、縄文（RL）、ナデ ナデ	良好	2条以上の沈線	暮地式
40-7	45		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	縄文(RL)、沈線 ナデ	良好	突起あり	暮地式
40-8	45			縄文土器	鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄色 浅黄橙色	刻み目刺突、沈線、縄文（RL）、ミガキ ナデ	良好		暮地式
40-9	45		4-2層	縄文土器	深鉢		0.5～1㎜の砂粒を少量含む	にぶい黄橙色 黄灰色	沈線、縄文（RL） ナデ	良好		暮地式

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
40-10	45		４層	縄文土器	深鉢		0.5 ～ 1㎜の砂粒を多く含む	橙色 にぶい黄橙色	縄文、沈線、ナデ ナデ	良好		暮地式
40-11	45		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	浅黄橙色 灰白色	縄文、沈線 調整不明	良好	口縁上面直下に沈線	暮地式
40-12	45		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	灰黄色 浅黄橙色	ナデ、沈線 ナデ	良好	口縁上面に沈線	暮地式または布勢式か
40-13	45		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下砂粒を多く含む	橙色 にぶい橙色	沈線、縄文かナデ	良好	口縁上面に沈線	暮地式
40-14	45		４層	縄文土器	浅鉢か		0.5㎜以下の砂粒を少量含む	にぶい黄橙色 褐灰色	縄文（RL）、沈線ナデ	良好	焼成前穿孔	暮地式
40-15	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	にぶい黄橙色 灰黄色	縄文（RL）、沈線 ナデ	良好		暮地式
40-16	45		４層	縄文土器	浅鉢		1㎜の砂粒を含む	灰白色 黄灰色	沈線、縄文（RL）、ナデまたはミガキ ナデ	良好		暮地式
40-17	45		４層	縄文土器	鉢か		3㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色～黒色 黒色	ナデ、沈線、縄文（RL） ナデ	良好	内面稜あり	暮地式
40-18	45		４層	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 灰白色	縄文（RL）、沈線、ミガキ ナデ	良好	水平口縁？磨消縄文	暮地式
40-19	45		４層	縄文土器	深鉢		4㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 灰白色	巻貝条痕、ナデ ナデ	良好	突起	布勢式
40-20	45		4-2層	縄文土器	深鉢		1 ～ 2㎜の砂粒を多く含む	暗灰黄色 暗灰黄色	縄文（RL）、沈線、刻目、ナデ ミガキ	良好	波状口縁または突起	布勢式
40-21	45		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	ナデ、沈線 ナデ	良好		崎ヶ鼻２式
40-22	45		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	沈線、縄文（RL）、ナデ ナデ	良好	緩波状口縁	沖丈式
40-23	45		4-2層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	暗灰黄色 灰黄色	沈線、縄文（LR） ナデ	良好	波状摩消縄文系口縁	沖丈式
40-24	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色～黒色	沈線、縄文（RL） ミガキ	良好	波状摩消縄文系口縁	沖丈式
40-25	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 黒色	沈線、縄文（LR） 調整不明	良好	波状摩消縄文系口縁	沖丈式
40-26	45		４層	縄文土器	深鉢		0.5 ～ 1㎜の砂粒を多く含む	灰黄色 灰黄色	縄文(RL？)、沈線、ナデ ナデ	良好	摩消縄文系口縁	沖丈式
40-27	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を少量含む	灰黄褐色 灰黄褐色	縄文（RL）、沈線 ナデ	良好		沖丈式
40-28	45		４層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	黄灰色 浅黄色	縄文（RL）、沈線、弧状文 ミガキ	良好	波状摩消縄文系口縁	沖丈式
40-29	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を少し含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	沈線 ナデ、二枚貝条痕	良好	摩消縄文系口縁	沖丈式
40-30	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	灰黄色 黒褐色	磨消縄文、ナデ、沈線 ナデ	やや不良	波状摩消縄文系口縁	沖丈式
40-31	45		４層	縄文土器	深鉢		0.5㎜の砂粒を少し含む	灰黄褐色 黒褐色	縄文（RL）、沈線 不明	良好	摩消縄文系口縁	沖丈式
40-32	45		４層	縄文土器	深鉢		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	黒褐色 にぶい黄橙色～灰黄褐色	ナデ、縄文、巻貝による沈線 ナデ	良好	波状口縁	沖丈式～権現山古段階
40-33	45		４層	縄文土器	深鉢		0.5 ～ 1㎜の砂粒を含む	灰黄褐色 浅黄色	沈線、縄文（LR）、ナデ ナデ	やや不良	磨消縄文	沖丈式～権現山古段階
40-34	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	黒褐色 黒褐色	ナデ、縄文（LR）、沈線 ナデ	良好	波状口縁、磨消縄文	沖丈式～権現山古段階
40-35	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	灰黄色 黒褐色	縄文（RL）、沈線 ナデ	良好	波状口縁	沖丈式～権現山古段階
40-36	45		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	褐灰色 黒褐色	沈線、縄文（RL） ナデ	良好	波状口縁	沖丈式～権現山古段階
40-37	45		４層	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 褐灰色	ナデ、沈線、縄文（RL） ナデ	良好	波状摩消縄文系口縁	沖丈式～権現山古段階
40-38	45		４層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰白色～黄灰色 灰白色～灰色	沈線、縄文（LR）か、ナデ ナデ	良好	波状摩消縄文系口縁	沖丈式～権現山古段階
40-39	45		４層	縄文土器	深鉢か		1㎜以下の砂粒を含む	灰白色 灰白色	細沈線 ナデ	不良		沖丈式～権現山古段階
40-40	45		４層	縄文土器	深鉢		2.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄色～黄灰色 灰黄色～黄灰色	沈線、ナデ ナデ	良好	波状口縁	沖丈式～権現山古段階
40-41	45		４層	縄文土器	深鉢か		1 ～ 2㎜の砂粒を含む	黒褐色 黒色	縄文（LR）、ナデ ナデ	良好	波状口縁	沖丈式～権現山古段階
41-1	46		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい褐色 黒褐色	沈線、縄文（RL）、ナデ ナデ	良好	摩消縄文系口縁	権現山古段階
41-2	46		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 灰黄褐色	縄文（LR）、沈線内刺突、刻目 ナデ	良好	摩消縄文系口縁	権現山古段階
41-3	46		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	刺突文、沈線、ミガキ、ナデ、縄文（RL） ナデ	良好	摩消縄文系口縁	権現山古段階

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
41-4	46		4層	縄文土器	深鉢		5㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 黒褐色	直線文、ナデ、二枚貝刺突文 ナデ	良好	摩消縄文系口縁	権現山古段階
41-5	46		4層	縄文土器	深鉢		0.5㎜以下の砂粒を含む	黄灰色～灰白色 黒褐色	沈線、疑似縄文 ナデ	良好	波状摩消縄文系口縁	権現山古段階
41-6	46			縄文土器	深鉢		1～2㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄褐色	沈線、縄文（RL？）、ナデ ナデ	不良	摩消縄文系口縁	権現山古段階
41-7	46		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	ナデ、斜線文、連弧文 ナデ	良好	水平 摩消縄文系口縁	権現山古段階
41-8	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	沈線、縄文(RL) ナデ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-9	46		4層	縄文土器	深鉢		0.5㎜の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 黒色	沈線内刺突 ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-10	52		4層	縄文土器	深鉢		0.5㎜以下の砂粒を含む	灰黄色 オリーブ黒色	沈線、縄文（RL）、ナデ ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-11	46		4層	縄文土器	深鉢		4㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	疑似羽状文（RL）、ミガキ 巻貝条痕、ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-12	46		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下砂粒を多く含む	灰白色 黄灰色	ナデ、沈線、縄文(RL) ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-13	46		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下砂粒を含む	灰色 灰色	沈線、縄文（RL） ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-14	46		4層	縄文土器	深鉢		0.5㎜以下の砂粒を少し含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	縄文撚り戻し、沈線 ナデ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-15	46		4層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下砂粒を多く含む	にぶい黄橙～褐灰色 灰黄褐色	縄文（LR）、沈線、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-16	46		4-2層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	にぶい黄橙色、橙色 にぶい黄橙色	沈線内刺突、沈線、結節縄文 ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式
41-17	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	褐灰色 灰白色	疑似縄文、沈線内刺突 ナデ	やや不良	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-18	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の白色砂粒を多く含む	黒褐色	沈線、縄文（RL） ミガキ	良好	外面赤彩（ベンガラ） 摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-19	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	褐灰色	縄文（RL）、沈線 ミガキ	良好	外面赤彩（ベンガラ） 摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-20	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	褐灰色 褐灰色	疑似羽状縄文（RL）、沈線 ミガキ、ナデ	良好	外面赤彩（ベンガラ） 摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-21	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	灰褐色 灰褐色	沈線、縄文（RL） 不明	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-22	46		4層	縄文土器	深鉢		0.5㎜の砂粒を少し含む	にぶい褐色 灰黄褐色	縄文（RL）、沈線末端刺突 ナデ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-23	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	黒褐色 灰黄褐色	沈線、刺突文、ナデ ナデ	良好	内外面に黒変 摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-24	46		4層	縄文土器	深鉢		2㎜前後の砂粒を多く含む	灰黄褐色～黒褐色 灰黄褐色～黒褐色	刺突、沈線、ナデ ナデ？	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-25	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 黒色	沈線、縄文（RL）、ミガキ ミガキ	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
41-26	46		4層	縄文土器	深鉢か		1～3㎜大の砂粒を含む	灰白色 黄灰色	羽状文、ナデ ナデ、巻貝条痕、ケズリ様調整	良好	摩消縄文系胴部文様	沖丈式～ 権現山古段階
42-1	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	にぶい黄橙色 黒褐色～褐灰色	ナデ、沈線、結節縄文（RL） ミガキ	良好	波状結節縄文口縁	沖丈式
42-2	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の微砂粒を多く含む	灰黄褐色 黒褐色	ミガキ、結節縄文、押引状の沈線 ミガキ	良好	波状結節縄文口縁	沖丈式
42-3	46		4-2層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	沈線、沈線内刺突、ナデ ナデ	やや不良	結節縄文口縁	沖丈式
42-4	46		4層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄褐色	沈線、結節縄文(LR) ナデ	良好	波状結節縄文口縁	沖丈式
42-5	46		4層	縄文土器	深鉢		1～2㎜以下の砂粒を多く含む	灰白色～黒褐色 灰白色	付加条縄文、ナデ 不明	良好	煤付着 結節縄文口縁	権現山古段階
42-6	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰白色	縄文（LR＋R）、ナデ、刺突？ ナデ	良好	結節縄文口縁	権現山古段階
42-7	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を少し含む	にぶい黄橙色 灰白色	結節縄文 ナデ	良好	結節縄文口縁	権現山古段階
42-8	46		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を少し含む	灰白色 にぶい黄橙色	ナデ ナデ、結節縄文	良好	結節縄文口縁	権現山古段階

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
42-9	46		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	黄灰色 灰白色	沈線内刺突、縄文、沈線 ナデ	やや不良	結節縄文胴部	沖丈式
42-10	46		４層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄色	結節縄文（LR）、沈線内刺突 調整不明	良好	結節縄文胴部	沖丈式
42-11	46		４層	縄文土器	深鉢		１～２㎜の砂粒を多く含む	灰黄色 灰白色	沈線、結節縄文(LR) 調整不明	やや不良	結節縄文胴部	沖丈式
42-12	46		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	褐灰色 灰白色	ナデ、結節縄文(LR)、沈線 ナデ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-13	46		4-2層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	灰白色 褐灰色	結節縄文（LR＋R）、ナデ、沈線 ナデ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-14	46		４層	縄文土器	浅鉢		0.5㎜の砂粒を含む	灰白色 灰黄色	ナデ、沈線、縄文 ナデ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-15	46		４層	縄文土器	深鉢		0.5㎜の砂粒を少し含む	褐灰色 褐灰色	結節縄文、ナデ ナデ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-16	46		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	結節縄文 ナデ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-17	46		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 灰黄色	結節縄文（RL）、ナデ ナデ、ケズリ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-18	46		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を少し含む	灰褐色 灰褐色	結節縄文（LR） ナデ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-19	46		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色～褐灰色 にぶい黄橙色～褐灰色	付加条縄文（LR＋R）、ナデ ナデ	良好	結節縄文胴部	権現山古段階
42-20	51		４層	縄文土器	深鉢		1㎜程度の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 灰褐色	結節縄文（RL）、ナデ、複節 ナデ	良好	外面胴部に5段の結節縄文	権現山古段階
42-21	46		４層	縄文土器	鉢		1㎜の砂粒を多く含む	褐灰色 黒褐色	縄文、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好	胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
42-22	46		４層	縄文土器	鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色～褐灰色 灰黄褐色	縄文(RL)、沈線 調整不明	良好	胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
42-23	46		４層	縄文土器	鉢		2㎜大の砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	沈線、疑似縄文 ナデ	やや不良	穿孔、胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
42-24	46		４層	縄文土器	鉢か		3㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄褐色	ナデ、沈線、刻目 ナデ	良好	胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
42-25	46		４層	縄文土器	鉢		1㎜程度の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	縄文（RL）、沈線 風化	良好	外面赤彩（ベンガラ） 胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
42-26	47		４層	縄文土器	鉢		1㎜～２㎜の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	縄文（RL）、沈線、斜線文 ナデ	良好	磨消縄文 胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
42-27	47		４層	縄文土器	鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む。３～４㎜のものも少量含む	黒褐色 灰黄色	沈線ナデ ナデ	良好	胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
42-28	47		４層	縄文土器	鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄色 灰黄色	縄文(LR)、沈線、ナデ ナデ、巻貝条痕	良好	胴部屈の器形	沖丈式～権現山段階
43-1	47		４層	縄文土器	深鉢		0.5～１㎜の砂粒を多く含む	褐灰色 褐灰色	縄文（LR）、ナデ ナデ	良好	縄文口縁	権現山古段階
43-2	47		４層	縄文土器	深鉢	口径（17.8）	3㎜以下の砂粒を含む	灰黄色 灰白色	縄文 ナデ	良好	縄文口縁	権現山古段階
43-3	47		４層	縄文土器	深鉢		0.5㎜の砂粒を少し含む	灰黄色 灰黄色	縄文（RL）、ナデ ナデ	良好	縄文口縁	権現山古段階
43-4	47		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	浅黄橙色 にぶい黄橙色	縄文（RL）、ナデ ミガキ？	良好		沖丈式～権現山古段階
43-5	47		４層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄色	縄文、ナデ ミガキ	良好		沖丈式～権現山古段階
43-6	47		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を少し含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	縄文、ナデ ナデ	良好	外面赤彩（ベンガラ）	沖丈式～権現山古段階
43-7	47		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	黄灰色 黄灰色	縄文（RL）、ナデ ナデ	良好		沖丈式～権現山古段階
43-8	47		４層	縄文土器	深鉢		１～２㎜の砂粒を含む	灰白色 灰白色	縄文（RL）、ナデ ナデ	良好		沖丈式～権現山古段階
43-9	47		４層	縄文土器	深鉢		１～２㎜の砂粒を含む	灰白色～灰色 灰色	縄文（RL）、ナデ ナデ	良好		沖丈式～権現山古段階
43-10	47		4-2層	縄文土器	深鉢		１～２㎜の砂粒を含む	灰黄色～黄灰色 灰黄色	縄文（RK）、ナデ ナデ	良好		沖丈式～権現山古段階
43-11	47		４層	縄文土器	深鉢		１～３㎜の砂粒を含む	灰白色 灰白色	縄文（RL）、ナデ ナデ	良好		沖丈式～権現山古段階
43-12	47		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄色	縄文、ナデ ナデ？	良好		沖丈式～権現山古段階
43-13	47		４層	縄文土器	深鉢		１～３㎜以下の砂粒を含む	黄灰色 灰黄褐色～浅黄橙色	縄文（RL）、ナデ 不明	良好	穿孔	沖丈式～権現山古段階
43-14	51		４層	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒含む	にぶい黄橙色 褐灰色	ナデ、縄文(RL) 沈線、縄文（RL）、ミガキ	良好	穿孔、波状口縁	沖丈式～権現山古段階
43-15	47		４層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	褐灰色 にぶい黄褐色	ナデ 縄文(RL)、沈線、ミガキ	良好		沖丈式～権現山古段階

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
43-16	47		4層	縄文土器	浅鉢		1㎜の砂粒を多く含む	にぶい橙色～褐灰色 褐灰色	ミガキか 沈線内刺突、ミガキ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-17	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜前後の砂粒を少し含む	灰黄褐色～黒褐色 灰黄褐色	沈線、刺突、ナデ 刺突、ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-18	47		4層	縄文土器	深鉢		1～3㎜の砂粒を多く含む	褐灰色 褐灰色～浅黄色	巻貝条痕、ナデ 刻目、二枚貝条痕、沈線、ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-19	47		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色～橙色	ナデ、沈線、刻み目 ナデ?	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-20	47		4層	縄文土器	深鉢		0.5～1㎜の砂粒を多く含む	灰色 灰白色	ミガキ ミガキ、沈線内刺突	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-21	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜前後の砂粒を少し含む	浅黄色 灰黄色	ナデ 沈線、ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-22	47		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下砂粒を多く含む	にぶい黄橙～褐灰色 にぶい黄橙色	ナデ、沈線 ナデ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-23	47		4層	縄文土器	深鉢		0.5～1㎜の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 黒褐色	ナデ、刺突文 ミガキ	良好		沖丈式～ 権現山古段階
43-24	47		4層	縄文土器	鉢		1㎜の砂粒を含む	暗灰黄色 にぶい黄色	斜行細沈線、ナデ ナデ	良好	多条垂下沈線文	
43-25	47		3層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄色 黄灰色	多条垂下細沈線、巻貝条痕 ナデ	良好	多条垂下沈線文	崎ヶ鼻1式か
43-26	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰褐色 にぶい黄褐色	ナデ、沈線、縄文（RL） ナデ	良好		縄文地
43-27	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を少し含む	褐灰色 褐灰色	縄文（RL）、ナデ ナデ	良好		縄文地
43-28	47			縄文土器	深鉢		砂粒を多く含む	にぶい橙色～灰黄褐色 褐灰色～灰白色	縄文（3本撚り） ナデ	やや不良	内面被熱	縄文地
43-29	47		4層	縄文土器	鉢		砂粒多く含む(長石多い)	にぶい黄橙 にぶい黄橙	縄文細かい多条撚り ナデ	良好	器壁薄い	縄文地
43-30	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	灰白色 褐灰色	縄文（撚糸状?） ナデ	良好		縄文地
43-31	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	灰黄色 灰白色	疑似羽状文（RL）、ナデ ナデ	良好		縄文地
43-32	51		4層	縄文土器	深鉢		1～2㎜の砂粒を含む	灰黄色 灰黄色～にぶい橙色	縄文 ナデ	良好		縄文地
43-33	47		4層	縄文土器	深鉢		0.5㎜の砂粒を少し含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ナデ、沈線、疑似羽状縄文（RL） ナデ	良好		縄文地
43-34	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色 褐灰色	疑似羽状縄文 ナデ	良好	外面赤彩（水銀朱か）	縄文地
43-35	51		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	黄灰色 灰黄色	疑似羽状縄文（RL）、巻貝条痕、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好		縄文地
44-1	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐～褐灰色 黒褐色	疑似羽状縄文（RL） 巻貝条痕	良好		縄文地
44-2	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を少し含む	灰黄褐色 灰黄褐色	縄文（RL）、疑似羽状縄文 ナデ	良好		縄文地
44-3	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を少し含む	灰黄褐色 褐灰色	ミガキ、疑似羽状縄文 ミガキ?	良好		縄文地
44-4	47		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	疑似羽状縄文 ナデ	良好		縄文地
44-5	47		4層	縄文土器	鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 黒褐色	縄文（RL）、ミガキ ミガキ	良好	外反口縁	
44-6	47		4層	縄文土器	鉢		1～2㎜の砂粒を含む	褐灰色 灰黄色	ナデ ナデ	良好	外反口縁	
44-7	47		4層	縄文土器	鉢		1～2㎜の砂粒を含む	にぶい黄褐色 灰黄褐色	沈線、ナデ ケズリ	良好	外反口縁	
44-8	47		4層	縄文土器	鉢		1㎜の砂粒を含む	暗灰黄色 黄灰色	ナデ、ミガキ ミガキ	良好	外反口縁	
44-9	47		4層	縄文土器	鉢		1㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色～にぶい橙色 褐色	縄文（RL）、ミガキ ミガキ	良好	外反口縁	
44-10	47		4層	縄文土器	浅鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰白色 灰白色	ナデ、刻目 ナデ	良好	外反口縁	暮地式か
44-11	47		4層	縄文土器	浅鉢		1㎜の砂粒を含む	にぶい黄橙色 黒色～灰白色	ミガキ、ナデ、斜行短沈線 ナデ?	良好	外反口縁	暮地式か
44-12	47		4-2層	縄文土器	浅鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄色 灰白色	ミガキ ミガキ、ナデ	良好	半円形突起	
44-13	47		4層	縄文土器	注口土器		1㎜以下の砂粒を含む	灰オリーブ色 灰白色	ナデ、凹点文 ナデ	良好	突起	沖丈式～ 権現山段階
44-14	47		4層	縄文土器	注口土器	口径（10.4）	2㎜以下の砂粒を含む	灰白色 灰黄色	凹点文 ミガキ、ケズリ	良好		沖丈式～ 権現山段階
44-15	47		4層	縄文土器	注口土器		1㎜以下の砂粒を含む	灰白色 灰白色	ナデ、沈線文 ナデ	良好	注口	沖丈式～ 権現山段階
44-16	47		4層	縄文土器	注口土器		1㎜以下の砂粒を含む	浅黄橙色 灰白色	沈線 ナデ	良好	把手	沖丈式～ 権現山段階
44-17	47		4層	縄文土器	注口土器		4㎜以下の砂粒含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ナデ	良好	注口	沖丈式～ 権現山段階

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
44-18	47		４層	縄文土器	注口土器		2.5㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄色	凹線文、ナデ、刻目 ナデ	良好		沖丈式～ 権現山段階
44-19	47		４層	縄文土器	注口土器		1㎜の砂粒を多く含む	にぶい橙色 にぶい橙色	刺突文、沈線、ナデ ナデ	良好		沖丈式～ 権現山段階
44-20	47		４層	縄文土器	注口土器		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	暗灰黄色 暗灰黄色	ミガキ ナデか	良好		沖丈式～ 権現山段階
44-21	47		４層	縄文土器	注口土器		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄色 ～黄灰色 黄灰色	刺突か、沈線、、状文、ナデ、ミガキ ケズリ、ナデ	良好		沖丈式～ 権現山段階
44-22	47		４層	縄文土器	注口土器か		1㎜以下の砂粒を多く含む	灰色 ～灰白色 黄灰色	沈線、ナデ、隆帯文 ナデ	良好		沖丈式～ 権現山段階
44-23	47		４層	縄文土器	深鉢		0.5 ～ 1㎜の砂粒を少量含む	灰黄褐色 黒褐色	縄文(RL)、沈線、ナデ ナデ	良好	水平口縁	沖丈式～ 権現山古段階
44-24	47		4-2層	縄文土器	深鉢か		0.5㎜の砂粒を少量含む	灰黄褐色 暗灰黄色	縄文（LR ?）、沈線 ナデ	良好	水平口縁	沖丈式～ 権現山古段階
44-25	47		4-2層	縄文土器	深鉢		0.5㎜の砂粒を少し含む	灰黄褐色 褐灰色	縄文（LLRか）、沈線文 ナデ	良好	水平口縁	沖丈式～ 権現山古段階
44-26	47			縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい褐色	ナデ、凹線 ナデ	良好		宮滝式併行
44-27	48		４層	縄文土器	注口土器		0.5㎜の砂粒を少量含む	褐灰色 褐灰色	斜線文、二枚貝による刺突、沈線 ナデ	良好		加曽利B式系
44-28	48		４層	縄文土器	注口土器		2.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	多条細沈線、ナデ ナデ	良好		加曽利B式系
44-29	48		４層	縄文土器	注口土器		1㎜以下の砂粒を含む	灰白色 灰白色	沈線、縄文（RLか） 調整不明	良好	波状口縁	加曽利B式系
45-1	48		４層	縄文土器	深鉢		1 ～ 2㎜の砂粒を含む	灰黄褐色 灰黄色	多条細沈線 ケズリ	良好		加曽利B式系
45-2	48		４層	縄文土器	鉢		1㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	凹点文、縄文(LR)、沈線文 指頭圧痕、ナデ	やや不良	波状口縁	加曽利B式系
45-3	48		４層	縄文土器	鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい橙色 褐灰色	縄文（RL）、ナデ ナデ	良好		加曽利B式系
45-4	48		４層	縄文土器	深鉢		1 ～ 2㎜の砂粒を含む	暗灰黄色 黄灰色	多条細沈線、ナデ、沈線 ケズリ	良好		加曽利B式系
45-5	48		４層	縄文土器	鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙～黒褐色 灰黄色	縄文（RL）、沈線、ナデ、ミガキ 巻貝条痕、ナデ、沈線	良好	外面赤彩	小池原上層式
45-6	48		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 黒褐色	縄文、沈線 ミガキ	良好	外面赤彩（ベンガラ）	小池原上層式
45-7	48		４層	縄文土器	深鉢		1 ～ 2㎜の砂粒を多く含む	灰白色 灰白色	沈線、縄文(RL) 沈線	良好	突起	小池原上層式
45-8	48		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	縄文（RL）、沈線 ミガキ	良好	外面赤彩（ベンガラ）	小池原上層式
45-9	48		４層	縄文土器	深鉢		1 ～ 2㎜の砂粒を多く含む	褐灰色 褐灰色	沈線、縄文 ナデ	良好		小池原上層式
45-10	48		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	幅広沈線2条、縄文（RL） ナデ	不良		小池原上層式
45-11	48		４層	縄文土器	深鉢		1 ～ 2㎜の砂粒を多く含む	にぶい橙色 灰黄色	縄文（RL）、幅広沈線 二枚貝条痕、ナデ	良好		小池原上層式
45-12	51		４層	縄文土器	深鉢	口径（35.2）	0.5 ～ 1㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色～黒褐色 灰黄褐色～黒褐色	縄文（RL）、ナデ、沈線 巻貝条痕、ナデ	良好		小池原上層式
46-1	48		4-2層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄褐色	刻目 調整不明	良好	波状口縁	
46-2	48			縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	灰褐色～暗褐色 灰褐色	巻貝条痕、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好	山形突起	
46-3	48		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 灰黄褐色	ミガキ ナデ	やや不良	波状口縁	
46-4	48		4-2層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色	二枚貝条痕、ナデ 二枚貝条痕、ナデ	良好	波状口縁	
46-5	51		４層	縄文土器	深鉢	口径（25.4）	0.5 ～ 1㎜の砂粒を含む	灰黄褐色 黒褐色	巻貝条痕、ミガキ、ナデ 巻貝条痕、二枚貝条痕、ナデ	良好	外面煤付着	
46-6	48		４層	縄文土器	深鉢		0.5 ～ 1㎜の砂粒を多く含む	灰黄色～黒褐色 灰黄色～黒褐色	二枚貝条痕 ナデ	不良	口縁端部面取り	
46-7	48		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	浅黄橙色 灰白色	調整不明 調整不明	良好	口縁に刻目	
46-8	48		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	灰色～黒褐色 黒褐色	巻貝条痕 ミガキ？	良好	口縁端部が平坦	
46-9	48		４層	縄文土器	深鉢		2㎜前後の砂粒を多く含む	灰白色 灰白色	ナデ ナデ、ケズリ	良好	接合痕明瞭	
46-10	48		４層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	条痕、ナデ 条痕、ナデ	良好	内面口縁端部凹む	
46-11	48		４層	縄文土器	深鉢		0.5㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色～褐灰色 灰黄褐色～黒褐色	巻貝条痕 ナデ	良好		

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
46-12	48		4層	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒を含む	暗灰黄色～黒色 黒色	ナデ ナデ	良好		
46-13	48		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下砂粒を多く含む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	ナデ ナデ、巻貝条痕	良好	穿孔	
46-14	48		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色～褐灰色 にぶい黄橙色～灰黄褐色	ナデ（雑な調整） ナデ	良好	口縁端部が平坦	
46-15	48		4層	縄文土器	深鉢		1～2㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄色	巻貝条痕、ナデ ナデ	良好	口唇先細	
46-16	48		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 褐灰色	ナデ ナデ	良好	口唇先細	
46-17	48		4層	縄文土器	深鉢	口径（26.0）	3㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 灰黄褐色	ナデ（雑な調整） ナデ	良好	煤付着口唇先細	
46-18	48		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 黒褐色	巻貝条痕、ナデ ナデ	良好	口唇先細	
46-19	48		4層	縄文土器	深鉢		1～2㎜の砂粒を多く含む	灰白色～黒色 灰白色～黒色	巻貝条痕、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好	穿孔口唇先細	
47-1	48		4層	縄文土器	深鉢		1～3㎜の砂粒を含む	灰白色～浅黄橙色 灰白	ナデ ナデ	不良	口唇先細	
47-2	51		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	褐灰色～にぶい黄橙色 褐灰色	調整不明 調整不明	不良	口唇先細	
47-3	48		4層	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	巻貝条痕 巻貝条痕、ナデ	良好	口唇先細	
47-4	49		4層	縄文土器	深鉢		1～2㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄褐色	巻貝条痕、ナデ ナデ	良好	口唇先細	
47-5	49		4層	縄文土器	深鉢		砂粒を殆ど含まない	灰白色 にぶい黄橙色	巻貝条痕か、ナデ 巻貝条痕か、ナデ	不良	口唇先細	
47-6	49		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を含む	黒褐色 灰黄褐色	条痕 ナデ	良好	口唇先細	
47-7	49		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	巻貝条痕後ナデ ナデ	良好	口唇先細	
47-8	49		4層	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒を含む	にぶい褐色 黒色	巻貝条痕 巻貝条痕	良好	口唇先細	
47-9	49		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	巻貝条痕、ナデ 口縁粘土貼り付け後ナデ、ナデ	良好	口縁内面肥厚	
47-10	49		4層	縄文土器	深鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	黒褐色～灰黄褐色 灰黄褐色	巻貝条痕 口縁粘土貼付け後指頭圧痕、ナデ	良好	口縁内面肥厚	
47-11	49		4層	縄文土器	深鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	橙色 橙色～にぶい褐色	調整不明 口縁粘土貼付押圧後ナデ	良好	二次的に被熱、口縁内面肥厚	
47-12	49		4-2層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	黒褐色 黒褐色	調整不明 ナデ	良好	口縁内面肥厚	
48-1	49		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ナデ ナデ	良好	口縁内面肥厚	
48-2	49		4層	縄文土器	深鉢		1㎜の砂粒を多く含む	灰黄褐色 にぶい黄橙色～褐灰色	巻貝条痕、ナデ ナデ	良好	口縁内面肥厚	
48-3	49		4層	縄文土器	深鉢		1～2㎜程度の砂粒を多く含む	灰色～黄灰色 灰黄褐色～灰褐色	巻貝条痕、ナデ ナデ	良好	口縁内面肥厚	
48-4	49		4層	縄文土器	深鉢		3㎜以下の砂粒を含む	橙色 橙色	ナデ ナデ	良好		
48-5	49		4層	縄文土器	深鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	灰黄褐色 黒褐色	巻貝条痕 巻貝条痕	良好		
48-6	49		4層	縄文土器	深鉢		2㎜の砂粒を含む	灰白色 黄灰色	二枚貝条痕 二枚貝条痕	良好		
48-7	49		4層	縄文土器	鉢		1～2㎜の砂粒を含む	灰黄色 灰黄褐色	ナデ、二枚貝条痕？ ナデ	良好		
48-8	49		4層	縄文土器	浅鉢	口径（18.6）	砂粒をほとんど含まない	灰白色 灰白色	ミガキ ミガキ	良好		暮地式か
48-9	49		4層	縄文土器	鉢		1.5㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	沈線、ナデ ナデ	良好	外反口縁	
48-10	49		4層	縄文土器	鉢		2㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ナデ ミガキ、ケズリ	良好	外反口縁	
48-11	49		4層	縄文土器	鉢		2㎜の砂粒少し含む	黄灰色 灰白色	ナデ ナデ	不良	内外丁寧な調整、口縁先細	
48-12	49		4層	縄文土器	浅鉢	口径（11.6）	1.5㎜以下砂粒を多く	にぶい黄橙色 灰黄色	指頭圧痕、ナデ ナデ	良好		
48-13	49		4層	縄文土器	浅鉢	口径（15.8）	1㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄色 浅黄色	ミガキ ミガキ	良好		
48-14	49		4層	縄文土器	浅鉢		1㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ミガキ ミガキ	やや不良		
48-15	51		4層	縄文土器	浅鉢		2㎜以下の砂粒を含む	灰褐色 にぶい黄橙色	調整不明 丁寧なナデ	良好		
48-16	49		4層	縄文土器	浅鉢		1㎜以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色～褐灰色 にぶい黄橙色～にぶい黄褐色	巻貝条痕、ナデ 巻貝条痕、ナデ	良好	口縁端部が平坦	
48-17	49		4層	縄文土器	浅鉢	口径（42）	2㎜以下の砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	ナデ ナデ	良好		
48-18	49		4層	縄文土器	浅鉢		1㎜前後の砂粒を多く含む	灰黄褐色 灰黄褐色～黒褐色	調整不明 調整不明	良好	内面赤彩（水銀朱）	
48-19	49		4層	縄文土器	浅鉢		2㎜以下砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 黒褐	ナデ ミガキ	良好	内面赤彩（水銀朱）	

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	法量（cm）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考	形式・時期
48-20	49		４層	縄文土器	浅鉢		2mm以下砂粒を多く含む	灰黄～灰黄色 灰黄褐色	縄文（LR） ケズリか	良好	内面赤彩（水銀朱）	
48-21	49		４層	縄文土器	浅鉢		1.5mm以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 灰黄色	ナデ ナデ	良好		
48-22	49		４層	縄文土器	浅鉢		3mm以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 浅黄色	縄文（LRか） ナデ	良好		
49-1	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（6.4）	2mm以下の砂粒を含む	橙色 灰黄褐色	調整不明 調整不明	良好	平底	
49-2	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（6.4）	3mm以下の砂粒を含む	橙色 黒色	調整不明 調整不明	良好	平底	
49-3	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（9.2）	1～3mm程度の砂粒を含む	黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	平底	
49-4	50		４層	縄文土器	深鉢	底径9.0	4mm以下の砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい黄橙色	調整不明 調整不明	良好	平底	
49-5	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（9.0）	1mm以下の砂粒を含む	褐灰色 にぶい黄橙色	ナデ ナデ	良好	底部に擦痕あり 平底	
49-6	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（5.6）	1～3mmの白色砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 灰白色	調整不明、ナデ 調整不明	良好	平底	
49-7	50		４層	縄文土器	浅鉢	底径（10.4）	2mm以下の砂粒を含む	褐灰色 黒色	ナデ、ケズリ ミガキ	良好	平底	
49-8	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（7.4）	1mm以下の砂粒を含む 粒子が細かい	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色	ナデ ナデ	不良	平底	
49-9	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（11.6）	1～4mm程度の砂粒を含む	灰黄褐色 灰黄褐色	ナデ ナデ	良好	平底	
49-10	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（9.0）	1mm程度の白色砂粒を多く含む	灰黄褐色 にぶい黄褐色	ナデ ナデ	良好	平底	
49-11	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（12.4）	3mm以下の砂粒を多く含む	褐灰色 灰白色	ナデ ナデ	良好	平底	
49-12	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（10.2）	2mm以下の砂粒を含む	灰白色 灰白色	ナデ 調整不明	良好	平底	
49-13	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（10.6）	2mm程度の白色砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	調整不明 ナデ	良好	平底	
49-14	50		４層	縄文土器	浅鉢か	底径（8.8）	1mm程度の砂粒を多く含む	黒褐色 黒褐色	ナデ ナデ	良好	平底	
49-15	50		４層	縄文土器	深鉢	底径10.2	1mm以下の砂粒を含む	褐灰色 褐灰色	ナデ ナデ	良好	平底	
49-16	52		４層	縄文土器	深鉢	底径10.8	5mm以下の砂粒を含む	灰白色 灰黄色	調整不明（雑な調整） 調整不明（雑な調整）	良好	器面凹凸顕著 底面圧痕多い 平底	
49-17	50		４層	縄文土器	深鉢	底径8.6	1mm程度の砂粒を含む	にぶい黄橙色 褐灰色	ナデ ナデ	良好	径1.3cmの円形の穿孔　平底	
49-18	50		４層	縄文土器	壺	底径（7.6）	1mm以下の砂粒を含む	灰黄褐色 褐灰色	ミガキ、ナデ ミガキ	良好	平底胴部垂直	
49-19	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（7.8）	1～3mmの白色砂粒を多く含む	褐灰色 黒褐色	ナデ ナデ	良好	高台底	
49-20	50		４層	縄文土器	深鉢	底径8.4	5mm以下の砂粒を多く含む	褐灰色 灰白色	ナデ ナデ	良好	内面が黒色に変色、高台底	
49-21	50		４層	縄文土器	深鉢	底径（13.4）	3mm程度の砂粒を含む	にぶい黄橙色 黒褐色	ナデ ナデ	良好	内面に黒色物付着、高台底	
49-22	50		４層	縄文土器	深鉢	底径6.0	1mm以下の砂粒を多く含む	にぶい黄褐色 にぶい黄橙色	ナデ ナデ	良好	内面に黒色物付着、凹底	
49-23	50		４層	縄文土器	浅鉢	底径（5.0）	1mm以下の砂粒を多く含む	浅黄色～暗灰黄色 黄灰色	丁寧なナデかミガキ ナデ	良好	凹底	
49-24	50		４層	縄文土器	浅鉢	底径5.0	1mm程度の白色砂粒を多く含む	褐灰色 褐灰色	ナデ ナデ	良好	凹底	
49-25	50		４層	縄文土器	浅鉢	底径（3.8）	1mm以下の砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 褐灰色	調整不明 ナデか?	良好	凹底	
49-26	50		４層	縄文土器	浅鉢		1mm以下の砂粒を少し含む	にぶい黄橙色	調整不明 ミガキ	良好	丸底	

第８表　京田遺跡３区出土遺物観察表（土製品・骨角器）

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考
39-4	44	SK05	１層	土製品	焼成粘土塊	4.5	3.2	2.0	26	1mm以下の砂粒を含む	灰白色		良好	被熱
39-26	56	SK06	１層	骨角器	ヤス	（7.2）	0.3	0.4	0.92					一部被熱している
50-1	50		４層	土製品	耳栓		（1.4）	1.6	2	1mm以下の砂粒を含む	灰白色 灰白色	ナデ ナデ	良好	くびれ径0.95cm
50-2	50		４層	土製品	焼成粘土塊	3.3	2.8	1.6	17	1mm以下の砂粒を含む	灰白色		良好	被熱
50-3	50		４層	土製品	土製円盤		3.4	0.9	12	やや粗	にぶい黄橙色、褐灰色 にぶい黄橙色	ナデ ナデ	やや不良	表面煤付着、土器片再利用
50-4	50		４層	土製品	土製円盤		8.8	0.7	33	1mm以下の砂粒を多く含む	褐灰色、橙色 橙色～にぶい橙色	ナデ ナデ	不良	土器片再利用

挿図番号	図版番号	遺構	層位	種別	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	胎土	色調 上段：外面 下段：内面	調整 上段：外面 下段：内面	焼成	備考
50-5	50		4層	土製品	不明	(7.4)	(4.9)	(4.0)	75	1㎜以下の砂粒を含む	灰白色灰黄色	条痕、ミガキ、ナデ ナデ	良好	

第9表　京田遺跡3区出土石器観察表

挿図番号	図版番号	出土地点	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	備考
39-24	54	SK06	砂岩	円礫	5.6	7.8	7.1	452.0	
39-25	口絵4・53	SK06	デイサイト	石鏃	2.0	1.5	0.3	0.7	
51-1	口絵4・53	4層	玉髄（碧玉）	石鏃	1.6	1.3	0.3	0.4	
51-2	口絵4・53	4層	安山岩	石鏃	2.6	2.0	0.4	1.9	
51-3	口絵4・53	4層	玉髄（碧玉）	スクレイパー	4.8	5.0	1.0	22.82	
51-4	口絵4・53	4層	サヌカイト	スクレイパー	5.9	8.6	1.2	72.82	
51-5	口絵4・53	4層	デイサイト	スクレイパー	6.8	2.3	0.5	9.07	
51-6	口絵4・53	4層	安山岩	スクレイパー	6.5	2.9	0.8	17.67	楔形石器に転用
51-7	口絵4・53	4層	流紋岩	抉入石器	7.0	4.2	0.75	20.0	
51-8	口絵4・53	4層	流紋岩	楔形石器	3.1	2.7	0.7	8.0	
51-9	口絵4・53	4層	黒曜石	楔形石器	4.7	3.1	1.3	14.62	隠岐久見か
51-10	口絵4・53	4層	流紋岩	RF（二次加工）	(8.0)	(6.9)	(1.5)	(95.0)	
51-11	口絵4・53	4層	流紋岩	RF（二次加工）	6.5	5.6	1.1	55.96	
51-12	口絵4・53	4層	流紋岩	RF（二次加工）	7.4	5.0	0.6	40.0	
51-13	口絵4・53	4層	流紋岩	RF（二次加工）	4.9	4.6	0.7	22.0	
51-14	53	4層	流紋岩	RF（二次加工）	8.1	5.8	1.9	88.0	
51-15	53	4層	デイサイト	UF	7.4	3.1	1.0	26.28	
51-16	53	4層	サヌカイト	打製石斧	9.0	7.4	2.1	138.04	石核
51-17	53	4層	デイサイト	打製石斧	6.0	8.6	2.1	148.0	未製品
51-18	53	4層	流紋岩	打製石斧	(10.2)	(6.4)	(1.6)	(122.0)	
51-19	53	4層	流紋岩	打製石斧	(9.9)	6.2	2.6	(160.0)	
51-20	53	4層	デイサイト	打製石斧	17.3	7.2	3.6	525.0	
52-1	54	4層	軽石	浮子	5.6	2.7	2.1	6.0	中央に径7㎜の孔
52-2	54	4層	安山岩	石錘	6.6	3.6	2.0	72.0	
52-3	54	4層	安山岩	石錘	9.8	9.1	1.9	240.0	
52-4	54	4層	安山岩	敲石	8.1	6.7	6.3	450.0	
52-5	54	4層	安山岩	敲石	8.0	7.5	7.3	605.0	
52-6	54	4層	玉髄（メノウ）	敲石	6.2	5.4	4.1	212.0	
52-7	54	4層	安山岩	磨石	10.2	7.2	4.7	490.0	敲石　煤付着
52-8	54	4層	安山岩	磨石	10.6	10.8	6.6	900.0	敲石
52-9	54	4層	安山岩	磨石	9.9	5.8	2.8	368.0	
52-10	54	4層	安山岩	磨石	10.4	(4.2)	4.6	306.0	敲石か
52-11	54	4層	安山岩	磨石	(6.4)	9.5	3.7	(342.0)	凹面あり
52-12	54	4層	安山岩	磨石	8.3	7.9	5.9	470.0	凹面あり 石24と接合
52-13	54	4層	流紋岩	砥石？	(15.5)	6.0	1.3	178.0	
53-1	54	4層	安山岩	石皿	19.5	(11.0)	6.0	1383.0	
53-2	54	4層	安山岩	石皿	(13.2)	(9.4)	(3.5)	(570.0)	
53-3	54	4層	安山岩	石皿	20.1	17.4	2.2	1675.0	
53-4	55	4層	安山岩	石皿	18.0	14.4	4.9	1950.0	
53-5	55	4層	安山岩	石皿	16.5	12.3	3.2	1150.0	
53-6	54	4層	安山岩	面あり石	3.8	4.1	3.6	85.0	
53-7	口絵4・53	4層	凝灰岩か	呪術具か	11.0	3.9	2.1	128.0	
54-1	55	4層	安山岩	石皿	(28.2)	(21.0)	(6.9)	(5000.0)	
54-2	55	4層	凝灰岩	石核	19.6	11.6	4.6	1400.0	
54-3	55	4層	安山岩	円礫	26.6	12.0	12.5	5650.0	
石15		4層	黒曜石	剥片	4.1	1.8	1.0	6.0	自然面あり
石16		4層	黒曜石	剥片	1.4	1.6	0.4	1.42	
石17		4層	黒曜石	チップ	0.9	0.9	0.3	0.22	
石19		4層	安山岩	円礫	12.6	7.2	3.2	380.0	
石20		4層	安山岩	磨石	12.5	7.5	4.3	566.0	
石21		4層	安山岩	磨石	5.7	4.5	4.0	145.0	
石22		4層	安山岩	凹石	10.2	7.4	5.3	588.0	
石23		4層	安山岩	磨石	9.0	6.0	4.8	369.0	
石25		4層	安山岩	磨石	9.9	5.0	2.0	148.0	
石26		4層	安山岩	磨石	10.7	5.8	3.9	340.0	
石27		4層	安山岩	磨石	8.8	7.1	4.0	356.0	玄武岩に近い
石28		4層	安山岩	磨石	12.9	9.7	8.6	1274.0	
石29		4層	安山岩	石皿	14.1	9.5	2.9	745.0	
石30		4層	安山岩	石皿	17.7	17.2	8.1	2638.0	
石31		4層	安山岩	石皿	14.6	9.9	3.8	585.0	
石32		4層	安山岩	石皿	18.7	17.3	5.5	1808.0	
石33		4層	安山岩	石皿	12.3	12.0	2.0	398.0	
石34		4層	安山岩	石皿	23.3	14.8	4.8	1962.0	
石35		4層	安山岩	石皿	20.3	18.5	4.6	2104.0	
石36		4層	安山岩	石皿	7.3	5.6	3.2	192.0	
石37		4層	安山岩	石皿？	16.2	14.0	4.7	1253.0	

挿図番号	図版番号	出土地点	石材	器種	長さ（㎝）	幅（㎝）	厚さ（㎝）	重量（g）	備考
石38		４層	デイサイト	砥石	7.6	7.0	4.8	291.0	
石39		４層	不明	打製石斧？	15.6	6.6	4.0	669.0	
石40		４層	安山岩	石皿？	17.3	12.1	6.1	1714.0	
石41		４層	安山岩	打製石斧	16.6	10.6	3.0	700.0	
石42		４層	安山岩	石皿	14.5	13.0	3.8	1114.0	
石43		４層	安山岩	石皿	8.3	6.0	2.5	193.0	
石44		４層	安山岩	石皿	11.0	9.4	3.3	367.0	
石45		４層	安山岩	石皿	10.5	8.4	2.7	326.0	
石46		４層	安山岩	石皿	14.2	9.2	5.1	620.0	
石47		４層	安山岩	石皿	10.5	5.3	1.9	129.0	
石48		４層	安山岩	石皿	16.5	10.9	3.2	642.0	
石49		４層	安山岩	石皿	20.3	12.0	3.7	1483.0	
石50		４層	安山岩	石皿	13.3	9.7	2.8	568.0	
石51		４層	安山岩	石皿	10.1	8.8	3.1	480.0	
石52		４層	安山岩	石皿	8.6	7.1	2.8	246.0	
石53		４層	安山岩	石皿	12.9	9.0	2.5	454.0	
石54		４層	デイサイト	石皿	12.3	10.6	2.3	319.0	
石55		４層	安山岩	石皿	10.9	8.5	2.8	379.0	
石56		４層	安山岩	石皿	15.0	9.0	2.5	533.0	
石57		４層	安山岩	打製石斧？	10.1	7.0	1.6	165.0	
石58		４層	安山岩	石皿？	12.8	9.5	2.8	333.0	
石59		４層	安山岩	石皿？	12.7	9.1	3.1	472.0	
石60		４層	安山岩	石皿？	8.8	6.7	1.5	152.0	
石61		４層	安山岩	石皿？	16.3	11.6	3.4	685.0	
石62		４層	安山岩	石皿？	12.3	8.7	2.4	307.0	
石63		４層	安山岩	石皿？	16.9	15.6	2.7	835.0	
石64		４層	鉄石英	原石	3.3	3.1	2.2	18.0	赤石
石65		４層	硅化木	原石	10.8	3.6	1.3	31.0	
石66		４層	石英	原石	1.9	1.5	1.1	5.0	
石67		４層	石英	原石	3.7	2.8	1.1	18.0	
石68		４層	安山岩	石皿	8.1	4.4	2.2	101.0	
石69		４層	玉髄（碧玉）	剥片	5.6	4.5	1.7	31.0	
石70		４層	砂岩	砥石	7.7	4.4	2.5	46.0	
石71		４層	砂岩	石皿	8.6	4.6	4.3	226.0	
石72		４層	鉄石英	剥片	4.5	3.1	1.6	23.0	赤石
石73		４層	火山岩	原石	5.8	5.6	2.9	88.0	メノウ脈が入る
石74		４層	鉄石英	原石	7.4	5.3	4.4	243.0	赤石
石75		４層	砂岩	砥石？	7.9	4.1	1.8	49.0	アーコース質
石76		４層	砂岩	砥石？	7.6	5.4	3.8	150.0	
石77		４層	玉髄（メノウ）	原石	6.4	5.5	3.2	102.0	
石78		４層	硅化木	原石	8.3	3.0	1.3	20.0	
石79		４層	流紋岩、安山岩	剥片	10.2	7.2	3.0	181.0	
石80		４層	安山岩	剥片	14.3	11.9	3.9	719.0	
石81		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.4	6.0	2.1	64.0	
石82		４層	流紋岩、安山岩	剥片	10.4	6.3	2.0	165.0	
石83		４層	流紋岩、安山岩	剥片	7.5	5.1	3.1	119.0	
石84		４層	流紋岩、安山岩	剥片	4.1	2.8	0.5	6.0	
石85		４層	流紋岩、安山岩	剥片	4.2	3.5	0.7	8.0	
石86		４層	流紋岩、安山岩	剥片	7.2	5.6	1.3	34.0	
石88		４層	流紋岩、安山岩	チップ	4.0	1.7	0.2	1.0	
石89		４層	流紋岩、安山岩	剥片	4.6	3.9	0.7	12.0	
石90		４層	流紋岩、安山岩	剥片	5.0	1.3	1.0	6.0	
石91		４層	流紋岩、安山岩	剥片	5.4	3.4	0.9	10.0	
石92		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.0	4.5	1.1	19.0	
石93		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.3	4.3	1.0	26.0	
石94		４層	流紋岩、安山岩	剥片	7.9	6.6	0.7	35.0	
石95		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.3	3.1	1.5	31.0	
石96		４層	流紋岩、安山岩	剥片	4.3	3.7	1.5	22.0	
石97		４層	流紋岩、安山岩	剥片	4.4	3.3	1.4	11.0	
石98		４層	流紋岩、安山岩	剥片	9.0	2.8	1.9	45.0	
石99		４層	流紋岩、安山岩	剥片	5.4	3.9	1.0	20.0	
石100		４層	流紋岩、安山岩	剥片	7.3	4.2	1.7	46.0	
石101		４層	流紋岩	剥片	10.9	4.2	2.7	106.0	
石102		４層	流紋岩、安山岩	剥片	5.2	2.1	1.2	6.0	
石103		４層	流紋岩、安山岩	剥片	7.6	6.8	1.8	63.0	
石104		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.7	4.2	1.5	51.0	
石105		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.5	4.9	1.8	50.0	
石106		４層	流紋岩、安山岩	剥片	8.0	5.5	2.3	109.0	
石107		４層	流紋岩、安山岩	剥片	9.4	3.5	2.8	70.0	
石108		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.7	3.6	1.6	27.0	
石109		４層	流紋岩、安山岩	剥片	8.0	5.5	1.4	54.0	
石110		４層	流紋岩、安山岩	剥片	8.9	5.5	2.0	87.0	
石111		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.0	4.6	1.0	22.0	
石112		４層	流紋岩、安山岩	剥片	5.5	4.9	1.4	48.0	
石113		４層	流紋岩、安山岩	剥片	9.1	5.1	1.4	47.0	
石114		４層	流紋岩、安山岩	剥片	6.6	4.9	0.7	24.0	

挿図番号	図版番号	出土地点	石材	器種	長さ（㎝）	幅（㎝）	厚さ（㎝）	重量（g）	備考
石115		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.4	4.5	1.0	26.0	
石116		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.7	5.2	1.1	25.0	
石117		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.5	5.2	1.2	41.0	
石118		4層	流紋岩、デイサイト	剝片	5.3	4.1	0.7	16.0	緑石
石119		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.4	2.2	0.5	4.0	
石120		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.5	4.9	1.1	34.0	
石121		4層	流紋岩、デイサイト	剝片	4.6	4.0	0.9	12.0	緑石
石122		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.9	2.7	0.5	9.0	
石123		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.4	4.8	1.9	4.0	
石124		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.7	4.9	0.6	22.0	
石125		4層	流紋岩、安山岩	石核	10.4	7.6	2.6	288.0	
石126		4層	流紋岩、安山岩	剝片	7.4	5.2	1.0	41.0	
石127		4層	流紋岩、安山岩	チップ	2.4	2.4	0.3	1.0	
石128		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.1	2.8	0.7	7.0	
石129		4層	流紋岩、安山岩	剝片	8.8	6.4	0.9	46.0	
石131		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.1	3.8	0.8	18.0	
石132		4層	流紋岩、安山岩	剝片	2.8	2.2	0.3	2.0	
石133		4層	流紋岩、安山岩	剝片	2.5	1.9	0.6	2.0	
石134		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.4	3.9	0.7	12.0	
石135		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.7	3.3	1.4	28.0	
石137		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.1	1.4	0.7	6.0	
石139		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.0	3.8	1.6	31.0	
石140		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.2	3.9	0.8	12.0	
石141		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.7	6.0	1.1	42.0	
石142		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.5	2.6	1.0	19.0	
石143		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.8	5.7	1.5	51.0	
石144		4層	流紋岩、安山岩	剝片	10.0	4.2	0.8	30.0	
石145		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.3	2.6	0.9	11.0	
石146		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.2	3.5	2.4	30.0	
石147		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.6	3.2	0.8	11.0	
石149		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.3	3.4	1.0	18.0	
石150		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.1	3.6	1.0	14.0	
石151		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.4	2.3	0.2	2.0	
石152		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.0	3.7	0.7	14.0	
石153		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.8	3.1	0.5	6.0	
石154		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.5	2.9	0.4	5.0	
石155		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.5	2.6	0.7	6.0	
石156		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.4	2.8	2.1	35.0	
石157		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.3	2.8	1.2	10.0	
石158		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.5	2.3	0.4	4.0	
石159		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.2	3.4	0.7	15.0	
石160		4層	流紋岩、安山岩	剝片	2.9	1.1	0.6	2.0	
石161		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.5	3.0	0.4	6.0	
石162		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.3	2.7	0.6	12.0	
石163		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.3	0.8	0.8	4.0	
石164		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.7	2.9	0.3	3.0	
石165		4層	流紋岩、安山岩	剝片	2.9	2.4	0.4	2.0	
石166		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.5	4.8	0.7	15.0	
石167		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.2	2.9	0.4	4.0	
石168		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.4	3.9	0.6	11.0	
石169		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.2	5.1	1.0	18.0	
石170		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.1	4.1	1.6	28.0	
石171		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.9	2.9	0.6	7.0	
石173		4-2層	流紋岩、安山岩	剝片	14.3	13.2	2.1	340.0	
石197		4層	流紋岩、デイサイト	原石	14.5	4.4	2.2	165.6	
石198		4層	不明	原石	10.6	8.7	4.7	563.86	
石199		4層	砂岩	砥石？	6.2	5.5	10.7	60.63	
石200		4層	安山岩	石皿	17.1	12.5	2.2	793.02	
石201		4層	石英	原石	5.4	4.2	2.5	83.77	
石202		4層	安山岩	石皿	26.9	16.0	3.4	2300.0	
石203		4層	デイサイト	剝片	6.6	4.5	0.7	24.1	
石204		4層	安山岩	原石	13.4	9.3	4.4	762.55	
石205		4層	流紋岩、安山岩	剝片	4.2	5.3	0.9	33.16	
石206		4層	安山岩	原石	10.4	9.8	3.1	352.69	
石207		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.8	2.6	1.8	14.93	
石208		4層	流紋岩、安山岩	剝片	8.2	3.8	1.1	31.2	
石209		4層	流紋岩、安山岩	剝片	6.2	2.0	1.2	14.87	
石210		4層	デイサイト	剝片	11.0	8.8	4.0	324.92	
石211		4層	デイサイト	剝片	9.5	6.9	4.3	194.02	
石212		4層	安山岩	原石？	10.2	10.1	3.0	539.83	
石213		4層	流紋岩、安山岩	原石？	13.3	7.5	2.6	252.49	
石214		4層	デイサイト	剝片	7.6	6.6	2.1	102.6	
石215		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.6	4.7	1.6	36.21	
石216		4層	デイサイト	剝片	7.4	4.4	1.7	35.4	ガラス質
石217		4層	流紋岩、安山岩	剝片	3.3	2.2	0.5	3.16	
石218		4層	流紋岩、安山岩	剝片	5.9	3.0	0.6	7.12	

挿図番号	図版番号	出土地点	石材	器種	長さ（㎝）	幅（㎝）	厚さ（㎝）	重量（g）	備考
石219		４層	流紋岩、安山岩	剥片	4.6	3.0	1.6	7.8	
石220		４層	流紋岩、安山岩	剥片	4.4	2.7	0.6	9.56	
石221		４層	流紋岩、安山岩	剥片	3.3	2.3	1.5	4.62	
石222		４層	安山岩	原石？	14.4	11.0	5.4	984.86	
石223		３層	流紋岩、安山岩	剥片	4.8	4.8	0.8	27.19	
石224		３層	流紋岩、安山岩	剥片	5.1	3.5	0.6	8.39	
石225		４層	流紋岩、安山岩	剥片	2.9	1.9	0.3	1.6	

第10表　京田遺跡３区出土有文土器集計表

	後期初頭			後期前葉				後期中葉					後期後葉	
	中津（九日田）	五明田	暮地	布勢	崎ヶ鼻	崎ヶ鼻Ⅰ	崎ヶ鼻Ⅱ	沖丈	沖丈～権現山古	権現山古	権現山古～新	権現山新	元住吉山Ⅱ	宮滝
点数	1	0	16	11	2	0	2	58	62	37	10	6	0	4
重量（g）	18	0	297	187	21	0	123	1,726	1,463	853	55	44	0	7

	他地域系	
	九州系	関東系
点数	15	8
重量（g）	754	319

縄文のみ	有文口縁	刺突文	沈線	沈線＋縄文	注口土器
242	39	4	117	91	10
3,348	414	17	1,248	950	398

第11表　京田遺跡３区出土無文土器集計表

	口縁部					胴部	底部		
	直口	波状	内面肥厚	外反	内湾		平底	凹底	丸底
点数	451	9	26	19	29	2,628	164	35	3
重量（g）	7,668	225	477	251	955	59,316	5,475	1,544	87

第12表　京田遺跡３区出土石器集計表

	黒曜石	軽石	玉髄	珪化木	砂岩	※１	※２	流紋岩	ｻﾇｶｲﾄ	安山岩	ﾃﾞｲｻｲﾄ	火山岩	凝灰岩	石英	鉄石英	不明	計
石鏃			1							1	1						3
スクレーパー			1						1	1	1						4
RF								5									5
UF											1						1
抉入石器								1									1
楔形石器	1							1									2
剥片	3		1			97	2	1		1	5				1		111
打製石斧								2	1	2	2					1	8
浮子		1															1
石錘										2							2
磨石										13							13
敲石			1							2							3
凹石										1							1
砥石					4			1			1						6
石皿					1					39	1						41
呪術具										1			1				2
石核						1							1				2
自然礫・原石・その他			1	2	1	1	1			6		1		3	2	1	19
計	4	1	5	2	6	99	3	11	2	69	12	1	2	3	3	2	225

※１　流紋岩、デイサイト、安山岩
※２　流紋岩、デイサイト

（点数）

第５章　自然科学分析

第１節　京田遺跡３区から出土した動物遺存体

石丸恵利子：広島大学総合博物館

１　はじめに

京田遺跡は出雲市湖陵町常楽寺に所在し、神西湖に注ぐ常楽寺川の河口から約2.5km上流の左岸に位置する。一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴って、平成27年度と平成28年度に試掘確認調査と発掘調査が行われ、1区では弥生時代から中世の遺構遺物が出土し、3区では縄文時代後期の遺構遺物が確認されている。縄文時代には、遺跡の北方に位置する神西湖は海とつながっており、当時の京田遺跡は湾奥部という立地環境であったと考えられている（中村2010）。本地域においては、同時期の遺跡として京田遺跡の北西約2.5kmの場所に縄文時代後期初頭から晩期初頭の土器が出土した麓Ⅱ遺跡が位置し、常楽寺川の対岸には縄文時代後期前葉の住居跡が確認された御領田遺跡がある。平成28年度に調査が行われた京田遺跡３区において動物遺存体が出土し、出雲平野における縄文時代の動物資源利用の様相を知るための貴重な資料が得られた。本稿ではそれらの内容について報告する。

２　出土した動物の種類と部位

確認された資料は、包含層において目視で取り上げられたものと、土坑（SK05・SK06）の土壌を2.0mmメッシュの篩を用いた水洗選別によって採取されたものがある。ほとんどの資料が火を受けて白色化した小破片であった。種や部位が不明な約5mm以下の微細な資料を除き、部位や動物群を明らかにできたのは、破片数にして約90点である。確認できた種類は、魚類２種と哺乳類３種の５分類群であった（第1表）。各資料の出土情報や観察事項は一覧表に記した（第2表）。以下、分類群ごとに各資料の特徴を述べる。

第１表　京田遺跡３区出土動物遺存体種目名一覧

<table>
<tr><th>門</th><th>綱</th><th>目</th><th>科</th><th>属/種</th></tr>
<tr><td rowspan="7">脊椎動物門
Vertebrata</td><td rowspan="3">硬骨魚綱
Osteichthyes</td><td>ナマズ目
Siluriformes</td><td>ナマズ科
Siluridae</td><td>ナマズ
Silurus asotus</td></tr>
<tr><td colspan="3">ナマズ目の一種
Siluriformes fam., gen. et sp. indet.</td></tr>
<tr><td>スズキ目
Perciformes</td><td colspan="2">タイ科の一種
Sparidae gen. et sp. indet.</td></tr>
<tr><td rowspan="4">哺乳綱
Mammalia</td><td colspan="3">食肉目の一種
Carnivora fam. gen. et sp. indet.</td></tr>
<tr><td rowspan="2">偶蹄目
Artiodactyla</td><td>イノシシ科
Suidae</td><td>イノシシ
Sus scrofa</td></tr>
<tr><td>シカ科
Cervidae</td><td>ニホンジカ
Cervus nippon</td></tr>
</table>

＊種名については、中坊編（2013）、阿部ほか（2008）に従った。

（1）　魚類

魚類はSK06のみで出土している。ナマズとタイ科の一種を確認することができた。

ナマズ

ナマズは、胸鰭棘６点、上舌骨１点、椎骨１点を確認した。このほかに、破片のため種の同定は困難でギギの可能性もある胸鰭棘も３点確認されたが、基部の大きさからはナマズの可能性が高いものであった。また、ナマズの歯骨の一部と考えられる破片も１点確認された。胸鰭棘基部６点の端部（関節部）幅の計測値からは、全長27㎝～ 33㎝程度の個体に復元することができる。ナマズの胸鰭棘は丈夫で残存しやすい部位だと考えられるが、同一土坑内で複数点確認できたことから、ナマズは主要な動物資源の一つであったことがうかがえる。

タイ科の一種

タイ科の遊離歯（臼歯）が１点確認された。マダイあるいはクロダイの可能性が高いが、円形の臼歯１点で種を特定することが難しいため、本資料についてはタイ科の一種とした。南西に約30kmの大田市仁摩町の沿岸部に位置する古屋敷遺跡（縄文時代後期から古墳時代前期）においては、クロダイ属やマダイ亜科に加えてヘダイも確認されている（石丸2017a）。

その他の種類として、ナマズやタイ科のものとは異なる形態の椎骨や舌顎骨、第１臀鰭棘も確認されており、種は明らかにできていないが他の魚種も利用されていたことが指摘できる。以上のように、淡水に生息するナマズと海水産のタイ類が確認されたことから、本遺跡に暮らした人々は、河川と海の両域で漁撈活動を行っていたことがうかがえる。

（2）　哺乳類

哺乳類としては、イノシシとニホンジカ、種不明の中型哺乳類を確認することができた。ほとんどの資料が火を受けたと考えられる白色を呈する破片で、SK05、SK06、中央落込等から出土している。哺乳類と考えられるもののうち、動物種や部位を特定できないものが半数を占めるが、四肢骨の骨幹部片や遊離歯の歯根部、肋骨等のように部位が特定できるものについては、大きさや形態からイノシシあるいはニホンジカのものである可能性が高い。

イノシシ

イノシシは、18点確認することができた。うち２点が中央落込（4層）から出土し、そのほかはすべてSK06から出土している。基節骨や末節骨等の四肢骨の先端部位と、椎骨、遊離歯が確認された。いずれも火を受けて白色化した小破片で、遊離歯については灰色あるいは黒色を呈するものも認められた。基節骨は、第３もしくは第４基節骨の近位端の外側片で、端部が化骨済の成獣個体のものであった。末節骨は第２もしくは第５末節骨で、火を受けて収縮していると考えられるが、第３後臼歯が未萌出の若い現生標本の同一部位よりも小さなものであった。また、椎骨は、第３から第６頚椎のいずれかの椎弓（椎体の両側からのびる橋状の部分）片で、前述の現生標本と同大であった。本資料も火を受けて全体が白色を呈するものであることから、現生標本よりも大きな個体であったと推測される。いずれの資料においても、解体痕等の人為的な痕跡は観察されなかった。遊離歯も破片となったものが多く、歯列が明らかにできたのは２点のみで、下顎切歯（第１切歯：I_1）と、上顎後臼歯（第３後臼歯：M^3）の破片と考えられるものが確認できた。第３後臼歯は歯冠のエナメル質が咬耗しており、43か月歳程度の個体である可能性が高い（林ほか1977）。

ニホンジカ

ニホンジカは、10点確認することができた。SK06から出土したものは２点のみで、そのほかの資料は４層の中央落込等で採取されたものである。ニホンジカについても、そのほとんどが火を受けたと考えられる白色化したものであった。SK06では中足骨の骨幹部片と遊離歯の破片のみが確認された。また、４層包含層では、下顎骨１点、中足骨の近位１点と骨幹部片が２点、腰椎の突起部１点、鹿角片１点、前肢もしくは後肢の種子骨と考えられる破片１点、遊離歯の小破片複数点が出土している。下顎骨は下顎体の前方部で、切歯から前臼歯の間のオトガイ孔（血管や神経が通る孔）がある部分の破片である。火を受けて白色化した資料であるため個体の大きさや雌雄は不明であるが、第３後臼歯が生えそろった２歳以上のメス標本よりも小さいものであった。鹿角片が確認されていることから、雄個体が獲得されていた可能性がある。解体痕等の人為的な痕跡は確認できなかった。

中型哺乳類の一種

種不明哺乳類の下顎骨が１点出土している。全体が火を受けて白色化したものであり、歯列も不確定であるが、タヌキあるいはテン等の中型哺乳類のものだと考えられる。

３　京田遺跡における動物資源利用

前述のように、約130㎡の狭小な調査範囲ではあったが、篩を用いた土壌の水洗選別の実施によって微細な資料を取り上げることができ、土坑や包含層から魚類２種と哺乳類３種を確認することができた。魚類はナマズとタイ科が確認され、淡水資源と海産資源の両者を利用していたことが明らかとなった。遺跡形成時の縄文時代後期には神西湖は海とつながっており、現在よりも海が近く、沿岸部における海産資源の獲得活動は十分に可能であったと考えられる。また常楽寺川流域においては、ナマズ等の淡水資源の獲得が行われたことが指摘できよう。哺乳類はイノシシとニホンジカおよびタヌキ大の中型哺乳類が確認された。イノシシとニホンジカは、遊離歯や椎骨、中足骨、末節骨等の複数部位が確認でき、全身がこの場所に持ち込まれて解体処理された可能性が高い。これらの陸生哺乳類は、遺跡の背後に広がる丘陵山地部において獲得されたと考えられる。魚類と哺乳類のいずれの資料においても、解体痕や打割痕等の人為的な痕跡を確認することはできなかったが、スクレイパーや敲石等の石器が解体や調理、あるいは骨角器製作に使用された可能性がある。また少量であるが石錘や浮子が確認されていることから、ナマズやタイ類の魚類を漁網によって捕獲した可能性が示唆される。

なお、骨資料はほとんどが白色あるいは灰白色を呈し、火を受けたと考えられる小破片であった。焚火の温度は500から700℃程度で、骨は500℃で灰白色、600℃で純白色を呈し硬度を増すとされる（樋口ほか2008、平野1935）。また、骨は700から800℃以上の温度で燃焼すると有機物が完全に燃え尽き、リン酸カルシウムや炭酸カルシウム等の無機成分が結晶化して融合するとされる（池田1981）。火を受けた骨は焼けていない骨よりも残存しやすいとされるが、有機物を含む火を受けていない骨のほとんどは土壌中で分解して消失したが、火を受けて硬度を増したものの一部が幸い現在まで残存した状況を示していると理解することができる。SK05は石囲炉、SK06は廃棄土坑と考えられており、獲得した動物資源は解体して利用されたのちに残滓がこれらの土坑に廃棄され

た、あるいは不要な骨類等は燃やされたのちに土坑に廃棄されたため、土坑で多くの骨類が検出されたと考えられる。消失してしまった資料について言及することはできないが、獲得した複数の動物種やそれらの各部位が灰色や白色を呈することから、動物資源の取り扱いの一端として、人の手によって500℃以上の火で骨が十分に焼かれることがあったこと、またそれらの火を受けた骨が土坑へまとめて廃棄されたことを読み取ることができた。

出雲平野では、これまで縄文時代の動物遺存体の出土例がほとんどなく、京田遺跡３区で少量ながら資料が確認できたことは、当地域の動物資源利用の様相を明らかにするうえで非常に大きな成果だと言える。また、近年の発掘調査によって、出雲平野における縄文時代の集落の立地や構造を検討していく上で重要な情報となる遺構や遺物の確認例が増加しつつある。動物遺存体についても、近隣に位置する麓Ⅱ遺跡において、縄文時代後期初頭から晩期初頭に相当する包含層から、イノシシやニホンジカ等が少量ながら出土している（石丸2017b）。これらの調査実績から、本地域においては今後さらなる動物遺存体の検出が期待される。目視のみでは細かい資料は見逃されてしまうため、土壌サンプルを採取し、目の細かいフルイを用いた水洗選別の実施が不可欠であろう。以上のように、本調査区から出土した動物遺存体資料によって、出雲平野における縄文時代後期の動物資源利用の一端として、遺跡周辺地域における淡水および海産魚類と陸生哺乳類の獲得と利用を明らかにすることができたといえる。

参考文献

阿部　永・石井信夫・伊藤徹魯・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 2008『日本の哺乳類』改訂２版 東海大学出版会

池田次郎 1981「出土火葬骨について」『太安萬呂墓』奈良県史跡名勝天然記念物調査報告書43 pp.79 ～ 88

石丸恵利子 2017a「古屋敷遺跡Ｂ区から出土した動物遺存体」『古屋敷遺跡（Ｂ区）一般国道９号（静間仁摩道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書5』国土交通省松江国道事務所・島根県教育委員会 pp.90 ～ 99

石丸恵利子 2017b「麓Ⅱ遺跡から出土した動物遺存体」『麓Ⅱ遺跡　坂本谷遺跡　京田遺跡（１区）一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書1』島根県教育委員会 pp.127 ～ 130

中坊徹次編 2013『日本産魚類検索 全種の同定』第三版 東海大学出版会

中村唯史 2010「矢野遺跡の立地と古地理」『矢野遺跡』自然科学分析・考察編（第４分冊）出雲市の文化財報告10 新内藤川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 島根県出雲県土木整備事業事務所・出雲市教育委員会 pp.1 ～ 5

林　良博・西田隆雄・望月公子・瀬田季茂 1977「日本産イノシシの歯牙による年令と性の判定」『日本獣医学雑誌』39－２ pp.165 ～ 174

樋口隆哉・浮田正夫・関根雅彦・今井　剛 2008「草木の燃焼に伴うPCDD/Fsの発生評価に関する研究」『山口大学工学部研究報告』Vol.58 No.2 pp.33 ～ 37

平野賢二 1935「歯牙の熱処理に対する研究（第一編）人類歯牙の熱処理に就いて」『口腔病学会雑誌』9 pp.375 ～ 393

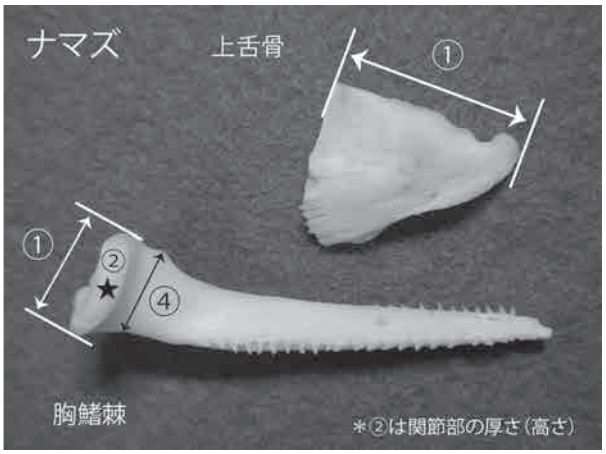
第２表　京田遺跡３区出土動物遺存体観察表

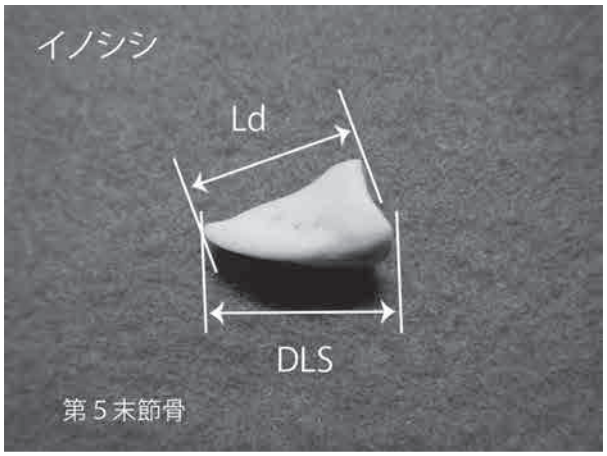
遺物番号	出土遺構・出土地点	層位	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値(mm)*
1	SK05	1層	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け（白色）	
2	SK05	1層	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け（白色、内部黒色）	
3	SK06	1層	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯	臼歯		1		
4	SK06		硬骨魚綱	ナマズ	椎骨	尾椎		1	焼け（黒色）	
5	SK06	1層	硬骨魚綱	ナマズ	胸鰭棘	基部・先端部	右	1	基部と先端部、焼け（灰色）	①6.44,②4.01,④4.29
6	SK06	1層	硬骨魚綱	ナマズ	胸鰭棘	基部	左	2	いずれも焼け（灰色）	①5.31,5.43,④4.28,4.42
7	SK06	1層	硬骨魚綱	ナマズ	胸鰭棘	先端部	右	1	焼け（灰色）	
8	SK06		硬骨魚綱	ナマズ	胸鰭棘	先端部	左	1	焼け（灰色）	
9	SK06		硬骨魚綱	ナマズ	胸鰭棘	基部	左	1	焼け（白色）	①5.42,④4.48
10	SK06	1層	硬骨魚綱	ナマズ	上舌骨		左	1	焼け（白色）	①9.53
11	SK06		硬骨魚綱	ナマズ目	椎骨	腹椎		1	焼け（白色）	
12	SK06	1層	硬骨魚綱	ナマズ目	胸鰭棘			4	破片、焼け（白色・褐色）	
13	SK06	1層	硬骨魚綱	ナマズ目	胸鰭棘	基部	左	1	基部	①5.36,②3.94,④4.49
14	SK06		硬骨魚綱	ナマズ目	胸鰭棘	先端部		1	焼け（白色）	
15	SK06	1層	硬骨魚綱	ナマズ目	歯骨	破片	右	1	焼け（灰色）	
16	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	棘			1	破片、焼け（灰色）	
17	SK06		硬骨魚綱	不明	棘等			8	焼けあり（白色、黒色）	
18	SK06		硬骨魚綱	不明	舌顎骨？	破片		1	焼け？（褐色）	
19	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	第1臀鰭棘	基部		1	焼け（灰色）	
20	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	焼け（灰色）	
21	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	椎骨	椎体		1	焼け（白色）	
22	SK06		硬骨魚綱	不明	椎骨			4	焼け（白色、灰色）	
23	SK06		硬骨魚綱	不明	椎骨	破片		2	焼け（灰色）	
24	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	焼け（灰色）	
25	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	椎骨			1	焼け（白色）	
26	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	椎骨	椎体		1		
27	SK06	1層	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎・尾椎		2	焼け（白色、灰色）	
28	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	遊離歯	破片		5		
29	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	遊離歯	歯根部		1	破片、焼け（白色）	
30	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	椎骨？	突起部		2	焼け（白色、褐色）	
31	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	椎骨	関節突起部		1	焼け（褐色）	
32	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	遊離歯	歯根部		1	破片、焼け（白色）	
33	SK06		哺乳綱	イノシシ	基節骨	第3or4、近位端		1	端部化骨済、外側破片	
34	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	破片		3		

遺物番号	出土遺構・出土地点	層位	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値(mm)*
35	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		1	破片、焼け？	
36	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		1	破片、焼け（灰色）	
37	SK06		哺乳綱	イノシシ	遊離歯	上顎後臼歯	左	1	M^3?、焼け？（黒色）、後方破片、歯冠摩滅あり（象牙質の露出なし）	
38	SK06		哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯		2	破片、焼け？（黒色）	
39	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	頚椎	第3～6頚椎のいずれか		1	焼け（白色・灰色）、一部欠損している	Bpacr（椎弓頭方幅）:34.92
40	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	足根骨	楔状骨	右	1	焼け（白色）、欠損あり	
41	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	末節骨	第2or5		1	焼け（白色）	Ld:11.56, DLS:12.88
42	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	下顎切歯		1	I_1、焼け？	
43	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯破片		複数		
44	SK06	1層	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯歯根		2		
45	SK06	1層	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	骨幹部		1	焼け（白色）	
46	SK06	1層	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯破片		1	焼け（灰色・黒）	
47	SK06		哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1		
48	SK06		哺乳綱	不明	四肢骨？			1	焼け（白色、灰色）	
49	SK06	1層	哺乳綱	不明	遊離歯	歯根部		1	破片、焼け（灰色）	
50	SK06	1層	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け（白色、灰色）	
51	SK06	1層	不明	不明	不明			複数	焼け	
52	SK06	1層	不明	不明	不明			複数	哺乳類・魚類ほか	
53	SK06	1層	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1	焼け（白色）	
54	SK06	1層	哺乳綱	不明	四肢骨？	骨幹部？		1	焼け（白色）	
55	SK06	1層	哺乳綱	不明	頭頂骨	頭頂骨		1	焼け（灰色）、イノシシの形態に似る	
56 第39図26	SK06	1層	哺乳綱	不明	不明			1	骨角器、焼け（白色・灰色）、鹿角の可能性あり	
57	SK06	1層	哺乳綱	不明	不明			複数	複数破片、焼け（白色・灰色）	
58	SK06	1層	哺乳綱？	不明	不明			複数	破片、焼け（白色）	
59		4層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	距骨			1	破片、焼け（白色）	
60		4層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	四肢骨	骨幹部		複数	焼け（白色）	
61		4層	哺乳綱	イノシシ/ニホンジカ	肋骨	近位側		1	焼け（灰色・白色）	
62	中央落込	4層	哺乳綱	イノシシ	遊離歯	臼歯破片		2		
63		4層	哺乳綱	ニホンジカ	種子骨？			1	焼け（灰色・白色）	
64	中央落込	4層	哺乳綱	ニホンジカ	下顎骨	先端部	右	1	焼け（灰色・白色）	
65	中央落込	4層	哺乳綱	ニホンジカ	鹿角			1	破片、焼け（白色）	
66		4層	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	近位	右	2	前方面、焼け（白色）、一方は骨幹部片か	
67	中央落込	4層	哺乳綱	ニホンジカ	中足骨	骨幹部		1	焼け（白色）	

遺物番号	出土遺構・出土地点	層位	分類群	種名	部位	部分	左右	数量	観察	計測値(mm)*
68		4層	哺乳綱	ニホンジカ	椎骨	腰椎関節突起		1	焼け（白色、灰色）	
69	中央落込	4層	哺乳綱	ニホンジカ	遊離歯	臼歯破片		複数		
70	中央落込	4層	哺乳綱	中型哺乳類	下顎骨	下顎体		1	焼け（白色）（P_1P_2）or（P_2P_3），タヌキ or テン大（焼けて収縮しているとしたらタヌキの可能性が高い）	
71		4層	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1	焼け（白色）	
72		4層	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部		1	焼け（白色）	
73		4層	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け（白色）	
74	中央落込	4層	哺乳綱	不明	不明			複数	イノシシ/ニホンジカの四肢骨を多く含む	
75		4層	哺乳綱	不明	不明			1	焼け（灰色・白色）	
76		4層	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け（白色）	
77	南東 ｸﾞﾘｯﾄﾞ	4-2層	哺乳綱	不明	不明			1	焼け（灰色・白色）	
78		4層	哺乳綱	不明	不明			複数	焼け（灰色・白色）	

※計測値の記号の場所は、第１図を参照
※写真図版56を参照





第１図　計測場所

第２節　京田遺跡３区 から出土した赤色顔料付着遺物

上山晶子：埋蔵文化財調査ｾﾝﾀｰ

はじめに

出雲市の京田遺跡３区 からは赤色顔料の付着していると見られる縄文時代後期の土器や磨石が出土した。古墳時代以前の赤色顔料は、硫化第二水銀(HgS)を主成分とする鉱物の辰砂に由来する水銀朱（朱)、酸化第二鉄(Fe2O3)を多く含むとされるベンガラが知られている（注1)。

これらの遺物の性格を知る手がかりとして、石器１点、土器14点を蛍光Ｘ線分析法によって元素定性分析を行なった。

1．分析の方法

分析方法は、蛍光Ｘ線分析による元素定性分析である。使用機器は島根県古代文化センター所有、島根県埋蔵文化財調査センター設置の「エスアイアイ・ナノテクノロジー（現；日立ハイテクサイエンス）社製SEA1200VX　卓上型ケイ光Ｘ線分析計（エネルギー分散型)」である。測定条件は、測定時間200秒（うち測定可能な有効時間は123 ～ 132秒)、試料室雰囲気は大気／真空、測定範囲は直径8.0㎜、管電圧50kV（測定室雰囲気真空時には15kV)、管電流89 ～ 1000 μ A（管電圧による自動設定)、Ｘ線管球はRh（ロジウム)、検出器はSi半導体検出器（SSD)、一次フィルタとしてPbフィルタ（測定室雰囲気真空時にはClフィルタ）を設定し、装置の仕様上、マイラーカバーを使用している。測定は肉眼、あるいは10 ～ 40倍の実体顕微鏡観察にて赤色顔料の付着がみられた箇所のうち赤彩が顕著な部分と、比較対照資料として胎土部分（土器の破断面）で行なった。このうち、水銀（Hg）と硫黄（S）を高く検出したものを水銀朱、鉄（Fe）を高く検出し、水銀と硫黄を検出しなかったものは、胎土部分のスペクトルピークの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラ（ここでは酸化鉄を多く含む「広義のベンガラ」（注2)）であると判断した。

2.　　結果

測定を行なった試料とその結果を第１表と蛍光Ｘ線分析スペクトルピーク（以下、ピーク）に示す。第48図18・19・20は土器内面においてHgとSのピークを示した。これらの試料では、Feの高いピークも検出しているが、胎土部分からもFeの高いピークが検出されており、このFeは胎土に由来、もしくは埋蔵環境下における鉄分の二次的な付着が考えられる。また、第43図34は外面に赤彩が確認され、わずかにHgのピークを検出した。したがって、これらの試料については水銀朱による塗彩は確実に行なわれているとみられる。また、第41図18・19・20、第42図25、第43図6、第45図6・8については土器外面においてFeの高いピークを示した。これらの試料については、胎土部分のピークとの比較と顕微鏡観察の結果から、ベンガラが塗布されていると推測される。

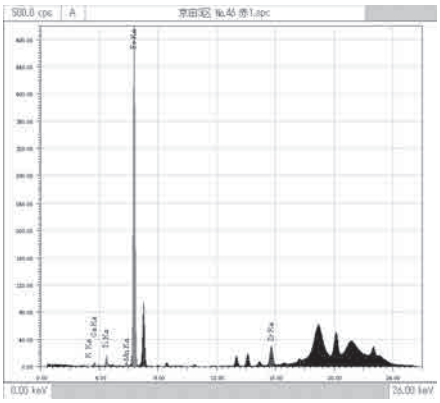
（注1・2）市毛勲　1998 『新版　朱の考古学』 雄山閣

また、第52図12は石器であるが、顕微鏡観察で赤く発色している箇所を測定した。Feの高いピークを示したが、赤色顔料の付着であるとは言い難い。また、同様に第43図5・第48図21・22についても、Feの高いピークを示したが、顕微鏡観察の結果、顔料の粒子は確認されず、胎土中の鉄分が発色したものであると推測される。

第1表　京田遺跡3区　赤色顔料付着遺物　蛍光X線分析結果

挿図番号	種別	器種	時期	測定箇所	検出元素			推測される顔料の種類	備考
					Hg	S	Fe		
第41図18	縄文土器	深鉢	沖丈式～権現山古段階	外面	−	−	+++	ベンガラ	内面の赤色顔料は確認できない
				内面	×	×	×	−	
				胎土	−	−	+++	−	
第41図19	縄文土器	深鉢	沖丈式～権現山古段階	外面	−	−	+++	ベンガラ	内面の赤色顔料は確認できない
				内面	×	×	×	−	
				胎土	−	−	++	−	
第41図20	縄文土器	深鉢	沖丈式～権現山古段階	外面	−	−	+++	ベンガラ	内面の赤色顔料は確認できない
				内面	×	×	×	−	
				胎土	−	−	++	−	
第42図25	縄文土器	鉢	沖丈式～権現山古段階	外面	−	−	+++	ベンガラ	内面の赤色顔料は確認できない
				内面	×	×	×	−	
				胎土	−	−	+++	−	
第43図5	縄文土器	深鉢	沖丈式～権現山古段階	外面	−	−	+++		内面の赤色顔料は確認できない。外面のFeは胎土中の鉄分が発色したものとみられる。
				内面	×	×	×		
				胎土	−	−	+++		
第43図6	縄文土器	深鉢	沖丈式～権現山古段階	外面	−	−	+++	ベンガラ	内面の赤色顔料は確認できない
				内面	×	×	×		
				胎土	−	−	+++		
第43図34	縄文土器	深鉢		外面	+	−	+++	水銀朱か？	
				内面	−	−	+++		
				胎土	−	−	+++		
第45図6	縄文土器	深鉢	小池原上層式	外面	−	−	+++	ベンガラ	内面の赤色顔料は確認できない
				内面	×	×	×	−	
				胎土	−	−	+++	−	
第45図8	縄文土器	深鉢	小池原上層式	外面	−	−	++	ベンガラ	内面の赤色顔料は確認できない
				内面	×	×	×	−	
				胎土	−	−	+++	−	
第48図18	縄文土器	浅鉢		外面	×	×	×	−	外面の赤色顔料は確認できない
				内面	++	+	+++	水銀朱	
				胎土	+	−	+++	−	
第48図19	縄文土器	浅鉢		外面	×	×	×	−	外面の赤色顔料は確認できない
				内面	+++	+	++	水銀朱	
				胎土	+	−	++	−	
第48図20	縄文土器	浅鉢		外面	×	×	×	−	外面の赤色顔料は確認できない
				内面	+++	+	++	水銀朱	
				胎土	−	−	++	−	
第48図21	縄文土器	浅鉢		外面	−	−	+++	−	胎土中の鉄分が発色したものとみられる
				内面	−	−	++	−	
				胎土	−	−	++	−	
第48図22	縄文土器	浅鉢		外面	×	×	×	−	胎土中の鉄分が発色したものとみられる 外面の赤色顔料は確認できない
				内面	−	−	+++	−	
				胎土	−	−	+++	−	
第52図12	石器	磨石		赤色部分	−	−	+++		Feのスペクトルピークを高く示す
				赤色以外の部分	−	−	++		

検出元素凡例；++…スペクトルピークを高く検出 / +…検出 /-…検出せず / ×…測定せず（赤彩なし・試料形状により測定不可）



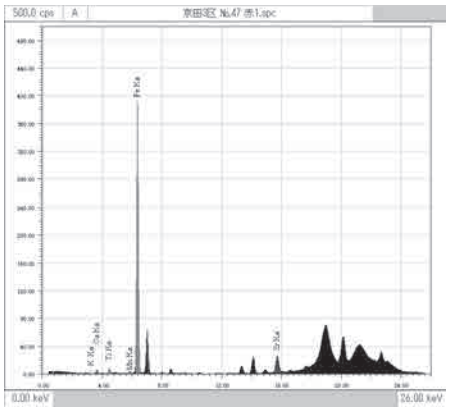
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	128
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	334
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	42.677	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	46.263	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	118.772	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	56.967	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	4185.818	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	384.806	15.53-15.96

41 図 -18　外面（大気）



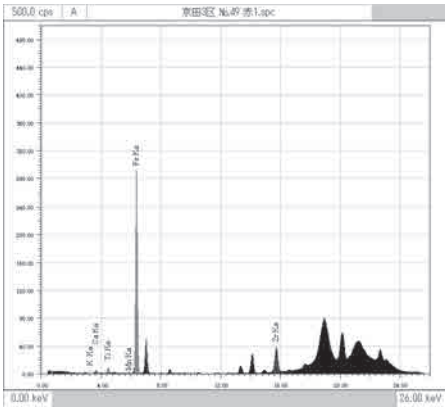
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	129
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	301
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	36.059	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	41.877	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	63.509	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	38.081	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2929.503	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	344.027	15.53-15.96

41 図 -19 外面（大気）



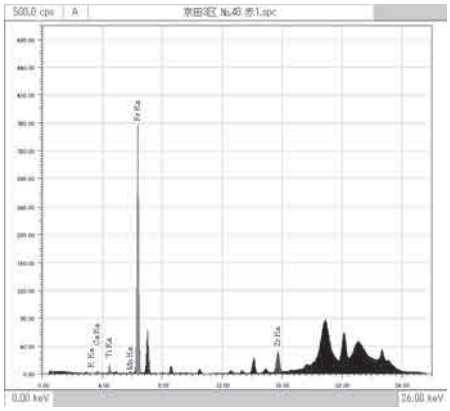
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	126
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	358
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	39.025	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	39.198	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	68.998	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	29.007	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2198.838	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	488.646	15.53-15.96

41 図 -20 外面（大気）



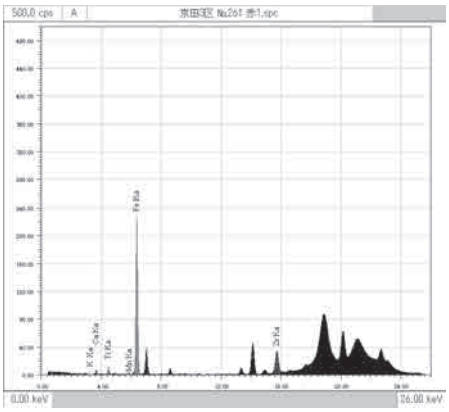
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	126
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	509
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	23.977	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	32.173	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	95.496	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	34.997	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2684.657	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	408.260	15.53-15.96

42 図 -25 外面（大気）



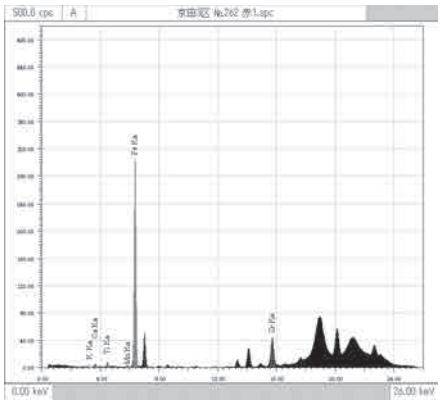
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	124
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	545
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	36.179	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	51.816	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	80.721	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	30.923	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	1699.538	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	451.314	15.53-15.96

43 図 -5 外面（大気）



［測定条件］

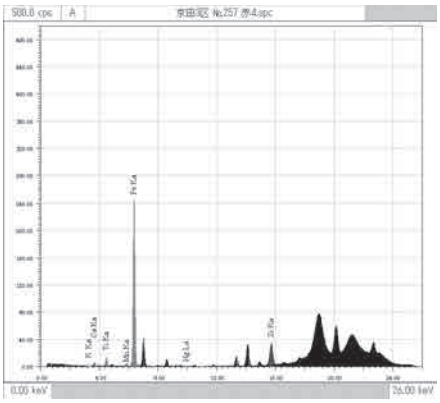
測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	129
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	303
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	36.587	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	38.363	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	64.753	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	29.512	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2291.798	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	549.806	15.53-15.96

43 図 -6 外面（大気）

蛍光 X 線分析スペクトルピーク (1)



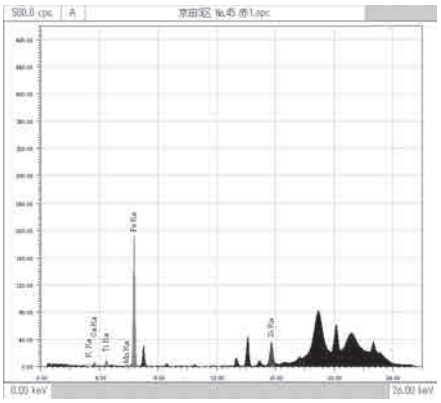
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	126
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	289
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	43.003	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Ｋα	39.737	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Ｋα	96.896	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Ｋα	41.719	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Ｋα	1844.358	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Ｋα	446.081	15.53-15.96
80	Hg	水銀	Ｌα	27.771	9.80-10.16

43 図 -34 外面（大気）



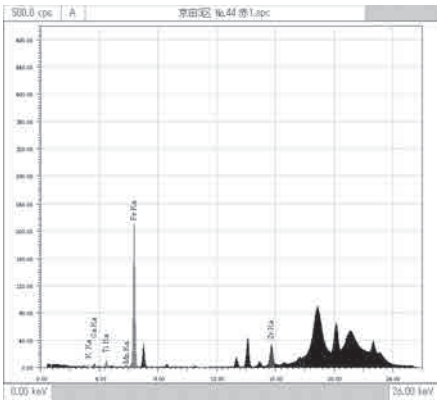
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	126
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	379
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	48.843	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Ｋα	47.284	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Ｋα	74.374	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Ｋα	28.471	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Ｋα	1428.863	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Ｋα	470.135	15.53-15.96

45 図 -6 外面（大気）



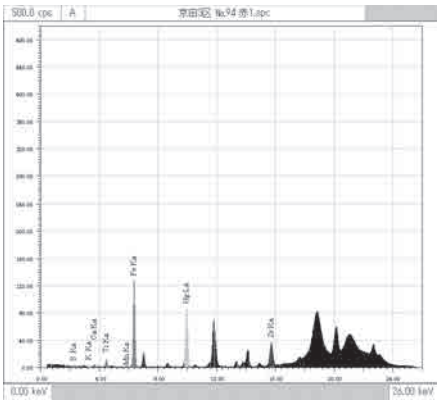
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	123
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	543
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	47.693	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Ｋα	44.782	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Ｋα	74.947	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Ｋα	34.773	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Ｋα	1577.812	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Ｋα	431.020	15.53-15.96

45 図 -8 外面（大気）



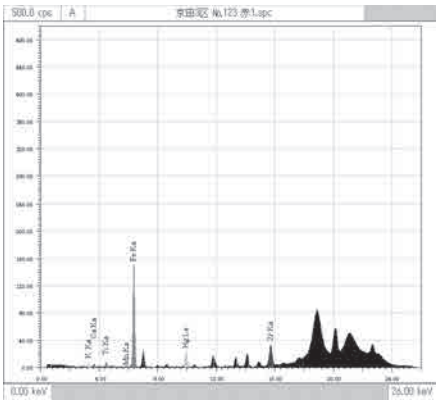
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	124
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	901
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	38.060	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Ｋα	33.374	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Ｋα	85.350	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Ｋα	27.145	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Ｋα	962.977	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Ｋα	468.947	15.53-15.96
80	Hg	水銀	Ｌα	845.967	9.80-10.16
16	S	硫黄	Ｋα	22.091	2.19- 2.42

48 図 -18 内面（大気）



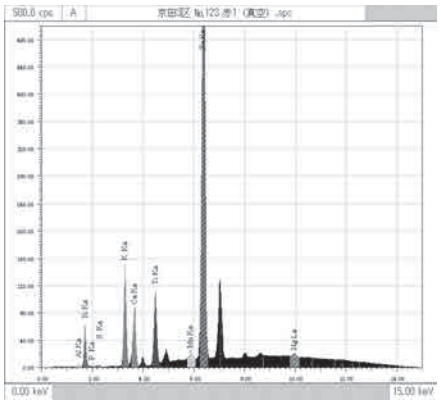
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	128
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	411
フィルタ	Pb用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Ｋα	45.089	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Ｋα	37.802	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Ｋα	58.095	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Ｋα	26.250	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Ｋα	1124.377	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Ｋα	415.694	15.53-15.96
80	Hg	水銀	Ｌα	229.758	9.80-10.16

48 図 -19 内面（大気）



［測定条件］

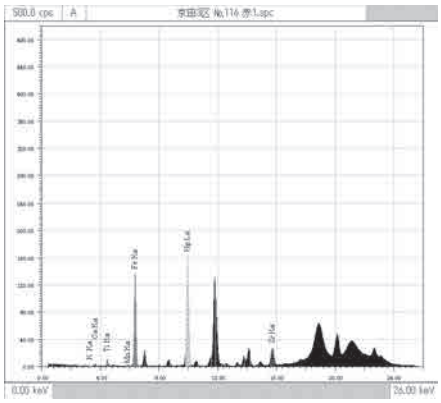
測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	139
試料室雰囲気	真空
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	15
管電流（μA）	149
フィルタ	Cl用
マイラー	ｶﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
13	Al	アルミニウム	Ｋα	43.047	1.38- 1.59
14	Si	ケイ素	Ｋα	316.468	1.63- 1.85
15	P	リン	Ｋα	21.490	1.90- 2.13
19	K	カリウム	Ｋα	893.917	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Ｋα	636.660	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Ｋα	766.727	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Ｋα	281.416	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Ｋα	5989.073	6.25- 6.55
80	Hg	水銀	Ｌα	324.857	9.80-10.16
16	S	硫黄	Ｋα	29.357	2.19- 2.42

48 図 -19 内面（真空）

蛍光 X 線分析スペクトルピーク (2)



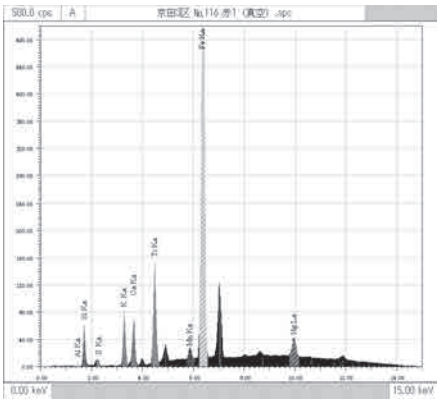
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	128
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	368
フィルタ	Pb用
マイラー	ﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	26.954	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	27.569	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	74.518	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	27.524	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	1029.232	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	344.200	15.53-15.96
80	Hg	水銀	Lα	1548.256	9.80-10.16

48 図 -20 内面（大気）



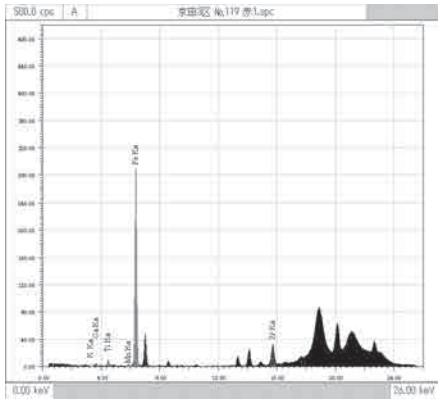
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	141
試料室雰囲気	真空
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	15
管電流（μA）	158
フィルタ	Cl用
マイラー	ﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
13	Al	アルミニウム	Kα	38.097	1.38- 1.59
14	Si	ケイ素	Kα	305.170	1.63- 1.85
19	K	カリウム	Kα	480.615	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	467.029	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	1011.557	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	290.897	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	5452.908	6.25- 6.55
80	Hg	水銀	Lα	522.858	9.80-10.16
16	S	硫黄	Kα	80.180	2.19- 2.42

48 図 -20 内面（真空）



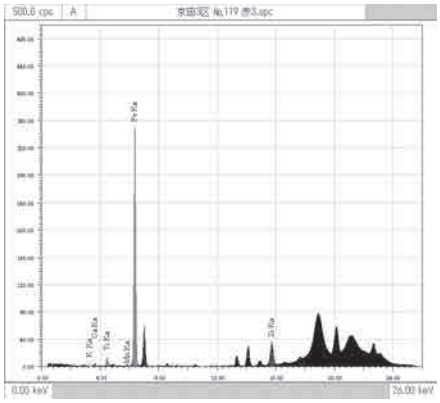
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	124
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	469
フィルタ	Pb用
マイラー	ﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	40.322	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	36.227	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	77.832	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	31.154	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2169.213	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	415.417	15.53-15.96

48 図 -21 内面（大気）



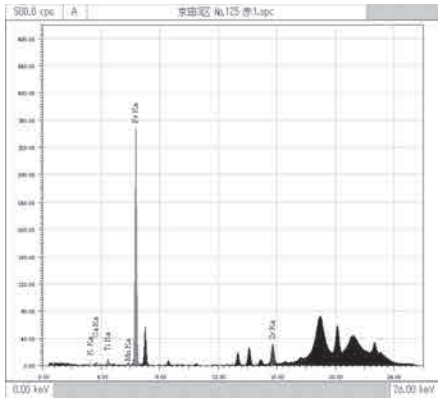
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	126
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	534
フィルタ	Pb用
マイラー	ﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	48.984	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	34.158	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	98.751	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	34.688	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2618.087	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	452.431	15.53-15.96

48 図 -21 外面（大気）



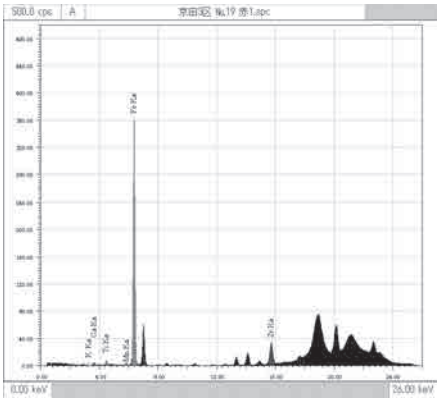
［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	127
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	301
フィルタ	Pb用
マイラー	ﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	56.981	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	39.597	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	75.065	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	43.324	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2605.958	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	408.175	15.53-15.96

48 図 -22 内面（大気）



［測定条件］

測定装置	SEA1200VX
測定時間（秒）	200
有効時間（秒）	126
試料室雰囲気	大気
コリメータ	φ8.0mm
励起電圧（kV）	50
管電流（μA）	454
フィルタ	Pb用
マイラー	ﾊﾞｰ
ピーキングタイム	8.0usec
コメント	

［結果］

Z	元素	元素名	ライン	A(cps)	ＲＯＩ(keV)
19	K	カリウム	Kα	41.888	3.19- 3.44
20	Ca	カルシウム	Kα	37.192	3.56- 3.82
22	Ti	チタン	Kα	60.137	4.37- 4.65
25	Mn	マンガン	Kα	41.243	5.75- 6.05
26	Fe	鉄	Kα	2728.655	6.25- 6.55
40	Zr	ジルコニウム	Kα	426.631	15.53-15.96

52 図 -12（大気）

蛍光 X 線分析スペクトルピーク (3)

第３節　京田遺跡発掘調査に係る花粉分析及び種実同定

渡辺正巳：文化財調査コンサルタント（株）

はじめに

京田遺跡は島根県中央部の出雲市湖陵町に位置し、海跡湖である「神西湖」に注ぐ常楽寺川中流域の小盆地内に立地する。本報は、遺跡周辺の（縄文時代後期前葉から中葉の暗色帯を対象にした）古環境推定、及び出土種実の種類を確認する目的で、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターが、文化財調査コンサルタント株式会社に委託・実施した花粉分析及び種実同定業務の概報である。

分析試料について

分析試料採取地点及び採取層準を、第１図に示した。花粉分析試料（断面図中①、②）は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターとの協議の上、文化財調査コンサルタント（株）が採取した。種実同定試料は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターにより採取・保管されていたものから御提供を受けた。また、第１図（平面図及び断面図）は、島根県教育庁埋蔵文化財調査センターより提供を受けた原図をもとに作成したものである。

分析方法

1. 微化石概査方法

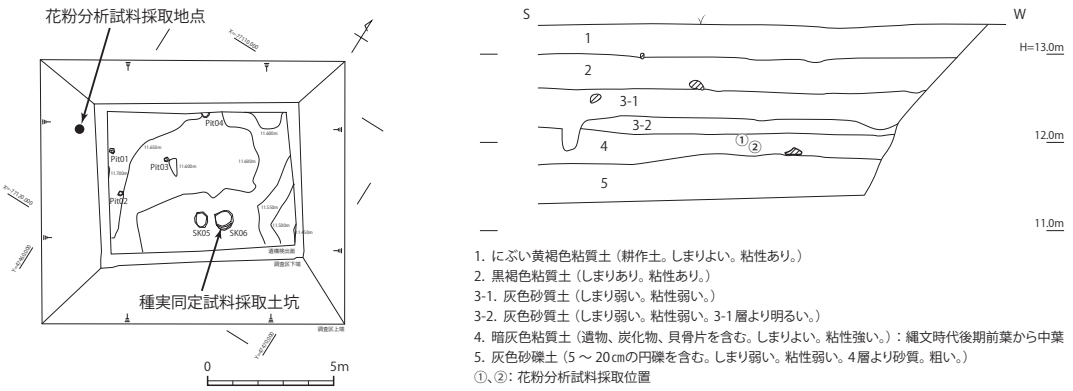
花粉分析用プレパラート及び花粉分析処理残渣を顕微鏡下で観察し、花粉（胞子）、植物片、炭、珪藻、植物珪酸体、火山ガラスの含有状況を、５段階で示した。

2. 花粉分析方法

渡辺（2010）に従って実施した。花粉化石の観察・同定は、光学顕微鏡により通常400倍で、必要に応じ600倍あるいは1000倍を用いて実施した。原則的に木本花粉総数が200粒以上になるまで同定を行い、同時に検出される草本・胞子化石の同定も行った。また中村（1974）に従って、イネ科花粉をイネを含む可能性が高い大型のイネ科（40ﾐｸﾛﾝ以上）と、イネを含む可能性が低い小型のイネ科（40ﾐｸﾛﾝ未満）に細分した。

3. 種実同定方法

肉眼及び実体顕微鏡にて、現生標本及び図鑑類との対比により同定した。また、同定後の試料は



第１図　試料採取地点・採取層準（左：トレンチ平面図　右：花粉分析試料採取地点近辺の断面図）

ガラス瓶に入れ、60%エタノールにて液侵標本とした。

分析結果

1. 微化石概査結果

微化石概査結果を第１表に示す。

いずれの試料でも花粉化石、植物片、珪藻化石の検出量が少なく、炭片が多く検出された。火山ガラスとプラント・オパールの検出量は、比較的多かった。

2. 花粉分析結果

花粉分析結果を第２表、第２図に示す。

花粉・胞子化石の検出量が極めて少なかったことから、花粉ダイアグラムでは、検出できた分類群を「＊」で示した。この外、総合ダイアグラム（「木本（針葉樹）」、「木本（広葉樹）」、「草本・藤本」と「胞子」の割合を示すグラフ）、含有量ダイアグラム（「木本」、「草本・藤本」、「胞子」「花粉・胞子（全ての合計）」ごとの含有量（湿潤試料1g中の粒数）変化）を示した。

3. 種実同定結果

種実同定結果を第３表、第３図に示す。K-1は、取り上げ時に１つであったものが、頂いた時点で３分していた（2片は接合できたが、1片は接合ができなかった。）。K-1、K-2のいずれもオニグルミの内果皮（破片）であった。同一のピット内から採取されたことから、K-1とK-2が同一個体である可能性も指摘できるが、これらを接合することはできなかった。以下に特徴を記載する。

オニグルミ（内果皮）*Amygdalus persica* L.

記載：出土した内果皮は球形が割れた状態（K-1が1/4、K-2が1/8）である。表面には不規則な凹凸があり、脈状で不規則な細い筋が粗く全面に分布する。内果皮壁は固く緻密で壁内部に空隙があり、

第１表　微化石概査結果

試料No.	花　粉	炭	植物片	珪　藻	火山ｶﾞﾗｽ	ﾌﾟﾗﾝﾄ・ｵﾊﾟｰﾙ
1	△×	◎	○	△×	○	○
2	△×	◎	△×	×	○	◎

凡例 ◎ ：十分な数量が検出できる　○：少ないが検出できる　△：非常に少ない
△×：極めてまれに検出できる　×：検出できない

第２表　花粉組成表

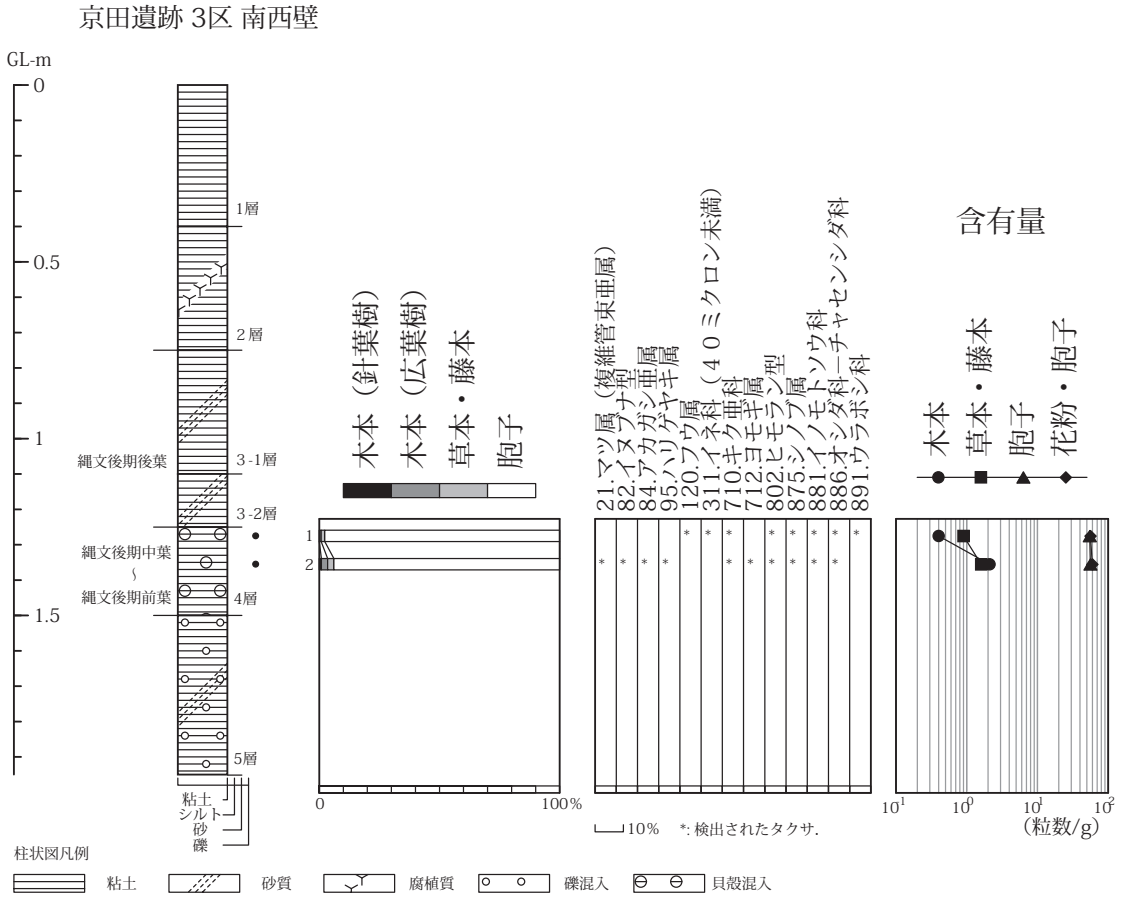
試料番号			1		2	
21	*Pinus(Diploxylon)*	マツ属：複維管束亜属			1	25%
82	*Fagus japonica* type	イヌブナ型			1	25%
84	*Cyclobalanopsis*	アカガシ亜属			1	25%
95	*Hemiptelea*	ハリゲヤキ属			1	25%
120	*Liquidambar*	フウ属	1	100%		
311	Gramineae(<40)	イネ科（４０ミクロン未満）	1	100%		
710	Carduoidae	キク亜科	1	100%	1	25%
712	*Artemisia*	ヨモギ属			2	50%
802	*Urostachys sieboldii* type	ヒモラン型	1	100%	1	25%
875	*Davallia*	シノブ属	12	1200%	3	75%
881	Pteridaceae	イノモトソウ科	8	800%	15	375%
886	Aspid.-Asple.	オシダ科ーチャセンシダ科	77	7700%	74	1850%
891	Polypodiaceae	ウラボシ科	9	900%		
898	MONOLATE-TYPE-SPORE	単条溝胞子	16	1600%	13	325%
899	TRILATE-TYPE-SPORE	三条溝胞子	5	500%	2	50%
木本花粉総数			1	1%	4	3%
草本花粉総数			2	2%	3	3%
胞子総数			128	98%	108	94%
総数			131		115	
含有量（粒数 /g）			56		60	

左よりカウント粒数、百分率

内面は４室に分かれる構造となっている。

古環境推定

花粉分析に適した沼沢湿地の堆積物（腐植質粘土）では、通常1g当たり数万粒の花粉・胞子化石が含まれる。一方今回の分析試料では、花粉・胞子化石含有量は100粒/gに至らず、木本花粉含有量は1.8粒～ 0.6粒/gと、極めて少なかった。



第2図　花粉ダイアグラム

第3表　種実同定結果

試料No.	注記				種名	部位
	調査区	ピットNo.	層名	日付		
K-1	3 区	SK06	1 層	160613	オニグルミ	内果皮（破片）
K-2	3 区	SK06	1 層	160615	オニグルミ	内果皮（破片）

第3図　種実写真（オニグルミ：内果皮破片）

上記のように、花粉・胞子化石の検出量が極めて少なかったことから、目的の一つである「遺跡周辺の古植生推定」はできなかった。

一方、花粉分析を行った4層の堆積環境について、後述のように「いわゆる古土壌で、堆積速度が極めて遅かった。」、「自然災害に伴う堆積物で、堆積速度が極めて速かった。」と考えられた。また、堆積後の環境として、「グライ化による強度の還元環境」が予想され、地下水位が高く、かつ停滞していたと考えられる。

花粉化石含有量の少なかった原因について

花粉化石の含有量の少ない原因について、通常は以下のようなことが考えられている。

1. 堆積速度が速いために、堆積物中に花粉化石が含まれない。
2. 堆積物の特性（粒度・比重）と花粉化石の平均的な粒径、比重が著しく異なり、堆積物中に花粉化石が含まれない。
3. 土壌生成作用に伴う堆積物で、堆積速度が極めて遅く、堆積した花粉化石が紫外線により消滅した。
4. 花粉化石が本来含まれていたが、堆積後の化学変化等により花粉化石が消滅した。
5. 有機物に極めて富む堆積物で花粉以外の有機物も多く、処理の過程で花粉化石が回収できなかった。

微化石概査結果（第1表）では、分析対象とした試料の多くで炭片、植物珪酸体、火山ガラスの含有量が多く、花粉（胞子）、植物片、珪藻の含有量が少なかった。また、分析した試料も粘土からシルトサイズが主であるほか、試料採取時にグライ化の影響と考えられる暗青灰色を呈していた。これらのことから、上記３あるいは４が、花粉（胞子）含有量が少なかった主因であると考えられる。一方、僅かに検出された木本花粉のうち、背後の新第三系由来の化石種が多くを占めることから、斜面崩壊等の自然災害に伴う堆積物で、堆積速度が速いために花粉粒が含まれなかった可能性も指摘できる。

まとめ

京田遺跡の発掘調査に伴い、花粉分析、種実同定を行った。この結果、以下の事柄が明らかになった。

(1) 土坑（SK06）から出土した種実は、いずれもオニグルミであった。

(2) 花粉・胞子化石の含有量が少なく、ほとんど検出できなかった。この原因として、「いわゆる古土壌で、堆積速度が極めて遅かった。」、「グライ化による強度の還元環境」、「自然災害に伴う堆積物で、堆積速度が極めて速かった。」ことが推定できた。

(3) 花粉化石がほとんど検出できなかったことから、古植生が推定できなかった。一方、花粉化石が検出できなかった原因を、4層堆積時（縄文時代後期前葉から中葉）の堆積環境、及び堆積後の地下環境と考えることができる。

引用文献

中村　純（1974）イネ科花粉について，とくにイネを中心として．第四紀研究，13,187-197.

渡辺正巳（2010）花粉分析法．必携 考古資料の自然科学調査法，174-177．ニュー・サイエンス社．

第６章　総括

第１節　のの子谷横穴墓群

調査の成果は第３章でまとめたが、のの子谷横穴墓群が所在する出雲市湖陵町周辺の横穴墓の様相と比較し、本横穴墓群の位置付けを行いたい。

今回の調査では、古墳時代終末期に造墓された６穴の横穴墓を調査した。また、調査区外には、３号穴の東側に３穴、西側の狭小な谷の東向き斜面に３穴の横穴墓を確認しており、のの子谷横穴墓群は、少なくとも２支群12穴で構成される[1]。水田からの比高約10mの標高21.4m ～ 25.7m付近に立地し、南東方向に開口する（第２表）。東支群の位置関係を詳細にみると、１号穴と４号穴の南グループ、２号穴と３号穴、５号穴と６号穴の中央グループ、未調査である７号穴～９号穴の北グループの３つの小グループに分けることができる。小グループは２～４穴程度で構成されている。

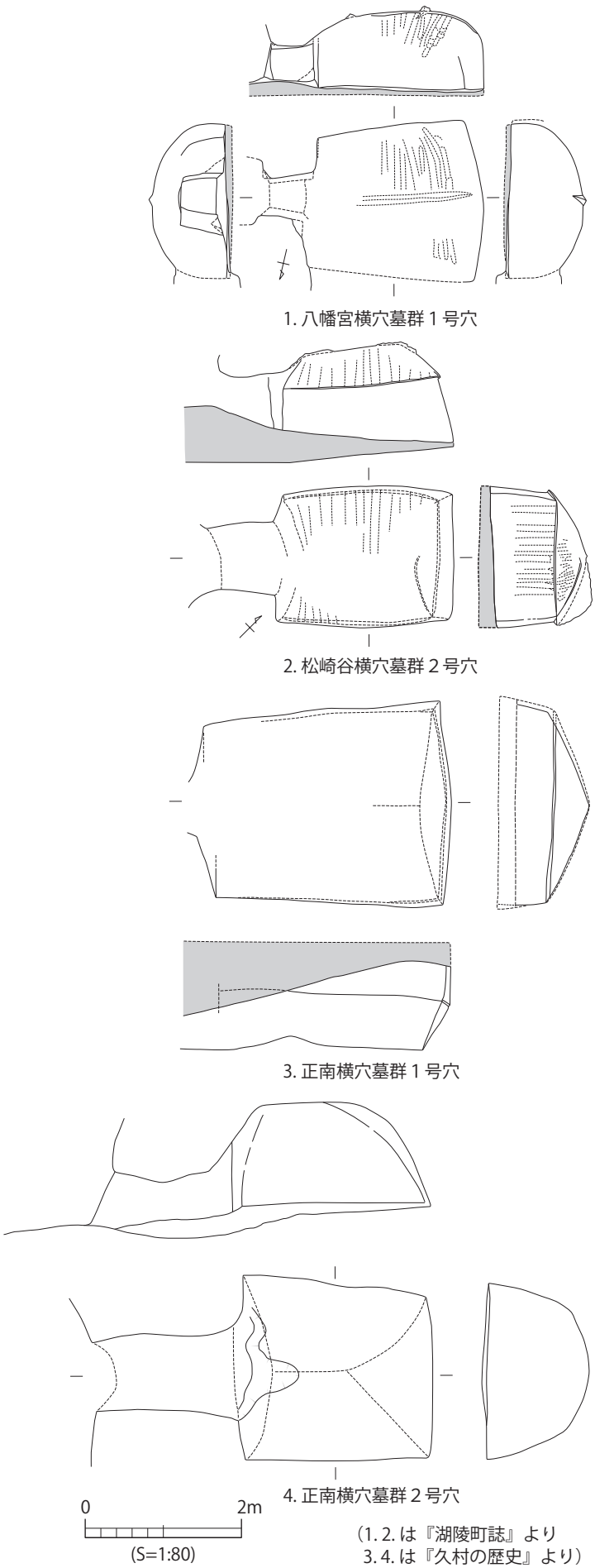
１号穴～５号穴は、前庭部平面形が前端部に向け広がる台形で、６号穴のみ両側壁が併行に伸びる。この違いは、閉塞施設の形状や玄室形態にも現れている。１号穴～５号穴は、玄室平面形が縦長長方形、天井形がアーチ系の切妻家形で、壁面を丁寧に調整している。一方、６号穴は唯一閉塞石を伴い、玄室平面形がほぼ正方形を呈し、天井形は平天井で、玄室高が低い。このように６号穴は他の５穴と異なる特徴を持っている。

第55図　出雲市湖陵町周辺の横穴墓

第13表　出雲市湖陵町周辺の横穴墓

番号	遺跡名	所在地	規模	出土品	参考文献
1	砂原小山横穴墓群	多伎町多伎	8穴	須恵器	松尾2004、山陰横穴墓1997
2	後谷横穴墓群	多伎町久村	3穴		松尾2004
3	正南横穴墓群	多伎町久村	3穴	刀、須恵器	久村地区2011、松尾2004
4	大池横穴墓	湖陵町大池	1穴	須恵器	湖陵町2000b、丹羽野1992
5	水原横穴墓群	湖陵町二部・後谷	1群3穴？	須恵器	湖陵町2000a・b
6	松崎谷横穴墓群	湖陵町二部・後谷	1群4穴	刀？、須恵器？	湖陵町2000b、山陰横穴墓1997
7	八幡宮横穴墓群	湖陵町西三部	5群26穴	刀、須恵器	湖陵町2000a・b、近藤1969
8	安子神社横穴墓群	湖陵町常楽寺	1群8穴？	刀、須恵器	湖陵町2000a・b
9	のの子谷横穴墓群	湖陵町常楽寺	2群12穴	刀子、耳環、須恵器	湖陵町2000a・b、本書
10	九景横穴墓群	西神西町	2穴		出雲市1993
11	正久寺横穴墓群	西神西町	5穴		出雲市1993
12	湖東屋山横穴墓群	神西沖町	7穴		出雲市1993
13	神待山横穴墓群	西神西町	9穴	刀、耳環	出雲市1993
14	経塚山横穴墓群	多伎町口田儀	3穴		松尾2004

1　今後の調査で、周辺部から横穴墓が発見され、支群が増加する可能性はある。



第56図　出雲市湖陵町周辺の横穴墓実測図（S=1:80）

周辺の横穴墓

神西湖周辺には、のの子谷横穴墓群を含め10箇所77穴の横穴墓が知られている（第13表の4～13）。この中で発掘調査された横穴墓は大池横穴墓のみで（丹羽野1992）、その他の横穴墓は斜面が崩落して開口したものや未調査のものが多く、詳細は不明である。

神西湖の東側丘陵に湖東屋山横穴墓群、正久寺横穴墓群、九景横穴墓群、神待山横穴墓群が、神西湖南側から西側の丘陵にのの子谷横穴墓群、安子神社横穴墓群、八幡宮横穴墓群、松崎谷横穴墓群、水原横穴墓群、大池横穴墓が存在している。

横穴墓は多くが2穴以上で群集し、八幡宮横穴墓群では5支群に細分でき、各支群が4穴、7穴、8穴で構成されている（湖陵町2000a）。八幡宮横穴墓群には組み合わせの家形石棺を内蔵する横穴墓が存在し（近藤1969）、神西湖周辺においては質量とも規模の大きな横穴墓群である。のの子谷横穴墓群は数的には2支群12穴を有し、八幡宮横穴墓群に次ぐ規模である。神西湖からやや離れた出雲市多伎町砂原小山横穴墓群では8穴、後谷横穴墓群と正南横穴墓群では3穴が確認されている（第13表）。八幡宮横穴墓群やのの子谷横穴墓群のように数支群からなる大規模な横穴墓群と数穴程度の小規模な横穴墓群に分かれる傾向が見て取れる。

数穴程度からなる小規模な横穴

墓群が同一丘陵に集まることにより、結果、支群が増加し大規模な横穴墓群が形成されることになったと想定できる。横穴墓が同一丘陵に集中する原因は、掘削できる地質的な要因や造墓集団の居住域との関係等、様々な要因が考えられるが、現在、古墳時代後期の集落遺跡等が不明であり、資料の蓄積を待ち検討すべき課題である。

横穴墓の形態

玄室平面形は、のの子谷１～５号穴は縦長長方形、６号穴が正方形、松崎谷２号穴は縦長長方形（湖陵町2000b）、八幡宮１号穴は縦長の台形（湖陵町2000b）、八幡宮C-1号穴は正方形（山陰横穴墓1997）、正南１号穴が縦長の台形、正南２号穴はやや歪な正方形（久村地区2011）を呈している。のの子谷横穴墓群を含め、玄室平面形は縦長長方形を基調に、前壁の幅が狭くなる台形やのの子谷６号穴のような正方形を指向するものが数少ないが存在している。玄室平面形が正方形の横穴墓は、出雲西部に横穴墓が導入された当初から数少ないものの導入されており（出雲市1995）、のの子谷横穴墓群の玄室平面形は周辺地域の様相と同一である。

玄室天井形について、のの子谷横穴墓群では、天井が崩落している例が多いが、２～５号穴はアーチ系切妻家形で、６号穴は軒線を伴う平天井である。八幡宮１号穴や正南２号穴、大池横穴墓は軒線を持たないアーチ形で、八幡宮１号穴では天井中央部に溝状に掘られた棟線がある。八幡宮C-1号穴や松崎谷２号穴、正南１号穴は軒線や棟線を施すアーチ系切妻家形である。

のの子谷６号穴は平天井であるが、断面図をみると軒線までの側壁は内傾している。軒線より上部の天井部を最終的に掘削していない結果、平天井となっていると考えることも可能である。

壁面に残っている工具痕をみると、大池横穴墓、のの子谷３～５号穴、八幡宮１号穴・C-1号穴、松崎谷２号穴の側壁には肋骨状技法による工具痕が残っており、アーチ系の掘削技法を踏襲して造られていると想定される（大谷・松山1999）。

のの子谷横穴墓群の玄室平面形や天井形について、時期差による変遷等を検討したが、出土遺物が少なく、詳細な変遷は確認することはできなかった。しかし、玄室形態や掘削技法の特徴は、出雲西部の特徴と指摘されたもので（大谷・松山1999）、他の神西湖周辺の横穴墓と同様の特徴を持ち（西尾ほか1992）、その類例を増やした。

横穴墓の時期

のの子谷横穴墓群の調査で出土した須恵器は、前庭部や玄室内の堆積土からの出土である。墓前祭祀や追葬あるいは１号穴のように古代末から中世前半の再利用時に掻き出されたと考えられ、これらの須恵器から横穴墓の造墓時期や初葬時期を考えることは難しい。また、須恵器は各横穴墓から出土しているものの、出土量は少ない。大谷分類A8型式が３号穴と５号穴から出土し、５号穴からは大谷分類C1あるいはC2型式も出土している。１号穴や２号穴からは大谷分類C1あるいはC2型式が出土している。限られた出土須恵器から時期を検討すると、１号穴は大谷編年出雲6bc期（以下、「大谷編年出雲6bc期」等を「大谷6bc期」等と略する。）・大谷７期、２号穴は大谷6bc期～ 6d期、３号穴は大谷6a期・6d期、４号穴は大谷6d ～７ 期、５号穴は大谷6a ～ 6bc期、６号穴は大谷6d期である。

のの子谷横穴墓群から出土した須恵器の時期は大谷６～７期であり、実年代に当てはめると、７世紀中葉から８世紀前半にあたり、おおむね７世紀中葉に造墓が開始され、８世紀前半に追葬や墓前祭祀が行われていたと考えられる。

周辺地域では、大池横穴墓から大谷分類A8型が出土している（丹羽野1992）。他の横穴墓群では、どの横穴墓から出土したか不明であるが、横穴墓群出土須恵器が知られている。水原横穴墓群から大谷分類A5型が、八幡宮横穴墓群からA4型、A6型、A7型、A8型が、安子神社横穴墓群からA4、C1型の蓋坏が出土している（湖陵町2000a）。初葬や追葬、墓前祭祀の時期を明確にできないが、水原横穴墓群や八幡宮横穴墓群、安子横穴墓群では大谷4期から出土し、八幡宮横穴墓群では大谷5期の遺物がまとまって出土し、出土量のピークを迎えている。その後、大谷6a ～ 6bc期の遺物が継続して出土している。

以上のように、神西湖周辺では、大谷4期には八幡宮横穴墓群や水原横穴墓群、安子神社横穴墓群で造墓が開始され、八幡宮横穴墓群では大谷5期の須恵器が最も出土している。その後、大谷6a期には大池横穴墓、のの子谷横穴墓群等へ墓域が広がる。このような墓域の拡大は、造墓集団の増加、造墓活動の規制の緩和等複数の要因が考えられる。大谷6d期では砂原小山横穴墓群やのの子谷横穴墓群等、遺跡数が減少する。その後、大谷7期には八幡宮横穴墓群やのの子谷横穴墓群から須恵器が出土している。大谷7期の須恵器は近年調査された出雲市斐川町杉沢横穴墓群や出雲地域の各横穴墓群からも確認することが可能で、追葬や墓前祭祀が8世紀前半頃まで行われていると考えられている（幡中2016）。

出土遺物

のの子谷横穴墓群の出土遺物は少ないが、副葬品として須恵器と金属製品、石製品が確認できた。金属製品は、4号穴から刀子1点、6号穴から刀子1点、耳環1点が出土した。周辺の横穴墓を見ると、副葬品として大刀が八幡宮横穴墓群や安子神社横穴墓群、正南横穴墓群、神待山横穴墓群から、耳環が神待山横穴墓群から出土している。発掘調査事例が少なく、玉類や馬具類の出土は確認されていない。のの子谷横穴墓群のように須恵器や耳環・刀子等の金属製品が副葬品として出土することが多いことがわかる。

出雲西部の平野部では、横穴墓の造墓は6世紀後半から始まる。最盛期である7世紀前半から中頃には神西湖周辺にも横穴墓が造られ、一部の墓域では横穴墓が集中する。当遺跡はそのような墓域の一つと考えられる。

第2節　京田遺跡

調査の成果は第4章でまとめたが、京田遺跡3区について周辺の遺跡の様相と比較し、本遺跡の位置付けを行いたい。

縄文土器

京田遺跡3区からは調査面積の割に多くの縄文土器や石器が出土した。縄文土器は現在の研究に当てはめると縄文時代後期初頭の中津式から後期後葉の宮滝式並行までが出土している。有文土器について第10表に集計している。各型式が分かるものは型式別に、型式が分からない破片は文様により分類した。

集計によると有文土器は総計735点あり、そのうち型式が分かるのも209点、外来系土器23点、型式不明の有文土器503点である。出土量が多い型式は、沖丈式58点、沖丈式から権現山古段階

が62点、権現山古段階37点となり、その前後の暮地式16点、布勢式11点、権現山古段階から新段階11点、権現山新段階6点となり、型式が分かる破片のうち沖丈式から権現山古段階までのものが全体の75％となり、遺跡の中心の時期を示している。

無文土器は口縁部534点、胴部2,628点、底部202点の計3,364点である。有文土器と無文土器の割合は1:4.6である。無文土器口縁部では口縁内面肥厚指頭圧痕土器は26点で、無文土器口縁部の約4.9％になる。この口縁部は「崎ヶ鼻1式期に出現し、同2式期に一般化して、「沖丈式」まで製作され、この型式のうちで終焉を迎えたものと考えることができる」という（千葉2014）。京田遺跡3区も沖丈式を中心とした時期であり、矛盾するものではないが、無文土器口縁部での割合については比較資料がなく、時期的変遷等今後資料の増加を待ちたい。

底部

縄文土器の底部は202点出土し、底部の形態により平底、凹底、丸底に分類した。内訳は破片数で平底164点、凹底35点、丸底3点である。胴部等と接合する資料が少なく、底部から上部の器形を判断することができなかった。底部の形態別比率は平底81%、凹底17%、丸底2％となり、平底が優位であることが分かる。近畿周辺地域の縄文時代後期の土器底部を検討した西原和代氏・妹尾裕介氏によるとA類（凹底）とB類（平底）について、A類が瀬戸内地域、B類が北陸地域に特徴的で、京都市一乗寺向畑町遺跡は中間的な様相を示し、近畿地方から瀬戸内地域において、B類からA類への変遷が読み取れるという（西原・妹尾2014）。この研究によると京田遺跡3区は時期や分類基準が異なるが、平底が卓越し、北陸地域的な様相を示しているということになる。しかし、1つの遺跡から出雲地域が北陸地域的と判断することは早急であり、他の遺跡での類例を待つ必要があろう。

底径について、細片もあることから0.5cm間隔で計測した。平底（計測数47点）では、12.0cm～1点、11.0cm～1点、10.0cm～4点、9.5cm～2点、9.0cm～6点、8.5cm～4点、8.0cm～11点、7.5cm～3点、7.0cm～5点、6.5cm～1点、6.0cm～8点、5.5cm～1点となり、8.0cm～8.5cmと6.0～6.5cmにピークがある。凹底（計測数21点）では、12cm～1点、9.0cm～3点、8.5cm～2点、8.0cm～8点、7.0cm～1点、6.0cm～3点、5.0cm～2点、3.5cm～1点となり、8.0～9.5cmに凹底全体の59％、13点が集中している。周辺地域で底部の計測事例が少なく、この地域での検討は今後の課題である。

外来系土器

関東系では加曽利B1式の注口土器やバケツ形土器が出土し、九州系では小池原上層式の深鉢が出土している。小池原上層式は九州に近い島根県西部地域では出土が目立つが、島根県東部では出雲市三田谷Ⅲ遺跡やサルガ鼻遺跡等で散在する程度である（千葉2014）。京田遺跡3区出土の小池原上層式の一部の土器は胎土等から確実に搬入品と考えられるものがあるが[2]、加曽利B1式では在地の土器の胎土と変わらず、文様や形態等の情報としての土器の要素が持ち込まれていると考えられる。

赤色顔料が付着した土器

赤色顔料が付着した土器は、ベンガラが付着したもの8点（可能性のあるもの1点を含む）、水銀朱

2　柳浦俊一氏、千葉豊氏の御教示による。

が付着したものが４点（可能性のあるもの１点を含む）の計１２点が出土した（第５章第２節）。ベンガラは深鉢外面の文様帯に付着し、沖丈式から権現山古段階が５点、小池原上層式が３点（可能性のあるもの１点を含む）である。水銀朱は内湾する無文浅鉢の内面に付着するもの３点、縄文を施した深鉢の外面に付着するものが１点である。

土器表面の風化の進行や観察が不十分な点はあるが、京田遺跡３区から出土した有文土器は735点あり、そのうち９点に赤色顔料が付着していることから、赤色顔料の付着率は約１％程度である。小池原上層式の土器だけを見ると、15点のうち３点に赤色顔料が付着しているので、20％の付着率である。内湾する無文土器は29点あり、そのうち３点に水銀朱が付着しているので、赤色顔料の付着率は約10％となる。縄文時代後期中葉から後葉にかけての京都市一乗寺向畑町遺跡では、近畿地方の同時期にあたる遺跡の傾向と同様に赤色顔料として水銀朱の利用が主体的となっているという（木村・竹原2014）。京田遺跡３区は一乗寺向畑町遺跡よりやや古い時期が主体であることからベンガラが主体的に使用されていた可能性がある。出雲平野周辺では赤色顔料が付着した縄文土器があるものの科学分析数が少なく、赤色顔料の成分の変遷等は未解明である。山持遺跡（第16図16）では凹線文土器に（島根県2009）、三田谷Ⅲ遺跡（第29図１）では彦崎ＫⅠ式の浅鉢に（島根県2000）、赤色顔料が付着しており今後、継続した分析により、赤色顔料の成分の変遷や地域間の交流を考えることができるであろう。

石器

京田遺跡３区の石器群について、京都市一乗寺向畑遺跡出土品を参考に分類した結果（上峯2013）、以下の器種で構成されている。

剥片石器として、石鏃３点、スクレイパー４点、二次加工のある剥片（RF）５点、使用痕のある剥片（UF）１点、抉入石器１点、楔形石器２点、打製石斧８点、剥片111点、石核２点がある。礫石器として、浮子１点、石錘２点、磨石13点、敲石３点、凹石１点、砥石６点、石皿41点、呪術具２点、その他自然礫あるいは原石として20点の計225点が確認できた[3]（第12表）。集計を見ると礫石器、特に磨石[4]や石皿が多く、石鏃やスクレーパー等剥片石器が少ないのが特徴である。剥片と原石等を除いた割合は、点数で礫石器約74％、剥片石器約26％、重量で礫石器約94％、剥片石器約６％である。

次に石材により、黒曜石、軽石、玉髄、石英、鉄石英、珪化木、砂岩、流紋岩から安山岩[5]、流紋岩からデイサイト、流紋岩、デイサイト、安山岩、サヌカイト、凝灰岩、火山岩、不明に分類した[6]（第12表）。

京田遺跡の石器群は、地元産の流紋岩から安山岩を主要石材とし、特にデイサイト、安山岩の使

3　器種分類では最大限分類し、その可能性があるものを含んでいる。

4　凹石、敲石の一部には磨石としても使用しているものがある。

5　流紋岩、デイサイト、安山岩は一連の岩体に存在し、冷却時の様相で変化するので、肉眼観察では、石基がきわめて均質で滑らかであり、斑晶が少ないもの、微細な白色の斑晶が頻繁に認められるもの、板状に剥離するもの等に分けることも可能である。詳細については岩石学的分析をしないと細かく分けることは難しいので、今回は大まかに分け、確実に分類できる石材のみ細分した。

6　石材同定は島根県立三瓶自然館中村唯史氏の御教示による。

用が多く、不明を除いた88％を占めている。

磨石や石皿は安山岩が中心で、デイサイトと砂岩を含んでいる。敲石と凹石は玉髄1点以外はすべて安山岩である。剥片石器は流紋岩、デイサイト、安山岩が中心で、黒曜石や玉髄等を含んでいる。サヌカイトは、石基がきわめて均質なガラス質で滑らかで、斑晶が少なく、自然面は白色で、縞状の細かな流理が入るものとして肉眼観察で分別した。その結果、2点（第51図4・16）、210.8gを確認したが、剥離面が鱗状になっていない等剥離の雰囲気がやや異なり、サヌカイトと似て非なるものかもしれない[7]。周辺地域に広く分布する凝灰岩の使用は少なく、2例（第53図7、第54図2）のみである。

玉髄は5点、368gあり、不透明な碧玉（第51図1・3、石69）と、透明なメノウ（第52図6、石77）に分かれる。この石材は松江市から大田市の平野縁辺部（山際）に広く分布している。流紋岩あるいはデイサイトとしたものに緑色に変質した石が2点（石118、石121）含まれている。鉄石英としたものは3点、284gあり、赤メノウの可能性もある。砂岩は6点、983gあり、均質な粒子から構成されるもの（石70、石71、石199）とそうでないもの（石76）の2種からなる。黒曜石は楔形石器（第51図9）と剥片・チップ3点の計4点22.26gと大変少ない。

京田遺跡3区の石材では、安山岩が多く、ほとんど黒曜石を利用しない。縄文時代の石器製作技術構造を検討した稲田陽介氏の研究によると、京田遺跡3区の石器は、石材利用等から縄文時代後期屈折型縁帯文土器期から凹線文土器期の様相に該当すると考えられる（稲田2007）。当該期の特徴は①サヌカイトが主体、②板状の大型剥片を素材とする、③剥片剥離技術Ⅱ・Ⅲ・Ⅴを伴う、④器種と剥片剥離技術の対応関係が見られない等である。出雲平野での調査例が少ないことに起因していると考えられるが、出雲平野を除く山陰全域に分布するという。今回の京田遺跡3区の調査により、出雲平野縁辺部にも分布していることが確認され、山陰地域全域に広がっていることが判明した。稲田氏によると、当該期は三瓶太平山火山灰が降下以後に、瀬戸内より集団が流入している可能性が指摘されている。その影響は出雲平野に及んでいるかは土器様相等を含め、詳細な検討が必要であろう。

まとめ

京田遺跡3区からは土坑2基とピット4基を確認することができた。SK05は上面から検出された石材に煤が付着していることから石囲炉の可能性が高いと考えた。SK06からは骨片やオニグルミ片、土器細片等が検出され、廃棄土坑の可能性が高いと考えた。また、日常的に使用する土器が多量に出土し、重量のある石皿等も複数確認されていることから、周辺に居住空間があったと想定される。京田遺跡3区から竪穴建物跡は検出されていないが、3区に隣接し出雲市が発掘調査した4区からは竪穴建物跡と考えられる遺構や土坑、集石遺構等が検出されている（幡中2017）。

さらに、動物遺存体（タイ、ナマズ、イノシシ・ニホンシカ等）や種実（オニグルミ）の他、石皿、磨石、敲石、凹石、石鏃、石錘、浮子等の石器が検出され、河川・海資源や森林資源を利用していたことが確認できた。

出雲平野周辺の縄文時代後期中葉の様相はこれまで資料不足で不明であったが、京田遺跡3区の調査により縄文時代後期中葉の縄文集落の一端が明らかとなった。常楽寺川の対岸に位置する御領

7　島根県立三瓶自然館中村唯史氏の御教示による。

田遺跡からは縄文時代後期前葉の竪穴建物跡が検出され（湖陵町1994）、奥ノ谷遺跡からは九日田式から暮地式の土器が出土していることから（湖陵町1995）、周辺では時期により場所を変えながら縄文時代後期の集落が一定期間存続している可能性が高いと考えられ、縄文時代の自然環境や生活環境を復元できる貴重な資料を得られた。

引用・参考文献

近藤正1969「湖陵・三部八幡宮横穴群」『島根県埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』
山本清1971「第４章横穴の型式と時期について」『山陰古墳文化の研究』山本清先生退官記念論集刊行会
川原和人・桑原真治1987「島根県西石橋遺跡の中世墓」『古文化談叢18』
丹羽野裕1992「湖陵・大池横穴」『島根県埋蔵文化財調査報告書ⅩⅢ』
西尾克己・原田敏照・守岡正司1992「出雲西部における横穴墓の様相」『湖陵町誌研究1』
出雲市教育委員会1993『出雲市遺跡地図』
出雲市教育委員会1994『地蔵堂横穴墓群発掘調査報告書－下古志地区一般農道整備事業埋蔵文化財発掘調査報告書－』
湖陵町教育委員会1994『神南地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書―御領田遺跡・三部竹崎遺跡―』
湖陵町教育委員会1995『一般廃棄物処理施設管理道路新設工事に伴う埋蔵文化財調査報告書―奥ノ谷遺跡―』
出雲市教育委員会1995『小浜山横穴墓群Ⅰ（神門横穴墓群第10支群）十間川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』
島根県教育委員会1995『上塩冶横穴墓群第20・21支群　斐伊川放水路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』
松山智弘1995「出雲平野の横穴墓に見られる造墓技術について」『島根考古学会誌12』島根考古学会
山陰横穴墓研究会1995「横穴墓築造に伴う掘削技法」『島根考古学会誌12』島根考古学会
山陰横穴墓研究会1997『出雲の横穴墓』
出雲市教育委員会1997『遺跡が語る古代の出雲－出雲平野の遺跡を中心として－』
島根県教育委員会1997『島田池遺跡　鷸貫遺跡　一般国道９号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書　西地区Ⅷ』
島根県教育委員会1998『渋山池古墳群　一般国道９号（安来道路）建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書　西地区XI』
大谷晃二・松山智弘1999「横穴墓の形式とその評価」『田中義昭先生退官記念論文　集地域に根ざして』
湖陵町教育委員会2000a『湖陵町遺跡地図』
湖陵町2000b『湖陵町誌』
島根県教育委員会2000『三田谷Ⅲ遺跡』
大谷晃二2001「上石堂平古墳と出雲西部の横穴式石室」『上石堂平古墳』平田市教育委員会
松尾充晶2004『多伎郷の考古学』多伎町ライオンズクラブ
島根県教育庁古代文化センター・島根県教育庁埋蔵文化財調査センター2005『大寺１号墳発掘調査報告書』
稲田陽介2007「山陰地方における縄文時代後期の石器製作技術構造」『島根考古学会誌24』島根考古学会
島根県教育委員会2009『山持遺跡Vol.5　（6区）』
島根県教育委員会2009『御崎谷遺跡　間谷東遺跡　浅柄北古墳　間谷西Ⅱ遺跡　間谷西古墳群一般県道出雲インター線建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』
久村地区自治連合会2011『久村の歴史』
大谷晃二2011「⑥横穴墓」『古墳時代の考古学３　墳墓構造と葬送祭祀』同成社
上峯篤史2013「第Ⅲ章　石器・石製品」『一乗寺向畑町遺跡出土縄文時代資料-資料編-』京都大学大学院文学研究科考古学研究室
木村啓章・竹原弘展2014「赤色顔料の分析」『一乗寺向畑町遺跡出土縄文時代資料-考察編-』京都大学大学院文学研究科考古学研究室
西原和代・妹尾裕介2014「土器底部の変遷と地域間の関係」『一乗寺向畑町遺跡出土縄文時代資料-考察編-』京都大学大学院文学研究科考古学研究室
千葉豊2014「縄文後期土器研究の現状と課題－山陰地方の前半期を中心に－」『山陰地方の縄文社会』島根県古代文化センター
幡中光輔2016「第６章　杉沢横穴墓群の調査・第８章第４節出雲西部の意宇型横穴墓からみた古墳時代終末期の様相」『杉沢遺跡・杉沢Ⅱ遺跡・杉沢横穴墓群』出雲市教育委員会
島根県教育委員会2017a『玉泉寺裏遺跡（Ⅵ区・Ⅶ区）　九景川遺跡（Ⅴ区）』
島根県教育委員会2017b『麓Ⅱ遺跡　坂本谷遺跡　京田遺跡（1区）』
幡中光輔2017「出雲に生きた縄文人の足跡」『出雲弥生の森博物館平成29年度第１回職員リレー講座資料』

写真図版

遠景（北西から）

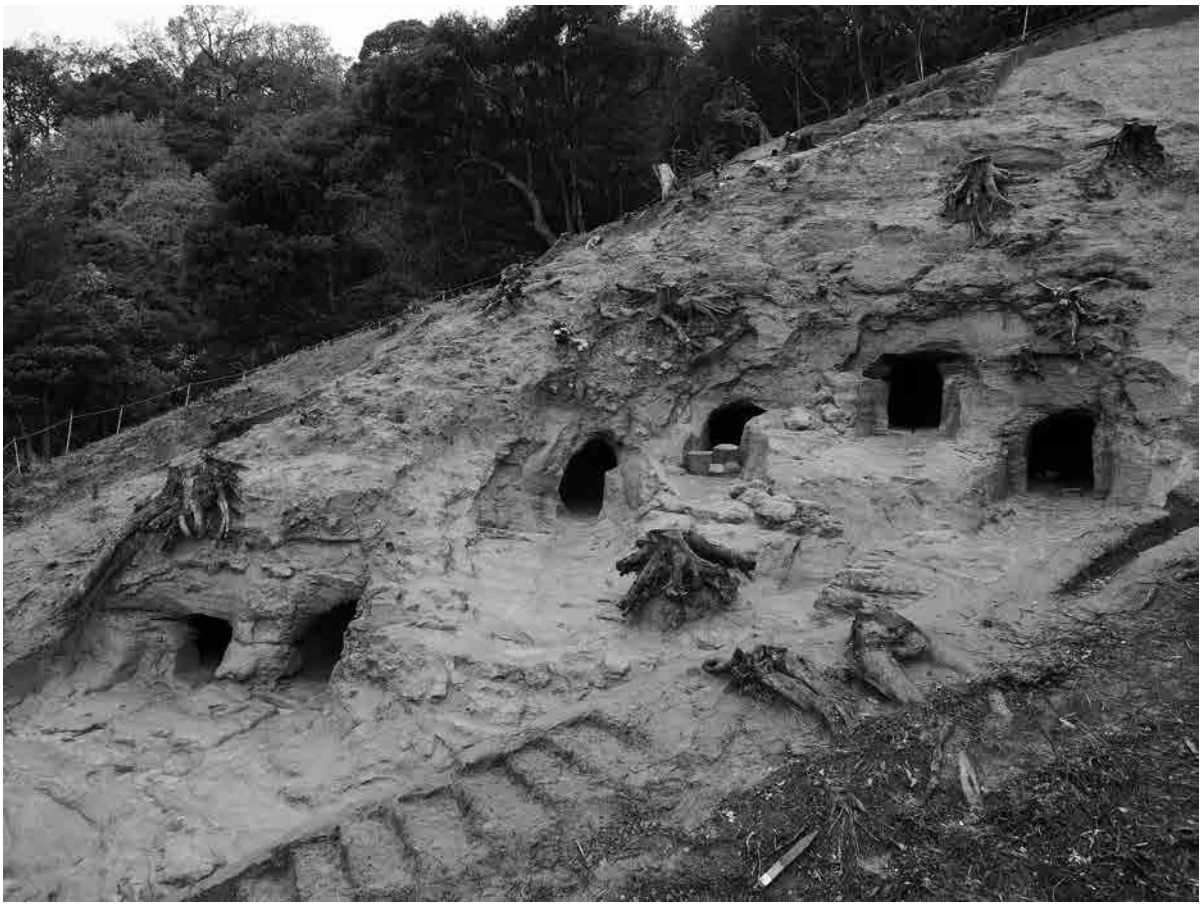
遠景（北東から）

図版２　　のの子谷横穴墓群

遠景（南から）

俯瞰近景（上が北西）

調査後遺跡遠景（南から）



調査後遺跡近景（南から）

図版４　　のの子谷横穴墓群

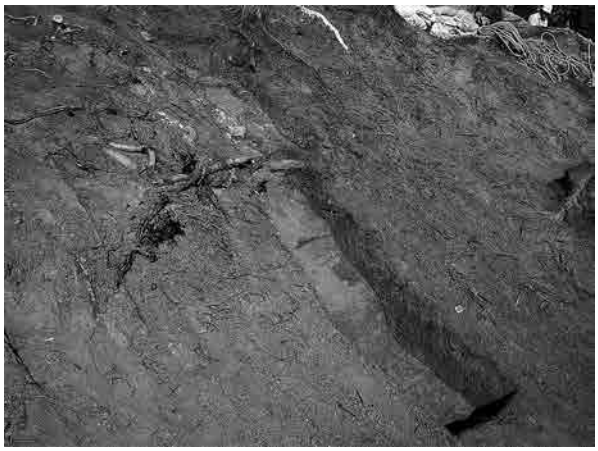
伐採後（南から）

北壁トレンチ西側（南西から）

左上：北壁トレンチ西側（南から）　左下：北壁トレンチ西側（南から）　右：北壁トレンチ中央（西から）

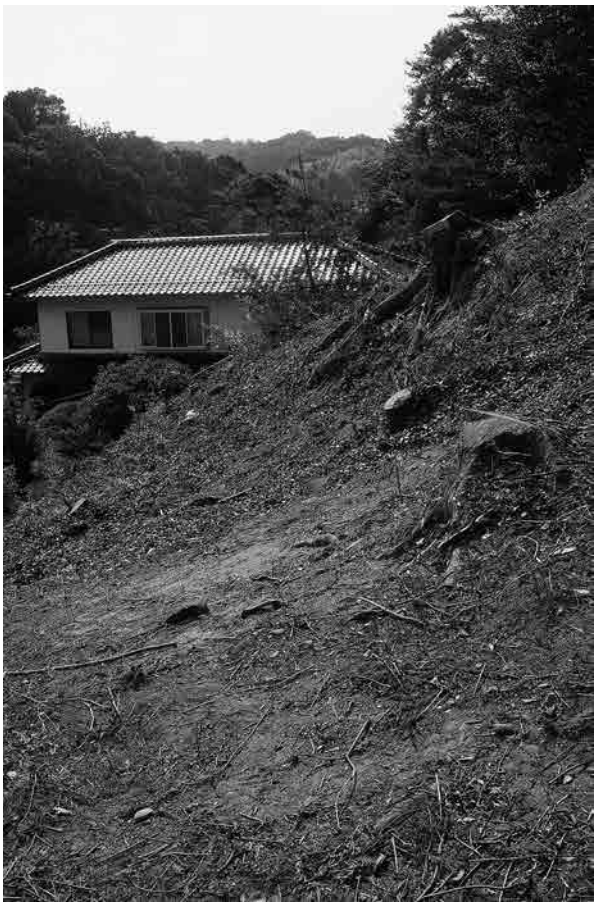
左：南北トレンチ西面（南東から）　右上：南北トレンチ西面（南東から）　右下：表土掘削

図版6　　のの子谷横穴墓群



左上：表土掘削　　右上：T1完掘（南西から）
下：T2完掘（南東から）　右下：T3完掘（南東から）

4・1号穴調査前（南東から）



左：4・1号穴調査前（東から）　右上：4・1号穴検出（南東から）　右下：4号穴前庭部SX01（南東から）

4・1号穴前庭部縦断面（南西から）

図版8　　のの子谷横穴墓群

4・1号穴前庭部横断面（南東から）

左上：1号穴前庭部縦断面（南から）　　右上：4号穴前庭部出土須恵器（南東から）
左下・右下：4号穴前庭部縦断面（南東から）

4・1号穴前庭部横断面（南東から）

上：1号穴前庭部横断面（南東から）
左下：1号穴羨門部横断面（南から）　右下：1号穴羨門部横断面（南東から）

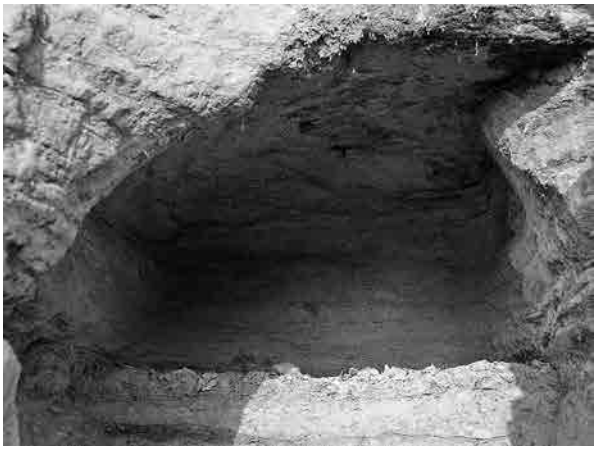
図版10　　のの子谷横穴墓群

1号穴羨門部横断面（南東から）

1号穴羨門から玄室縦横断面（南から）

左：1号穴玄室横断面（南東から）

右上：1号穴玄室内出土遺物（南から）
右下：1号穴玄室内出土遺物（西から）



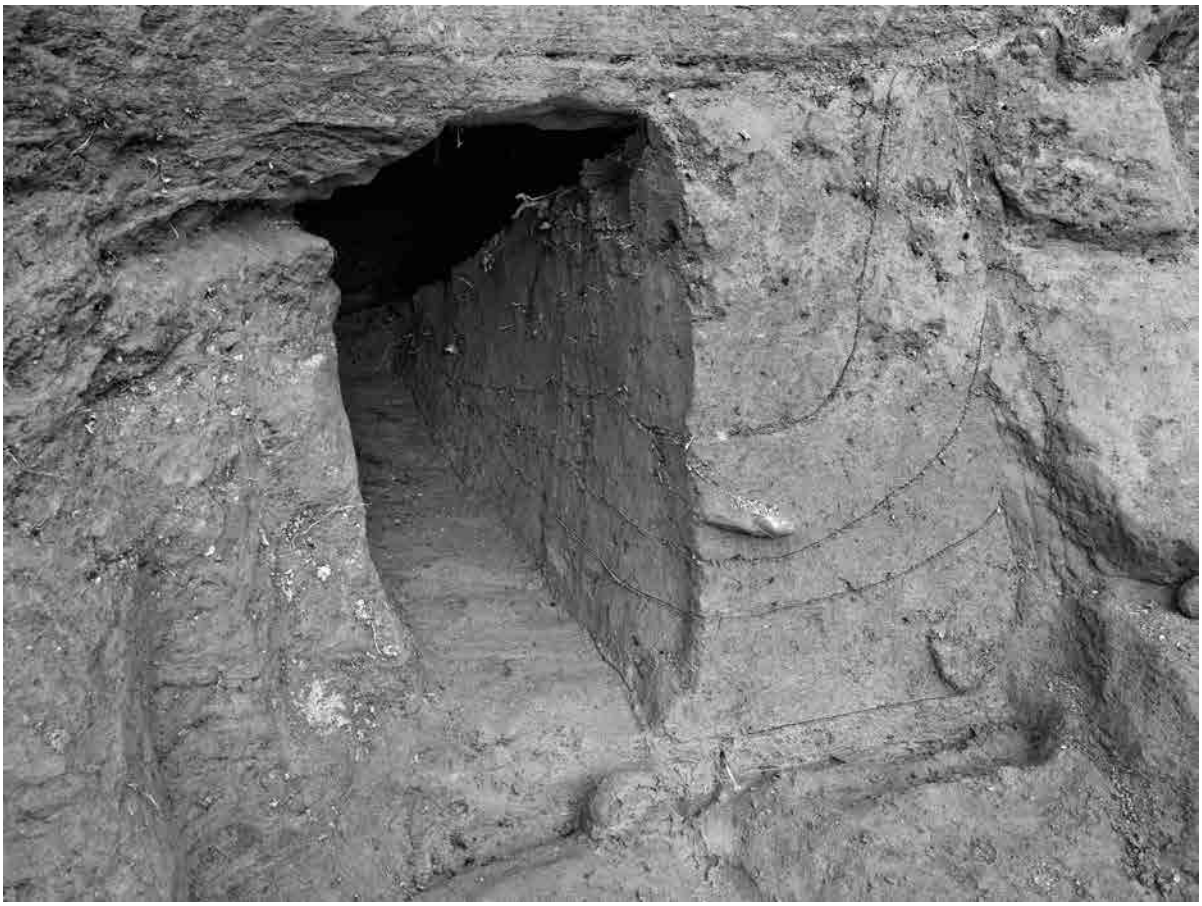
左上：1号穴玄室横断面（南東から）
左下：1号穴玄室内左側から天井

右上：1号穴玄室内奥壁から天井（南東から）
右下：1号穴玄室内左側から天井

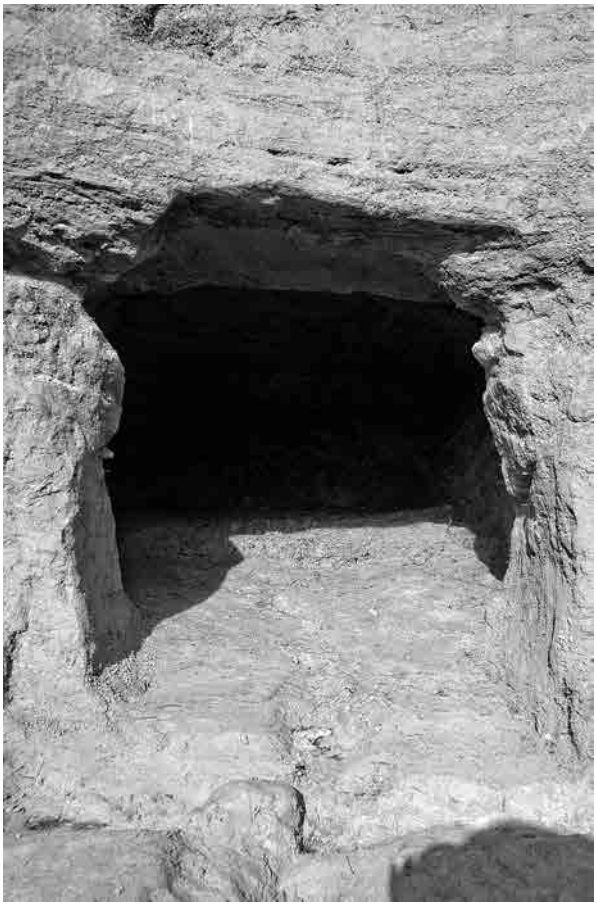
図版12　　のの子谷横穴墓群

4号穴羨門部横断面（南東から）

左上：4・1号穴前庭部（南から）　左下：4号穴前庭部縦横面（南から）　右：4・1号穴前庭部（南西から）



4号穴羨門部横断半裁（南東から）

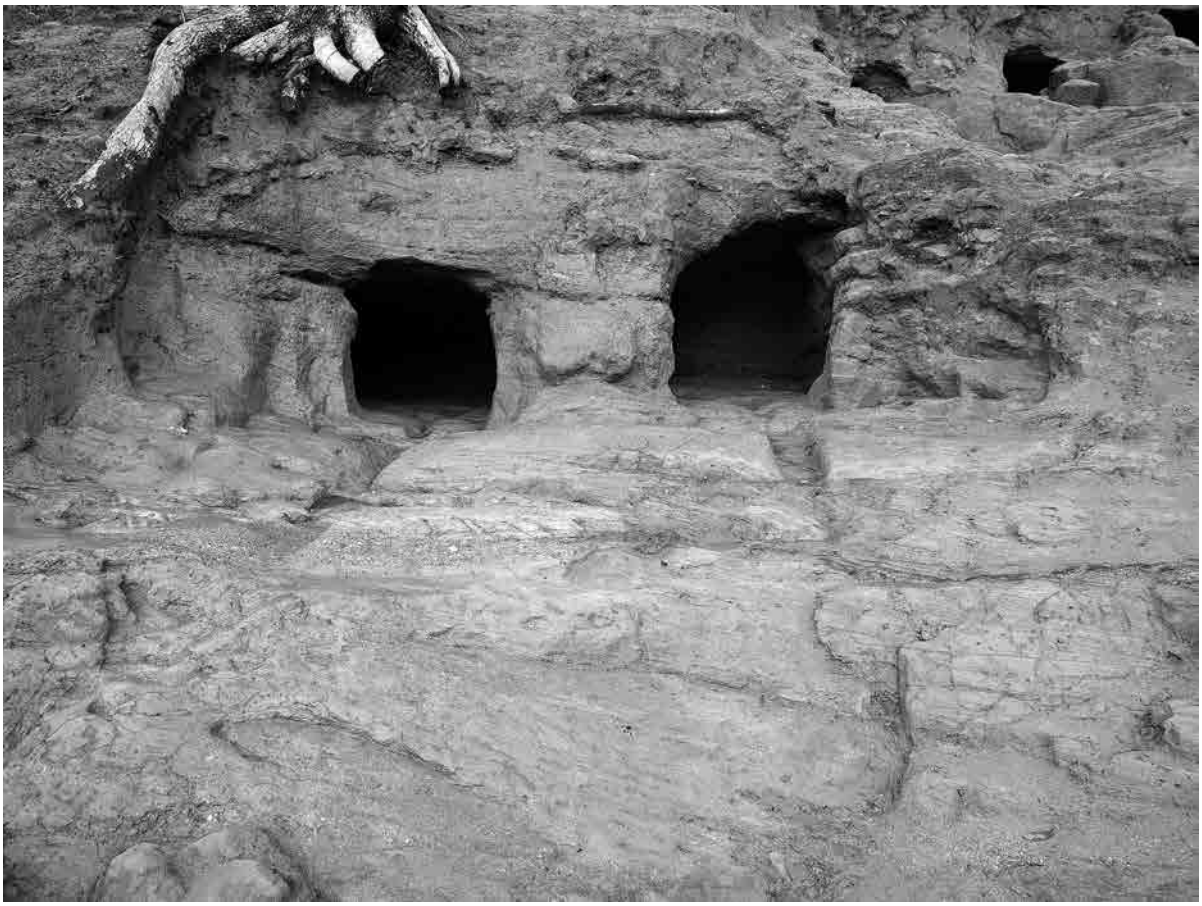


左：4号穴羨門（南東から）　右上：4号穴玄室内横断面半裁（南東から）　右下：4号穴玄室内出土遺物（南東から）

図版14　　のの子谷横穴墓群

4号穴玄室内左側面から天井（西から）

左上：4号穴玄室横断面（南東から）
左下：4号穴玄室内天井前
右上：4号穴玄室内奥壁から天井（南東から）
右下：4号穴玄室内左袖（北から）



4・1号穴完掘状況（南東から）

2・3号穴調査前（南東から）

図版16　　のの子谷横穴墓群

左上：2・3・7号穴調査前（西から）　右上：2・3号穴検出状況（南東から）
左下：2号穴前庭部縦横断面（南から）　右下：2号穴前庭部縦横断面（南東から）

2号穴前庭部縦断面（南東から）

2号穴前庭部縦断面（南東から）

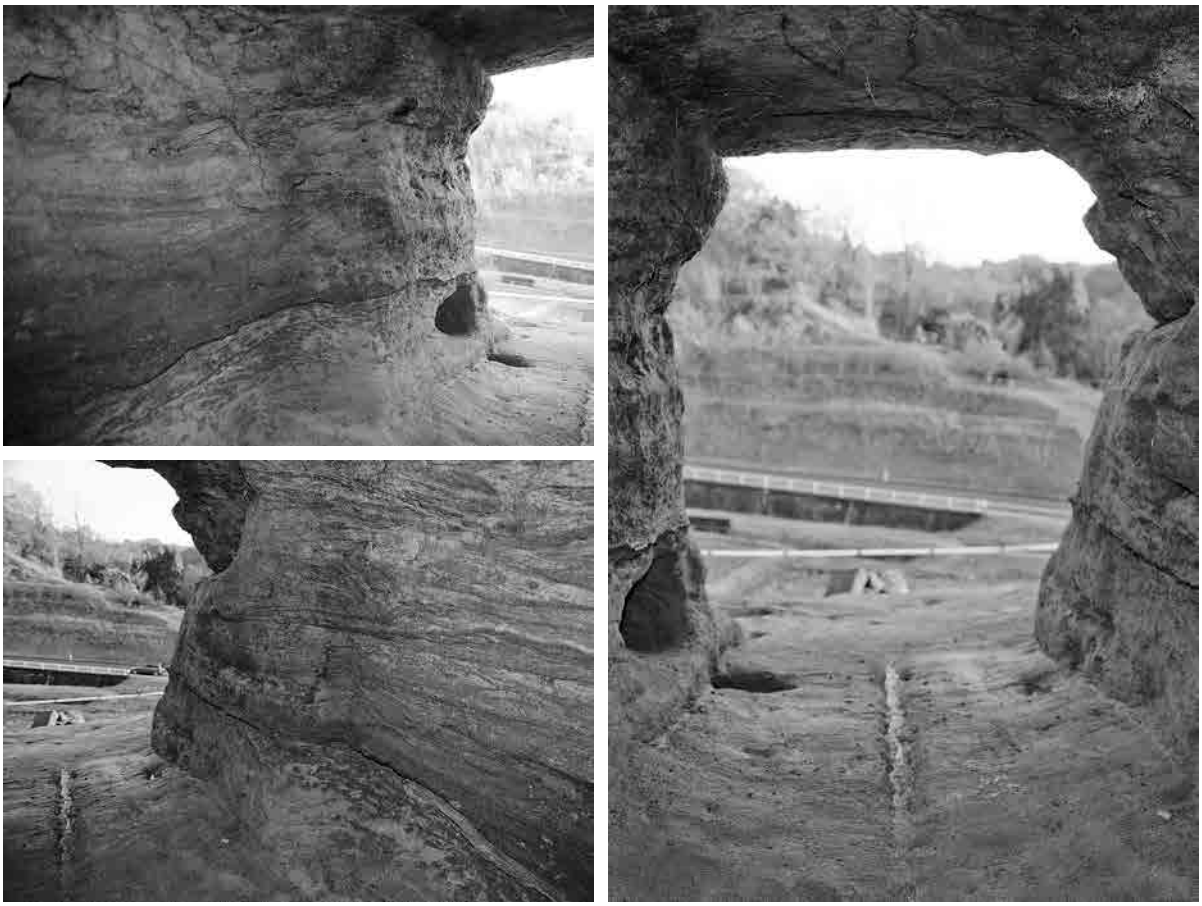
2号穴羨門横断面（南東から）

図版18　　のの子谷横穴墓群

2号穴羨門部横断面半裁（南東から）

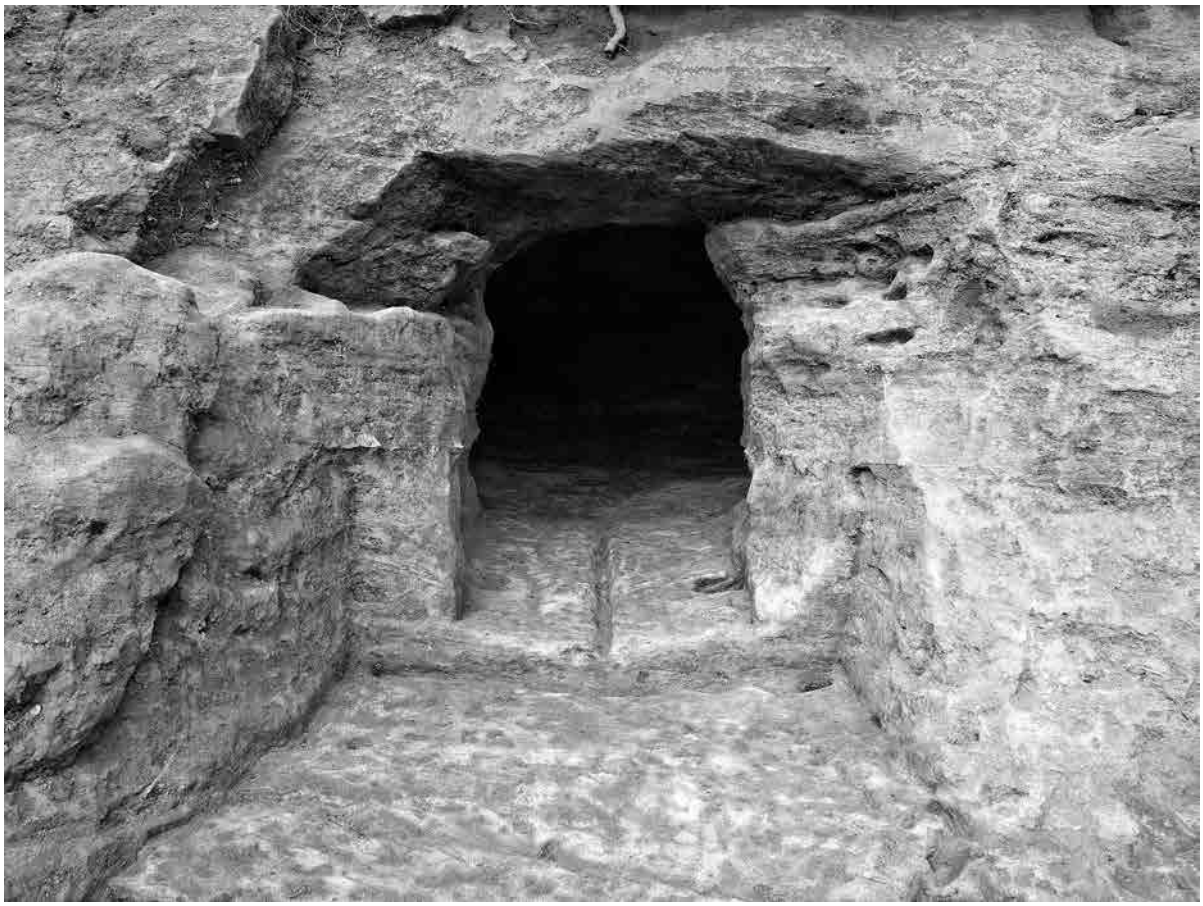
左上：2号穴玄室内横断面（南東から）　左下：2号穴玄室内横断半裁（南から）　右：2号穴羨門（南東から）

2号穴玄室内（南東から）



左上：2号穴玄室内（北西から）　左下：2号穴玄室内（北から）　右：2号穴玄室内（北西から）

図版20　　のの子谷横穴墓群



2号穴羨門（南東から）

左上：3号穴前庭部横断面（南東から）　右上：3号穴前庭部縦断面（北東から）
下：3号穴前庭部横断面（南東から）

3号穴前庭部縦横断面（南から）

3号穴羨門部横断面（南東から）

図版22　　のの子谷横穴墓群

3号穴前庭部ノミ痕（南から）

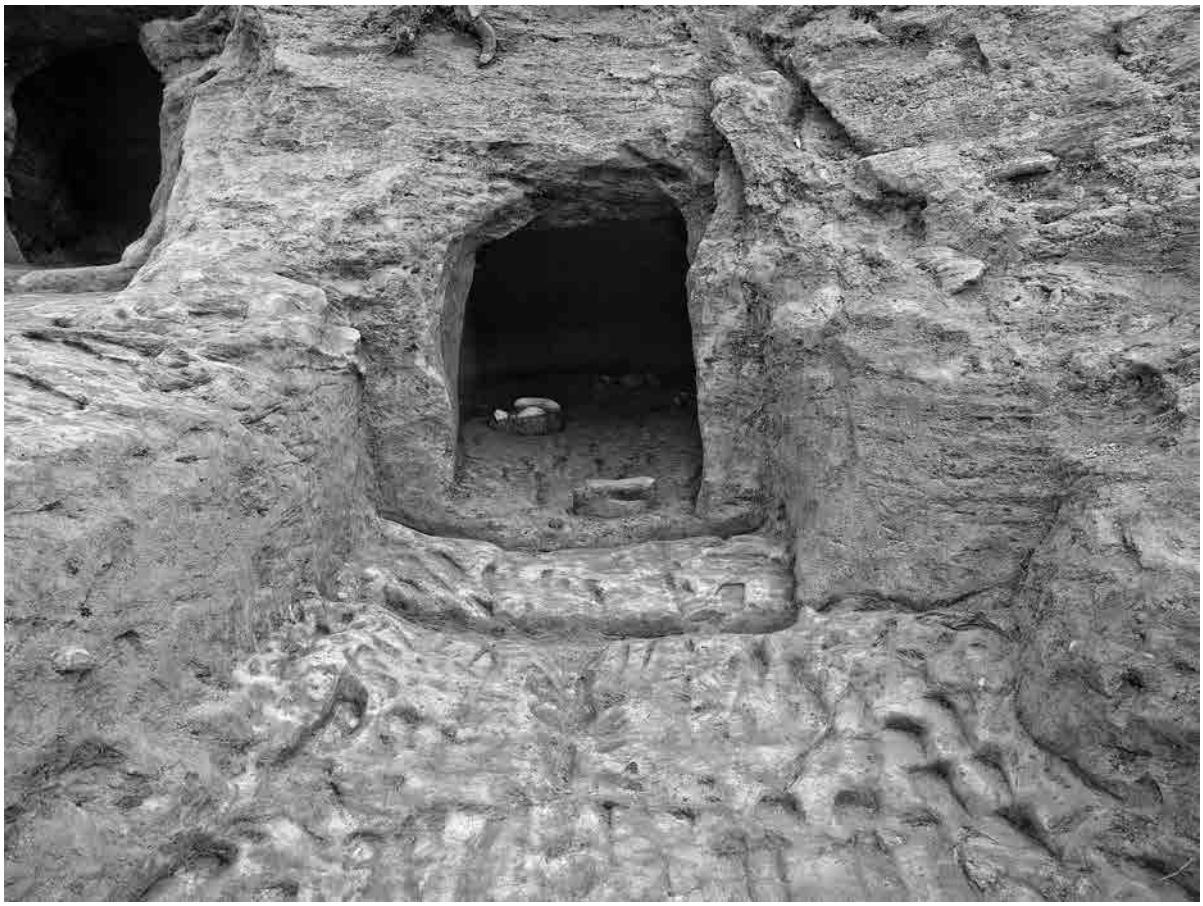
上：3号穴玄室内横断面（南東から）
左下：3号穴閉塞部（南東から）　右下：3号穴玄室内横断面半裁（南から）

3号穴玄室内（南東から）

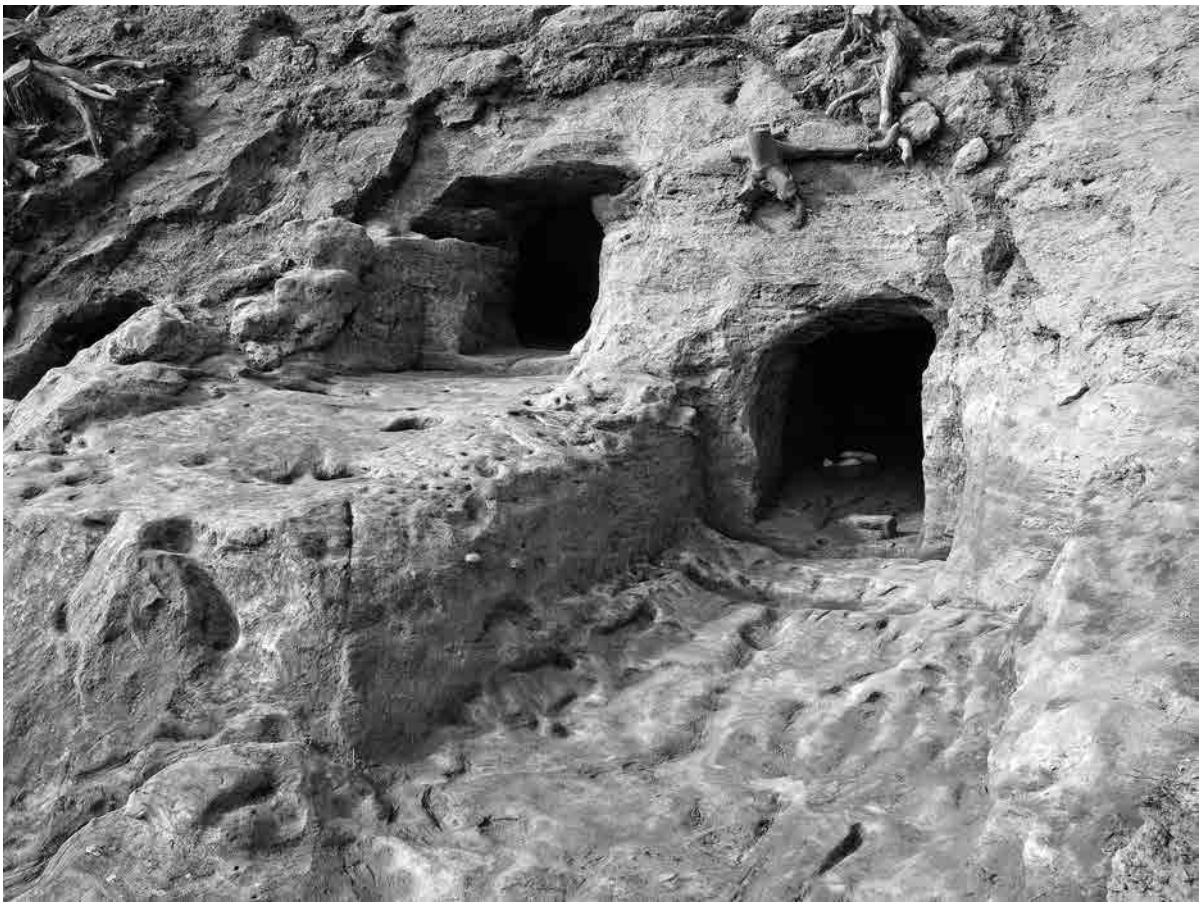
3号穴玄室内（北西から）

図版24　　のの子谷横穴墓群

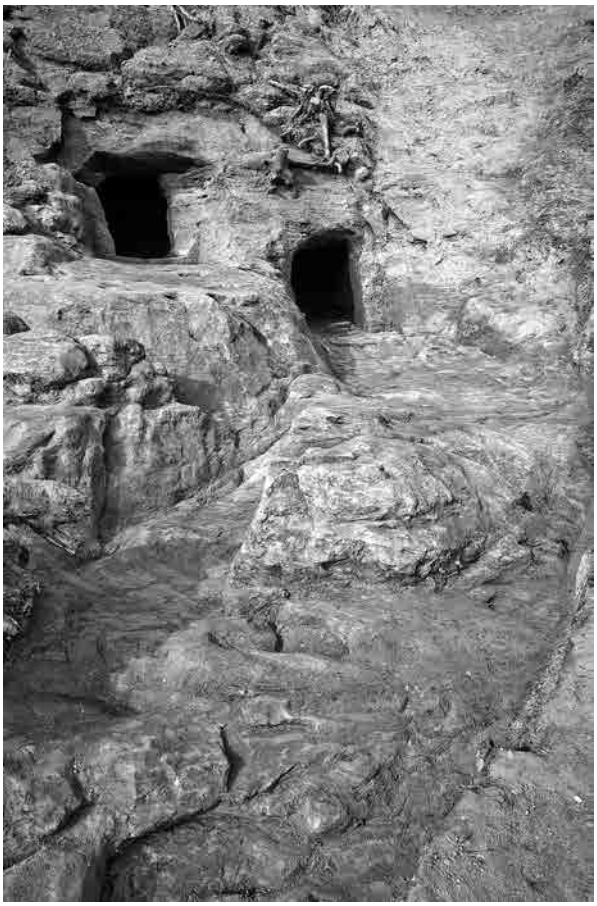
左上：3号穴玄室内（北から）　右上：3号穴玄室内（南から）
左下：3号穴玄室内（南東から）　右下：3号穴玄室内（北西から）



3号穴前庭部から羨門（南東から）

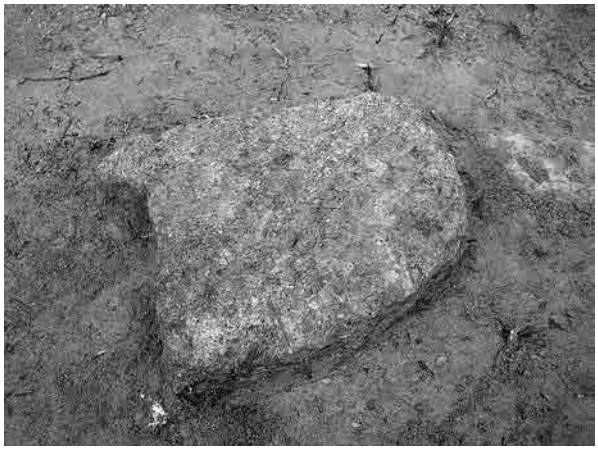


3号穴から2号穴前庭部（西から）



左：3号穴前庭部から墓道（南から）　右上：3号穴前庭部から墓道（南から）　右下：調査指導

図版26　　のの子谷横穴墓群



左：5号穴サブトレ掘削　右上：5・6号穴検出（南東から）　右下：5号穴前庭部出土閉塞石（南東から）

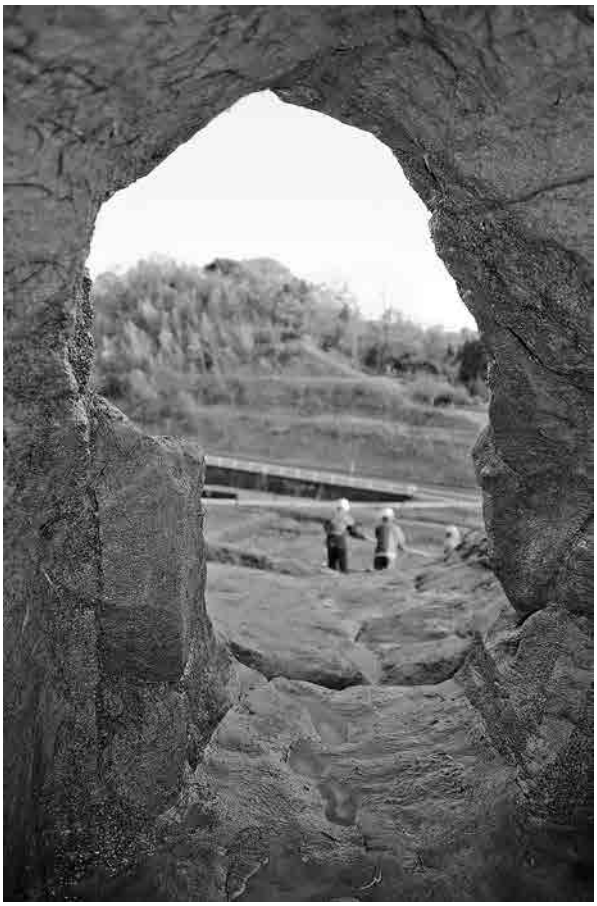
5号穴前庭部縦断面（南から）

上：5号穴前庭部縦断面（南から）
左下：5号穴前庭部横断面（南東から）　右下：5・6号穴前庭部縦横面（南東から）

5号穴前庭部横断面（南東から）

左：5号穴羨門部横断面（南東から）　右上：5号穴羨門横断面半裁（南東から）
右下：5号穴玄室内横断面（南東から）

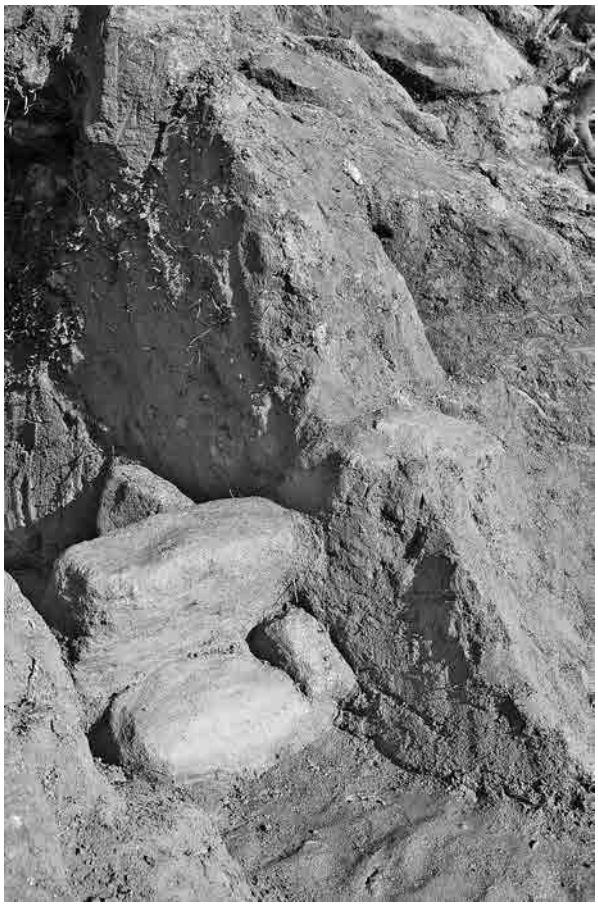
5号穴玄室内部（南東から）



左上：5号穴玄室右側壁から天井（南東から）　左下：5号穴玄室内左側壁ノミ痕
右：5号穴玄室内（北西から）

5号穴完掘状況（南東から）

6号穴前庭部出土須恵器（南から）



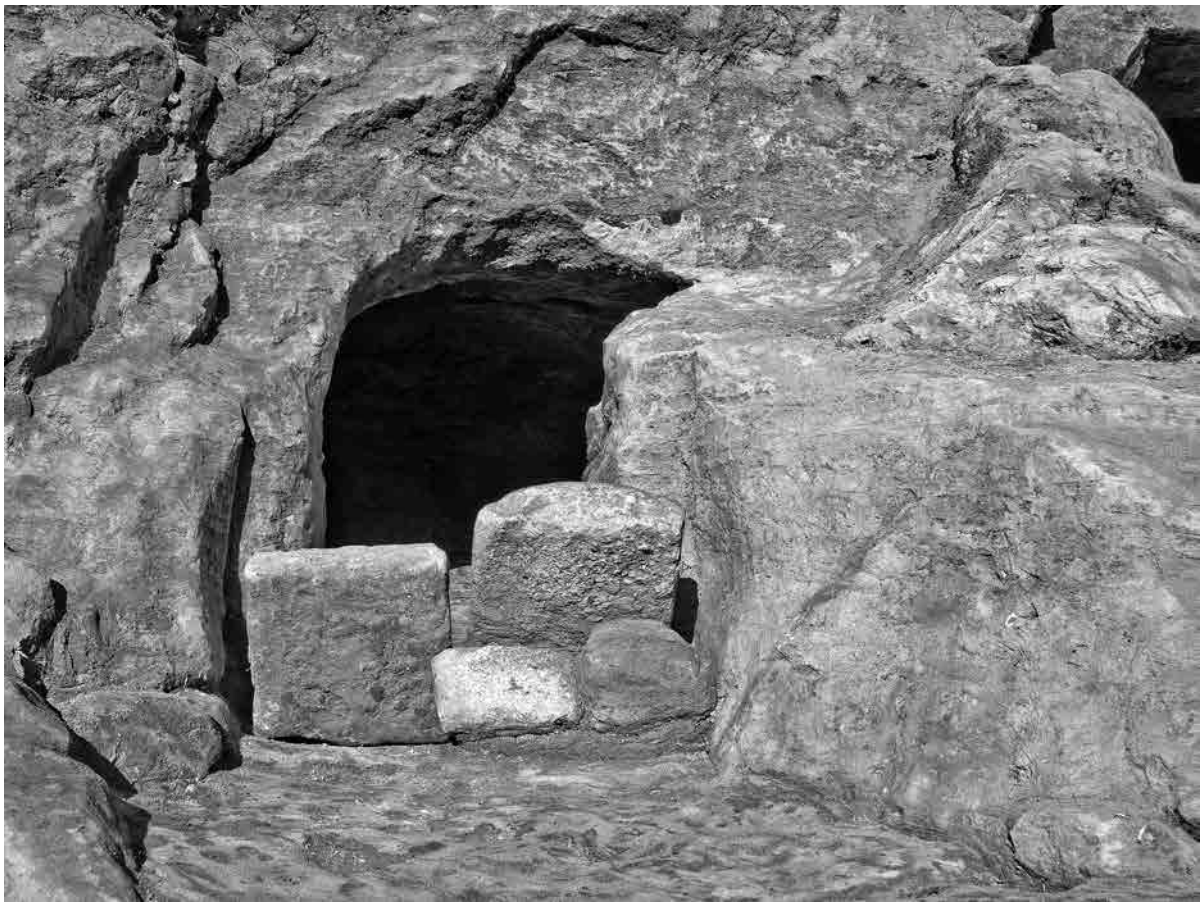
左上：6号穴前庭部横断面（南東から）　左下：6号穴閉塞部検出状況（南から）　右：6号穴閉塞部半裁（南から）

6号穴玄門部横断面（南から）

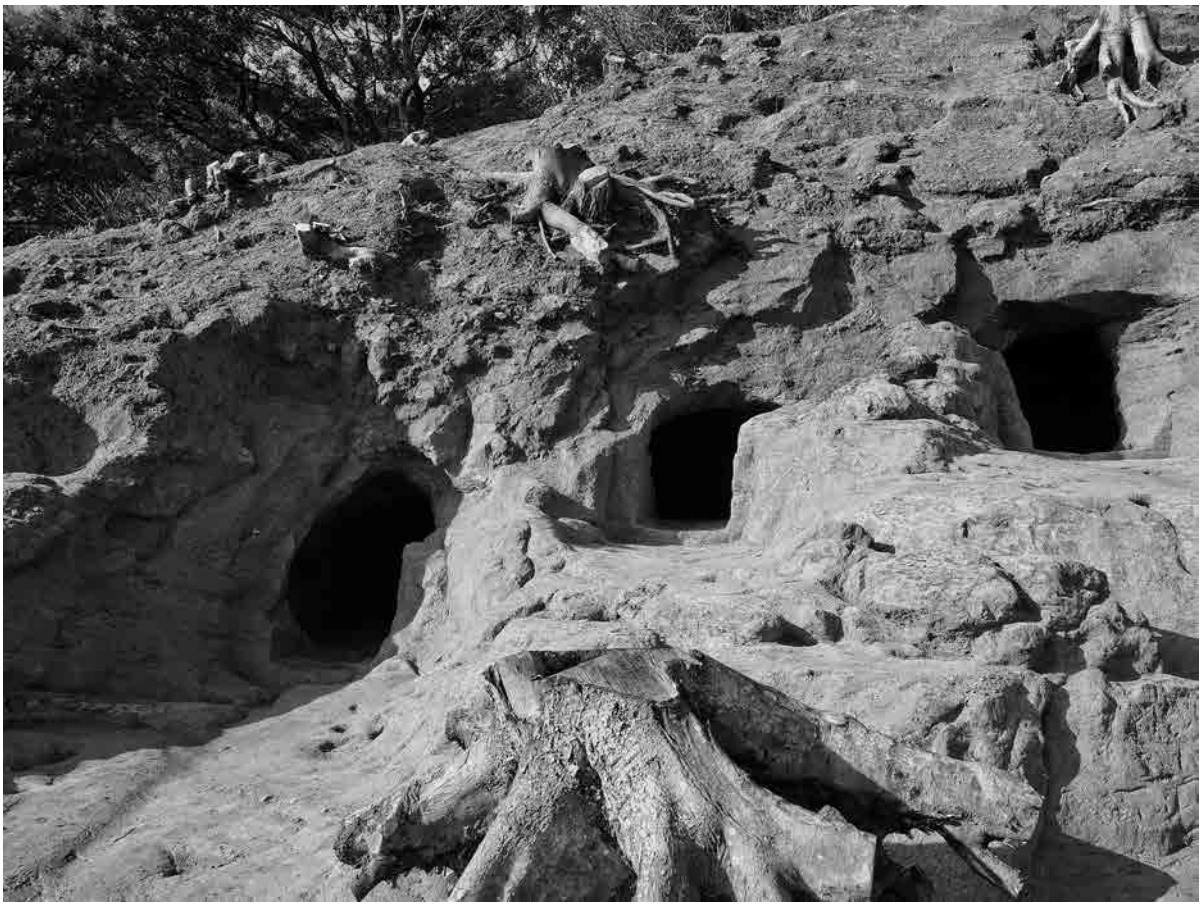
6号穴玄室奥壁（南東から）

図版32　　のの子谷横穴墓群

左上：6号穴玄室内右側から天井（南から）　右上：6号穴玄門から羨道（北西から）
左下：6号穴玄室内床面（北東から）　右下：6号穴玄門から羨道（北から）



6号穴前閉塞部（南東から）



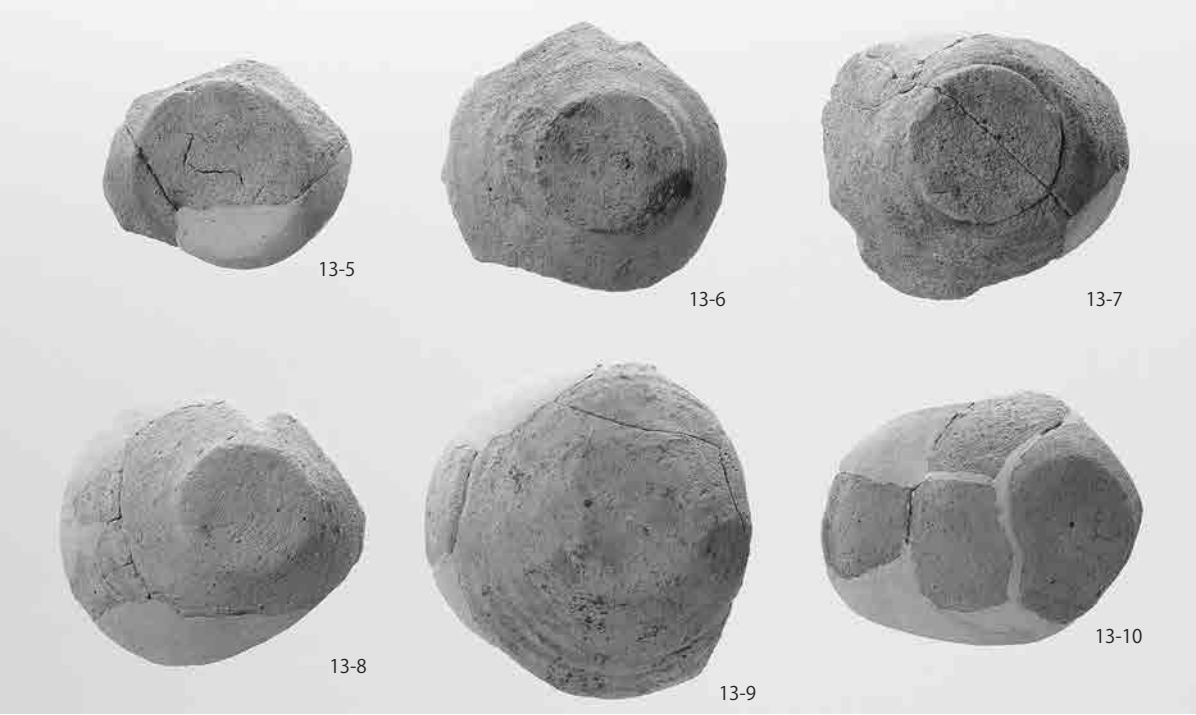
6号穴完掘状況（西から）

7・8・9号穴遠景（南から）

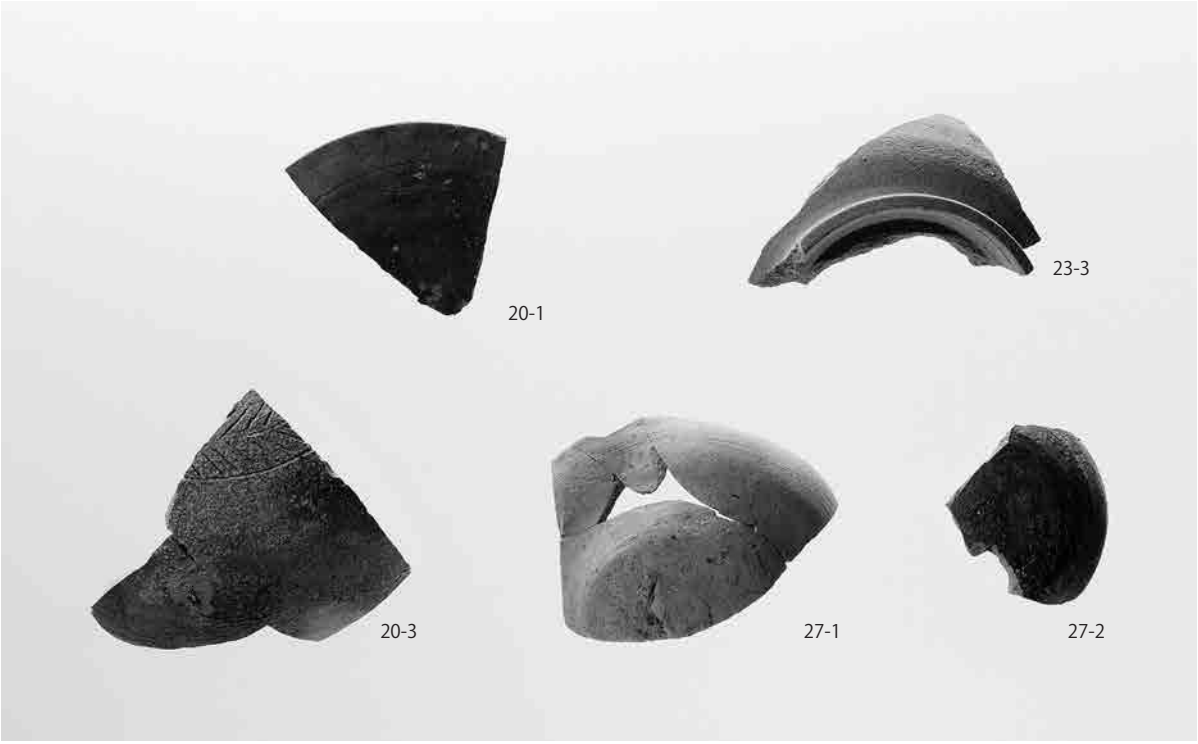
図版34　　のの子谷横穴墓群

7号穴近景（南から）

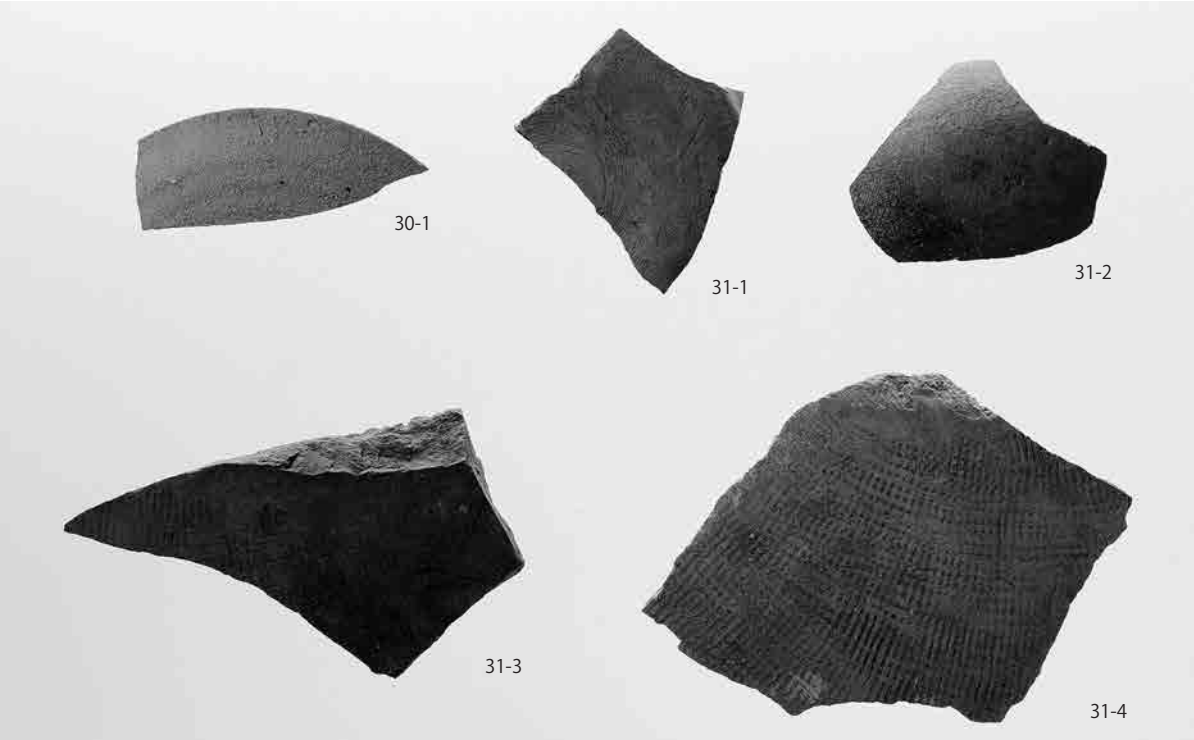
8・9号穴近景（南から）



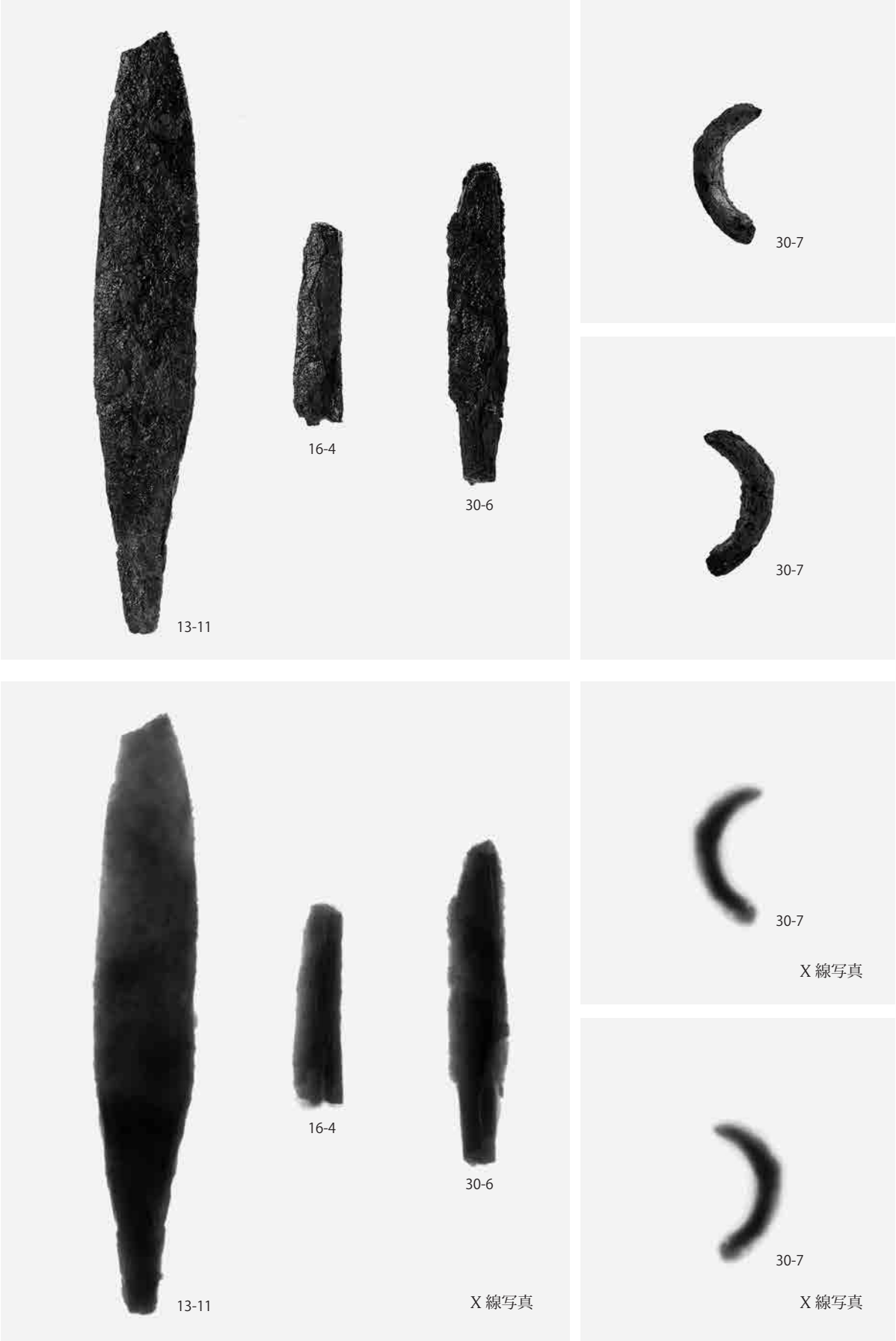
のの子谷横穴墓群出土遺物（1）



のの子谷横穴墓群出土遺物（2）

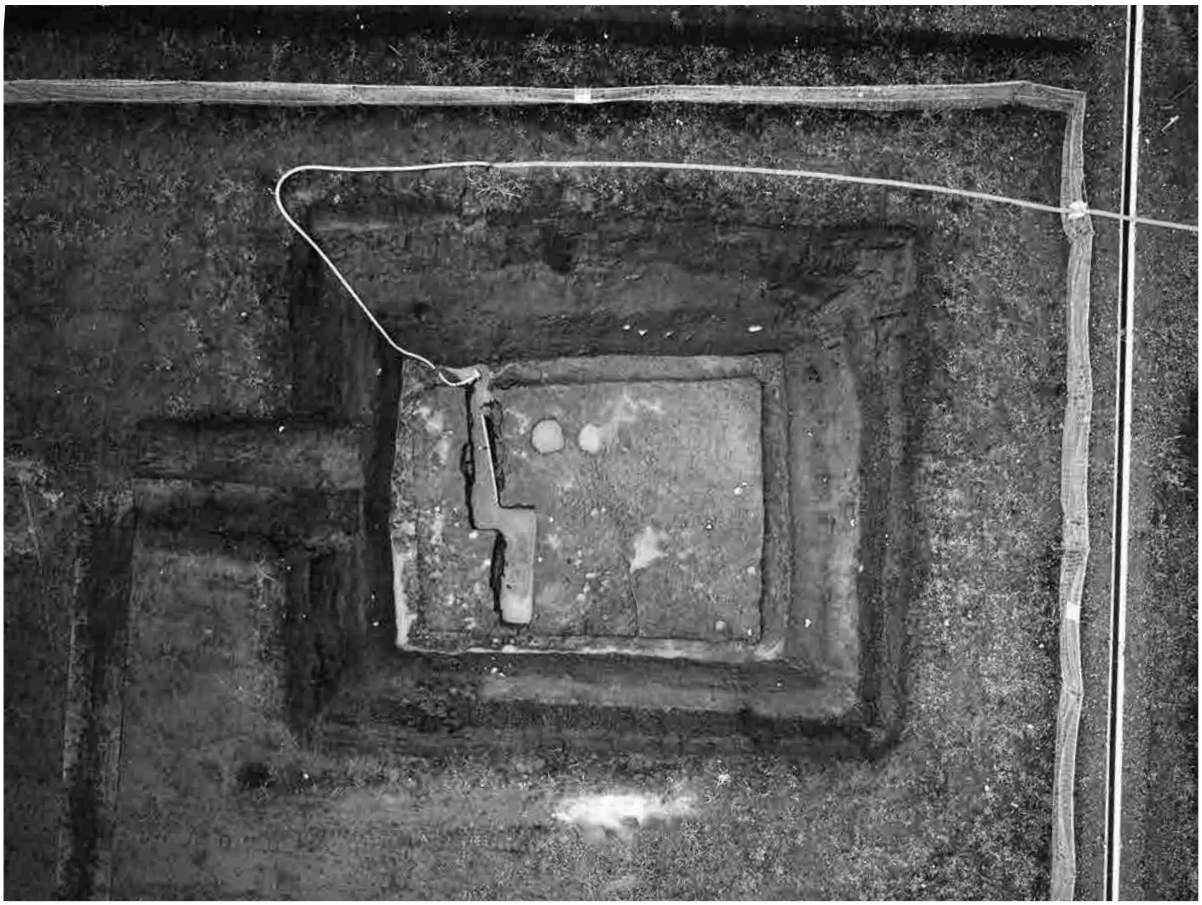


のの子谷横穴墓群出土遺物（3）



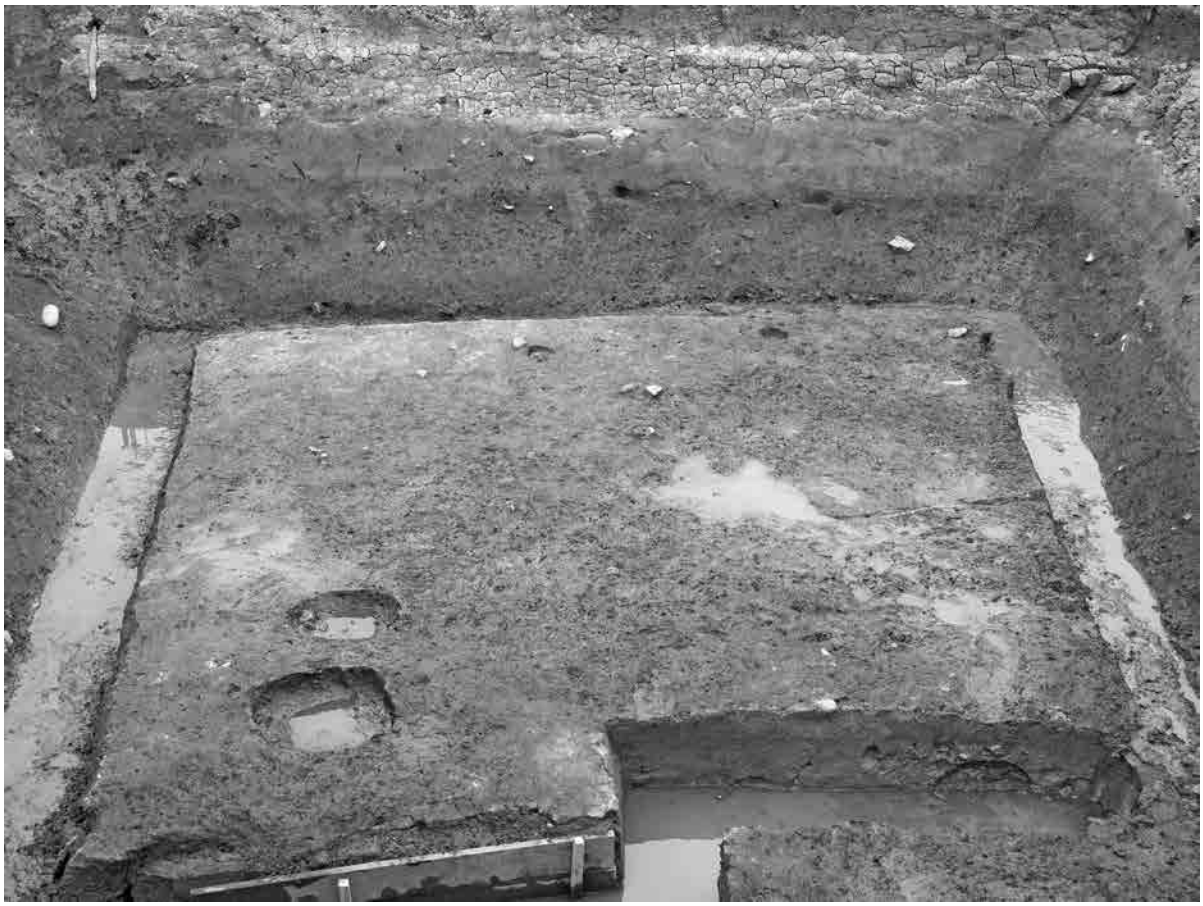
のの子谷横穴墓群出土遺物（4）

空撮（北東から）



空撮

完掘状況（北西から）

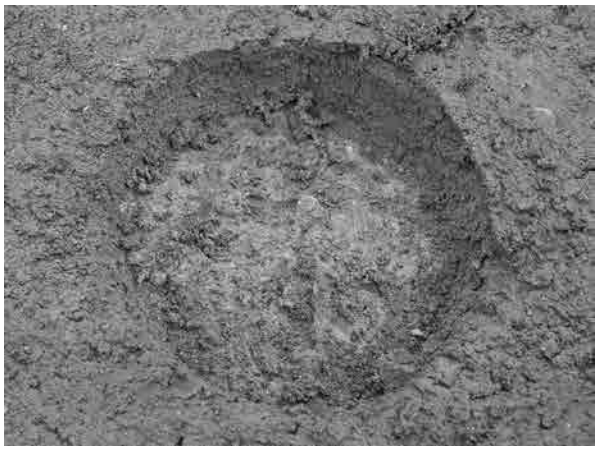


完掘状況（北東から）

調査区南東壁土層（北西から）

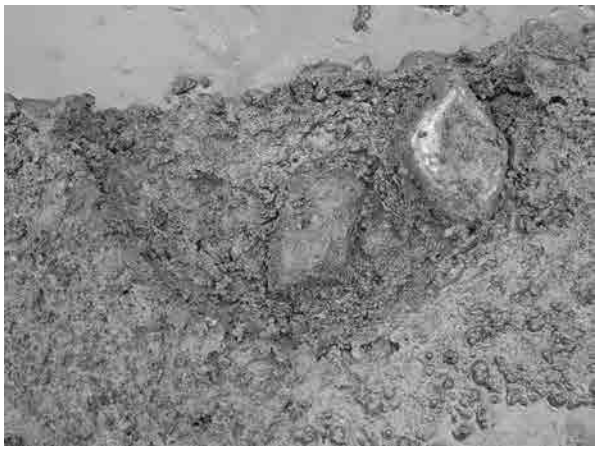
調査区南西壁土層（北東から）

Pit01 完掘状況（南東から）



Pit02 完掘状況（南から）

Pit03 完掘状況（北から）



Pit04 完掘状況（東から）

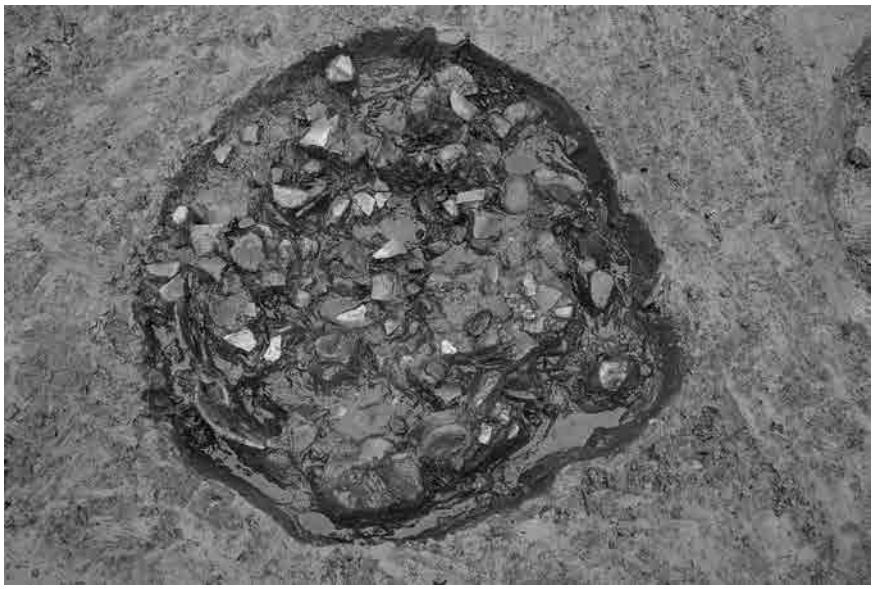
SK05 検出状況（西から）

SK05 土層堆積状況（西から）

SK06 土層堆積状況（西から）

SK06 遺物検出状況（南から）

SK05石検出状況（東から）



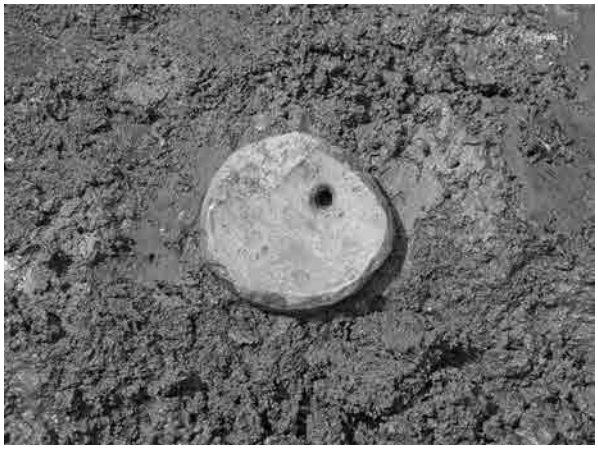
SK06遺物検出状況（西から）

SK06白色土範囲（南から）

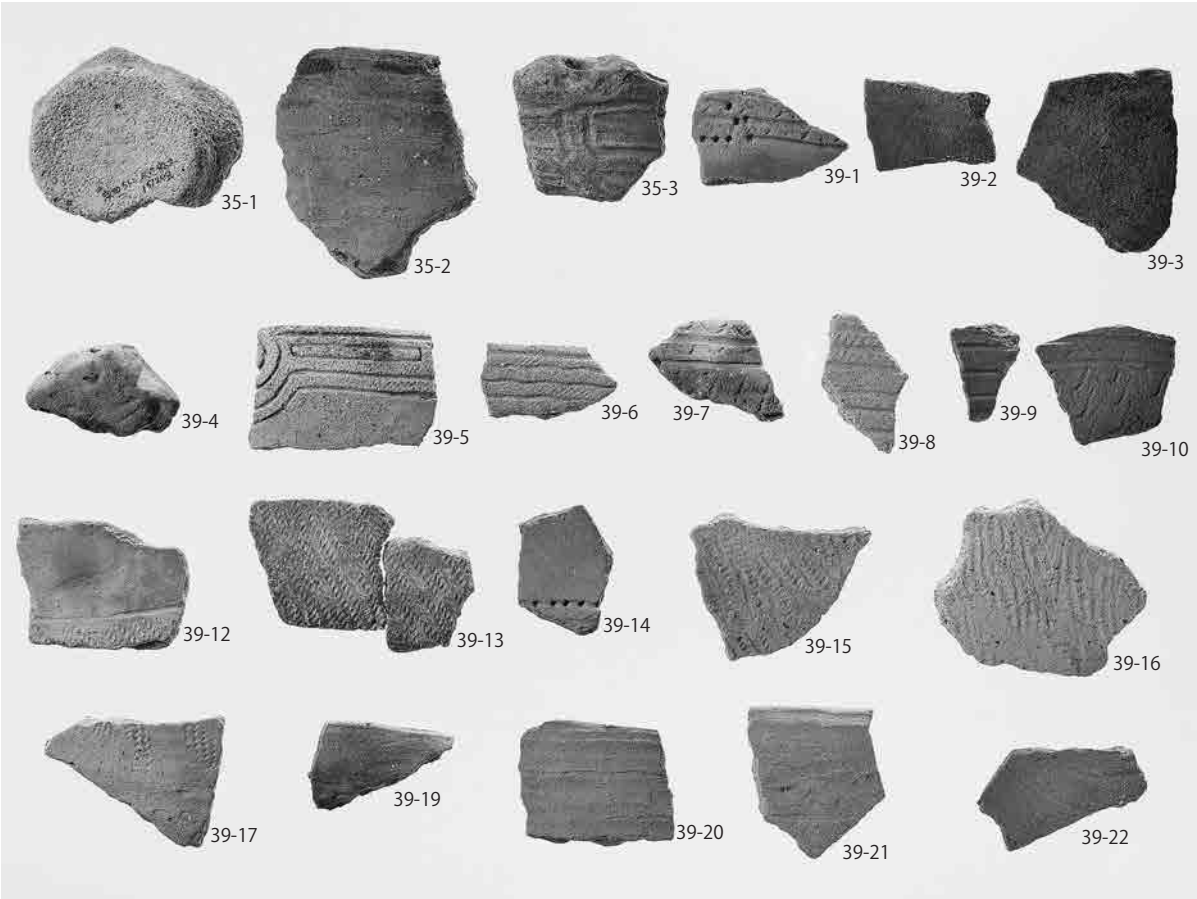
SK06完掘状況（南から）

遺物（第42図20）出土状況

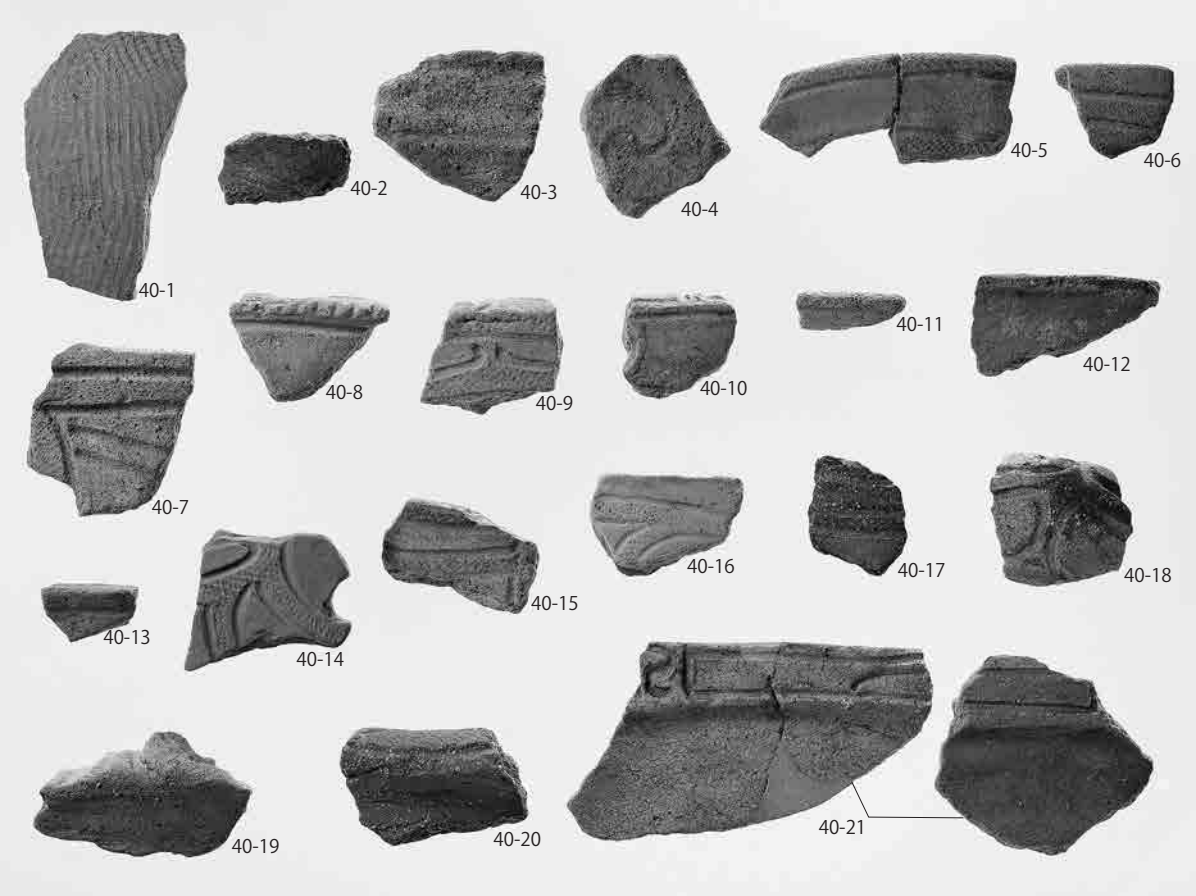
遺物（第46図5）出土状況



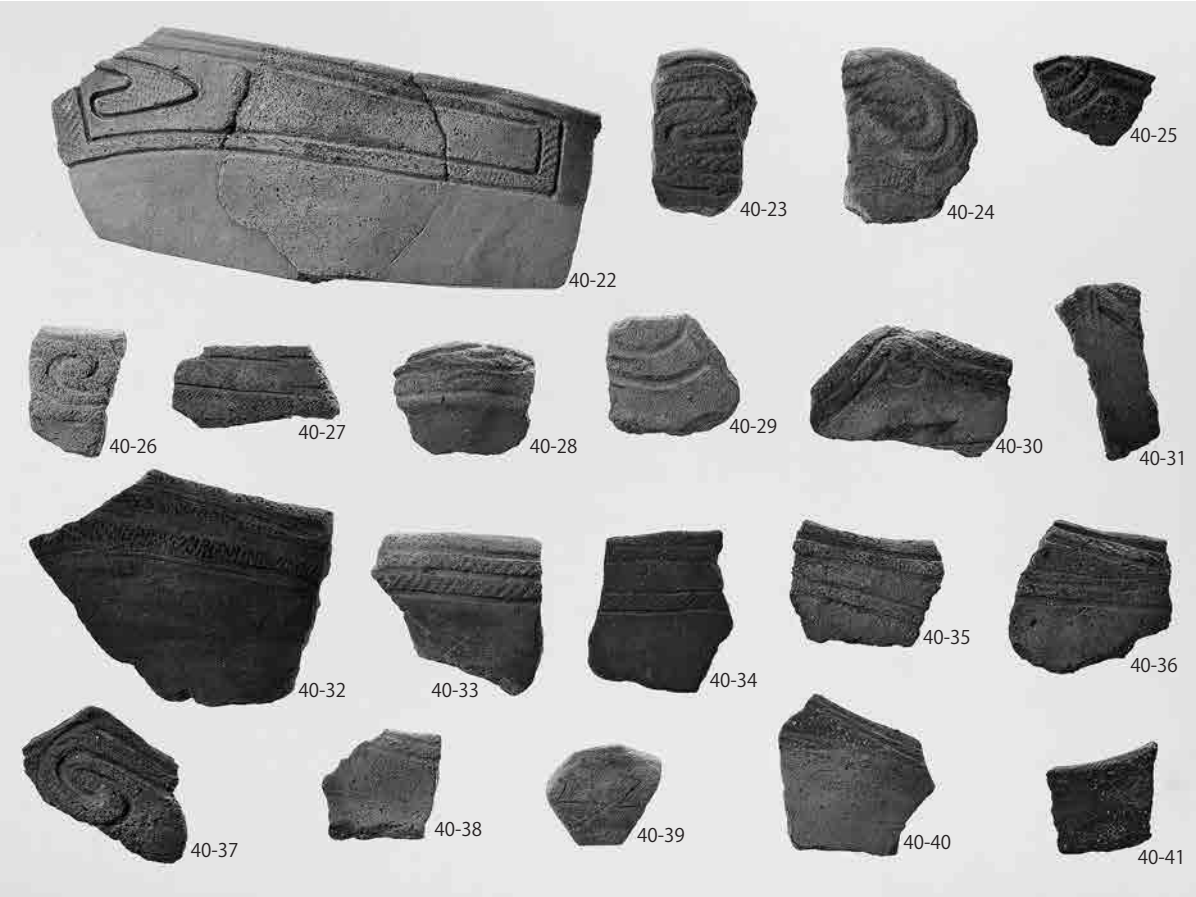
遺物（第49図17）出土状況



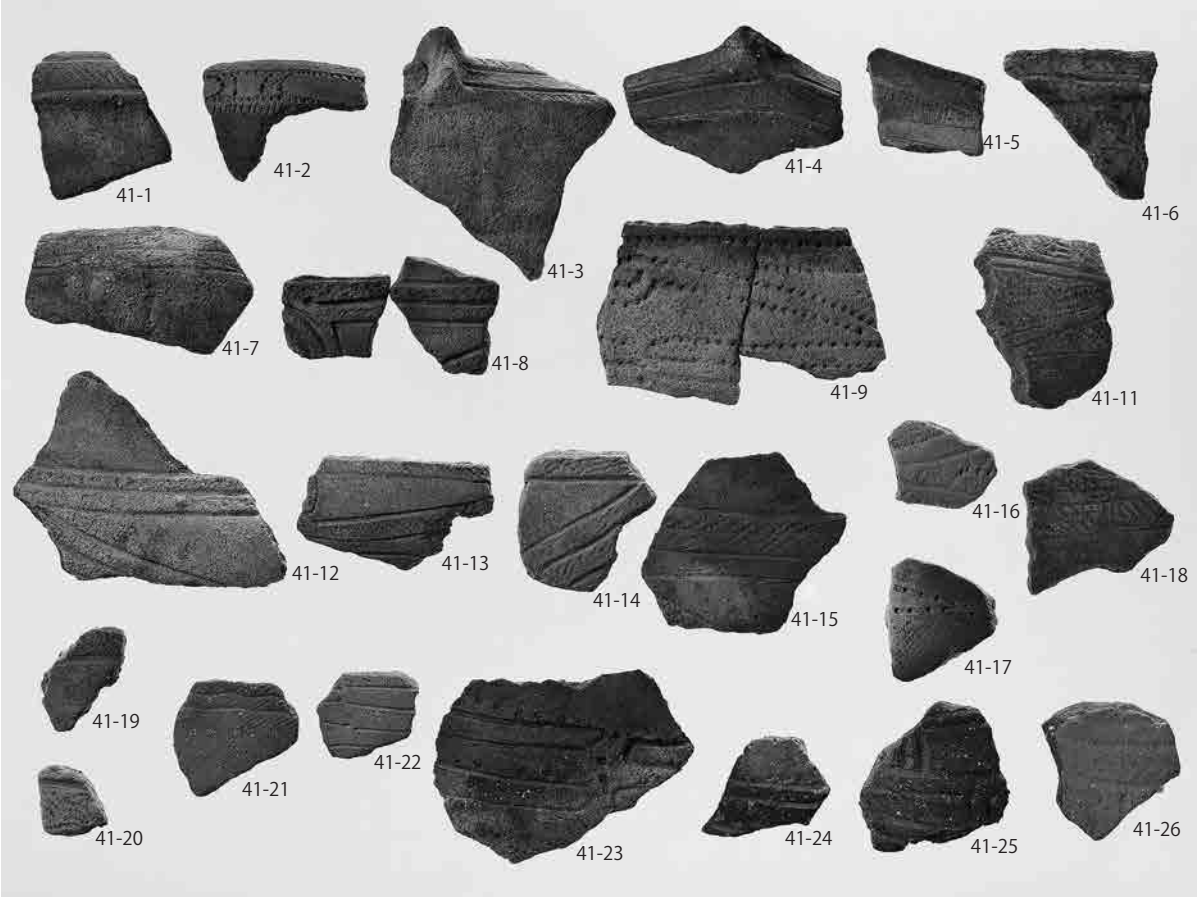
京田遺跡3区　出土遺物（1）



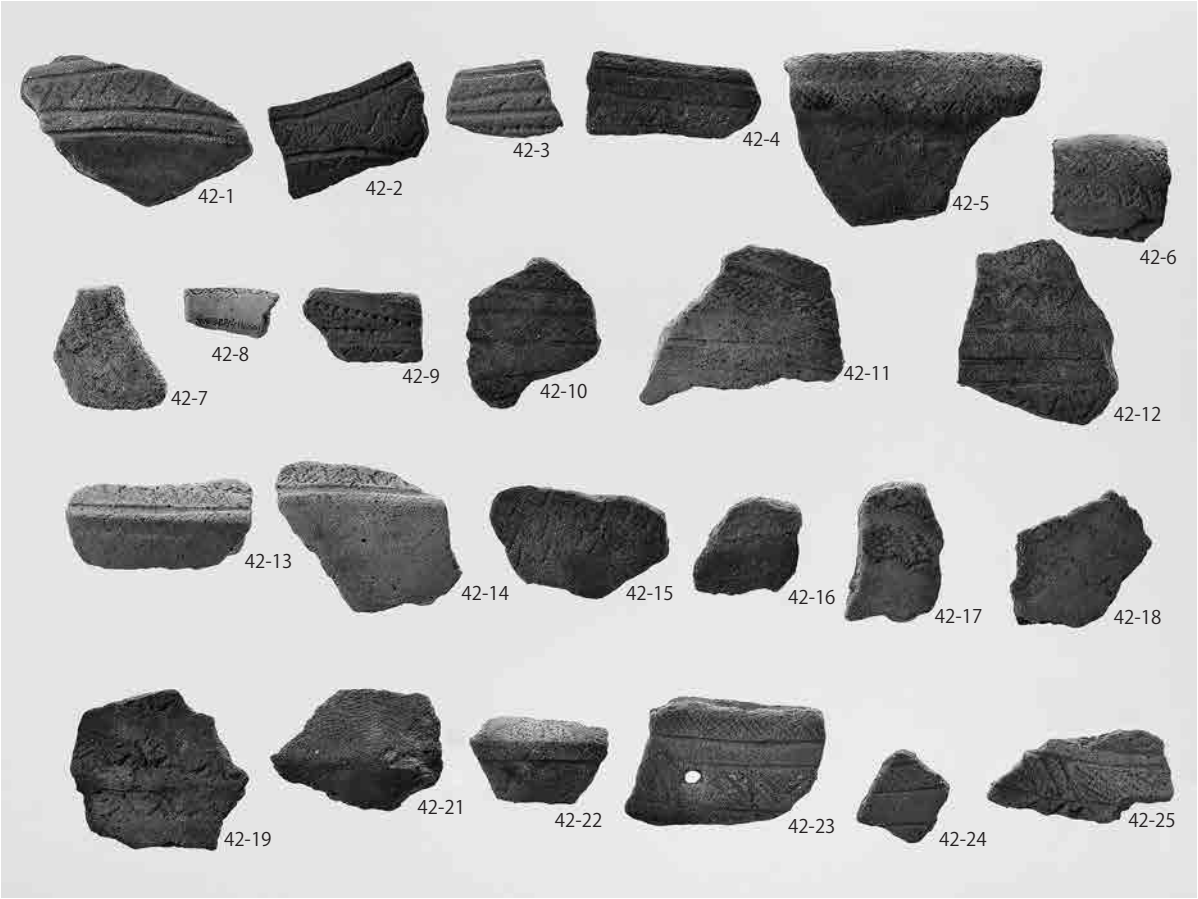
京田遺跡３区　出土遺物（2）



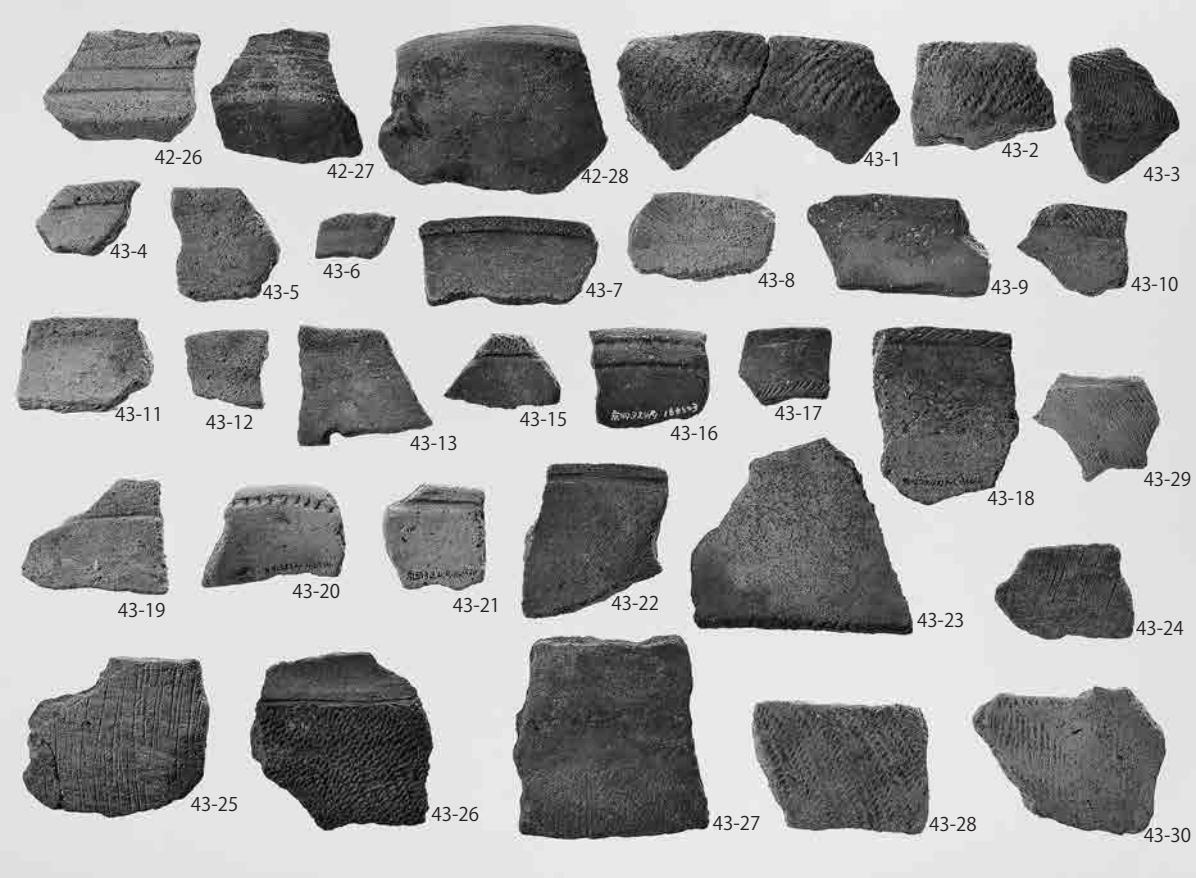
京田遺跡３区　出土遺物（3）



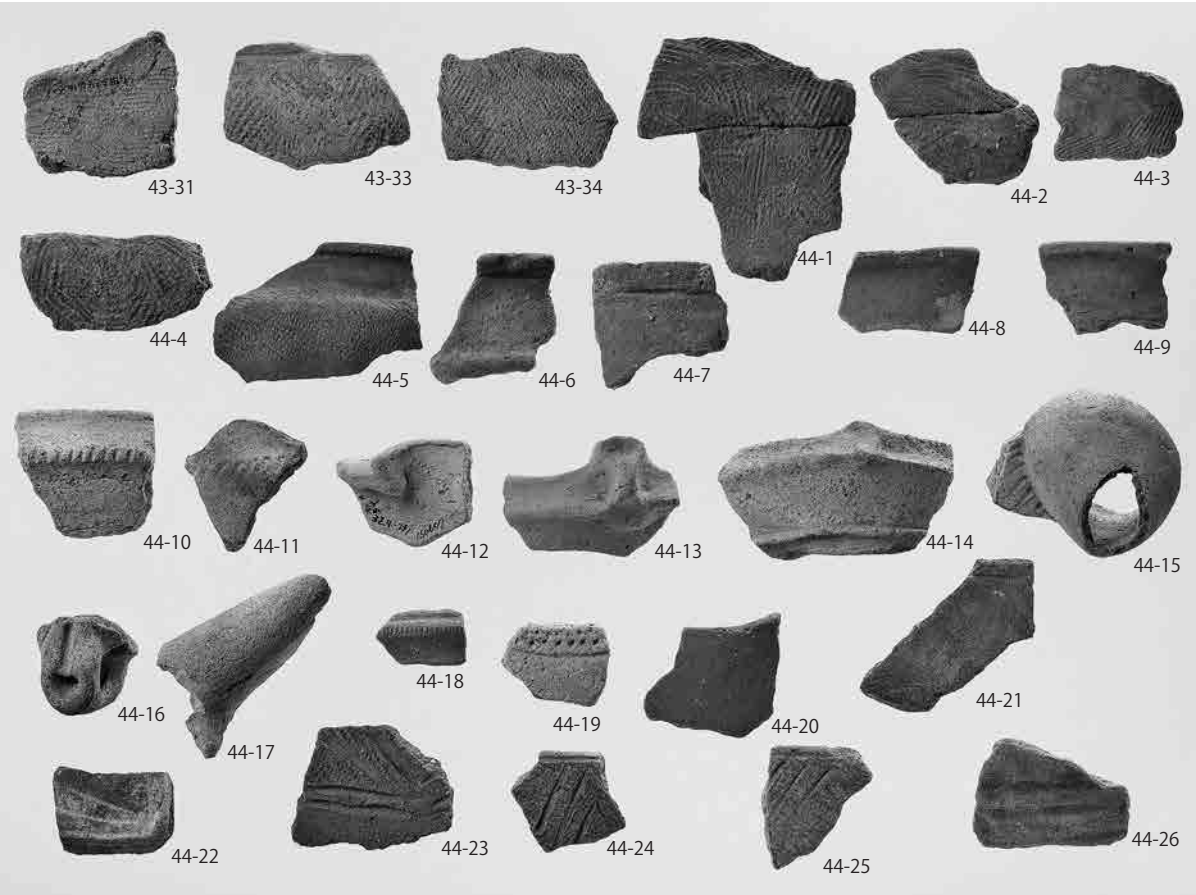
京田遺跡3区　出土遺物（4）



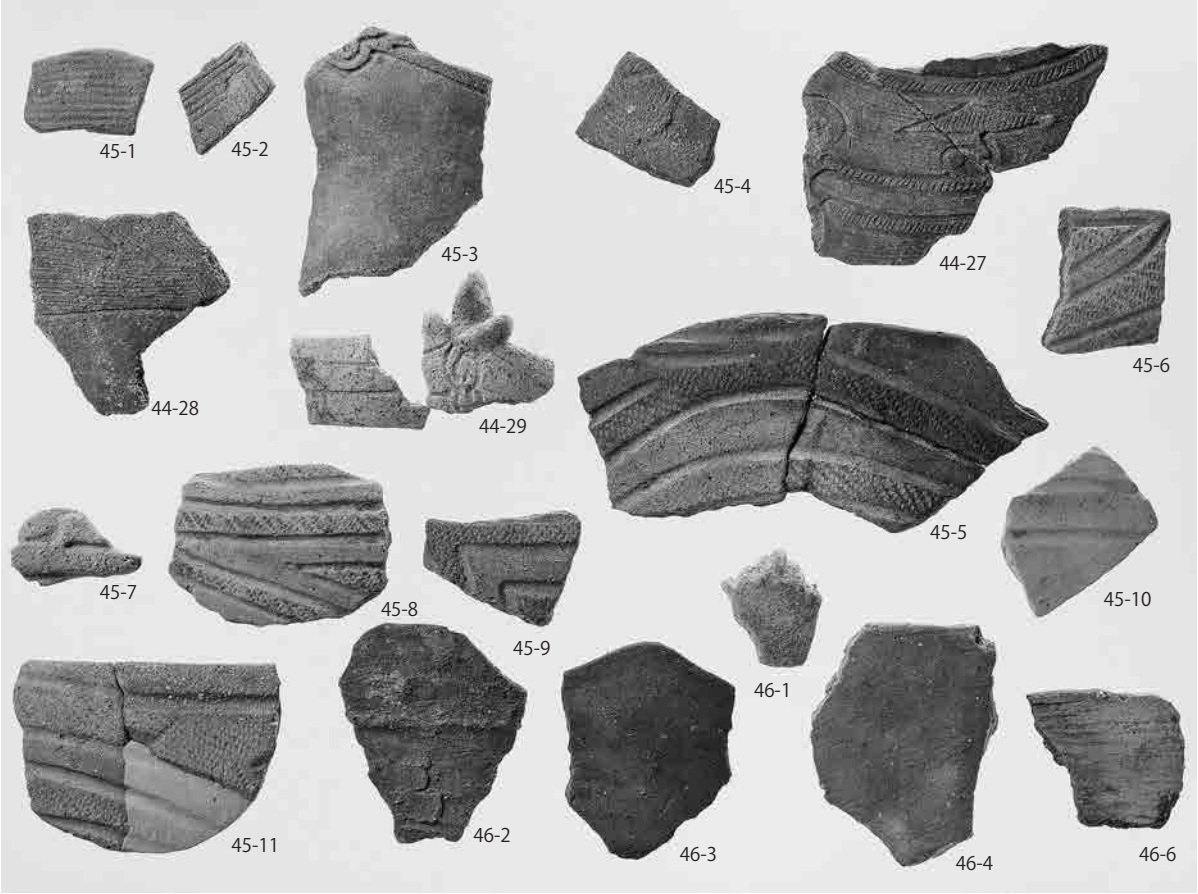
京田遺跡3区　出土遺物（5）



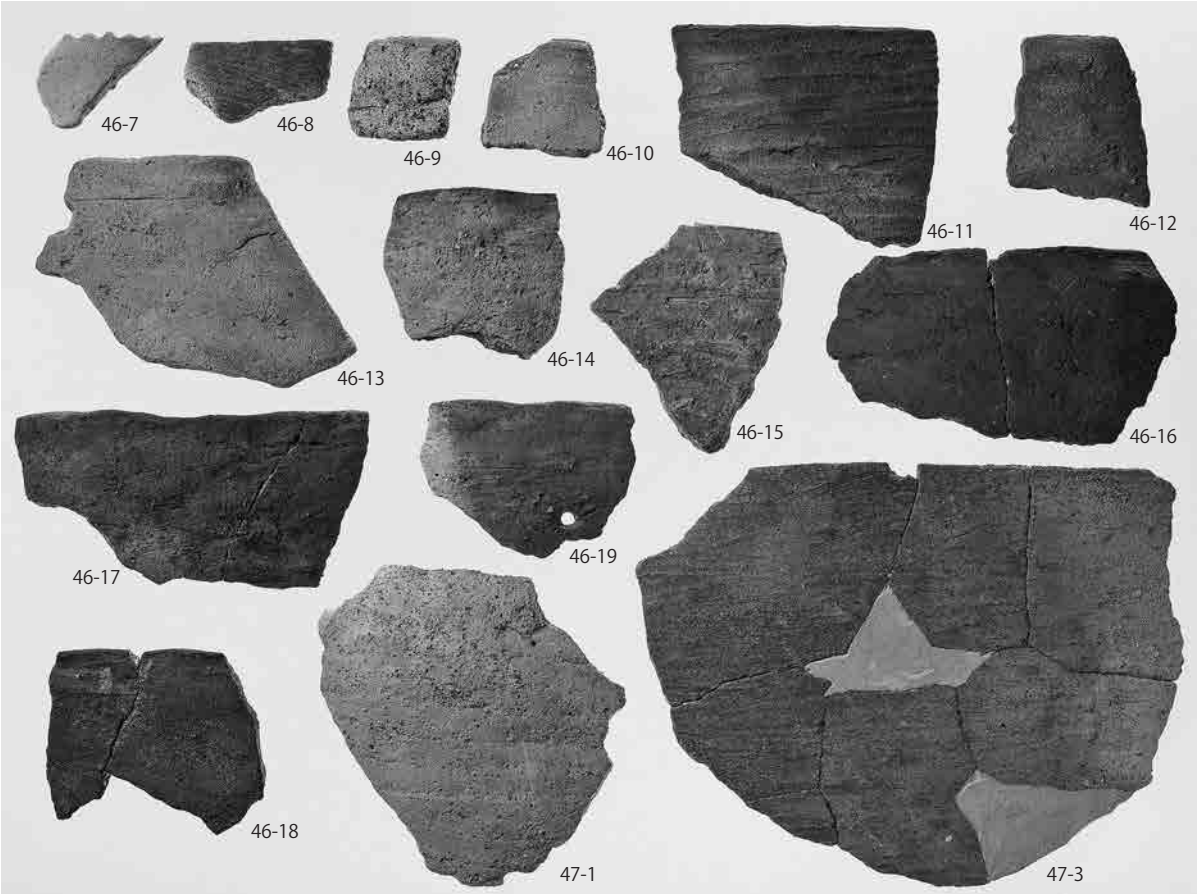
京田遺跡３区　出土遺物（6）



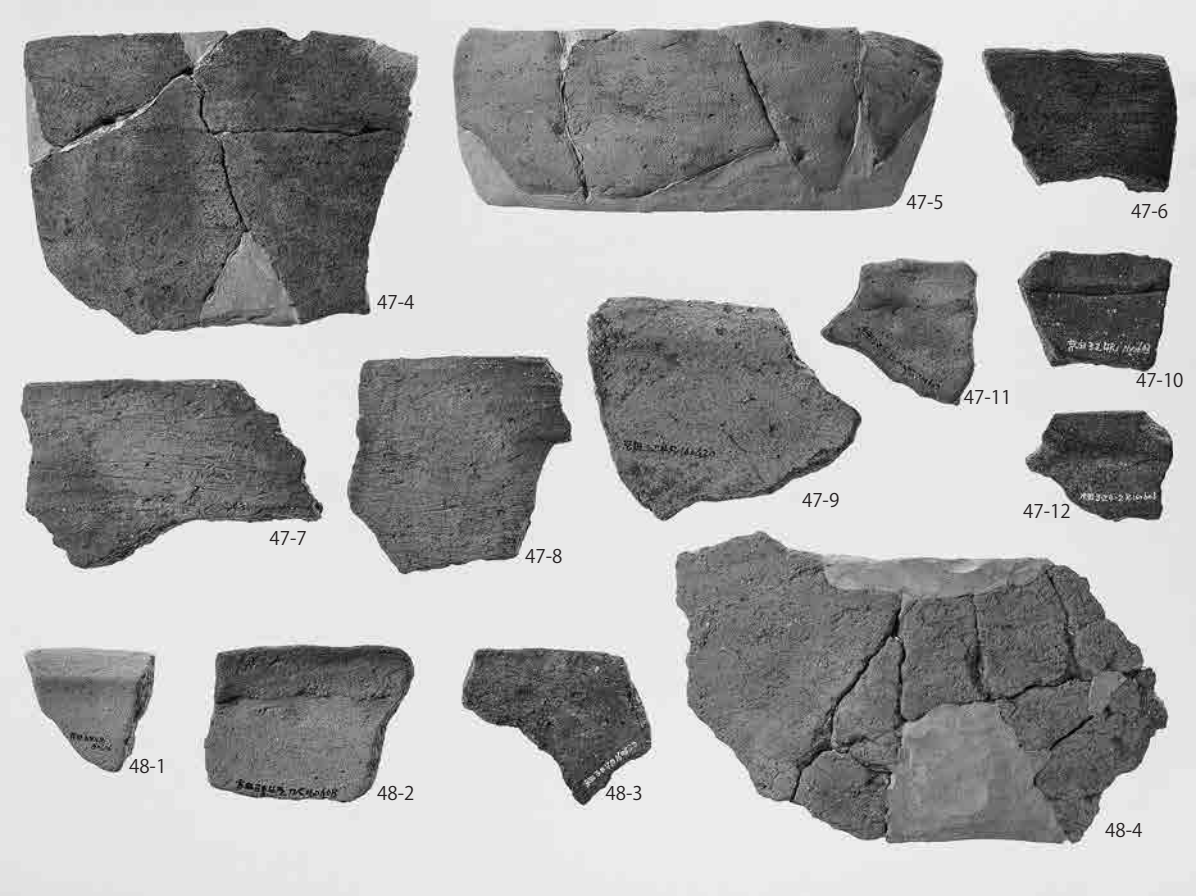
京田遺跡３区　出土遺物（7）



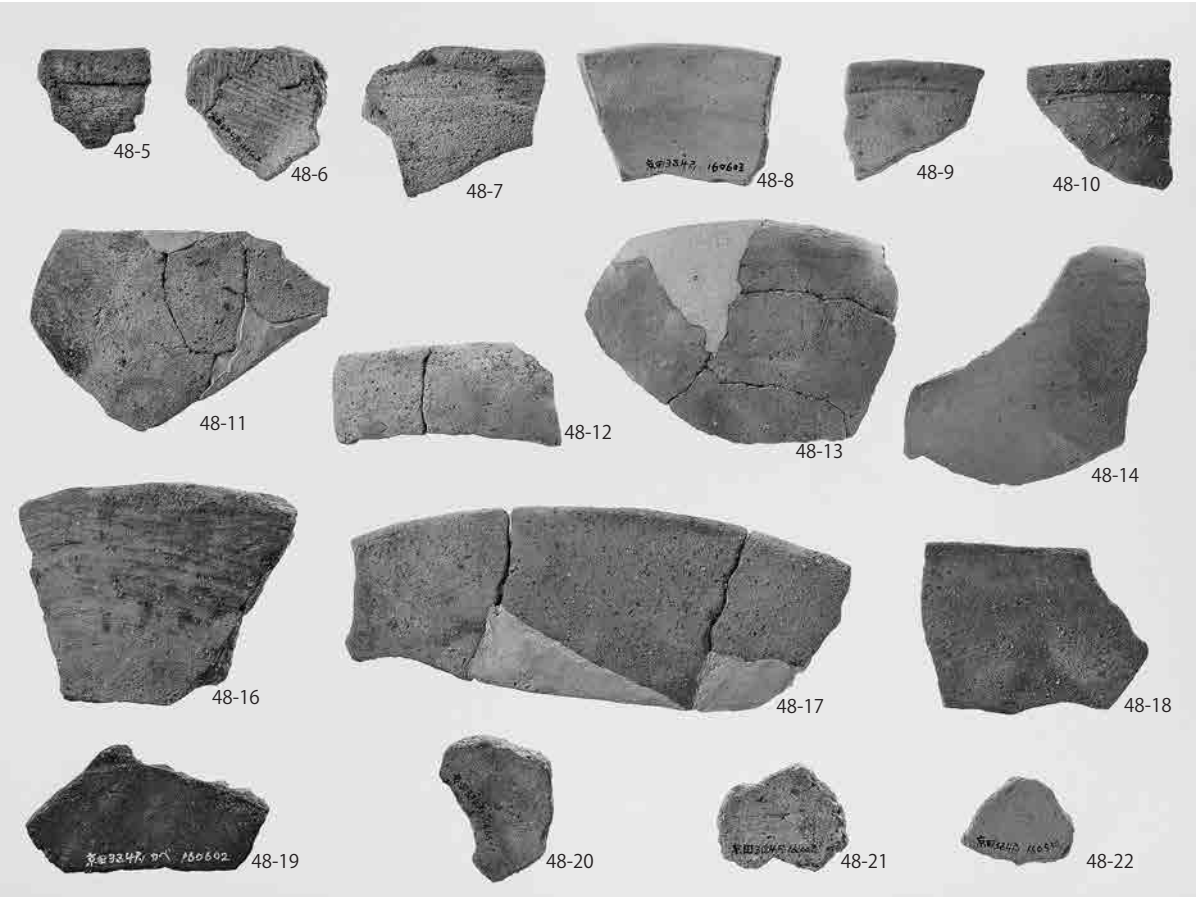
京田遺跡3区　出土遺物（8）



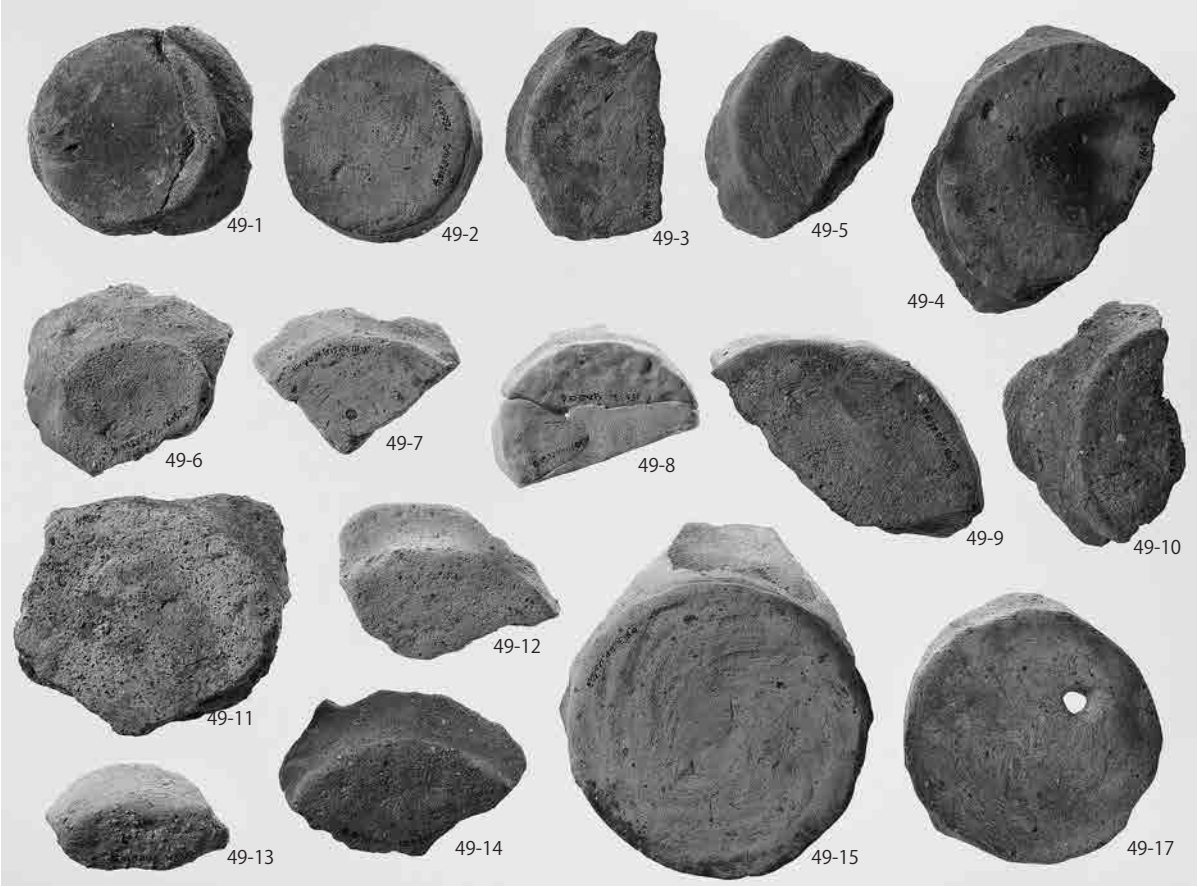
京田遺跡3区　出土遺物（9）



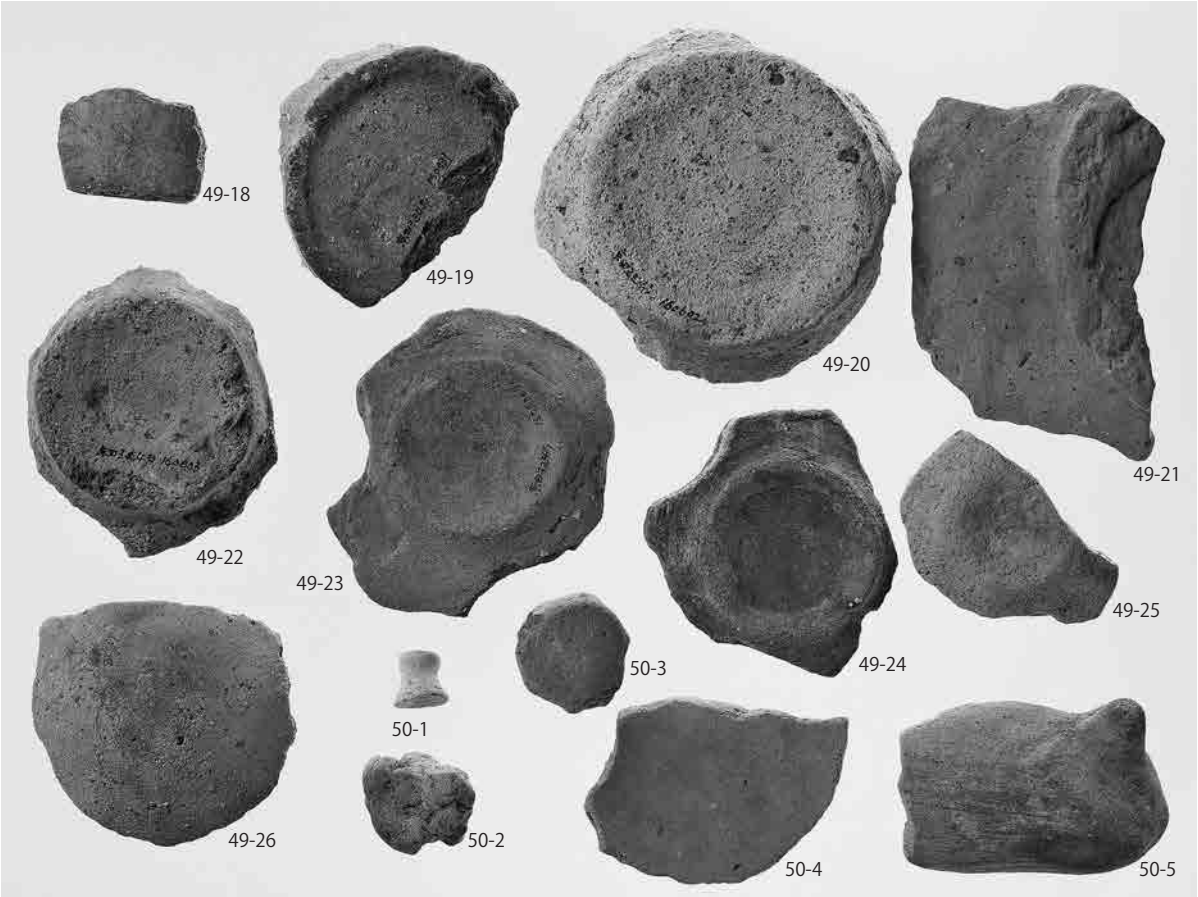
京田遺跡３区　出土遺物（10）



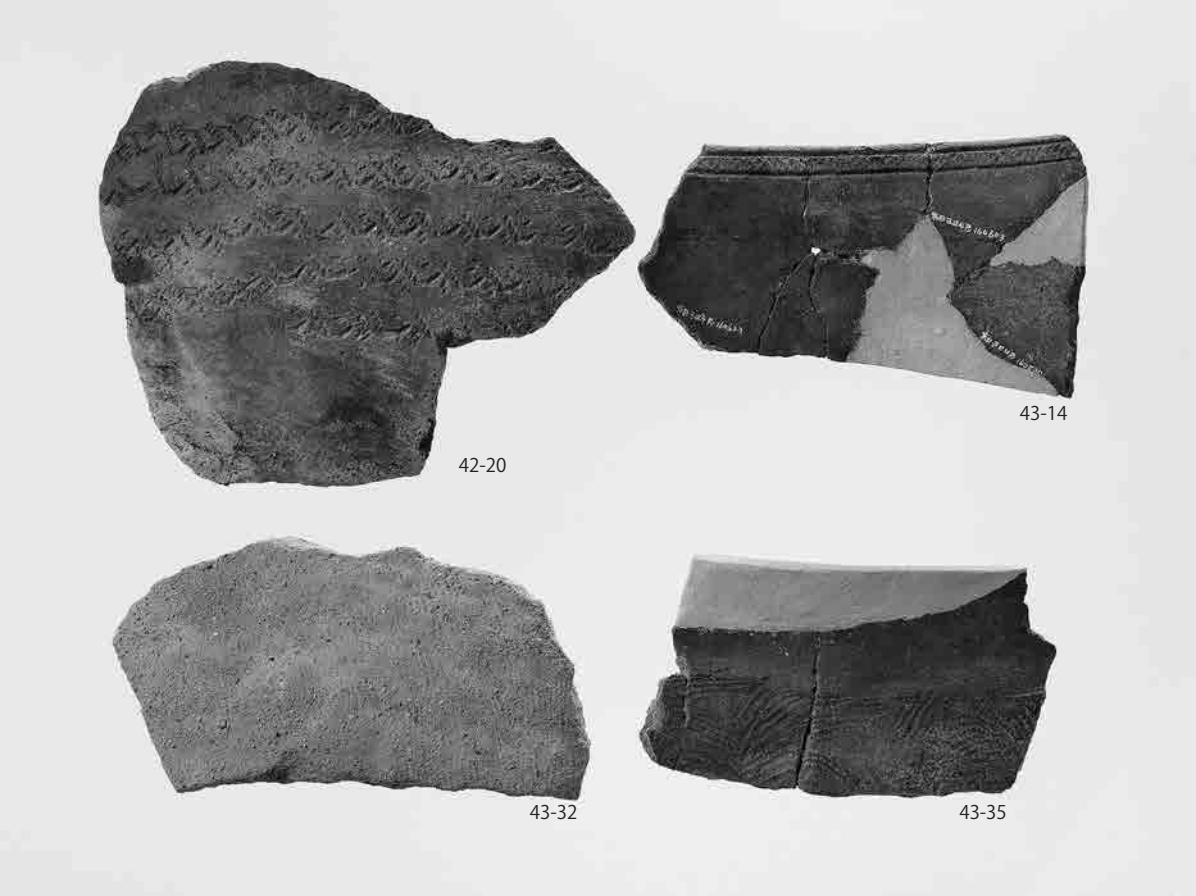
京田遺跡３区　出土遺物（11）



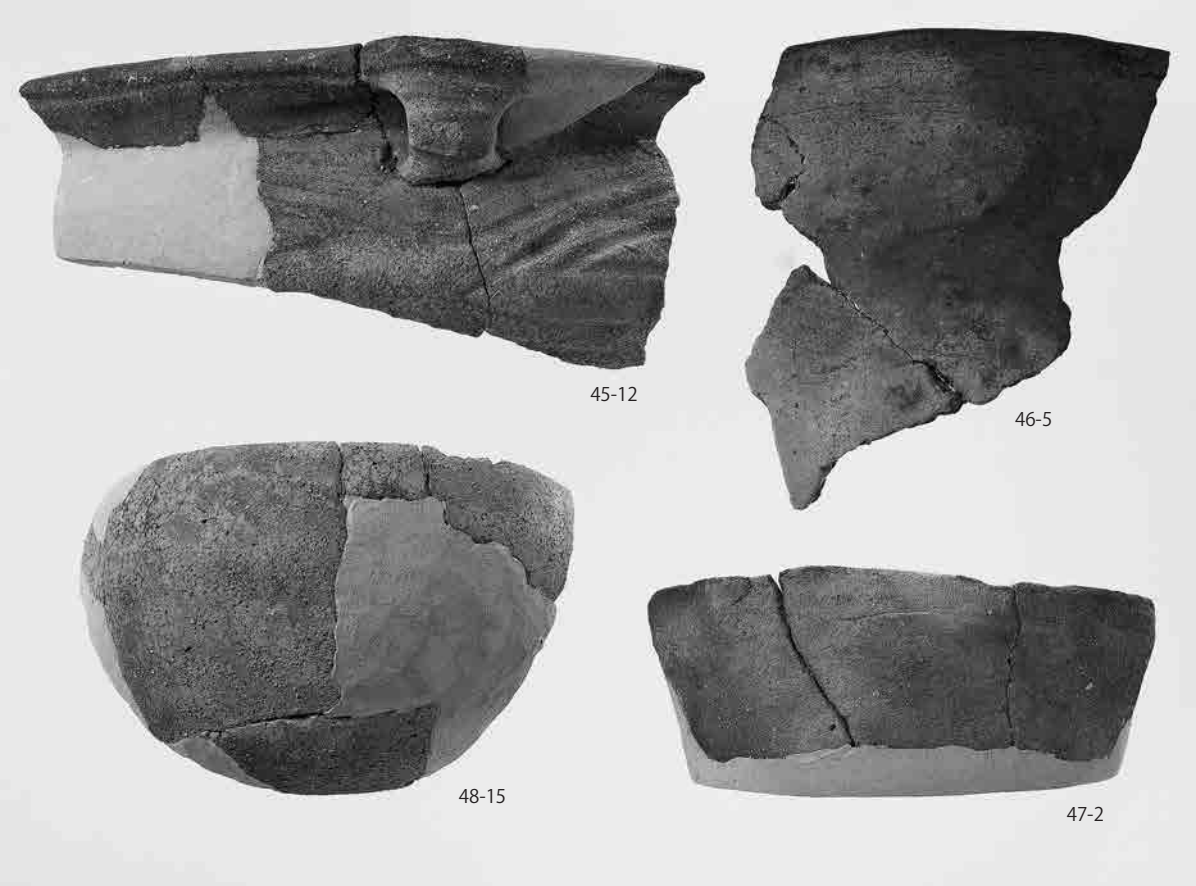
京田遺跡3区　出土遺物（12）



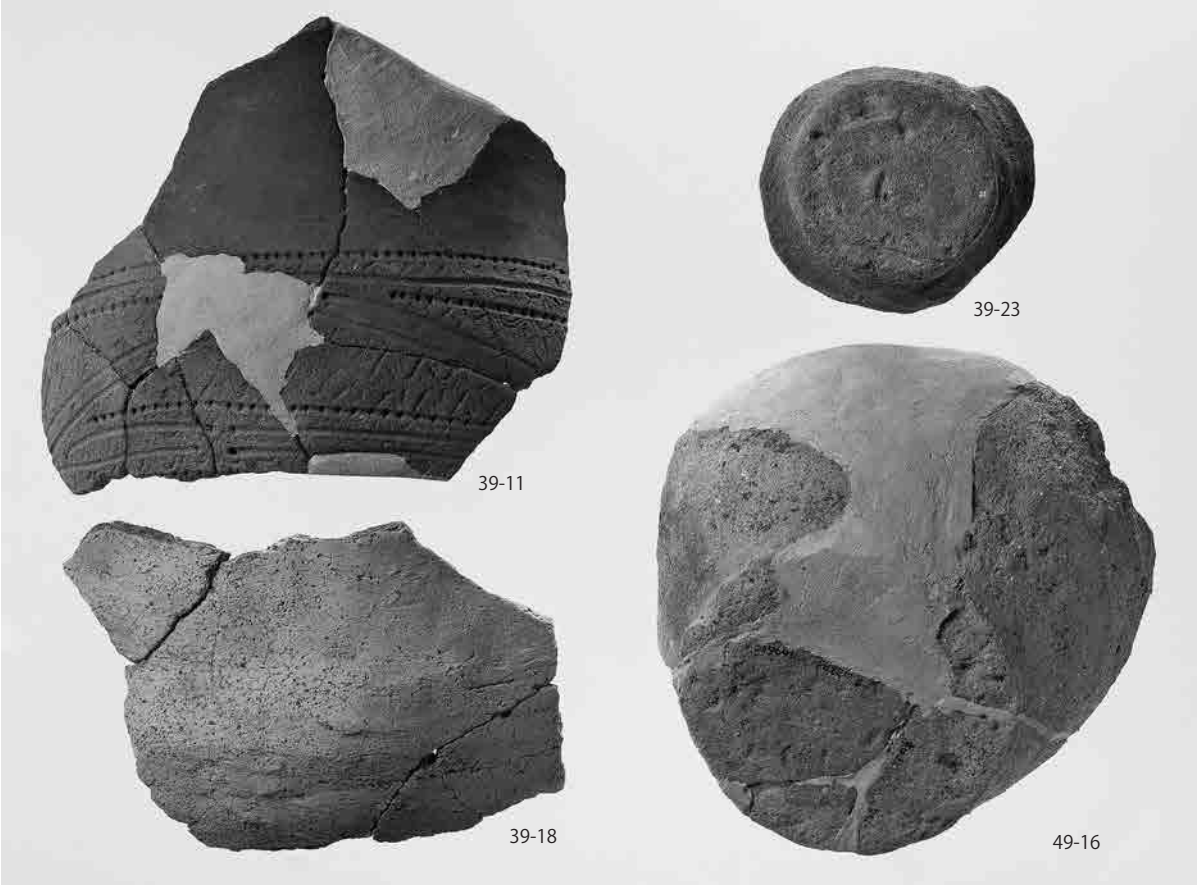
京田遺跡3区　出土遺物（13）



京田遺跡３区　出土遺物（14）

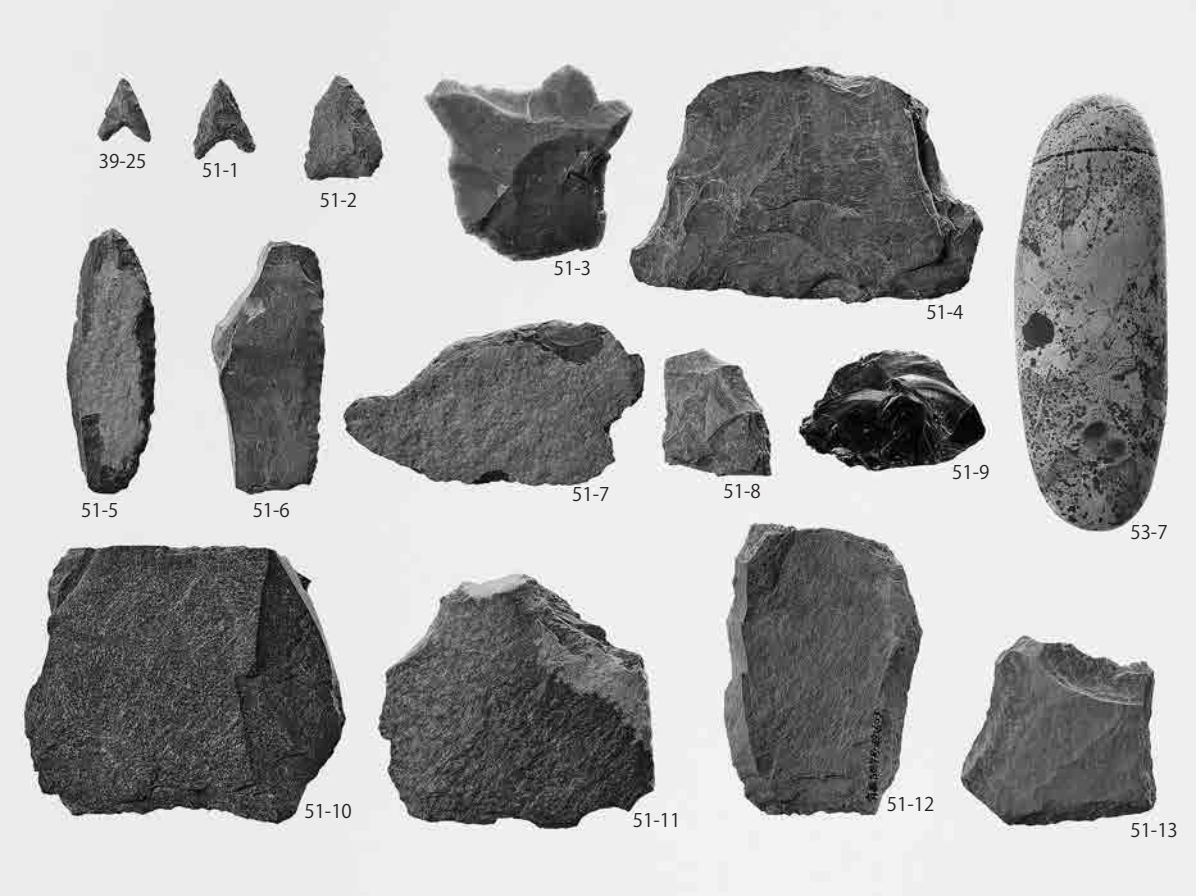


京田遺跡３区　出土遺物（15）

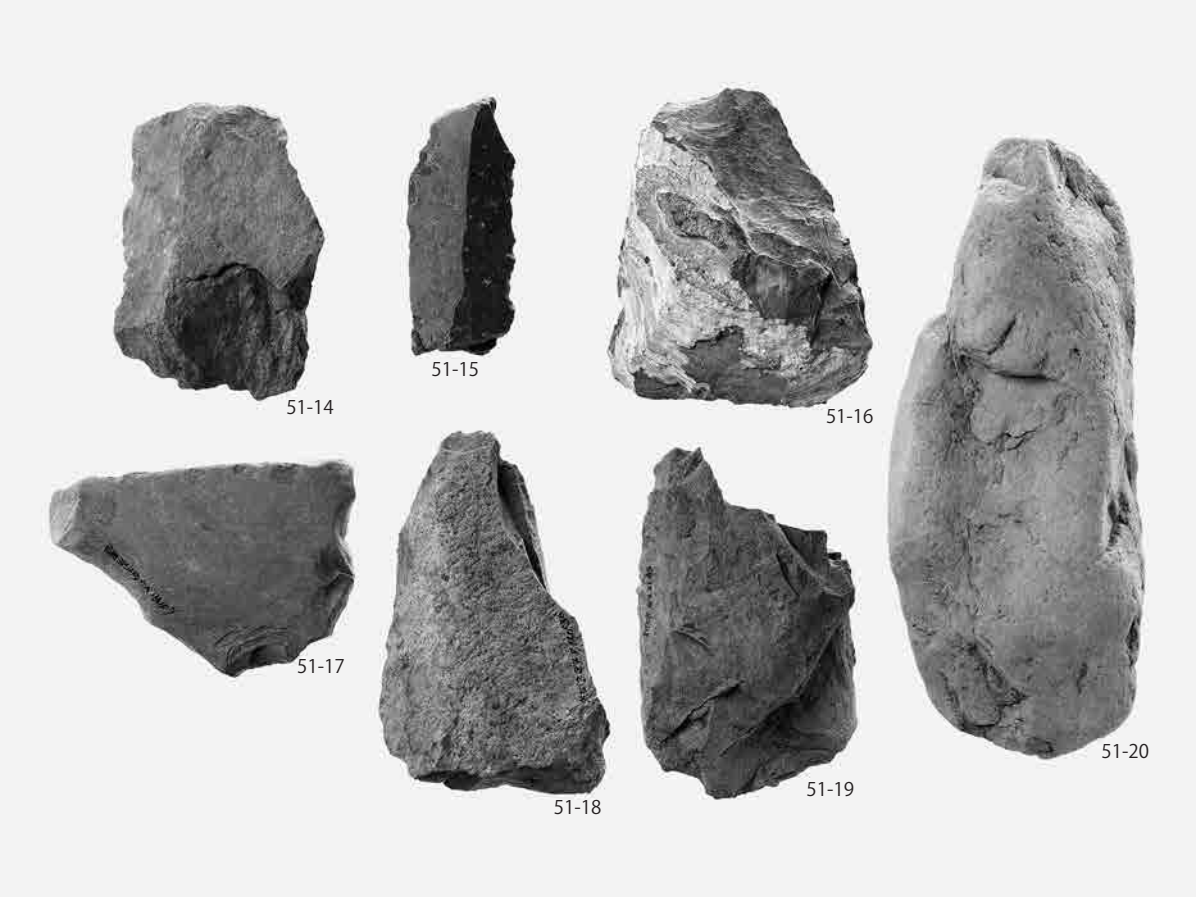


京田遺跡3区　出土遺物（16）

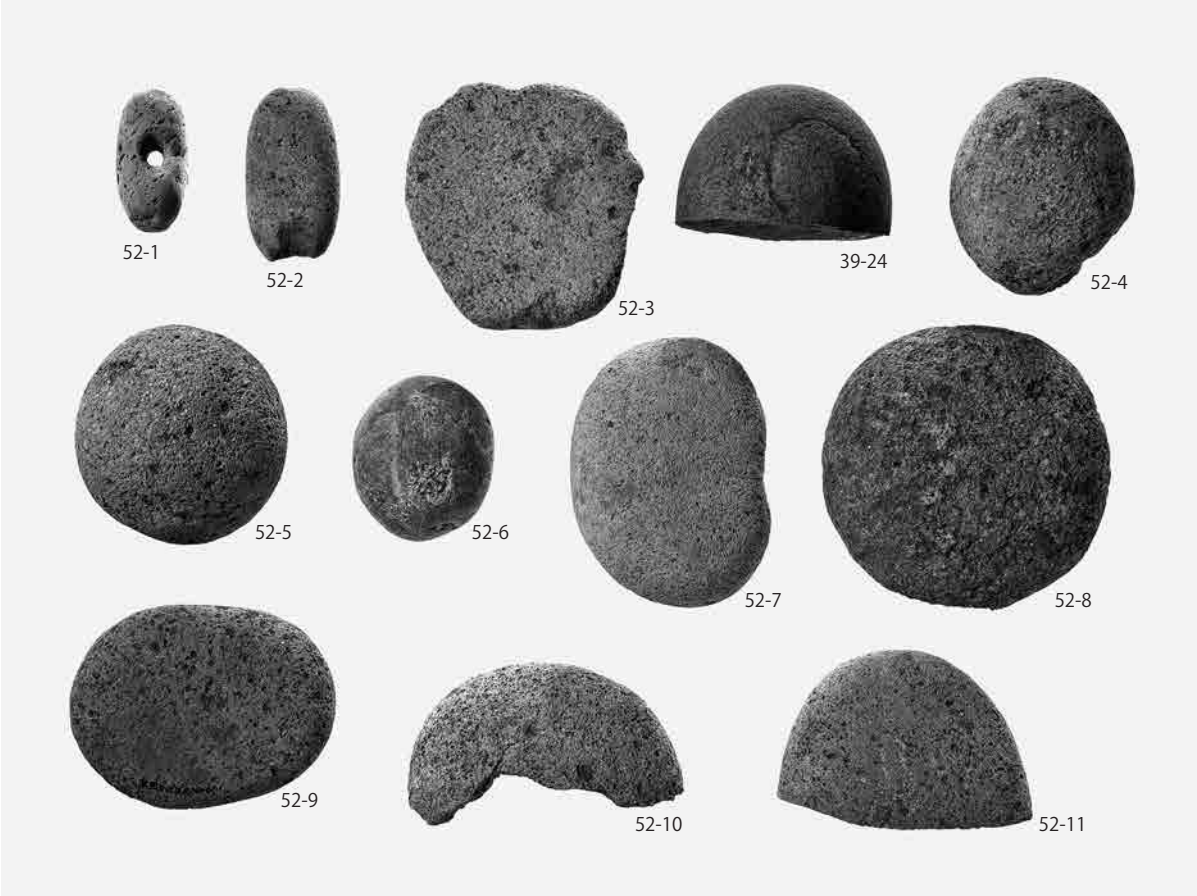
京田遺跡3区　出土遺物（17）



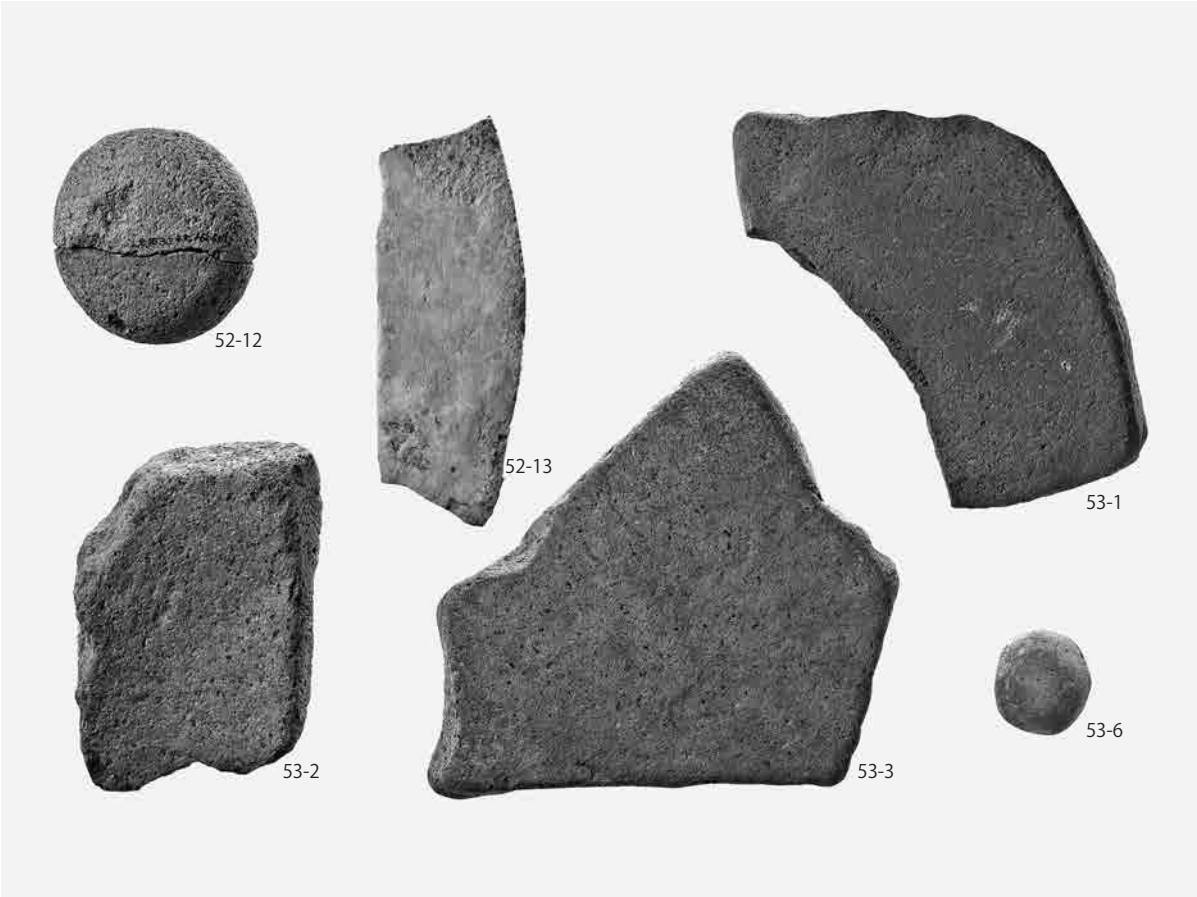
京田遺跡３区　出土遺物（18）



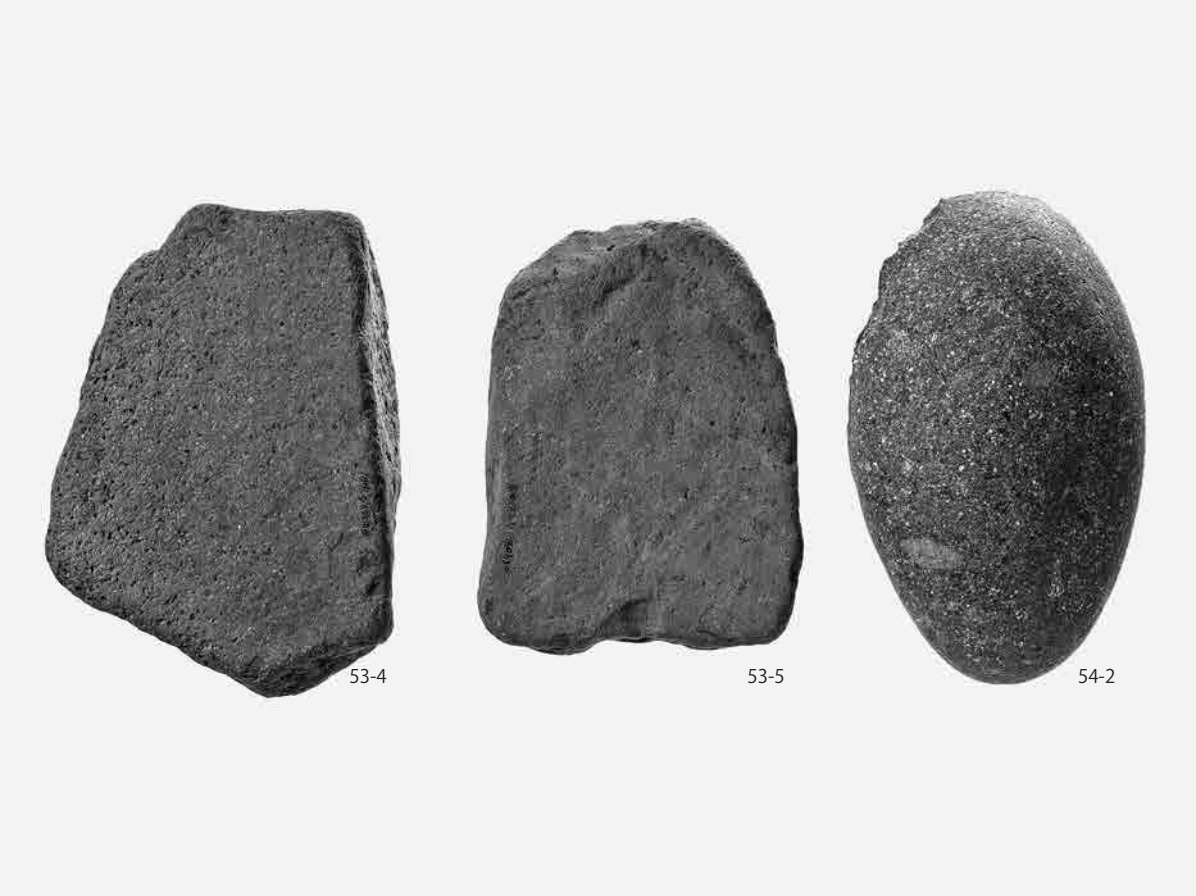
京田遺跡３区　出土遺物（19）



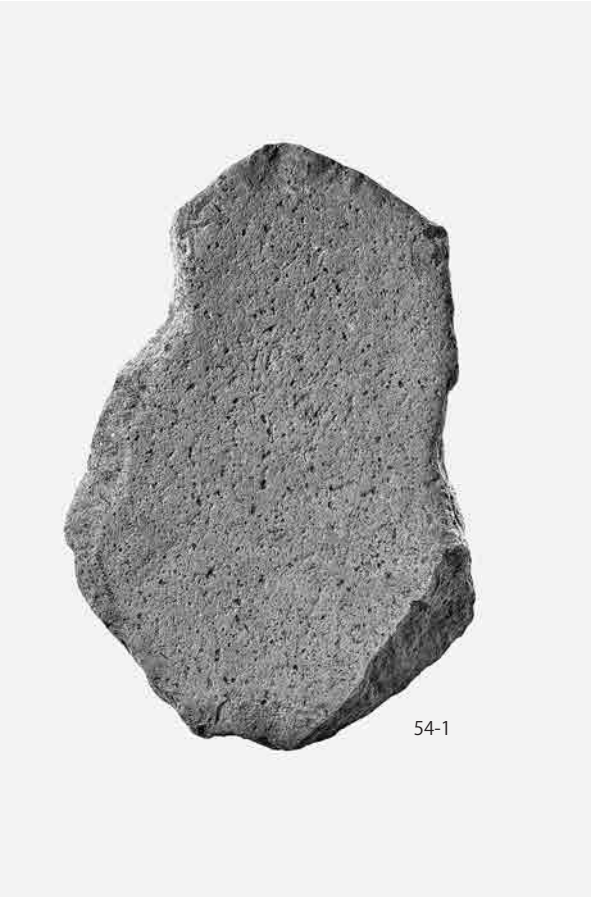
京田遺跡3区　出土遺物（20）



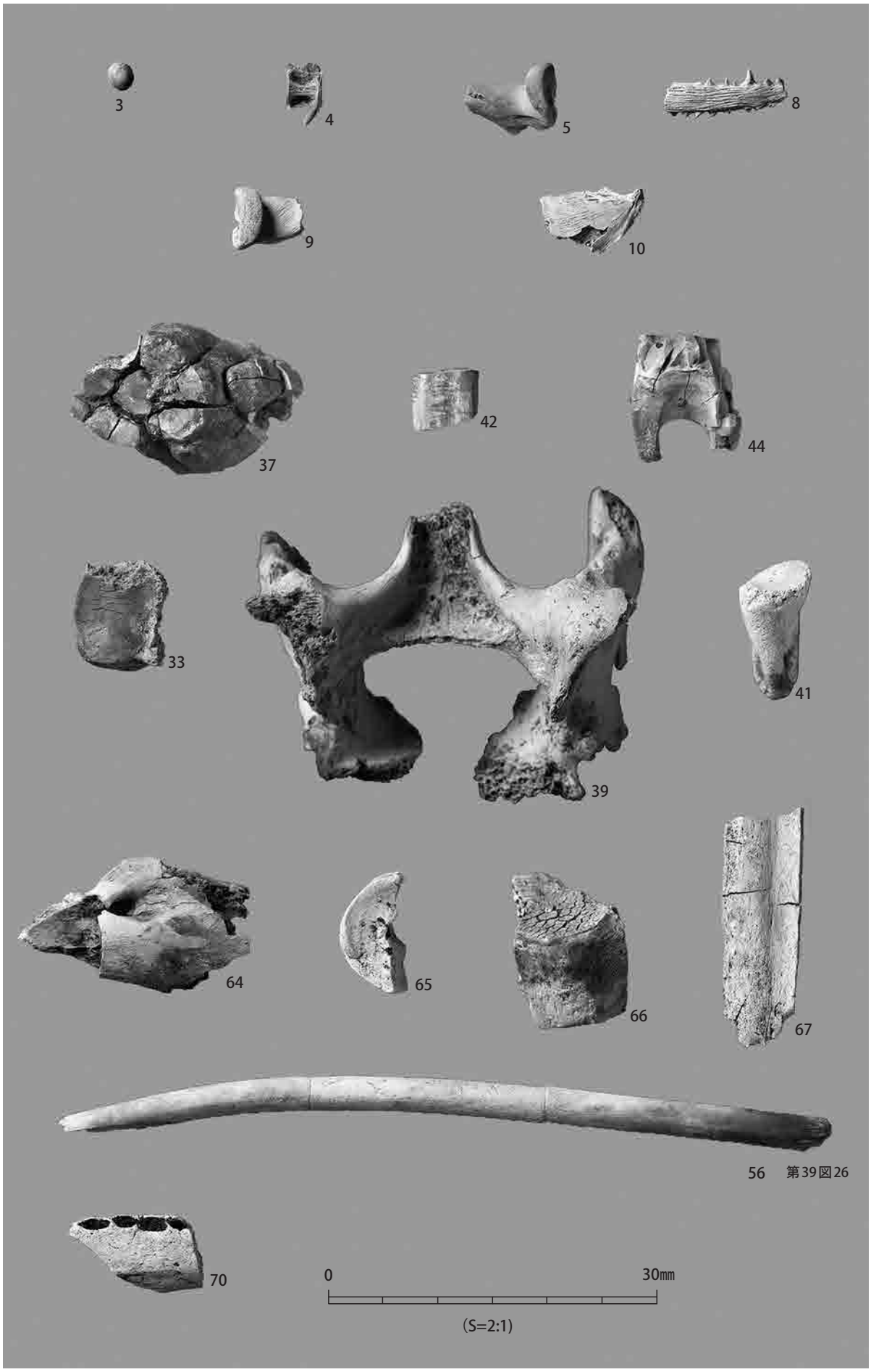
京田遺跡3区　出土遺物（21）



京田遺跡３区　出土遺物（22）



京田遺跡３区　出土遺物（23）



京田遺跡３区　出土動物遺存体（番号は第５章P87～の第２表と一致する）

報　告　書　抄　録

フリガナ	ノノコダニヨコアナボグン　キョウデンイセキサンク
書名	のの子谷横穴墓群　京田遺跡３区
副書名	
巻次	
シリーズ名	一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	3
編著者名	守岡正司（編）、人見麻生、石丸恵利子、上山晶子、渡辺正巳
編集機関	島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
所在地	〒690-0131　島根県松江市打出町33番地　TEL：0852-36-8608　FAX：0852-36-8025 E-mail：maibun@pref.shimane.lg.jp　http：//www.pref.shimane.lg.jp/maizobunkazai/
発行年月日	2017（平成29）年12月28日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
ののこだに のの子谷 よこあなぼぐん 横穴墓群	しまねけんいずもしこりょうちょう 島根県出雲市湖陵町	32203	b16	35°18′32″	132°41′35″	2015 1020 ～ 2015 1225	540	道路建設
きょうでんいせき 京田遺跡	しまねけんいずもしこりょうちょう 島根県出雲市湖陵町	32203	b51	35°18′13″	132°41′18″	2016 0516 ～ 2016 0705	126	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
のの子谷 横穴墓群	横穴墓	古墳時代	横穴墓	須恵器、土師器、刀子	
京田遺跡	集落	縄文時代	柱穴状遺構 土坑	縄文土器、石器 骨製ヤス、動物遺存体	

要約

ののの子谷横穴墓群は、古墳時代後期後葉の横穴墓６基を検出した。７世紀中葉から造墓が開始され、８世紀前半まで追葬や墓前祭祀が行われていた。調査区外には６穴の開口部が確認され、少なくとも12基の横穴墓で構成されていることが判明した。横穴墓は小さな谷に面した低丘陵斜面に掘られ、丁寧に整形されている。

京田遺跡は、ピット４基、土坑２基を検出した。縄文時代後期中葉を中心に前葉から後葉の土器や石器が出土。

両遺跡の周辺には数多くの遺跡が存在しており、今後出雲平野南西部地域一帯の歴史的変遷を検討する上で貴重な成果を得ることができた。

印刷仕様

紙　　質	表　紙	レザック四六判　175kg
	本　文	上質紙A判　57.5kg
		上質コート紙A判　70.5kg
	写真図版	上質コート紙A判　70.5kg
D　T　P	Windows 8.1 Pro	
	Adobe　InDesign CS6　Photoshop CS6　Illustrator CS6	
画像原稿	階調画像線数　175線（AMスクリーン）	

のの子谷横穴墓群
京田遺跡３区

一般国道９号（出雲湖陵道路）改築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書３

発　行　2017（平成29）年12月
発行者　島根県教育委員会
編　集　島根県教育庁埋蔵文化財調査センター
〒690-0131　島根県松江市打出町33番地
電話　0852-36-8608
印　刷　島根印刷株式会社